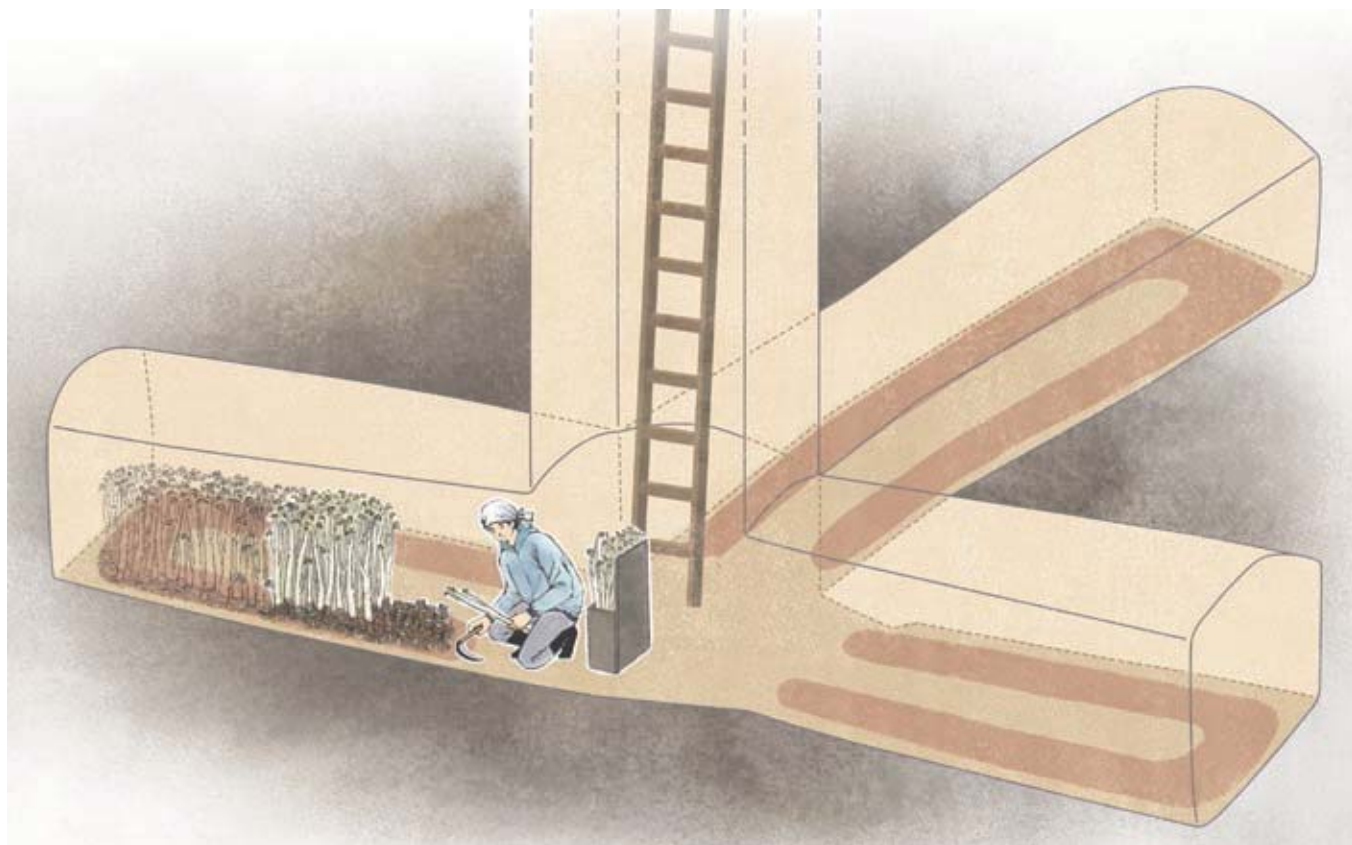


令和元年度

国分寺市埋蔵文化財調査概報



令和3年3月

国分寺市教育委員会
国分寺市遺跡調査会

令和元年度

国分寺市埋蔵文化財調査概報

令和3年3月

国分寺市教育委員会
国分寺市遺跡調査会

表紙イラスト 西町つつじ公園発見のうどもろ想像図（作画：岩田尋湖）



武蔵国分寺跡第 748 次調査 竪穴住居 SI224 覆土堆積状況（東から）



武蔵国分寺跡第 753 次調査 立川ロームⅣ a 層遺物出土状況（東から）



西町つつじ公園うどムロ壁面の工具痕（南西から）



西町つつじ公園うどムロ竪坑部作業風景（北西から）

序

国分寺市内では、現在 46 箇所 of 埋蔵文化財包蔵地が把握・周知されています。これらの包蔵地内で掘削を伴う土木工事を行う場合は、文化財保護法に基づく届出が必要で、工事の内容によっては地下の遺構や遺物が破壊されることがあります。

土地に埋蔵されている文化財（埋蔵文化財）は、本来は地中にそのままの状態に保存されることが望ましい姿ですが、やむを得ず壊されることになる場合は、事前に発掘調査を行います。そして、遺跡の状況を図面や写真等に記録し、出土遺物は適切に保管をしたうえで、調査成果を発掘調査報告書としてまとめ、博物館等の展示施設で公開することによって周知・活用を図ります。

本書は、このような目的から令和元年度中に市内で実施した発掘調査の成果をまとめたもので、旧石器・縄文時代はもとより奈良・平安時代の遺跡が市内の各地で調査され、これまでの調査成果に新たな知見を加えることとなりました。

また、埋蔵文化財包蔵地から外れる地域でも、東山道武蔵路の東西両側溝跡が発見されたほか、西町所在の児童公園内では、国分寺市の名産品でもある「うど」栽培用の穴倉を調査する機会にも恵まれ、貴重な記録を残すことができました。

発掘調査から本書刊行にあたり、御協力をいただきました市民・施工者の皆様をはじめ、御指導を賜りました関係者の皆様方に、厚く御礼を申し上げます。

令和 3 年（2021） 3 月

国分寺市教育委員会
国分寺市遺跡調査会

例 言

1. 本書は、東京都国分寺市において令和元年度に実施した19カ所の発掘調査（うち国庫補助事業12箇所、市単独経費5箇所、原因者負担2箇所）について報告するものである。
2. 調査対象となった遺跡は10遺跡（武蔵国分寺跡・恋ヶ窪遺跡・殿ヶ谷戸遺跡・本町遺跡・No.29遺跡・No.47遺跡・東京経済大学構内遺跡・花沢東遺跡・恋ヶ窪東遺跡・東山道武蔵路）で、埋蔵文化財包蔵地の範囲外では恋ヶ窪東遺跡・東山道武蔵路と西町つつじ公園等で調査を実施した。なお、これらの調査内容は発掘調査（本調査）2件、確認調査14件、試掘調査3件であった。
3. 国庫補助事業として実施した発掘調査（令和元年度）、出土品等整理作業（令和2年度）にかかる経費は、文化庁の「国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金」の採択を得て、費用は国1/2、東京都1/4、国分寺市が1/4の割合で負担した。その他の調査費用は、国分寺市および開発事業者が負担している。
4. 報告書の編集・印刷にかかる経費は国分寺市が負担した。
5. 発掘調査は、国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課の桂 弘美・平塚恵介が担当した。
6. 本書の編集は、坂誥秀一・国分寺市遺跡調査会調査団長の指導のもと平塚・中野 純・依田亮一が行い、桂・高橋 彩・川村由起子・酒井美帆・井田美紀・西山節子の協力を得た。なお、執筆分担は次の通りである。

中野 純（ふるさと文化財課史跡係）	第1章、第2章第1節・第2節（9） 1
針木康介（トキオ文化財株式会社）	第2章第2節（9） 2
依田亮一（ふるさと文化財課史跡係長）	第2章第2節（9）以外、第3章
7. 発掘調査における測量は、システムプログラム「リプログラフ」（株式会社こうそく）、本書の挿図・表等の作成にはMicrosoft®Word®・Excel®、Adobe®Illustrator®・Photoshop®・Indesign®の各ソフトを用いた。
8. 調査概要に記している「遺物箱数」は、現場作業終了時点の出土遺物量で、単位は幅34×長さ54×高さ20cm規格で換算したプラスチック製コンテナの箱数である。
9. 発掘現場における各種の図面は、基本的に全体図1/100・遺構平面図1/20・断面図1/20で記録している。また、土の色調は『新版標準土色帖』（富士平工業株式会社刊）を参考にした。
10. 遺物や各種図面・写真類は、第2章第2節（19）を除き、国分寺市教育委員会にて保管している。
11. 発掘調査、出土品等整理作業、報告書作成業務に従事した者は下記の通りである。

石塚幹彦・江口真裕・扇田芳嗣・小宮泰輔・酒井真之・佐々木正壽・佐藤 徹・佐野 厚・清水広幸・西村 宏・西村雅臣・本間健一・本山真一（トキオ文化財株式会社）、井戸川勝昭・稲葉武志・浮田千尋・可知将雄・工藤福太郎・小林明広・衣巻義美・富田健司・室賀 聡・脇坂吉信（加藤建設株式会社）
天田広樹・瀬川利夫・諸澤幹男・山本浩之（テイケイトレード株式会社）
岩田尋湖・小野祐子・富澤 好（国分寺市遺跡調査会）
梅山伸二・上村雄三・佐々木義身（国分寺市ふるさと文化財愛護ボランティア）
12. 発掘調査・出土品等整理作業・報告書作成作業では、下記の諸氏・関係機関から御指導・御協力を賜った。

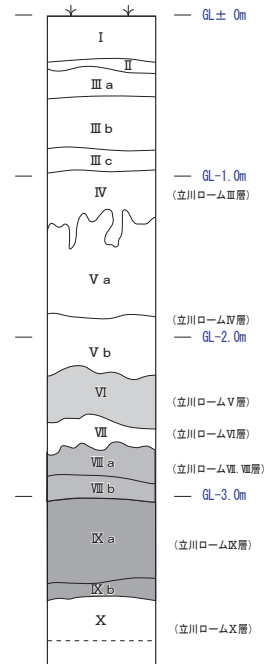
東 真江・天野賢一・有吉重蔵・大西雅也・大村浩司・尾田識好・及川良彦・加藤大二郎・高橋秀之・塚田清啓・中田 英・中野光将・中村耕作・中山真治・新倉 香・野田憲一郎・馬場 基・廣瀬真理子・奈良文化財研究所・東京都埋蔵文化財センター・株式会社加藤建設・トキオ文化財株式会社・株式会社テイケイトレード・有限会社アルケリサーチ・株式会社こうそく・株式会社森永建設・東京都教育庁地域教育支援部管理課・国分寺市文化財保護審議会・国分寺市建設環境部緑と建築課（以上、順不同・敬称略）
--

凡 例

1. 基本層序

市域で慣例的に用いる標準層序区分は、表土（Ⅰ層）下の黒褐色土を黒色味が強い上層（Ⅱ層）と、暗褐色でローム層への漸移層を含む下層（Ⅲ層）とに細分しており、完新世富士テフラをⅡ層、ソフトローム層以下をⅢ層以下に充てる武蔵野台地の一般的な層序区分とは呼称が異なっている。本書で報告する調査対象地は、武蔵野段丘面と立川段丘面とに跨るが、堆積土層はほぼ共通した層序区分を呈している。

- Ⅰ 層 現表土及び旧表土。近世～現代の盛土、および耕作土。層厚約 30～50 cm。
- Ⅱ 層 黒褐色土。粒子が粗い。締まりはやや弱い。粘性は弱い。古代～中世の遺物を包含し、古代の遺構覆土に似る。層厚約 10～15 cmだが、市内では削平されていることが多い。
- Ⅲ a 層 黒褐色土。粒子はやや粗い。粘性はやや弱い。層厚約 10～15 cm。同層上面が本来的な古代の遺構確認面であるが、Ⅱ層と類似した土質であることから、この下層において遺構確認作業を行うことが多い。市内では遺存状況が悪い。縄文時代の遺物を包含する。
- Ⅲ b 層 暗褐色土。Ⅲ a 層より明るく、褐色味が強くなる。軟質で粘性はやや弱い、Ⅲ c 層に近づくに連れて粘性が強くなる。縄文時代中期の遺物を包含する。層厚約 30～40 cm。本層上面が本来的な縄文時代の遺構確認面であるが、暗めの色調のためこの下層において遺構を確認することが多い。
- Ⅲ c 層 茶褐色土・暗黄褐色土。縄文時代早～前期の遺物を包含する。ローム層への漸移層で、赤色スコリアを多量に含む。層厚約 10～15 cm。本層上面で縄文時代の遺構を確認作業を行うことが多い。
- Ⅳ 層 黄褐色土。ソフトローム。Ⅴ層との境は凹凸が激しい。隙間が多いが、しまりがある。層厚約 15～25 cm。武蔵野台地の標準的な土層区分では立川ローム層（以下、立川ローム）Ⅲ層に相当する。
- Ⅴ a 層 黄褐色土。ハードローム。色調によって a・b の 2 層に分けられる。下層にいくに従い黄色味が薄くなる。その色調は漸移的に変化する。赤色・黒色スコリアを多量に含む。よくしまる。立川ロームⅣ a 層に相当する。
- Ⅴ b 層 暗灰褐色土。ハードローム。色調はⅤ a 層とⅥ層の間。立川ロームⅣ b 層に相当する。
- Ⅵ 層 暗褐色土。第一黒色帯。スコリアは細かく、全体に粒子が緻密。やや粘性を増す。しまりあり。立川ロームⅤ層に相当する。
- Ⅶ 層 黄褐色土。黄色味が強く、明るい。Ⅷ層へは漸移的に移行し、境界はやや不明瞭。しまりあり。削るとジャリジャリする。始良カルデラ由来の火山灰（AT層）を含む。立川ロームⅥ層に相当する。
- Ⅷ a 層 褐色土。第二黒色帯上部。Ⅶ層下部に似て、やや暗くなり始めるところから本層とする。しまりあり。削るとジャリジャリする。黒色・赤色スコリアを含む。立川ロームⅦ a～Ⅶ b 層・Ⅷ層に相当する。
- Ⅷ b 層 暗褐色土。第二黒色帯上部。Ⅷ a 層よりさらに色調が暗くなる。粒子が細かく、緻密で粘性がある。しまりあり。黒色・赤色・青色・白色スコリアを多く含む。立川ロームⅧ a～Ⅷ b 層に相当する。
- Ⅸ a 層 暗褐色土。第二黒色帯下部。Ⅷ b 層よりさらに黒色味増す。粒子は細かく、緻密で粘性が強くなる。しまりあり。立川ロームⅨ c 層に相当する。
- Ⅸ b 層 暗褐色土。第二黒色帯下部。成分はⅨ a 層と同じで、粒子は細かく、緻密で粘性が強い。しまりあり。下部 5～10 cm はⅨ a 層より明るい部分もある。立川ロームⅨ d 層に相当する。
- Ⅹ 層 黄褐色土。粒子極めて細かく、緻密で粘性のあるローム土。しまり強い。色調により上下に分層することもある。立川ロームⅩ層に相当する。



国分寺市内の標準的な層序

2. 遺跡略記号

遺跡名を表記する際、国分寺市No.10・19遺跡（武蔵国分寺跡）はMK（武蔵国分寺の略称）、その後調査を手掛けた順番に次数（数字）を付している。その他の遺跡は、K（国分寺の略）に遺跡番号と調査次数を付して整理している。例）「MK-748」は、国分寺市No.10・19（武蔵国分寺跡）第748次調査を意味する。

「K2-100」は、国分寺市No.2（恋ヶ窪遺跡）第100次調査を意味する。

3. 遺構図面

調査地点位置図は、図面上が座標北を示す。グリッド表記は世界測地系第9系による。

特記のない限り、柱状図の縮尺は1/40に統一した。

4. 遺構番号

遺構は遺跡単位でほぼ発見順に連続番号を付し、下記の略記号を冠して表記した。また、縄文時代の遺構は遺構番号の末尾にJを付し、小穴（P）は遺構記号に続けてJを付して、歴史時代の遺構と区別している。

SI：竪穴住居 SD：溝 SK：土坑 SX：性格不明遺構 P：小穴

5. 遺構写真

各写真キャプションに併記する方位は、撮影した方向を示す。

6. 遺物の縮尺

縮尺は次のとおりに統一した。土器類：1/3 瓦類：1/4

7. 用語

遺 構 … 遺跡中に残されている不動性に富む人間集団の痕跡。集落では、住居・建物・倉庫・井戸・溝・土坑などを指す。可動性のある遺物とは区別される。

遺 物 … 人間集団が残した可動性に富む物質で、遺構とともに遺跡を構成する。石器・土器・陶磁器・木製品・骨角器・金属製品・石製品など様々な道具や装飾品を指す。

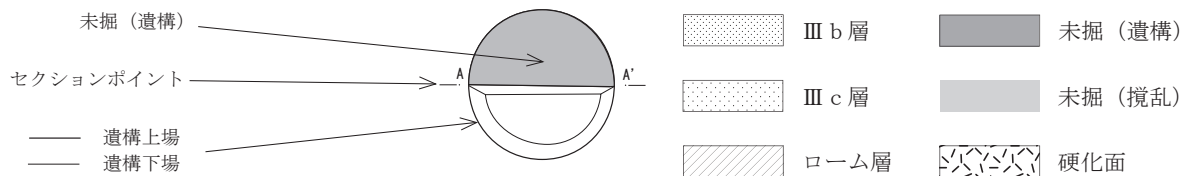
竪 穴 住 居 … 地面を掘りくぼめて床を敷き、支柱を立てて屋根をかける構造の建物。縄文時代以来の一般的な住居として中世まで使用される。床面には炉・カマド・柱穴などがあり、床面は硬く踏み固められている。竪穴構造の建物であっても住居以外の用途（工房など）に使用されていた可能性もあることから「竪穴建物」とも呼ばれる。

ト レ ン チ … 地表下の遺構を探するために掘られた溝状の発掘調査区で、試掘坑ともいう。

未 掘 … 検出された遺構を平面形（プラン）のみ確認して、掘削をしていない箇所。

攪 乱 … 後世に掘り込まれ、地山（自然堆積土）や遺物包含層、遺構等を壊している範囲。耕作による削平や、地下構造物（水道・ガス管等）を敷設するために掘り込まれた穴・溝等も含まれる。

セクションポイント … 遺構が構築されてから埋没するまでの過程を、土層の堆積状況によって判断するために遺構を断ち割り、土層観察面を設定した地点。



国分寺市遺跡調査会構成員名簿

令和3年3月31日現在

———— 役員および監事 ————

会 長	坂誥 秀一	国分寺市文化財保護審議会会長
副 会 長	星野 亮雅	国分寺市文化財保護審議会副会長
理 事	遠藤 慈郎	国分寺市文化財保護審議会委員
理 事	福嶋 司	国分寺市文化財保護審議会委員
理 事	新田 智哉	東京都教育庁地域教育支援部管理課長
理 事	加藤 政幸	国分寺市まちづくり部長
専務理事	一ノ瀬 理	国分寺市教育委員会教育部長
監 事	真田 康幸	元国分寺市職員
監 事	鈴木 徳子	東京都教育庁地域教育支援部管理課課長代理

———— 顧問および参与 ————

顧 問	井澤 邦夫	国分寺市長
参 与	古屋 真宏	国分寺市教育委員会教育長

———— 武蔵国分寺跡調査・研究指導委員会 ————

委 員 長	坂誥 秀一	(考古学)	立正大学特別荣誉教授
委 員	藤井 恵介	(建築史)	東京大学名誉教授
委 員	佐藤 信	(古代史)	東京大学名誉教授
委 員	酒井 清治	(考古学)	駒澤大学名誉教授
委 員	松井 敏也	(保存科学)	筑波大学芸術系教授

———— 事務局 ————

事務局 長	高杉 強	国分寺市教育委員会ふるさと文化財課長
事務局 員	日隈 巖	同課文化財保護係長
事務局 員	中道 誠	同課文化財保護係主任
事務局 員 (出納員)	仲野 克彦	国分寺市遺跡調査会事務総括

———— 調査団 ————

団 長	坂誥 秀一	立正大学特別荣誉教授
主任調査員	依田 亮一	国分寺市教育委員会ふるさと文化財課史跡係長
調 査 員	高橋 彩	同課史跡係
調 査 員	島田 智博	同課史跡係会計年度月額任用職員 (史跡整備担当)
調 査 員	中野 純	同課史跡係会計年度月額任用職員 (史跡整備担当)
調 査 員	平塚 恵介	同課史跡係会計年度月額任用職員 (遺跡調査員)
調 査 員	桂 弘美	同課史跡係会計年度月額任用職員 (遺跡調査員)

(※ 令和2年12月31日まで)

本文目次

序	
例言	i
凡例	ii
国分寺市遺跡調査会構成員名簿	iv
本文目次	v
挿図目次・表目次・写真目次	vi
第1章 国分寺市の埋蔵文化財	1
第1節 埋蔵文化財行政のあらまし	1
第2節 届出・通知および立会記録等	6
(1) 届出・通知および立会記録等	6
(2) 恋ヶ窪遺跡立会調査（立会 No. 68）	12
(3) 武蔵国分寺跡立会調査（立会 No. 102）	12
(4) 武蔵国分寺跡立会調査（立会 No. 121）	13
第2章 令和元年度に実施した発掘調査	15
第1節 遺跡の概要	15
第2節 調査の概要	28
(1) 武蔵国分寺跡第748次調査	28
(2) 武蔵国分寺跡第749次調査	36
(3) 武蔵国分寺跡第750次調査	40
(4) 武蔵国分寺跡第751次調査	43
(5) 武蔵国分寺跡第752次調査	45
(6) 武蔵国分寺跡第753次調査	46
(7) 恋ヶ窪遺跡第105次調査	48
(8) 恋ヶ窪遺跡第106次調査	49
(9) 恋ヶ窪遺跡第107次調査	54
(10) 殿ヶ谷戸遺跡第17次調査	62
(11) 本町（国分寺村石器時代）遺跡第18次調査	64
(12) No. 29 遺跡第5次調査	70
(13) No. 47 遺跡第1次調査	71
(14) 東京経済大学構内遺跡第7次調査	73
(15) 花沢東遺跡第16次調査	76
(16) 恋ヶ窪東遺跡第26次調査	78
(17) 東山道武蔵路跡第6次調査	79

(18) 西町つつじ公園修繕工事に伴う調査	84
(19) 武蔵国分寺跡第 747 次調査	90

第 3 章 総 括	92
-----------	----

報告書抄録	100
奥付	

挿 図 目 次

第 1 図 国分寺市の地形模式図	1	第 33 図 武蔵国分寺跡第 750 次調査土層断面図・ 遺物出土状況図	41
第 2 図 国分寺崖線と湧水	1	第 34 図 調査地点位置図 (MK751)	43
第 3 図 立会地点位置図 (立会 No. 68)	12	第 35 図 調査区配置図 (MK751)	43
第 4 図 立会調査No. 68 出土土器	12	第 36 図 武蔵国分寺跡第 751 次調査全体図	44
第 5 図 立会地点位置図 (立会 No. 102)	12	第 37 図 武蔵国分寺跡第 751 次調査出土遺物	44
第 6 図 立会調査No. 102 出土土器	12	第 38 図 調査地点位置図 (MK752)	45
第 7 図 立会地点位置図 (立会 No. 121)	13	第 39 図 調査区配置図 (MK752)	45
第 8 図 立会調査No. 121 出土状況	13	第 40 図 調査地点位置図 (MK753)	46
第 9 図 立会調査No. 121 竪穴住居検出状況	14	第 41 図 調査区配置図 (MK753)	46
第 10 図 武蔵国分寺跡伽藍配置模式図	15	第 42 図 武蔵国分寺跡第 753 次調査出土遺物	46
第 11 図 武蔵国分寺跡の位置	16	第 43 図 武蔵国分寺跡第 753 次調査全体図 (上段：旧石器時代、下段：縄文時代)	47
第 12 図 恋ヶ窪遺跡における既往の発掘調査状況	18	第 44 図 調査地点位置図 (K2-105)	48
第 13 図 本町遺跡における既往の発掘調査状況	20	第 45 図 調査区配置図 (K2-105)	48
第 14 図 野川上流域の主な旧石器・縄文時代集落遺跡	21	第 46 図 調査地点位置図 (K2-106)	49
第 15 図 恋ヶ窪東遺跡における既往の発掘調査状況	23	第 47 図 調査区配置図 (K2-106)	49
第 16 図 東山道武蔵路における発掘調査状況	24	第 48 図 恋ヶ窪遺跡第 105 次調査全体図	50
第 17 図 令和元年度の発掘調査地点位置図	26・27	第 49 図 恋ヶ窪遺跡第 105 次調査出土遺物	51
第 18 図 調査地点位置図 (MK748)	28	第 50 図 調査地点位置図 (K2-107)	54
第 19 図 調査区配置図 (MK748)	28	第 51 図 調査区配置図 (K2-107)	54
第 20 図 SI224 床面検出状況	29	第 52 図 恋ヶ窪遺跡第 107 次調査全体図	55
第 21 図 SI224 掘り方	30	第 53 図 T 1 調査区遺物出土状況	56
第 22 図 SI224 遺物出土状況 (1) 全点	32	第 54 図 T 2 調査区遺物出土状況	56
第 23 図 SI224 遺物出土状況 (2) 実測個体	32	第 55 図 恋ヶ窪遺跡第 107 次調査出土縄文土器	58
第 24 図 武蔵国分寺跡第 748 次調査出土遺物	33	第 56 図 恋ヶ窪遺跡第 107 次調査出土縄文石器 (1)	58
第 25 図 調査地点位置図 (MK749)	36	第 57 図 恋ヶ窪遺跡第 107 次調査出土縄文石器 (2)	59
第 26 図 調査区配置図 (MK749)	36	第 58 図 恋ヶ窪遺跡第 107 次調査出土近代遺物	60
第 27 図 武蔵国分寺跡第 749 次調査全体図	37	第 59 図 調査地点位置図 (K21-17)	62
第 28 図 武蔵国分寺跡第 749 次調査土層断面図・遺物 出土状況図	38	第 60 図 調査区配置図 (K21-17)	62
第 29 図 武蔵国分寺跡第 749 次調査出土遺物	38	第 61 図 殿ヶ谷戸遺跡第 17 次調査全体図	63
第 30 図 調査地点位置図 (MK750)	40	第 62 図 殿ヶ谷戸遺跡第 17 次調査出土遺物	63
第 31 図 調査区配置図 (MK750)	40	第 63 図 調査地点位置図 (K28-18)	64
第 32 図 第 750 次調査出土遺物	40	第 64 図 調査区配置図 (K28-18)	64

第 65 図	本町遺跡第 28 次調査全体図・ 遺物出土状況図	65	第 82 図	調査区配置図 (K57-26)	78
第 66 図	本町遺跡第 28 次調査出土縄文土器	67	第 83 図	調査地点位置図 (K58-6)	79
第 67 図	本町遺跡第 28 次調査出土縄文石器	68	第 84 図	調査区配置図 (K58-6)	80
第 68 図	調査地点位置図 (K29-5)	70	第 85 図	東山道武蔵路側溝 SD2・SD5	81
第 69 図	調査区配置図 (K29-5)	70	第 86 図	東山道武蔵路の想定経路と埋没微地形 (小平市 2015 を一部改変作図)	82
第 70 図	調査地点位置図 (K47-1)	71	第 87 図	調査地点位置図 (西町つつじ公園)	84
第 71 図	調査区配置図 (K47-1)	71	第 88 図	西町つつじ公園とうどもロ検出位置	84
第 72 図	調査地点位置図 (K53-7)	73	第 89 図	西町つつじ公園のうどもロ	85
第 73 図	調査区配置図 (K53-7)	73	第 90 図	うどもロ出土遺物	88
第 74 図	東京経済大学構内遺跡第 7 次調査全体図	74	第 91 図	昭和 2 年の中藤新田地区の土地利用状況と 「うどもロ」発見地点	89
第 75 図	調査地点周辺の旧地形 (明治 14 年 12 月 神奈川県武蔵国北多摩郡国分寺村 第一軍管 地方 2 万分 1 フランス式彩色 迅速図に加筆)	75	第 92 図	市内発見のうどもロ (左: 武蔵国分寺跡 第 746 次調査、右: 西町つつじ公園)	89
第 76 図	調査地点周辺の旧地形 (昭和 18 年 1 月 国分寺北部 大日本帝国陸地測量部 5 千分 1 測量図に加筆)	75	第 93 図	調査地点位置図 (MK747)	90
第 77 図	調査地点位置図 (K54-16)	76	第 94 図	武蔵国分寺跡第 747 次調査全体図 (及川 2020 より)	90
第 78 図	集合住宅建築計画と調査区の配置 (K57-16)	76	第 95 図	武蔵国分寺跡第 74 次調査地点採集の近代遺物	91
第 79 図	調査地点周辺の旧地形 (昭和 28 年 3 月 国分寺北部 東京都建設局 3 千分 1 測量図に加筆)	76	第 96 図	調査範囲と中央鉄道学園 (昭和 60 年頃)	91
第 80 図	花沢東遺跡第 16 次調査全体図・土層堆積 状況図	77	第 97 図	昭和 30 年代後半頃の中央鉄道学園と車両実習館 (中央鉄道学園他 1963 より、一部加筆)	91
第 81 図	調査地点位置図 (K57-26)	78	第 98 図	武蔵国分寺跡・武蔵国分寺関連遺跡出土の 相模型土師器坏・椀集成	93
			第 99 図	戦時中の日立製作所中央研究所構内の建屋配置と 恋ヶ窪遺跡第 107 調査地点	95
			第 100 図	西町つつじ公園に設置された遺跡解説板	96

表 目 次

表 1	届出・通知および調査件数	3	表 5	恋ヶ窪遺跡第 105 次調査出土縄文土器観察表	52
表 2	届出・通知に対する指示内容と割合	3	表 6	本町遺跡第 18 次調査出土縄文土器観察表	69
表 3	発掘調査面積の推移	3	表 7	本町遺跡第 18 次調査出土石器計測表	69
表 4	届出・通知および立会記録等一覧	6～11	表 8	武蔵国分寺跡・武蔵国分寺関連遺跡出土の 相模型土師器坏・椀	93

写真目次

写真 1	中門東側（南西から）	4	写真 46	作業スナップ	53
写真 2	中門東側（東から中門をのぞむ）	4	写真 47	調査区全景（南から）	61
写真 3	シンポジウム「史跡を使いたおせ」	5	写真 48	作業スナップ（北から）	61
写真 4	幡をかかげる（活用の事例）	5	写真 49	T1 調査区全景（東から）	61
写真 5	No. 35 立会状況	11	写真 50	T1 調査区西壁土層断面（東から）	61
写真 6	No. 97 立会状況	11	写真 51	T2 調査区全景（東から）	61
写真 7	No. 101 立会状況	11	写真 52	SK215J 屋外炉検出状況（西から）	61
写真 8	No. 131 立会状況	11	写真 53	SK215J 屋外炉焼土検出状況（西から）	61
写真 9	SI-A 検出状況（東から）	13	写真 54	T2 調査区遺物出土状況（東から）	61
写真 10	SI-B 検出状況（西から）	13	写真 55	遺物出土状況（西から）	62
写真 11	恋ヶ窪遺跡案内板（東恋ヶ窪でんしゃ公園内）	17	写真 56	調査区全景（北から）	63
写真 12	本町遺跡案内板	19	写真 57	西壁土層断面（東から）	63
写真 13	恋ヶ窪東遺跡案内板（本町四丁目公園）	22	写真 58	調査区全景（南西から）	66
写真 14	東山道武蔵路（泉町地区）	25	写真 59	SX1 土層断面（西から）	66
写真 15	調査区近景	34	写真 60	南西部土層断面（南東から）	66
写真 16	作業スナップ	34	写真 61	SX1 遺物出土状況（南西から）	66
写真 17	SI244 床面検出状況（南から）	34	写真 62	調査区全景（南から）	70
写真 18	調査区全景（東から）	34	写真 63	A トレンチ縄文時代全景（北西から）	72
写真 19	SI244 P-4 断面（南から）	34	写真 64	B トレンチ縄文時代全景（北東から）	72
写真 20	SI244 P-5 断面（南から）	34	写真 65	C トレンチ全景（北東から）	72
写真 21	SI244 遺物出土状況（南から）	34	写真 66	旧石器試掘坑 2 南壁（北西から）	72
写真 22	SI244 遺物出土状況（南から※第 24 図 3）	34	写真 67	調査地全景（北東から）	75
写真 23	調査区全景（東から）	39	写真 68	作業風景（北から）	75
写真 24	SI267 床面検出状況（東から）	39	写真 69	A トレンチ全景（東から）	75
写真 25	SI267 掘り方（北から）	39	写真 70	旧石器時代試掘坑 2 北壁土層断面（南から）	75
写真 26	SD437 完掘状況（南から）	39	写真 71	調査区全景（西から）	77
写真 27	調査区西壁土層断面（東から）	39	写真 72	調査区全景（西北から）	77
写真 28	SI267 内 P-1・2 土層断面（西から）	39	写真 73	調査区西壁土層堆積状況（東から）	77
写真 29	調査区全景（西から）	42	写真 74	調査区南壁土層堆積状況（北から）	77
写真 30	SX366 全景（東から）	42	写真 75	調査区全景（西から）	78
写真 31	SX366 全景（西から）	42	写真 76	A トレンチ全景（東から）	79
写真 32	SX366 東西土層断面（北から）	42	写真 77	近代トレンチチャー跡（A トレンチ・北から）	81
写真 33	SX366 南北土層断面（東から）	42	写真 78	SD2 完掘状況（東から）	81
写真 34	作業スナップ	42	写真 79	SD2 南壁土層断面（北から）	81
写真 35	A トレンチ全景（東から）	44	写真 80	SD5 南壁土層断面（北から）	81
写真 36	B トレンチ全景（南から）	44	写真 81	調査前陥没状況（東から）	87
写真 37	調査区全景（東から）	45	写真 82	調査時開口状況（東から）	87
写真 38	V a 層遺物出土状況（北から）	47	写真 83	陥没付近開削状況（西から）	87
写真 39	縄文時代面全景（西から）	47	写真 84	竪坑部完掘状況（南から）	87
写真 40	調査区全景（東から）	48	写真 85	竪坑部上方から北東横室を望む（西から）	87
写真 41	B トレンチ全景（南から）	53	写真 86	北西横室内部の状況（南から）	87
写真 42	C トレンチ全景（西から）	53	写真 87	北東横室内部の状況（西から）	87
写真 43	B・C トレンチ全景（南西から）	53	写真 88	北西横室・北東横室入口の工具痕 （南西から）	87
写真 44	SK214J 土層断面（東から）	53	写真 89	「西町つつじ公園発見のうどもろ」 解説板設置状況（令和 3 年 3 月設置）	96
写真 45	A トレンチ全景（西から）	53			

第1章 国分寺市の埋蔵文化財

第1節 埋蔵文化財行政のあらまし

(1) 国分寺市の地形と埋蔵文化財

国分寺市は、通称「ハケ」と呼ばれる国分寺崖線を境として、地形的に北と南に分けられている。国分寺崖線は、古多摩川が武蔵野台地を10万年以上の歳月をかけて削りとって形成された河岸段丘の連なりを指し、北と南の標高差（崖高）は10～20m、東西の長さは約30kmにわたる。崖線沿いには樹林や湧水などの豊かな自然環境が形成され、この崖線上を武蔵野段丘面、崖線下を立川段丘面と呼んでいる（第1・2図）。

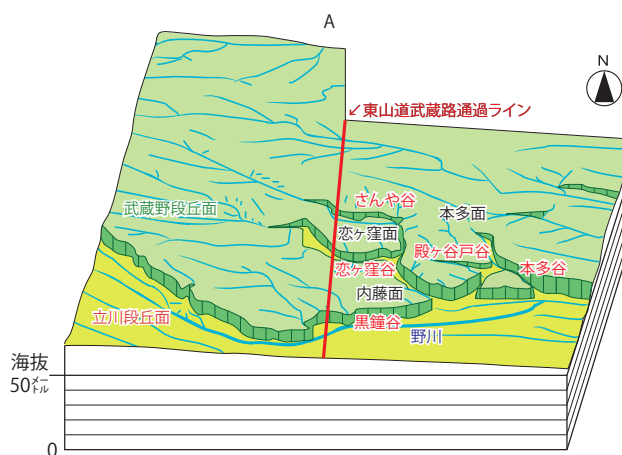
武蔵野段丘の縁辺部には、本多谷・殿ヶ谷戸谷・さんや谷・恋ヶ窪谷のようないくつもの開析谷が作られ、崖線下からの湧水はこれらの谷を通して集まり野川となっている。こうした起伏に富む豊かな自然環境のもと、野川を中心に市内には人類が日本列島に住み始めた旧石器時代以来の生活痕跡が多く残されている。そして、7世紀後半頃に市域を南北に縦走する古代官道の東山道武蔵路が整備されると、奈良時代には、市名の由来となった武蔵国分寺が国分寺崖線を背にして建立された。

先人がこの土地に残した遺構や遺物（埋蔵文化財）を保存・活用し、現在を生きる私たちの文化的向上に役立て、さらに未来へ引き継いでいくことは大切なことであり、「文化財保護法」（以下「法」という）では、国や地方公共団体に対し、遺跡である「埋蔵文化財を包蔵する土地として周知されている土地」（「周知の埋蔵文化財包蔵地」。以下「包蔵地」と略）を的確に把握し、周知の徹底に努めるように求めている（法第95条第1項）^{※1}。国分寺市では、現在46箇所の包蔵地が確認されている。そのうち、武蔵国分寺跡の中枢部周辺と東山道武蔵路跡の一部については、国の史跡に指定されている。

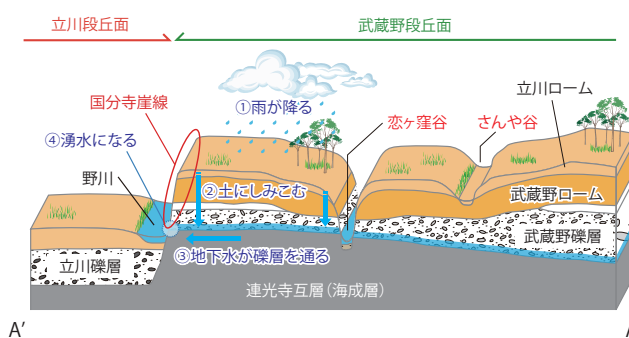
(2) 包蔵地内での土木工事

包蔵地の範囲内で掘削を伴う土木工事を行う場合には、埋蔵文化財保護の観点から、法に基づき、着手しようとする日の60日前までに届出（法第93条第1項）^{※3}、もしくは通知（法第94条第1項）^{※4}を行う必要がある。届出・通知は国分寺市教育委員会（以下「市教委」と略）により東京都教育委員会に進達し、工事が埋蔵文化財に与える影響を考慮して必要な措置（指示内容）が都から届出者に対して通知される。

市内の包蔵地では、地表からおおよそ40～100cm下（特に浅いところでは10cm前後）に遺構が存在している。そのため、工事に伴う掘



第1図 国分寺市の地形模式図



第2図 国分寺崖線と湧水

削深度がこれより深い場合は、埋蔵文化財が壊される可能性があるため、遺跡の広がりや性格、遺構の種別を探る目的で確認調査（法第99条第1項）^{※5}を行うことがある。その結果、遺跡が見つかり、やむを得ず工事により遺跡を壊す場合には、事業者と協議の上で事前に記録保存を目的とした発掘調査を行い、その費用負担については原因者に協力を求めている（法第99条第2項）^{※5}。なお、周辺の発掘調査履歴や遺構の密度などを考慮し、掘削範囲や深度が埋蔵文化財に与える影響が無い、もしくは軽微と考えられる場合には、工事の際に市職員が立会調査を行っている。

（3）国指定史跡と現状変更

史跡とは、貝塚・古墳・都城・旧宅・その他の遺跡で我が国にとって歴史上又は学術上価値の高いものを指し、国や自治体によって指定される。国分寺市内には国によって指定された史跡武蔵国分寺跡附東山道武蔵路跡があり、国分寺市では郷土の歴史を語り継ぐよりどころとして、そして国民共有の貴重な財産として保存・整備・活用するための事業を推進している。この史跡内で工事などによって現状を変更する場合については、文化庁長官の許可を受けなければならない（法第125条）^{※6}。また、掘削を伴う工事がある場合は、さらに埋蔵文化財発掘の届出もしくは通知の提出が必要となる。

【文化財保護法】抜粋（昭和25年5月30日法律第214号・最近改正 平成30年法律第42号）

※1 （埋蔵文化財包蔵地の周知）法第95条第1項

国及び地方公共団体は周知の埋蔵文化財包蔵地について、資料の整備その他その周知の徹底を図るために必要な措置の実施に努めなければならない。

※2 （調査のための発掘に関する届け出、指示及び命令）法第92条第1項

土地に埋蔵されている文化財（以下「埋蔵文化財」という。）について、その調査のため土地を発掘しようとする者は、文部科学省令の定める事項を記載した書面をもって、発掘に着手しようとする日の30日前までに文化庁長官まで届け出なければならない。ただし、文部科学省令の定める場合は、この限りでない。

※3 （土木工事のために発掘に関する届出及び指示）法第93条第1項

土木工事その他埋蔵文化財の調査以外の目的で、貝塚、古墳その他の埋蔵文化財を包蔵する土地として周知されている土地（以下「周知の埋蔵文化財包蔵地」という。）を発掘しようとする場合には、前条第1項の規定を準用する。この場合において同項中「30日前」とあるのは、「60日前」と読み替えるものとする。

※4 （国の機関等が行う発掘に関する特例）法第94条第1項

国の機関（中略）が前条第1項に規定する目的で周知の埋蔵文化財包蔵地を発掘しようとする場合においては、同条の規定を適用しないものとし、当該国の機関等は、当該発掘に係る事業計画の策定に当たって、あらかじめ文化庁長官にその旨を通知しなければならない。

※5 （地方公共団体による発掘の施行）法第99条第1・2項

地方公共団体は、文化庁長官が前条第一項の規定により発掘を施行するものを除き、埋蔵文化財について調査する必要があると認めるときは、埋蔵文化財を包蔵すると認められる土地の発掘を施行することができる。

2 地方公共団体は、前項の発掘に関し、事業者に対し協力を求めることができる。

※6 （現状変更等の制限及び原状回復の命令）法第125条

史跡名勝天然記念物に関しその現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、文化庁長官の許可を受けなければならない。ただし、現状変更については維持の措置（中略）、保存に影響を及ぼす行為については影響の軽微である場合は、この限りでない。

表1 届出・通知および調査件数

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
埋蔵文化財発掘の届出 法第93条		172	183	178	214	194
埋蔵文化財発掘の通知 法第94条		21	24	19	38	21
埋蔵文化財発掘調査の届出 法第92条		1	1	0	0	1
史跡・名勝現状変更許可申請 法第125条	国許可	5	7	7	7	5
	市許可					3
発掘調査件数	国分寺市遺跡調査会（委託）	14	11	16	25	17
	国分寺市教育委員会（直接）	1	0	0	0	0
	民間調査会社（三者協定）	2	4	2	0	1

(4) 令和元年度の届出・通知の件数

近年の埋蔵文化財発掘の届出・通知の件数は、200件前後で推移していたが、令和元年度は215件（緊急工事の後日提出分等含む）あった（表1）。詳細は第2節第4表に記載している。

届出・通知に対する確認調査・発掘調査の指示は、当初は16件であったが、届出内容の計画変更により1件は立会調査としたため、結果的にあわせて15件を数えた（表2）。また、包蔵地範囲外では、国分寺市ま

ちづくり条例に基づき調査の協力を依頼した案件が1件（恋ヶ窪東遺跡）、東山道武蔵路の延長で土地所有者の協力を得た試掘調査が1件、公園陥没事故修繕に伴う近代うどもロの調査を1件行った。

令和元年度に実施した調査のうち、国庫補助による調査は、平成30年度の届出1件（恋ヶ窪遺跡第105次）、令和元年度の届出13件（武蔵国分寺跡第748・749・750・751・752・753次、恋ヶ窪遺跡第106次、殿ヶ谷戸遺跡第17次、本町（国分寺村石器時代）遺跡第18次、No.29遺跡第5次、No.47遺跡第1次、東京経済大学構内遺跡第7次、花沢東遺跡第26次）、および事業者・土地所有者の協力による調査2件（恋ヶ窪東遺跡第26次、東山道武蔵路第6次）の合計16件となっている。

開発事業者が費用を負担し、国分寺市教育委員会が調査を実施した発掘調査が1件（恋ヶ窪遺跡第107次）あった。また、国分寺市が費用を負担して、国分寺市遺跡調査会が調査を実施した発掘調査が1件（西町つつじ公園）あった。

本書は概要を紹介したが（第2章第2節（19））、法92条に基づき東京都埋蔵文化財センターによる武蔵国分寺跡第747次調査も行われ、別途正式な調査報告書が刊行されている。

(5) 発掘調査面積の推移

令和元年度の国庫補助事業による調査面積は約260㎡で、昨年度のほぼ半分となった。一方で開発事業者負担による調査は増加し、市内全体で約1,202㎡の調査が実施された（表3）。

表3 発掘調査面積の推移

		区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
開発事業等 に伴う調査	民間事業者	発掘・確認調査	15,552	6,004	871	134	120
	公共機関	発掘調査	0	1,617	0	0	1082
	補助金等	発掘調査	3	8	18	5	12
		確認調査	237	229	191	428	220
		試掘調査	0	0	0	0	28
	国分寺市	発掘調査	0	0	0	25	22
		確認調査	1	0	105	57	0
調査面積合計			15,793	7,858	1,185	649	1,484

単位：㎡ 小数点以下切り捨て

(6) 史跡整備事業

市では事前遺構確認調査の成果をもとに史跡保存整備工事を行っており、令和元年度は、中門東側の遺構平面表示（伽藍中枢部南辺区画築地塀・溝）を行った。



写真1 中門東側（南西から）



写真2 中門東側（東から中門をのぞむ）

(7) 埋蔵文化財・史跡関係の主な普及活動

市域の貴重な埋蔵文化財を保護し、後世に伝えていくために、発掘調査で得られた調査成果をもとに、令和元年度も様々な公開・普及活動事業を行った。なお、発掘調査によって出土した土器や瓦は、武蔵国分寺跡資料館や文化財資料展示室（市立第四中学校内）などで展示している。また、刊行した報告書や普及書は資料館や図書館、市役所オープナー等で閲覧することができる。武蔵国分寺跡資料館の所在するおたかの道湧水園では、整備が完了した10月18日より園内の池周辺の公開を始めた。

1. 武蔵国分寺跡資料館企画展示（開館10周年企画展）

「史跡武蔵国分寺跡附東山道武蔵路―僧寺伽藍中枢部の調査と史跡整備―」

〔会期〕 9月21日～12月28日

2. 市内巡回ミニ展示

史跡武蔵国分寺跡資料館開館10周年市内巡回ミニ展示 「史跡武蔵国分寺跡附東山道武蔵路」

〔会場〕 並木公民館・市役所第1庁舎・cocobunji プラザ・ひかりプラザ・武蔵国分寺跡資料館

〔会期〕 9月18日～2月24日

3. 文化財めぐり

市内文化財めぐり：市内の文化財を市職員の案内で歩いて巡る。

〔実施日〕 10月10日 〔参加者数〕 29人

市外文化財めぐり：「バスで行く市外文化財めぐり」

〔訪問先〕 埼玉県鳩山町 〔実施日〕 7月27日 〔参加者数〕 21人

4. 講座・講演

市制施行55周年記念・国指定史跡武蔵国分寺跡附東山道武蔵路整備完了記念シンポジウム

「史跡を使いたおせ！」

都市計画、ランドスケープデザイン・造園学、観光まちづくり、パブリックスペースの活用、地域活性化活動を実践する市民らの専門家5名をパネリストとして招き、「歴史にふれあう」、「歴史を実感する」、「歴史を学ぶ」、「公園を楽しく活用する」、「公園で楽しむ」、「公園を使いこなす」をキーワードに歴史公園の使い方やあり方を議論した。

〔会場〕 いずみホール 〔実施日〕 9月21日 〔参加者数〕 189人

〔基調報告〕「史跡武蔵国分寺跡整備の現状」(市職員) / 「武蔵国分寺跡と関連文化財群」(市教委職員)

〔主題解説〕

主旨説明 野澤 康

(工学院大学建築学部まちづくり学科教授・史跡武蔵国分寺跡保存整備委員)

「「史跡」の残りかた―土地利用の解像度」

石川 初 (慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科/環境情報学部教授)

「史跡を活かした観光まちづくりにむけて」

川原 晋 (首都大学東京都市環境学部観光科学科教授)

「パブリックスペースの活用について考えてみる」

鈴木美央 (O+ Architecture [オープラスアーキテクチャー合同会社] 代表)

「史跡を使いたおすためのアプローチ」

高浜洋平 (NPO 法人めぐるまち国分寺 代表理事)

〔シンポジウム〕 史跡を使いたおせ！

司会・進行 野澤 康 / パネリスト 石川 初・川原 晋・鈴木美央・高浜洋平

5. イベント

長屋門子ども体験教室「国分寺の昔を知ろう！遊ぼう！」

〔実施日〕 8月3日・8月24日 〔参加人数〕 19人

「レプリカをつくろう」 鏡瓦などのレプリカを作成。

〔実施日〕 11月4日 〔参加者数〕 33人

6. 印刷物の作成

『武蔵国分寺跡資料館だより』第38号～第41号 各2,000部

『国分寺市の文化財 (令和元年版)』刊行

7. その他

「発掘された日本列島展 2019」

(東京都江戸東京博物館・石川県立歴史博物館・岐阜市歴史博物館・広島県立歴史博物館・

川崎市民ミュージアム) への資料出品 (6月2日～2月17日)

「縄文シャワー展示室展Ⅲ 2019」(児島画廊) への資料貸出



写真3 シンポジウム「史跡を使いたおせ！」



写真4 幡をかかげる (活用の事例)

第2節 届出・通知および立会記録等

(1) 届出・通知および立会記録等

第1節で概要を示した通り、令和元年度は227件の届出・通知があり、そのうち156件について立会指示を行っている。そのうち3件については、遺構・遺物が検出されているため、本節(2)～(4)にて詳細を説明する。試掘・確認・本調査については、第2章第2節にて詳述する。

表4 届出・通知および立会記録等一覧

No.	日付	条	申請地	遺跡番号	工事内容	指示内容	立会実施日	立会記録・調査回数・備考
1	H31.4.1	93条	南町2-1	21	分譲住宅	工事立会	R1.5.31	基礎根切。GL-40cmまで掘削。盛土内施工。
2	H31.4.2	93条	西元町3-18-21地内	10・19	個人住宅	工事立会	R1.5.14	GL-60cmまで掘削。ほぼ盛土。-40cmでⅢc・Ⅳ層と思われるロームを一部確認。
3	H31.4.3	93条	泉町1-10-11	19	ガス	工事立会	H31.4.17	GL-120cmまで掘削。-40cmまで路盤、-100cmまで堀山、以下ローム。
4	H31.4.3	93条	西元町2-13	11・19	ガス	慎重工事	—	—
5	H31.4.9	93条	東元町3-1445-12	19	分譲住宅	工事立会	R1.7.9	GL-40cmまで掘削。盛土内施工。
6	H31.4.9	93条	泉町1-10-17	19	電気	工事立会	R1.6.12	GL-150cm以上掘削。-100cmまで盛土、以下ローム。
7	H31.4.19	93条	南町1-12-17	20	ガス	慎重工事	—	—
8	H31.4.22	94条	西元町1-8-1	19	学校建設	工事立会	① R1.10.31 ② R1.11.7	①過去の試掘坑(446次調査Pトレンチ)確認。 ②GL-420cmまで掘削。-260cmまでが基礎根切の深さ、試掘坑埋戻土が柔らかかったため-420cmまで掘削した。-160cmに漸移層。
9	H31.4.23	93条	泉町1-10	19	給排水管	工事立会	① R1.5.14 ② R1.6.7	①GL-60cmまで掘削。盛土。一部-40cmからⅢc・Ⅳ層と思われる。 ②GL-160cmまで掘削。ほぼ堀山内施工。一部地山あり、-20cmから-40cmまでⅢ層、以下Ⅲc層。
10	H31.4.24	93条	西元町2-18	19	ガス	工事立会	—	遺物・遺構なし。
11	H31.4.26	93条	南町2-365-19・21	54	集合住宅	確認調査	—	K54-16次調査→第2章第2節(15)参照
12	H31.4.26	緊急	西元町3-2-21前	19	ガス	緊急工事	—	—
13	H31.4.26	94条	西恋ヶ窪3-5-7	37	雨水浸透ます	工事立会	—	工事中止。
14	R1.5.7	93条	内藤1-2-4の一部	7	個人住宅	工事立会	R1.6.11	GL-40cmまで掘削。-20～30cmまで盛土(暗茶褐色土)、以下Ⅲb層。
15	R1.5.7	93条	西恋ヶ窪1-19-17	2	水道	工事立会	① R1.5.4 ② R1.6.5	①GL-120cmまで掘削。堀山内施工。一部-30cmからⅢb層、-100cmでローム。 ②ほぼ同じ。北側トレンチ-50cmでローム。
16	R1.5.7	93条	泉町3-32-6	22	水道	慎重工事	—	—
17	R1.5.8	93条	東元町3-21	18・19	ガス	工事立会	R1.5.9	GL-120cmまで掘削。堀山内施工。
18	R1.5.8	93条	西元町3-15-2	10・19	個人住宅	工事立会	① R1.5.27 ② R1.5.29	①排水設備。GL-80cmまで掘削。-70cmまで盛土の部分もある、-40cmまで黒色土、以下一部ローム。 ②基礎根切。-30cmまで掘削。盛土内施工。
19	R1.5.9	93条	本町4-18(A)	57	分譲住宅	工事立会	① R1.5.24 ② R1.7.10	①GLが道路として+0cmまで掘削。盛土60cmをすきとる工事。盛土内施工。 ②GL-60cmまで掘削。全て黒色土。
20	R1.5.9	93条	本町4-18(B)	57	分譲住宅	工事立会	—	No.19参照。
21	R1.5.9	93条	本町4-18(C)	57	分譲住宅	工事立会	—	No.19参照。
22	R1.5.9	93条	本町4-18(D)	57	分譲住宅	工事立会	—	No.19参照。
23	R1.5.9	94条	西恋ヶ窪1-19番地先	2	電話	慎重工事	—	—
24	R1.5.13	93条	西恋ヶ窪1-12-39	2	ガス	工事立会	R1.5.22	GL-130cmまで掘削。一部分のみ自然堆積土か。-30cmまで路盤、-70cmまで黒色土。一部底まで堀山。
25	R1.5.15	93条	西恋ヶ窪1-21-6	2	水道	工事立会	① R1.5.29 ② R1.6.6	①GL-260cmまで掘削。-30cmまで路盤、-100cmまで堀山、以下ローム。 ②GL-100cmまで掘削。堀山内施工。
26	R1.5.16	93条	内藤2-27	40	ガス	工事立会	R1.5.30	GL-120cmまで掘削。盛土・耕作土内施工。
27	R1.5.16	93条	西元町3-11-18	10・19	個人住宅	工事立会	R1.7.29	GL-30cmまで掘削。盛土・耕作土内施工。
28	R1.5.22	緊急	西元町2-17-18	19	ガス	緊急工事	—	—
29	R1.5.21	94条	泉町2-102-13	19	電話	工事立会	① R1.9.10 ② R1.9.11	GL-130cmまで掘削。堀山内施工。
30	R1.5.22	93条	東元町2-6	19	電気	慎重工事	—	—
31	R1.5.22	93条	東元町4-19	19	電気	工事立会	R1.6.21	GL-100cmまで掘削。-70cmまで盛土。以下ローム。
32	R1.5.23	93条	西恋ヶ窪1-21	2	ガス	工事立会	R1.6.4	GL-80cmまで掘削。宅地側で-60cmまで黒色土から褐色土、以下ローム。
33	R1.5.23	93条	西恋ヶ窪1-14-14	2	ガス	慎重工事	—	—
34	R1.5.27	94条	泉町2-102-3	19	ガス・水道・電気等	工事立会	R1.7.1	排水設備。GL-300cmまで掘削。-170cmまで堀山、以下ローム。

No.	日付	条	申請地	遺跡番号	工事内容	指示内容	立会実施日	立会記録・調査次数・備考
35	R1.5.27	93条	東元町3-6	19	水道	工事立会	R1.6.13	GL-120cmまで掘削。東側-30cmまで路盤。以下河川堆積土(茶褐色土)。西側一部-40cm以下にローム。
36	R1.5.31	93条	南町2-2-17	21	水道	工事立会	R1.7.23	GL-100cmまで掘削。-40cmまで路盤。以下ハードローム。
37	R1.6.3	93条	西恋ヶ窪1-25-4	2	水道	工事立会	R1.7.3	GL-200cmまで掘削。一部-60cm以下にローム。ほぼ堀山内施工。
38	R1.6.3	93条	南町2-1	21	水道	工事立会	R1.6.20	GL-100cmまで掘削。堀山内施工。
39	R1.6.6	緊急	西元町2-18-11(歩道)	19	ガス	緊急工事	—	—
40	R1.6.6	緊急	西元町2-17-10(歩道)	19	ガス	緊急工事	—	—
41	R1.6.6	93条	西恋ヶ窪1-11-3	2	集合住宅	工事立会	R1.10.1	GL-100cmまで掘削。一部-80cmでローム。
42	R1.6.11	93条	西元町1-13	10・19	ガス	工事立会	① R1.6.12 ② R1.6.13 ③ R1.6.14 ④ R1.6.17 ⑤ R1.6.25	①②③ GL-100cmまで掘削。路盤直下がローム。 ④ GL-100cmまで掘削。幅最大2.7mの粘土質の灰色土が入った溝状の痕跡があった。 ⑤ GL-100cmまで掘削。堀山内施工。
43	R1.6.11	93条	西元町3-15-1	10・19	電気	工事立会	R1.7.3	GL-40cmまで掘削。堀山内施工。
44	R1.6.12	93条	本町2-7-5	28	ガス	工事立会	R1.7.18	GL-60cmまで掘削。堀山内施工。
45	R1.6.12	93条	内藤1-2	7	ガス	工事立会	R1.6.17	GL-120cmまで掘削。一部で-30cmまで路盤、-80cmまで黒褐色土、以下ローム。
46	R1.6.13	93条	日吉町1-32	47	分譲住宅・宅地造成	確認調査	—	K47-1次調査。→第2章第2節(13)参照
47	R1.6.14	94条	西元町3-5番地先	10・19	水道	工事立会	R1.6.24	GL-100cmまで掘削。堀山内施工。
48	R1.6.14	93条	東元町3-6	19	ガス	工事立会	R1.7.26	GL-90cmまで掘削。-40cmまで路盤。堀山内施工。
49	R1.6.17	93条	西元町2-18	19	ガス	慎重工事	—	—
50	R1.6.17	93条	西元町2-17	19	ガス	工事立会	① R1.6.27 ② R1.6.28 ③ R1.7.3 ④ R1.7.5	① GL-150cmまで掘削。-40cmまで路盤。以下堀山。 ② GL-90cmまで掘削。歩道の下は-50cmまで路盤、-65cmまで黒色土、以下Ⅲ層。 ③④ GL-130cmまで掘削。-50cmまで路盤、-100cmまでⅢ層、以下ローム。
51	R1.6.17	93条	西元町1-13	10・19	ガス	工事立会	R1.6.28	GL-130cmまで掘削。-40cmまで路盤、以下ローム。
52	R1.6.17	93条	本町4-18	57	ガス	工事立会	—	遺構・遺物なし。
53	R1.6.17	93条	西恋ヶ窪1-19-1	2	分譲住宅	工事立会	—	遺構・遺物なし。表土内施工。
54	R1.6.17	93条	泉町2-102-13	19	水道	慎重工事	—	—
55	R1.6.17	94条	西元町3-22	10・19	水道	工事立会	R1.8.5	GL-120まで掘削。道路面は120cmまで堀山。北側で-55cmまで耕作土、以下ローム。畑地は-30cmまで掘削。全て耕作土。
56	R1.6.20	94条	内藤1-2-21	7	水道	慎重工事	—	—
57	R1.6.26	93条	西恋ヶ窪3-15-3	37	水道	慎重工事	—	—
58	R1.6.27	93条	南町2-2-17	21	個人住宅	確認調査	—	K21-17次調査。→第2章第2節(10)参照
59	R1.6.28	93条	東恋ヶ窪1-280	5	駐車場	工事立会	R1.7.22	GL-100cmまで掘削。堀山内施工。
60	R1.6.28	93条	東元町3-33	19	集合住宅	確認調査	—	MK748次調査。→第2章第2節(1)参照
61	R1.7.2	93条	東元町4-18-4	19	電気	工事立会	① R1.8.8 ② R1.12.11	① GL-120cmまで掘削。-110cmまで盛土、以下ローム。 ② GL-100cm以上掘削。盛土内施工。
62	R1.7.4	93条	西元町3-2-15	10・19	ガス	工事立会	R1.7.23	GL-100cmまで掘削。-40cmまで路盤、以下ハードローム。
63	R1.7.8	94条	東元町3-20-41	19	水道	慎重工事	—	—
64	R1.7.8	94条	泉町1-19-2	19	水道	慎重工事	—	—
65	R1.7.8	93条	日吉町1-31-17	47	宅地造成	工事立会	R1.12.26	GL-50cmまで掘削。下部でⅣ層。
66	R1.7.10	93条	泉町2-2-26	19	電気	工事立会	R1.9.2	GL-120cmまで掘削。堀山内施工。
67	R1.7.10	93条	西恋ヶ窪1-14-14・15	2	電気	慎重工事	—	—
68	R1.7.10	93条	西恋ヶ窪1-18-4	2	電気	工事立会	R1.10.3	GL-270cmまで掘削。-70cmまで黒色土。縄文土器出土。支線。-180cmまで掘削。-110cmまで黒色土。→第2節(2)参照。
69	R1.7.10	93条	泉町3-32-6	22	ガス	慎重工事	—	—
70	R1.7.11	93条	南町3-7	54	ガス	工事立会	R1.9.3	西側トレンチ GL-130cmまで掘削。堀山内施工。東側トレンチ -180cmまで掘削。-150cmでローム。
71	R1.7.12	93条	東元町3-2382-14の一部・-63	19	分譲住宅	工事立会	R1.9.26	GL-40cmまで掘削。一部で地山確認。-10cmまで表土、以下ローム。
72	R1.7.12	93条	南町2-2-17	19	ガス	工事立会	R1.7.23	GL-150cmまで掘削。堀山内施工。
73	R1.7.12	93条	泉町1-19-2	21	ガス	慎重工事	—	—
74	R1.7.16	93条	西元町2-11-8	10・11・14・19	個人住宅	工事立会	—	遺物・遺構なし。表土内施工。
75	R1.7.23	93条	西元町2-5550-45	11・19	電気	工事立会	R1.8.19	GL-110cmまで掘削。-40cmまで盛土、-80cmまで耕作土、-100cmまでⅢ層、以下ローム。
76	R1.7.24	93条	東元町3-5	19	水道	工事立会	R1.8.8	GL-60cmまで掘削。茶褐色土と盛土。
77	R1.7.17	93条	南町2-1-48	21	電気	工事立会	R1.7.18	GL-30cm以下からローム。
78	R1.7.29	93条	西恋ヶ窪1-19-17	2	ガス	工事立会	R1.8.30	GL-100cmまで掘削。-30cmまで路盤、-50cmまで盛土、以下Ⅲ層からローム。
79	R1.7.30	93条	本町4-18	57	水道	工事立会	R1.9.26	GL-120cmまで掘削。-40cmまで路盤、以下堀山。
80	R1.7.31	93条	西元町3-8	10・19	ガス	工事立会	R1.8.	遺構・遺物なし。

No.	日付	条	申請地	遺跡番号	工事内容	指示内容	立会実施日	立会記録・調査次教・備考
81	R1.8.2	93条	西恋ヶ窪 1-19-13	2	分譲住宅	確認調査	—	K2-106 次調査。→第2章第2節(8)参照
82	R1.8.2	93条	内藤 1-2-4	7	ガス	慎重工事	—	—
83	R1.8.6	93条	日吉町 1-32-27	47	電気	慎重工事	—	—
84	R1.8.7	外	南町 3-25-6			包蔵地外立会	R1.8.7	GL-80cm まで掘削。堀山内施工。
85	R1.7.10	93条	東元町 3-5-14	19	集合住宅	工事立会	H1.9.6	GL-40cm まで掘削。盛土内施工。
86	R1.8.9	93条	南町 2-1	21	個人住宅	工事立会	R1.9.17	基礎根切。掘削なし。盛土内施工。
87	R1.8.9	93条	南町 2-1	21	ガス	工事立会	R1.9.12	敷地内は GL-40cm まで掘削。30cm まで盛土以下、茶褐色土。道路は -90cm まで掘削。-20cm まで路盤、以下明茶褐色土、底にローム。
88	R1.8.9	93条	本町 2-7-4	28	事務所	確認調査	—	K28-18 次調査。→第2章第2節(11)参照
89	R1.8.9	93条	西恋ヶ窪 3-12-7	37	分譲住宅	工事立会	R1.9.24	GL-160cm まで掘削。-40cm まで盛土。-70cm からⅢ層、-90cm からⅣ層、以下ローム。
90	R1.8.14	93条	西恋ヶ窪 3-12-7	37	水道	工事立会	R1.10.24	GL-100cm まで掘削。-20cm まで路盤、以下攪拌されたローム。
91	R1.8.19	93条	西元町 3-30-17	10・19	ガス	工事立会	R1.8.21	GL-120cm まで掘削。道路部分は堀山内施工、宅地内は -50cm でローム。
92	R1.8.20	93条	南町 2-1	21	水道	工事立会	R1.8.28	GL-120cm まで掘削。道路下一部に地山、-30cm まで路盤、-50cm までⅢ層、以下ローム。ほぼ堀山内施工。
93	R1.8.20	93条	泉町 2-2-26	19	電気	工事立会	—	遺物・遺構なし。
94	R1.8.20	93条	西元町 2-2545-1	19	電気	工事立会	R1.11.25	遺物・遺構なし。
95	R1.8.26	93条	西元町 2-11-26	11・14・19	分譲住宅	確認調査	—	MK751 次調査。→第2章第2節(4)参照
96	R1.8.30	93条	南町 1-14-32	29	個人住宅	確認調査	—	K29-5 次調査。→第2章第2節(12)参照
97	R1.9.2	93条	西恋ヶ窪 1-13-16	2	個人住宅	工事立会	R1.11.26	GL-60cm まで掘削。全て耕作土。
98	R1.9.3	93条	本町 4-2810-115	57	個人住宅	工事立会	—	遺物・遺構なし。
99	R1.9.3	93条	西元町 3-15-1	10・19	分譲住宅	工事立会	R1.10.18	GL-180cm まで掘削。ごく一部で地山、-20cm まで路盤、-45cm までⅢ層、以下ローム。
100	R1.9.5	93条	西恋ヶ窪 1-18-4	2	分譲住宅	工事立会	① R1.11.7 ② R1.11.8	①地盤改良。土層確認できず。 ②工事確認できず。
101	R1.9.11	94条	東元町 3-18 先	19	雨水浸透ます	工事立会	R1.9.12	GL-60 cm まで掘削。全て黒色土地山。
102	R1.9.12	93条	東元町 3-23-2	19	個人住宅	工事立会	① R1.12.4 ② R1.12.6 ③ R1.12.11 ④ R1.12.12	①地表で縄文土器を検出。 ②地表で縄文土器・瓦などを検出。 ③ GL(宅地)-20cm まで掘削。東側は固めのローム。西側は茶褐色土。 ④東側は固めのロームが広がり、西側には柔らかめの茶褐色土(盛土)。→第2節(3)参照。
103	R1.9.12	94条	西元町 3-2111-2・3, 2112-1・4, 2113-4・5, 2115-1, 1616, 1610-1	10・19	史跡整備	工事立会	① R2.1.7 ② R2.1.8 ③ R2.1.10	表土内施工。
104	R1.9.12	93条	東元町 4-20-22	10・19	個人住宅	確認調査	—	MK749 次調査。→第2章第2節(2)参照
105	R1.9.12	93条	泉町 3-6-3	19	電気	慎重工事	—	—
106	R1.9.12	93条	西元町 3-8-6	10・19	電気	工事立会	—	遺物・遺構なし。
107	R1.9.13	94条	日吉町 1-31-19 外	47	電話	慎重工事	—	—
108	R1.9.13	93条	西元町 2-17-10	19	水道	慎重工事	—	—
109	R1.9.13	93条	西元町 3-17-9	10・19	分譲住宅	工事立会	R1.11.5	GL-20cm まで掘削。盛土内施工。
110	R1.9.17	93条	西元町 2-10-16	11・14・19	分譲住宅	工事立会	R1.10.21	GL-30cm まで掘削。一部 -30cm でソフトローム。ほぼ盛土内施工。
111	R1.9.17	93条	西恋ヶ窪 1-18-4	2	水道	工事立会	—	遺物・遺構なし。
112	R1.9.17	93条	西元町 3-15-2	19	水道	工事立会	—	No.99 参照。
113	R1.9.17	93条	東元町 3-33-23	19	電気	慎重工事	—	—
114	R1.9.17	93条	本町 4-2810-116(4-18)	57	個人住宅	工事立会	① R1.10.23 ② R1.11.1	①道路面から 0cm、盛土分 -30cm まで掘削。 ②道路面から -20cm 掘削。堀山内施工。
115	R1.9.19	93条	日吉町 1-31	47	ガス	慎重工事	—	—
116	R1.9.20	93条	西恋ヶ窪 1-14-16	2	土留め	工事立会	R1.11.21	GL-50cm まで掘削。褐色土(耕作土)。
117	R1.9.20	93条	西元町 2-11	11・14・19	水道	工事立会	R1.10.4	GL-130cm まで掘削。一部 -30cm でローム。ほぼ堀山内施工。
118	R1.9.24	93条	西恋ヶ窪 3-15-3	37	ガス	慎重工事	—	—
119	R1.9.24	93条	西元町 4-5-11	10・19	分譲住宅	確認調査	—	MK750 次調査。→第2章第2節(3)参照
120	R1.9.24	93条	西恋ヶ窪 1-25-4	2	ガス	工事立会	R1.10.15	GL-150cm まで掘削。堀山内施工。
121	R1.9.26	93条	西元町 2-10-17	11・14・19	個人住宅	工事立会	R1.11.25	GL-40cm まで掘削。西側と中央部に奈良・平安時代の住居跡と思われる遺構を2軒検出。→第2節(4)参照。
122	R1.9.26	93条	泉町 3-6-3	19	ガス	工事立会	R1.9.30	GL-140cm まで掘削。80cm まで路盤、一部 -120cm まで耕作土、以下ローム。
123	R1.9.26	94条	南町 2-1 の先	21	電話	慎重工事	—	—
124	R1.9.26	93条	東元町 4-18-12	19	分譲住宅	工事立会	① R1.11.19 ② R1.11.20 ③ R1.12.26	①② GL-60cm まで掘削。-30cm からローム、直下にハードロームか。 ③ GL-100cm まで掘削。-40cm まで盛土、以下ローム。

No.	日付	条	申請地	遺跡番号	工事内容	指示内容	立会実施日	立会記録・調査回数・備考
125	R1.10.1	93条	西恋ヶ窪 1-11-3	2	水道	慎重工事	—	—
126	R1.10.1	93条	日吉町 1-3-25	35	ガス	慎重工事	—	—
127	R1.10.1	93条	西元町 2-15-18	11・19	ガス	工事立会	—	—
128	R1.10.2	93条	東元町 4-1793-3	19	分譲住宅	工事立会	R2.3.9	遺物・遺構なし。
129	R1.10.2	94条	泉町 2-9	9・19	バス停上屋	慎重工事	—	—
130	R1.10.11	93条	西恋ヶ窪 1-14-16	2	個人住宅	工事立会	—	遺物・遺構なし。
131	R1.10.17	93条	泉町 1-7	19	電気	工事立会	R1.11.22	GL-270cmまで掘削。-130cmまで表土、攪乱、以下ローム。
132	R1.10.24	94条	西恋ヶ窪 3-12の先	37	電話	慎重工事	—	—
133	R1.10.24	94条	西恋ヶ窪 3-12の先	37	電話	工事立会	—	遺物・遺構なし。
134	R1.10.21	93条	東恋ヶ窪 1-280	2	発電設備	発掘調査	—	K2-107次調査。→第2章第2節(9)参照
135	R1.10.21	93条	西元町 2-16-31	19	ガス	慎重工事	—	—
136	R1.10.28	93条	日吉町 4-13-32	52	ガス	慎重工事	—	—
137	R1.10.28	93条	日吉町 1-44-51	49	ガス	慎重工事	—	—
138	R1.10.28	93条	泉町 1-18-21	3・19	分譲住宅	工事立会	R2.1.20	GL-50cmまで掘削。全て盛土・耕作土。
139	R1.10.28	93条	西元町 2-12-6	10・19	幼稚園庭・道路擁壁	工事立会	R1.11.28	GL-100cmまで掘削。盛土内施工。
140	R1.10.28	93条	本町 4-8-10	57	ガス	工事立会	—	遺物・遺構なし。
141	R1.10.30	93条	南町 3-2681-15	54	電気	慎重工事	—	—
142	R1.10.30	94条	南町 2-4先, 2-6先	21	道路	慎重工事	—	—
143	R1.10.31	93条	東元町 3-5-14	19	ガス	慎重工事	—	—
144	R1.11.1	94条	西元町 3-2101-1・6	10・19	伐採・伐根	工事立会	R2.2.3～17	最深部で-50cm、やや茶色味を帯び始める。表土内施工。
145	R1.11.5	緊急	南町 3-7-20	54	ガス	緊急工事	—	—
146	R1.11.5	93条	日吉町 1-31	47	道路・水道・宅地造成・下水道	慎重工事	—	—
147	R1.11.7	93条	南町 2-1-6	21	ガス	工事立会	—	遺物・遺構なし。堀山内施工。
148	R1.11.11	93条	西恋ヶ窪 1-19	2	水道	工事立会	R2.2.14	GL-60cmまで掘削。底部でローム。
149	R1.11.14	93条	東元町 4-18-1	19	電気	工事立会	R1.12.1	GL-280cmまで掘削。-40cmまで路盤、以下ローム、底部で礫層か。
150	R1.11.14	93条	西恋ヶ窪 1-19-17	2	ガス	慎重工事	—	—
151	R1.11.20	緊急	西元町 2-15-4	19	ガス	緊急工事	R1.11.20	GL-130cmまで掘削。堀山内施工。
152	R1.11.21	93条	東元町 4-2-25	19	電気	工事立会	R1.12.17	GL-100m以上掘削。100cmまで茶褐色土(盛土)。
153	R1.11.25	93条	西元町 3-15	10	ガス	工事立会	R1.11.28	GL-80cmまで掘削。一部-50cmからローム。ほぼ堀山内施工。
154	R1.11.25	93条	泉町 1-7-9付近	19	個人住宅	発掘調査	—	MK752次調査。→第2章第2節(5)参照
155	R1.11.26	93条	西元町 2-10-16	11	ガス	工事立会	R1.12.24	GL-100cmまで掘削。-30cmまで路盤、以下ローム。
156	R1.11.27	93条	内藤 2-26-18	40	電気	工事立会	R2.3.16	GL-100cmまで掘削。盛土内施工。南側で解体工事。-50cmまで盛土。
157	R1.11.28	緊急	日吉町 1-31-4	47	ガス	緊急工事	—	—
158	R1.11.28	93条	南町 3-8-10	54	集合住宅	工事立会	R2.2.10	GL-40cmまで掘削。一部北西部でⅢc層。ほぼ盛土内施工。
159	R1.12.3	93条	西恋ヶ窪 1-18-4	2	ガス	工事立会	R1.12.24	GL-100cmまで掘削。一部-80cmでローム。ほぼ堀山内施工。
160	R1.12.6	93条	本町 4-18-10	57	個人住宅	工事立会	—	遺物・遺構なし。
161	R1.12.10	93条	泉町 1-2386-126	19	個人住宅	発掘調査	—	MK753次調査。→第2章第2節(6)参照
162	R1.12.10	93条	東元町 2-7-15	19	電気	工事立会	R2.3.17	遺物・遺構なし。
163	R1.12.10	93条	西元町 2-9-29	11・19	電気	工事立会	—	工事中止。
164	R1.12.16	93条	内藤 2-1-27	7	個人住宅	工事立会	R2.3.10	GL-30cmまで掘削。残土にロームが多く、表土からロームと思われる。
165	R1.12.17	93条	西元町 2-11-26	11・19	ガス	工事立会	R2.1.30	GL-130cmまで掘削。一部-30cmまで路盤、以下ローム。ほぼ堀山内施工。
166	R1.12.20	93条	西恋ヶ窪 1-17-13	2	電気	工事立会	R1.12.25	GL-120cmまで掘削。一部-100cmでローム。盛土内施工。
167	R1.12.23	93条	東元町 3-21	19	ガス	慎重工事	—	—
168	R1.12.20	93条	西元町 3-15-15①	10・19	分譲住宅	工事立会	—	No.200参照。
169	R1.12.20	93条	西元町 3-15-15②	10・19	分譲住宅	工事立会	—	No.200参照。
170	R1.12.20	93条	西元町 3-15-15③	10・19	分譲住宅	工事立会	—	No.200参照。
171	R1.12.23	93条	日吉町 1-31-17	47	分譲住宅	工事立会	R2.4.8	基礎根切。GL-30cmまで掘削。暗茶褐色土、日吉町開放樹林地に向かって傾斜しており、南西方向に黒色土の割合が増える。
172	R1.12.24	93条	西恋ヶ窪 1-14-16・18	2	電気	工事立会	① R2.1.30 ② R2.3.3	① GL-270cmまで掘削。-80cmまで黒褐色土、以下ローム。 ② GL-100cmまで掘削。堀山内施工。
173	R1.12.26	93条	東元町 4-1-14	19	分譲住宅	工事立会	R2.2.14	GL-30cmまで掘削。盛土内施工。
174	R1.12.27	93条	南町 3-2798-1・3、 3-2799-1	8	集合住宅	工事立会	R2.6.3	下水道設置。GL-120cmまで掘削。堀山内施工。
175	R2.1.7	93条	泉町 1-7	19	水道	工事立会	R2.2.5	GL-100cmまで掘削。-30cmまで路盤、以下ローム。
176	R2.1.8	93条	西元町 2-2545-35	11・19	電気	工事立会	R2.3.25	GL-60cmまで掘削。盛土内施工。下部でローム。
177	R2.1.8	93条	東元町 3-10-11	19	電気	工事立会	R2.4.6	残土で確認。約80%ローム。

No.	日付	条	申請地	遺跡番号	工事内容	指示内容	立会実施日	立会記録・調査回数・備考
178	R2.1.9	93条	西元町 3-17-9	10・19	ガス	工事立会	R2.1.23	GL-70cmまで掘削。一部-30cmからローム。ほぼ堀山内施工。
179	R2.1.14	94条	東元町 4-2	19	電話	工事立会	R2.1.23	GL-140cmまで掘削。-70cmまで表土(黒褐色土)、以下ローム。
180	R2.1.15	93条	日吉町 1-31-28	47	個人住宅	慎重工事	—	—
181	R2.1.16	93条	西元町 2-2544-4	11・19	電気	工事立会	R2.3.2	堀山内施工。
182	R2.1.16	93条	西恋ヶ窪 1-11-19	2	電気	慎重工事	—	—
183	R2.1.17	93条	内藤 1-8-15の一部 (A号棟)	7	分譲住宅	工事立会	R2.1.20	GL-30cmまで掘削。盛土内施工。
184	R2.1.17	93条	内藤 1-8-15の一部 (B号棟)	7	分譲住宅	工事立会	R2.3.12	GL-40cmまで掘削。盛土内施工。
185	R2.1.17	93条	西元町 3-17	10・19	水道	工事立会	—	遺物・遺構なし。
186	R2.1.17	93条	西元町 2-11-3	10・19	分譲住宅	工事立会	① R2.2.10 ② R2.3.6 ③ R2.3.24	①(写真提供)施工状況。駐車場切土。敷地内の高いところから-170cmまで掘削。一部で地山と思われる山を確認。ただし崖地のために不明。-160cmまで暗褐色土、以下Ⅲ層に似た崩れⅢ層。 ②水道工事-120cmまで掘削道路下はすべて堀山。宅地側で-40cmまで路盤、-80cmまで表土・盛土、以下崩れⅢ層。 ③-150cmまで掘削。全て褐色土。
187	R2.1.20	緊急	東元町 3-6-12	19	水道	緊急工事	—	—
188	R2.1.20	93条	南町 1-11-24	53	宅地造成	確認調査	—	K53-7次調査。→第2章第2節(14)参照
189	R2.1.20	93条	西恋ヶ窪 1-13-16	2	ガス	工事立会	R2.2.14	GL-50cmまで掘削。堀山内施工。
190	R2.1.21	93条	泉町 1-7	19	水道	工事立会	R2.2.18	GL-120cmまで掘削。-40cmまで路盤、以下ローム。
191	R2.1.21	93条	東元町 4-3-9	19	ガス	慎重工事	—	—
192	R2.1.21	93条	東元町 4-2-25	19	ガス	工事立会	—	—
193	R2.1.22	93条	西元町 4-5	10・9	水道	工事立会	—	遺物・遺構なし。
194	R2.1.23	緊急	南町 1-12-13	20・29	ガス	緊急工事	—	遺物・遺構なし。
195	R2.1.23	緊急	西恋ヶ窪 3-12-7	37	ガス	緊急工事	—	遺物・遺構なし。
196	R2.1.23	93条	本町 4-18-9	57	電気	工事立会	R2.3.13	GL-280cmまで掘削。-40cmまで路盤、-60cmまで攪乱、以下ローム。
197	R2.1.24	93条	西元町 2-6-19	10・19	ガス	工事立会	R2.2.6	遺物・遺構なし。
198	R2.1.27	93条	泉町 1-2458-18, 2458-32の一部	19	個人住宅	工事立会	R2.2.17	GL-20cmまで掘削。南側ではⅢb層上部か。表土内施工。
199	R2.1.30	93条	西元町 3-15	10・19	水道	工事立会	R2.3.2	GL-60cmまで掘削。道路中央は堀山内施工。道路北側で-30cmまで路盤、-40cmまでⅢ層、以下ローム。
200	R2.1.30	93条	西元町 3-15	10・19	水道	工事立会	R2.3.4	GL-70cmまで掘削。-20cmまで路盤、-40cmまでⅢ層と耕作土、以下ローム。
201	R2.2.3	94条	西元町 3-26	10・19	原状回復	工事立会	R2.5～6	木の生えていた場所は70～100cmまで全てかき回されている。
202	R2.2.6	93条	東元町 4-2-25(A)	19	分譲住宅	工事立会	R2.3.18	基礎根切。GL-30cmまで掘削。盛土内施工。
203	R2.2.6	93条	東元町 4-2-25(B)	19	分譲住宅	工事立会	R2.3.18	No.202参照。
204	R2.2.6	93条	東元町 4-2-25(C)	19	分譲住宅	工事立会	R2.3.27	No.202参照。
205	R2.2.10	93条	本町 4-18	57	個人住宅	工事立会	R2.3.3	GL-40cmまで掘削。堀山内施工。
206	R2.2.12	93条	南町 2-16	54	看板	工事立会	R2.3.6	GL-90cmまで掘削。-35cmまでⅠ層、-40cmまでⅢb層、-55cmまでⅢc層、80cmまでⅣ層、以下Ⅴ層。
207	R2.2.12	93条	西恋ヶ窪 1-13-14	2	個人住宅	工事立会	R2.3.23	GL-20cmまで掘削。全て盛土。
208	R2.2.13	93条	西恋ヶ窪 3-12	37	ガス	工事立会	—	遺物・遺構なし。
209	R2.2.14	93条	南町 1-12-13	20	ガス	工事立会	—	未施工。
210	R2.2.18	93条	西元町 3-15-4	10・19	ガス	慎重工事	—	—
211	R2.2.19	93条	西元町 4-5	10・19	ガス	工事立会	R2.2.27	GL-50cmまで掘削。堀山内施工。
212	R2.2.25	93条	西恋ヶ窪 1-19-13	2	ガス	工事立会	—	遺物・遺構なし。
213	R2.3.4	93条	泉町 1-7-12	19	ガス	工事立会	R2.3.27	GL-70cmまで掘削。-30cmまで路盤、以下ローム。
214	R2.3.5	93条	東元町 4-1	19	ガス	工事立会	R2.3.19	GL-60cmまで掘削。盛土内施工。
215	R2.3.5	93条	泉町 1-8	19	ガス	慎重工事	R2.3.23	GL-60cmまで掘削。堀山内施工。
216	R2.3.6	93条	南町 1-7-34	53	池周辺整備	工事立会	R2.5.12	階段設置部分表土を均す工事、傾斜地で10cm程度の掘削、地山には達せず。
217	R2.3.9	緊急	泉町 1-11-4	19	ガス	緊急工事	—	堀山内施工。
218	R2.3.10	93条	西元町 3-15	10・19	ガス	工事立会	R2.5.12	GL-60cmまで掘削。堀山内施工。
219	R2.3.12	93条	南町 3-8-10	54	水道	工事立会	—	堀山内施工。
220	R2.3.16	93条	西恋ヶ窪 1-20-12	2	個人住宅	確認調査 ↓ 工事立会	① R2.6.22 ② R2.7.18	<工事計画変更(掘削深度が浅くする)が行われたため、立会調査に指示内容を変更した。> ①基礎根切。GL-100cmまで掘削。深堀トレンチ西側で-50cmでローム確認。 ②排水設備。-50cmまで掘削。すべて黒色土。
221	R2.3.17	93条	西元町 4-2-14	19	個人住宅	工事立会	R2.6.15	GL-30cmまで掘削。全て盛土。
222	R2.3.25	93条	東元町 4-18-12	19	ガス	工事立会	—	遺物・遺構なし。
223	R2.3.26	93条	西恋ヶ窪 3-2	37	ガス	慎重工事	—	—

No.	日付	条	申請地	遺跡番号	工事内容	指示内容	立会実施日	立会記録・調査回数・備考
224	R2.3.26	93条	東元町4-1	19	ガス	慎重工事	—	—
225	R2.3.26	93条	南町3-8-10	54	ガス	慎重工事	—	—
226	R2.3.27	93条	東元町4-1803	10・19	防災行政無線	工事立会	—	堀山内施工。
227	R2.3.31	93条	西恋ヶ窪1-23-2	2	電気	工事立会	R2.5.1	GL-30cmまで路盤、-60cmまで黒色土、-80cmまで褐色土、以下ローム。堀山内施工。

(註1) 水色の網掛け部分は確認・発掘調査と指示した届出。

(註2) 表中「条」欄で「緊急」としたもの(No.12、28、39、40、145、151、157、187、194、195、217)は、緊急工事として対応。

(註3) 表中「指示内容」欄で「包蔵地外立会」としたもの(No.84)は、国分寺市文化財の保存と活用に関する条例に基づき、周知の埋蔵文化財包蔵地外で実施した立会。



写真5 No.35 立会状況



写真6 No.97 立会状況



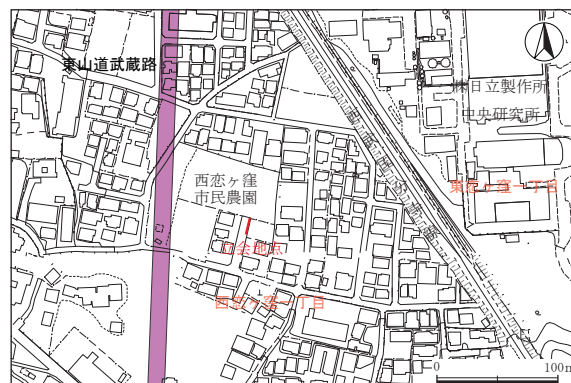
写真7 No.101 立会状況



写真8 No.131 立会状況

(2) 恋ヶ窪遺跡立会調査 (立会No. 68)

工事地点は西恋ヶ窪市民農園の南東で、西恋ヶ窪1丁目18番—4先にあたる(第3図)。周辺は縄文時代中期の竪穴住居が密集することが既往の発掘調査で判明しており(第12図)、小規模ながら電柱移設工事の掘削作業に立会うことにした。10月3日に立会した結果、地表下70cmまで黒色土の堆積を確認し、同層中から縄文土器2点を回収した(第4図)。1・2とも沈線主体の文様区画をもち、区画内は磨消を施している深鉢の胴部片で、加曽利E4式〜称名寺式と思われる。



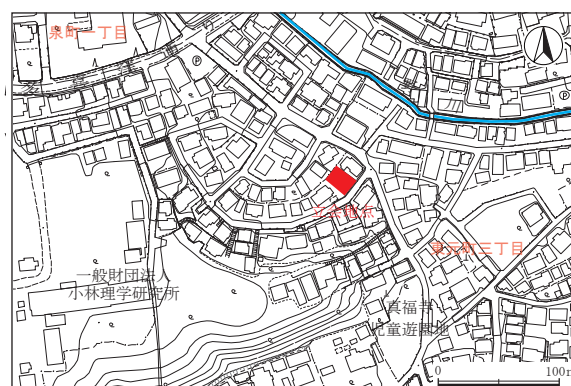
第3図 立会地点位置図 (立会No. 68)



第4図 立会調査No. 68 出土土器

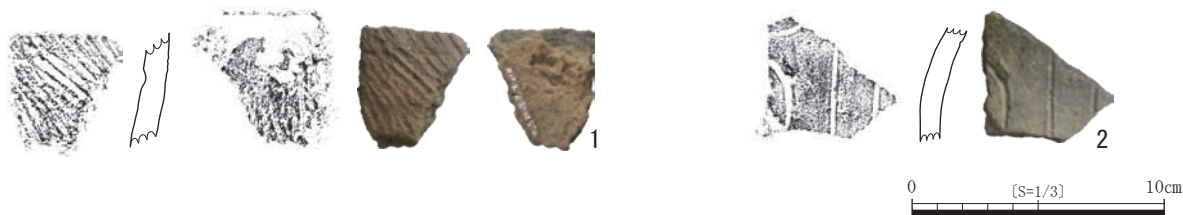
(3) 武蔵国分寺跡立会調査 (立会 No. 102)

調査地点は国分寺崖線沿いで、北東側の野川方面へ向けて低く傾斜する斜面地にあたり、東元町3丁目23番2に所在する(第5図)。敷地付近は広義の武蔵国分寺跡(No. 19遺跡)に含まれるが、崖線上に広がる縄文時代集落の多喜窪遺跡D地点としても二重周知されている一面に当たる(第14図)。また、敷地南東の低位段丘面(立川面)上は、野川沿いに形成された微高地で、縄文時代後期を主体とする八幡前遺跡(No. 18遺跡)が広がる。



第5図 立会地点位置図 (立会No. 102)

個人住宅の建設で、建物の根切深度は地表下約20cm程度と浅い計画であったため、12月4日に掘削工事に立会うこととした。その結果、敷地東側はハードルーム、西側は盛土(茶褐色土)の堆積を確認し、表土層中から縄文土器2点を回収した(第6図)。1は表裏条痕を施す早期条痕文系の深鉢胴部片、2は縦位の沈線で文様区画する加曽利E4式〜称名寺式の深鉢胴部片である。



第6図 立会調査No. 102 出土土器

(4) 武蔵国分寺跡立会調査 (立会 No. 121)

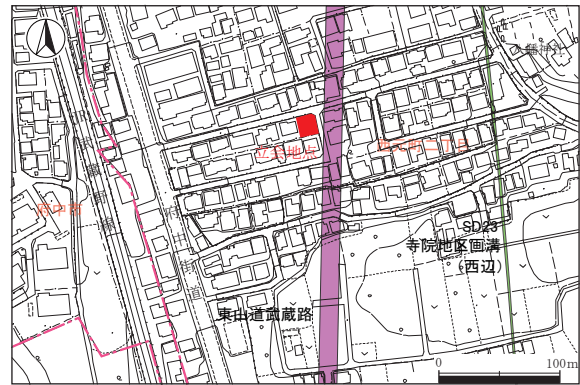
調査地点は西元町2丁目10番17に所在し、武蔵国分寺跡 (No. 19 遺跡)・多喜窪遺跡 (No. 11 遺跡)・多喜窪横穴墓群 (No. 14 遺跡)として三重に周知される範囲に該当する (第7図)。道路を挟んだ敷地の北側では、平成16年度に実施した武蔵国分寺跡第582次調査で、平安時代のピット9基、縄文時代の土坑2基・ピット7基等が発見されている (上敷領 2007)。

第582次調査における古代の遺構確認面と、今回の届出地の現況標高はほぼ同じレベルであったものの、届出地内にあった建物の基礎敷設によって、本来の地形がすでに大きく変更されているものと予測し、立会調査として対応することとした。

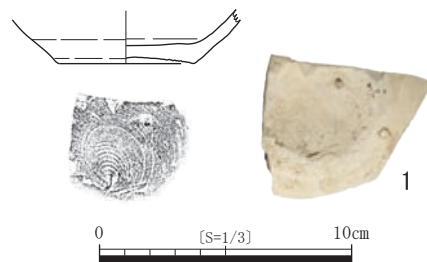
届出内容は個人住宅建設を目的とし、新設建物の基礎は現況地表面から約25cm掘削する計画で、11月25日に根切工事に立ち会ったところ、

表土直下で褐色土地山 (Ⅲb・Ⅲc層) が検出され、同層上面で黒褐色土を覆土に有する古代の堅穴住居プランを確認した。表土自体が10～20cm程度と薄く、削平や随所に攪乱がおよんでいるなど遺構の遺存状況は必ずしも良好では無かったが、黒褐色土の広がりから少なくとも住居跡2軒 (SI-A・Bと仮称) が存在するものと思われる (第9図、写真9・10)。SI-Aは、一辺約3.5mの東壁中央部にカマドが敷設されている。付近には焼土や炭化物を多く含む灰黄褐色の粘土ブロックが集中して分布し、カマドの構築材料と思われる。SI-Bは、住居南西隅部のプランを把握した。規模等の詳細は不明であるが、ローム粒を多く含む黒褐色土基調の覆土で、地山との識別は明瞭であった。

このうちSI-Aからは、第8図の須恵器が1点出土した。1は坯の底部片である。灰白色の硬質な胎土で、底部外面には回転糸切痕を有する。底径は (内底径ともに) 5.2cmに復元され、胎土の雰囲気から南多摩窯跡群産の製品で、9世紀末頃 (御殿山25号窯式期) のものと思われる。



第7図 立会地点位置図 (立会No. 121)



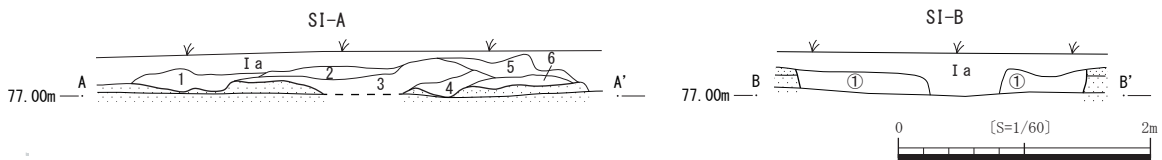
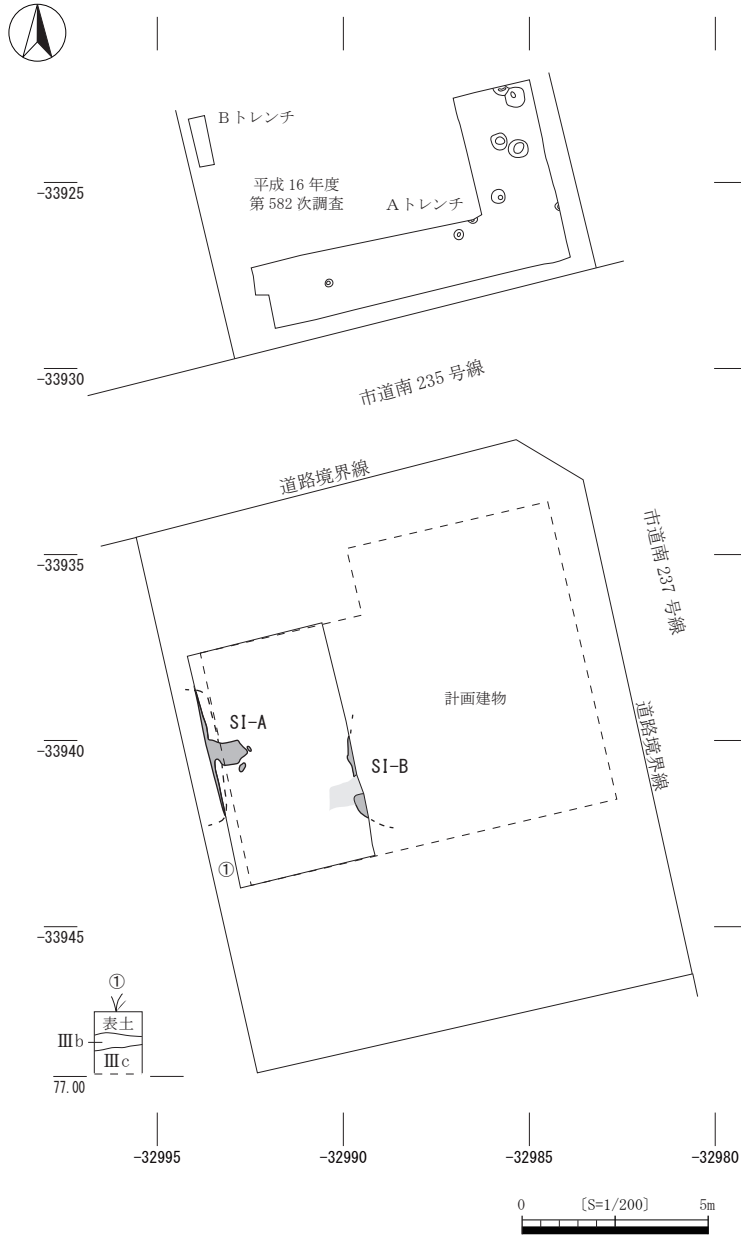
第8図 立会調査No. 121 出土土器



写真9 SI-A 検出状況 (東から)



写真10 SI-B 検出状況 (西から)



SI-A			
1	10YR3/3	(暗褐色土)	3~5mmの焼土粒を少量、炭化物・ローム粒やや多く、白色粘土粒微量含む。粘性あり、しまりあり。
2	10YR3/1	(黒褐色土)	炭化物多く、焼土粒・ローム粒・白色粘土少量含む。粘性あり、しまりあり。
3	10YR4/2	(灰黄褐色土)	1~3mmの焼土粒多く、1~10mmの炭化物やや多く、ローム粒・3~20mmの白色粘土粒少量含む。粘性あり、しまりあり。
4	5YR3/6	(暗赤褐色土)	2~15mmの焼土粒多量、1~30mmの炭化物多く含む。粘性あり、しまりあり。
5	10YR3/1	(黒褐色土)	焼土粒多く、炭化物、ローム粒やや多く含む。粘性あり、しまりあり。
6	10YR2/1	(黒色土)	白色粘土、3~5mmのロームブロック多く含み、黒色土混じる。粘性あり、しまりあり。
SI-B			
①	10YR3/1	(黒褐色土)	ローム粒やや多く、白色粘土粒・焼土粒・炭化物少量含む。粘性あり、しまりあり。

第9図 立会調査No.121 竪穴住居検出状況

第2章 令和元年度に実施した発掘調査

第1節 遺跡の概要

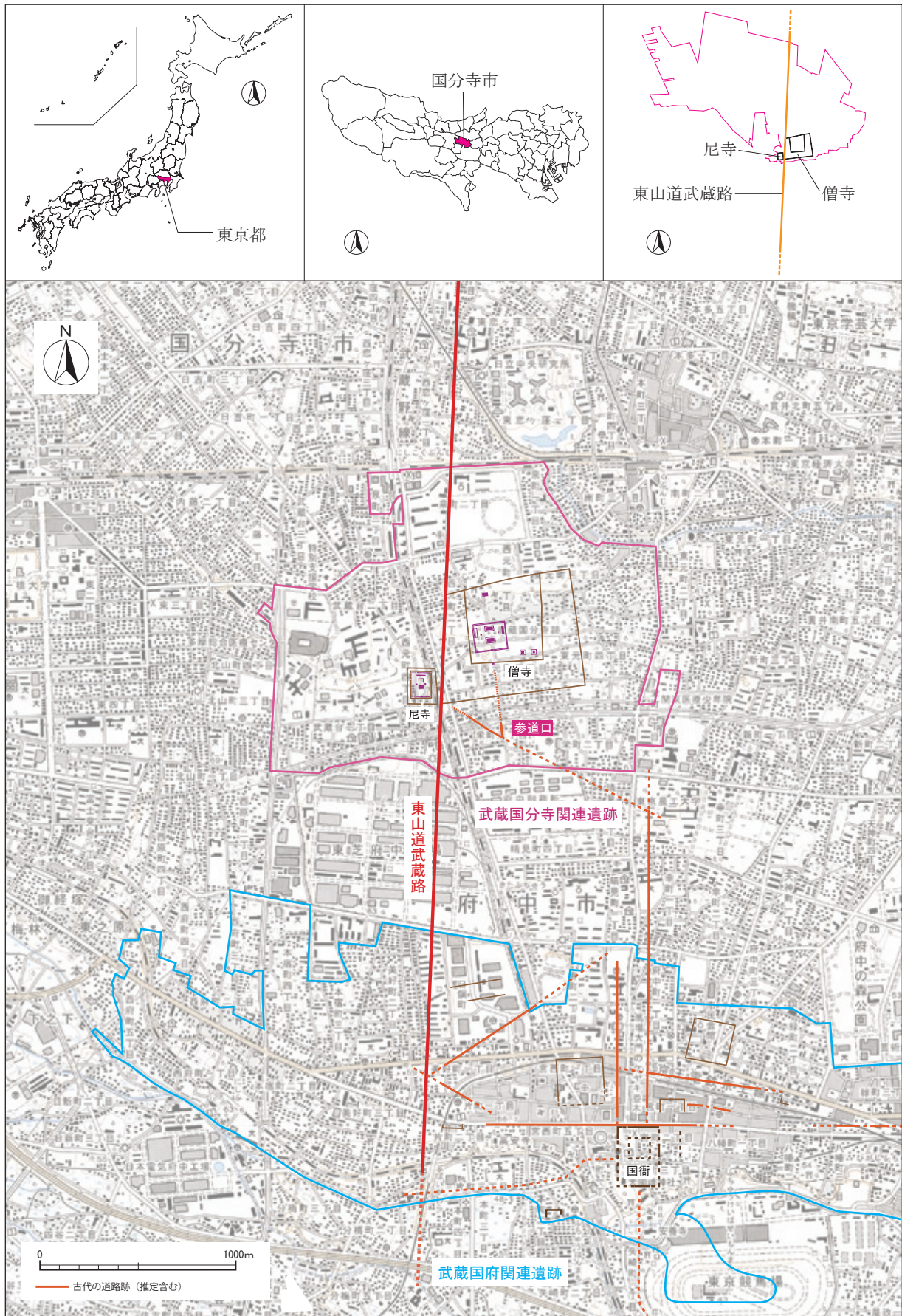
令和元年度に市内で実施した各種開発事業等に伴う発掘調査（本調査）・確認調査・試掘調査は、10遺跡18地区の調査を実施した。武蔵国分寺跡（No.10・19）で7地区、恋ヶ窪遺跡（No.2）で3地区、殿ヶ谷戸遺跡（No.21）・本町（国分寺村石器時代）遺跡（No.28）・No.29遺跡・No.47遺跡・東京経済大学構内遺跡（No.53）・花沢東遺跡（No.54）・恋ヶ窪東遺跡（No.57）・東山道武蔵路（No.58）で各1地区である。調査を実施した各遺跡の概要は次の通りである。

武蔵国分寺跡（No.10・19 遺跡）

武蔵国分寺は、天平13年（741）に聖武天皇により発布された国分寺建立の詔をうけて、全国60余国に設置された国分寺の一つである。20郡を有する大国であった武蔵国の国府と国分寺は多磨郡内に設置され（後に21郡）、現在の府中市内に比定される国府（国衙）と直線距離にして北方に約2.5kmの距離を隔て、武蔵国分寺は都と地方官衙を結ぶ官道の東山道武蔵路を挟んで東に僧寺、西に尼寺が配置された。僧寺は「寺院地」・「伽藍地」・「中枢部」の三重に、尼寺は「伽藍地」・「中枢部」の二重に区画



第10図 武蔵国分寺跡伽藍配置模式図



第 11 図 武蔵国分寺跡の位置

され、その周囲の寺院に関連する遺跡を含めて「寺地」と称している（第10図）。前者がNo.10遺跡、後者がNo.19遺跡に該当するが、寺地の南側および西側は行政境を跨いで府中市側にも延びており、府中市内では武蔵国分寺関連遺跡（武蔵台遺跡・武蔵台東遺跡）として周知されている。

武蔵国分寺跡は、市内最大の広さを有する埋蔵文化財包蔵地で、旧石器・縄文時代、および奈良時代～近世の寺院跡・集落跡・道路跡の遺跡である。東西方向に国分寺崖線が通り、多くの湧水源に恵まれている。南北方向には東山道武蔵路、鎌倉街道と推定される道路跡が通っている。また、江戸時代の国分寺村の中心地域にも該当している。この包蔵地は、多喜窪遺跡（No.11）・伝祥応寺跡（No.12）・塚跡（No.13）・多喜窪横穴墓群（No.14）・八幡前遺跡（No.18）の全域と、恋ヶ窪南遺跡（No.3）・日影山遺跡（No.9）の一部と重複している（第17図）。

当該範囲では、昭和31・33年（1956・1958）に、日本考古学協会仏教遺跡調査特別委員会が僧寺金堂・講堂跡等を対象に実施した学術調査を嚆矢として、昭和39～41・44年（1964～1966・1969）に滝口宏が代表を務める調査組織により尼寺・七重塔・鐘楼および僧寺金堂・講堂跡の再調査を断続的に行い、これらの調査によって僧尼寺全体の伽藍配置が想定されるに至った。その後、市では昭和49年（1974）に常設的な調査組織である武蔵国分寺跡遺跡調査会（現：国分寺市遺跡調査会）を編成し、同年から着手した市立第四中学校建設工事に伴う発掘調査（武蔵国分寺跡第1次調査）を皮切りとして、以降、平成30年度末までに開発に先立つ事前調査や寺地範囲の確認を目的とした学術調査をあわせて約750地点で発掘調査を実施している。

No.10・19遺跡に含まれる範囲のうち武蔵国分僧寺・尼寺および東山道武蔵路の一部は、大正11年10月12日に史蹟名勝天然記念物保存法に基づく国史跡に指定され、平成22年に、それまで東京都指定史跡であった東山道武蔵路も附として加わることにより、名称も「武蔵国分寺跡附東山道武蔵路跡」となった。また、奈良・平安時代の住居跡が「土師堅穴住居」として国分寺市重要史跡となっている。出土した遺物のうち、「武蔵多喜窪遺跡第一号住居跡出土品一括」は国指定重要文化財、「銅造観世音菩薩立像」は東京都指定文化財（彫刻・考古資料）、「武蔵国分寺跡出土の緑釉花文皿」・「唐草四獣文銅蓋」は東京都指定文化財（考古資料）、「国分寺所蔵資料（旧国分寺市文化財保存館資料）」・「武蔵国分寺跡出土の小型海獣葡萄鏡」・「武蔵国分寺跡出土の金銅製円形飾金具」は国分寺市重要有形文化財（考古資料）に指定されている。

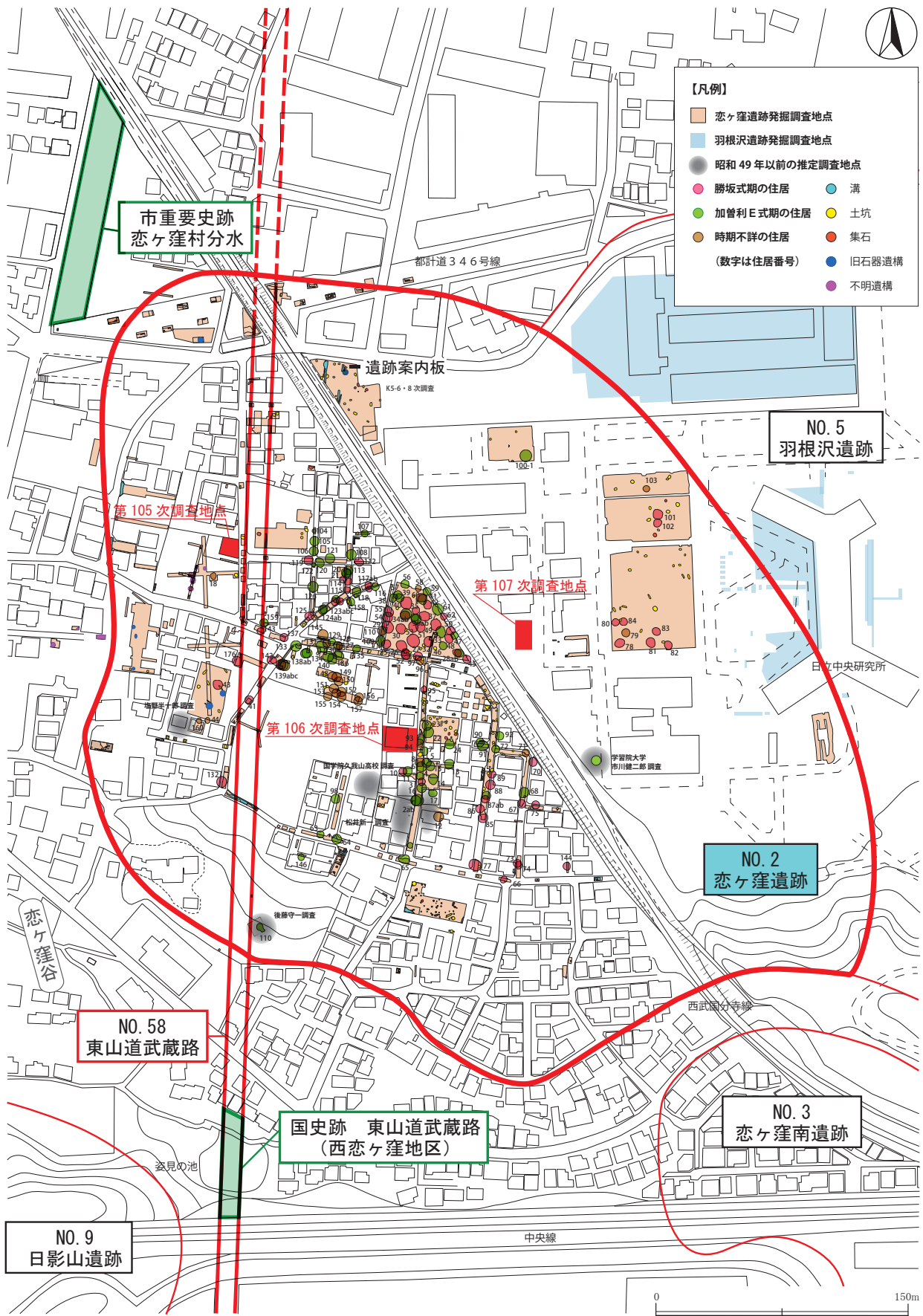
恋ヶ窪遺跡（No.2遺跡）

旧石器・縄文時代、および中世の集落跡の遺跡である。野川の源泉を見下ろす武蔵野台地上に立地しており、特に縄文時代中期に集落を形成していた。野川の源泉を見下ろす武蔵野台地上に立地し、標高は約76mを有する。野川流域の代表的な大規模集落として知られており、住居跡が約120軒確認されている。

恋ヶ窪遺跡のほぼ中央には、東山道武蔵路（No.58）が南北に縦走している。包蔵地外西側の台地



写真11 恋ヶ窪遺跡案内板（東恋ヶ窪でんしゃ公園内）



第12図 恋ヶ窪遺跡における既往の発掘調査状況

の下には鎌倉街道と推定される道路が通っており、その周辺には中世～近世の宿場・村落が存在していたと考えられている。おなじく北側には玉川上水の分水の一つである恋ヶ窪村分水が保存されており、国分寺市重要史跡となっている。

昭和12年(1937)に、東京帝室博物館(現東京国立博物館)の後藤守一が中央線に面する南向き斜面地で行った発掘調査で敷石住居を発見し(後藤1937)、戦後の昭和22年(1947)には塩野半十郎が蓮弧文を主体とする加曾利E式期の住居跡を調査し、当該住居から出土した30個体におよぶ土器群は、現在、東京国立博物館に塩野コレクションとして一括寄贈されている(松浦1984)。また、昭和39年(1964)に、国分寺町営水道管理設工事と並行して国立高校教諭の松井新一等が発掘調査を行い、勝坂式・加曾利E式を主体に阿玉台式・堀之内式、石鎌・削器・石匙・打製石斧・磨製石斧・スタンプ形石器等が出土したことにより(松井・藤間1965)、縄文時代の遺跡として広く認知されてきた。

その後、昭和51年(1976)以降は、開発事業に先駆けて市の常設調査組織が発掘調査を継続的に実施し、平成30年度までに104地点で発掘調査が行われている(第12図)。その結果、縄文時代中期(勝坂・加曾利E式期)の竪穴住居の検出数は160軒にもものぼり、都内でも有数の縄文時代集落遺跡として知られるにいたった。とりわけ西武国分寺線の南東側一帯で、竪穴住居群が重複・密集して分布する状況があり、今年度はさらに3地点で調査を行うこととなった(第105～107次調査)。

縄文時代以外にも、旧石器時代～近世の遺構・遺物が検出され、出土した遺物のうち「硬玉製大珠」は国分寺市重要有形文化財(考古資料)に指定されている。

殿ヶ谷戸遺跡(No. 21 遺跡)

殿ヶ谷戸遺跡は、西側を殿ヶ谷戸谷、北東側を本多谷の開析谷に挟まれた武蔵野段丘面上に立地し、独立した丘状の地形をしており「丸山」と称されている。南縁は比高差約13～15mの急崖を経て、眼下を野川が東流している。

昭和22・30年(1967・1955)に佐藤敏也が4地点で縄文土器を採集し(福田他1986)、昭和26年(1951)に吉田格が行った発掘調査で旧石器時代の生活痕跡を発見し(吉田1952・54)、丸山一帯の段丘上に旧石器・縄文時代の遺跡が広がることが認識された。その後、昭和58年(1983)の公共下水道工事をきっかけとして市の組織による発掘調査を16地点で行った結果、旧石器～縄文時代の遺構・遺物が発見され、縄文時代の竪穴住居は3軒確認している。今年度は1地点で調査を行った(第17次調査)。

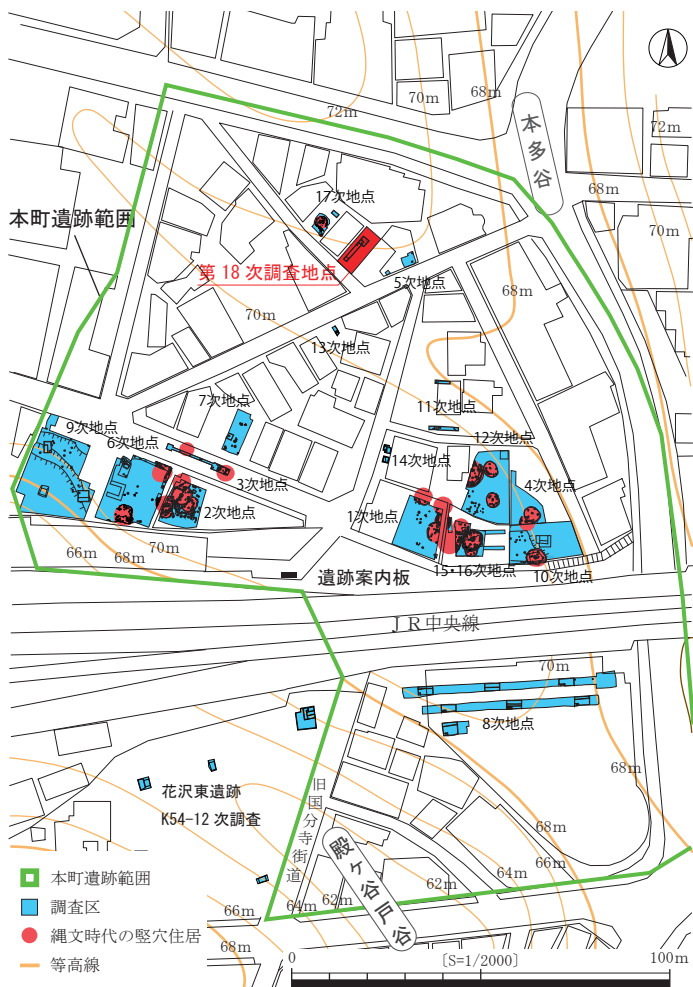
本町(国分寺村石器時代)遺跡(No. 28 遺跡)

旧石器～縄文時代、および奈良・平安時代の集落跡の遺跡である。国分寺駅北東側一帯を中心に一部はJR中央線を跨いだ南側にも広がる。南西側を殿ヶ谷戸谷、北東側を本多谷の開析谷に挟まれた武蔵野段丘面上に立地し、一連の台地の南東側延長に殿ヶ谷戸遺跡が占地している。

明治22年(1889)に新宿～立川駅間で甲武鉄道が開通し、その際、本町遺跡と殿ヶ谷戸遺跡と



写真12 本町遺跡案内板



第13図 本町遺跡における既往の発掘調査状況

めて把握・周知している。

昭和54年(1979)に、国分寺駅北口付近のビジネスホテル建設に伴う調査(第1次調査)を皮切りとして、平成30年度までに開発事業に先立つ発掘調査が17地点にのぼり(第13図)、縄文時代中期を主体とする集落跡が発見されている。これまでの調査で検出された縄文時代の竪穴住居は29軒を数え、それらは主として、井上らが土器・石器を採集したJR中央線線路敷に程近い、包蔵地範囲の中心域に分布しているが、範囲北端に位置する第17次調査地点(平成30年度実施)でも、中期後葉の柄鏡形敷石住居が1軒発見されるなど、集落が北側の台地上にも広がる様相が判明した(依田2020)。令和元年度は第17次調査地点の東側近接地で1件発掘調査を実施した。

No.29 遺跡

No.29 遺跡は、本町(国分寺村石器時代)遺跡との間に本多谷を挟んだ東側の武蔵野段丘面上に立地し、段丘の南縁を走る国分寺崖線下には複数の湧水地点が存在し、その南側には殿ヶ谷戸遺跡が存在している。また、東隣の同一段丘面上には殿ヶ谷戸北遺跡が連続して周知されている。

平成7年度に行った第1次調査以降、現在までに4地点で発掘調査が行われ、旧石器時代の礫群および縄文時代の集石を検出し、あわせて旧石器や縄文土器が出土している。

令和元年度は、第1次調査地点に近接した箇所調査を実施した(第5次調査)。

の間の台地が切通し状に開削されたが、4年後に多摩川沿岸の遺跡を探訪するなかで国分寺を訪れた井上喜久治らが「汽車国分寺に停車す。夫より其旧蹟たる同村に至らんと線路の踏切を超ゆ。此続きに一つの丘陵を切開きたる處あり茲にて縄文土器の破片を得しかば尚ほ仔細に其崖を見るに果して石世期の遺物たる土器並びに石器を得たり」と述べた(井上1893)。

また、翌年にも、大野延太郎と鳥居龍造らが「武蔵国北多摩郡国分寺石器時代遺跡」と題する論文を発表し、本遺跡が石器製作跡と推定したことで世に知られる遺跡となった(大野・鳥居1894)。この論文では、現在、考古学の学術用語として定着している「遺跡包含層」の概念が規定されたため、考古学史研究上でも極めて著名な遺跡であり、その歴史的背景を鑑みて、本町遺跡と併称するかたちで「国分寺村石器時代遺跡」の名称を留

No. 47 遺跡

No. 47 遺跡は、恋ヶ窪谷の谷頭付近から南へ約 150 m 離れた平坦地で、武蔵野段丘面上に立地している。埋蔵文化財包蔵地となった詳細な経緯は不明だが、かつて縄文時代中期、および奈良・平安時代の遺物が採集されている。包蔵地の範囲内では、これまでに発掘調査は行われてこなかったが、令和元年度は大型開発事業に先立って遺跡の内容を確認するための調査を実施した（第 1 次調査）。

詳細は第 2 章第 2 節（13）に触れるが、調査の結果、遺跡は確認されなかったため、埋蔵文化財包蔵地としての評価を、今後検討する必要がある。

東京経済大学構内遺跡（No. 53 遺跡）

旧石器・縄文時代の散布地の遺跡である。南に野川が流れており、西は殿ヶ谷戸北遺跡・No. 29 遺跡、東は小金井市との市境で、貫井遺跡・はけうえ遺跡に連続する武蔵野台地上に位置している。南縁に走る国分寺崖線上には複数の小さな開析谷が刻まれ、谷部からは現在も湧水が湧き出ている環境である。特に、現在の東京経済大学構内南東側には、「新次郎池」という湧水を集めた池が存在している。

昭和 20～30 年代に、佐藤敏也が付近で縄文時代早期の土器 11 点を採集したことによって、遺跡の存在が認識されるようになった（福田他 1986）。

遺跡の詳細は長らく不明であったが、市では平成 4 年度に東京経済大学の新本館工事に伴う調査（第 1 次調査）を契機として、これまで 6 次におよぶ発掘調査を行い、旧石器時代の礫群や、縄文時代の土坑・集石等が検出されている。令和元年度は、第 2 次調査地点に近接する箇所でも調査を実施した（第 7 次調査）。



花沢東遺跡 (No. 54 遺跡)

旧石器～縄文時代の集落跡の遺跡である。国分寺駅南口側にあり、東側は開析谷である殿ヶ谷戸谷により画され、武蔵野台地が舌状に張り出した南東側に立地する。本遺跡南方の立川段丘面上では、恋ヶ窪谷からの野川本流と西元町方面から流れる元町用水（清水川）が合流し、殿ヶ谷戸庭園をはじめ崖線下の複数箇所からは現在も湧水が湧き出ており、良好な遺跡立地条件を満たした地形を呈している。なお、本遺跡の北端で隣接する本町遺跡も、同一段丘面上に立地している。

包蔵地内には国指定名勝である都立殿ヶ谷戸庭園が存在し、前述の殿ヶ谷戸谷への傾斜を利用した庭園が造られている。また、園内には数箇所の湧水地点が確認されている。

昭和 56 年（1981）に、都営住宅建て替えに伴う発掘調査を恋ヶ窪遺跡調査会が行い、立川ローム第Ⅲ層から第Ⅹ層までの間に七枚の文化層が確認されたほか、縄文時代の竪穴住居 3 軒・土坑 9 基等が発見された（第 1 次調査）。

その後、開発に先立つ調査が 15 地点で行われ、旧石器～縄文時代の遺構・遺物が検出されている。令和元年度は、包蔵地範囲の東端付近で確認調査を行った（第 16 次調査）。

恋ヶ窪東遺跡 (No. 57 遺跡)

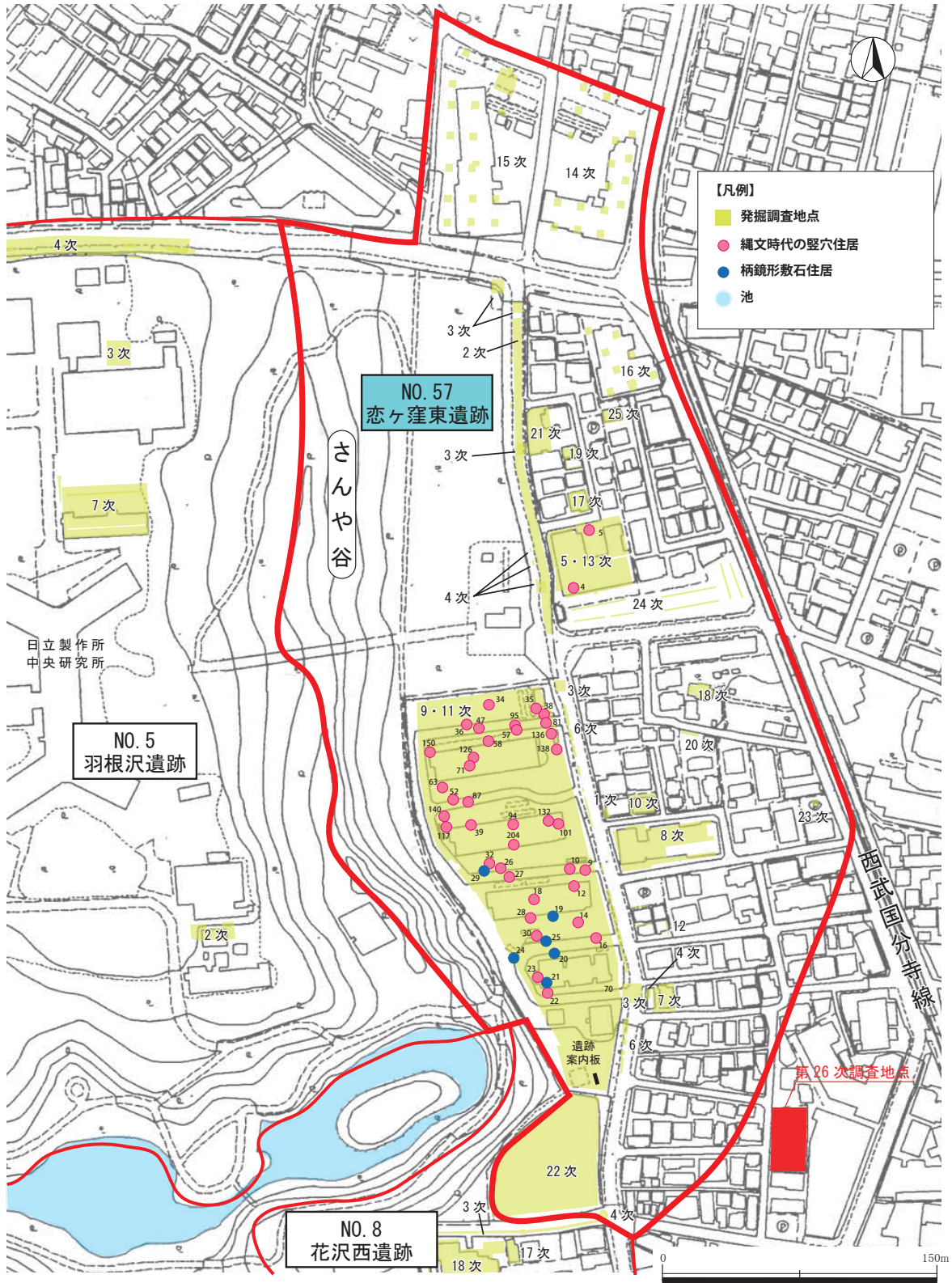
縄文時代の集落跡の遺跡である。遺跡は武蔵野段丘面に位置し、東側は西武多摩湖線、西側には「さんや谷」と呼ばれる比高差 12m の開析谷が南北に延び、遺跡の西を画している。地続きの台地上南方には、旧石器時代の花沢西遺跡（No. 8）が隣接している。

昭和 52 年（1977）に倉庫建設に先立って実施した発掘調査（第 1 次調査）で縄文時代の竪穴住居を検出して以降、これまでに 25 箇所調査を行い、198 軒にのぼる縄文時代の竪穴住居が発見されている。とりわけ、平成 2～8 年度に本町都営住宅改築工事に伴って実施した第 9・11 次調査では、縄文時代中期阿玉台式・勝坂式～加曾利 E 式期）の掘立柱建物 5 軒、柄鏡形敷石住居 5 軒を含む竪穴住居 189 軒、屋外埋甕 7 基、集石土坑 61 基、土坑 341 基が検出され、集落の中心域と目されている。加えて、縄文時代草創期（隆線文・爪形文）、早期の住居跡 5 軒・炉穴 2 基（撚糸文・押型文・条痕文系）、前期の土器（諸磯式・十三菩提式）、後期の土器（称名寺式・堀之内式）、晩期の土器（大洞式）なども出土しており、本調査を通じて、付近一帯は縄文時代中期を中心に草創期から晩期に至る、長らく生活の適地であった様相が捉えられてきた。さらに、南側隣接地のマンション建設に伴う第 22 次調査地点では、立川ロームⅢ～Ⅳ層上部で石器集中部 11 箇所、Ⅳ層下部で石器集中部 8 箇所と礫群 16 基が発見され、出土した豊富な尖頭器（未製品を含む）・ナイフ形石器の存在から尖頭器の製作跡であることが判明した。



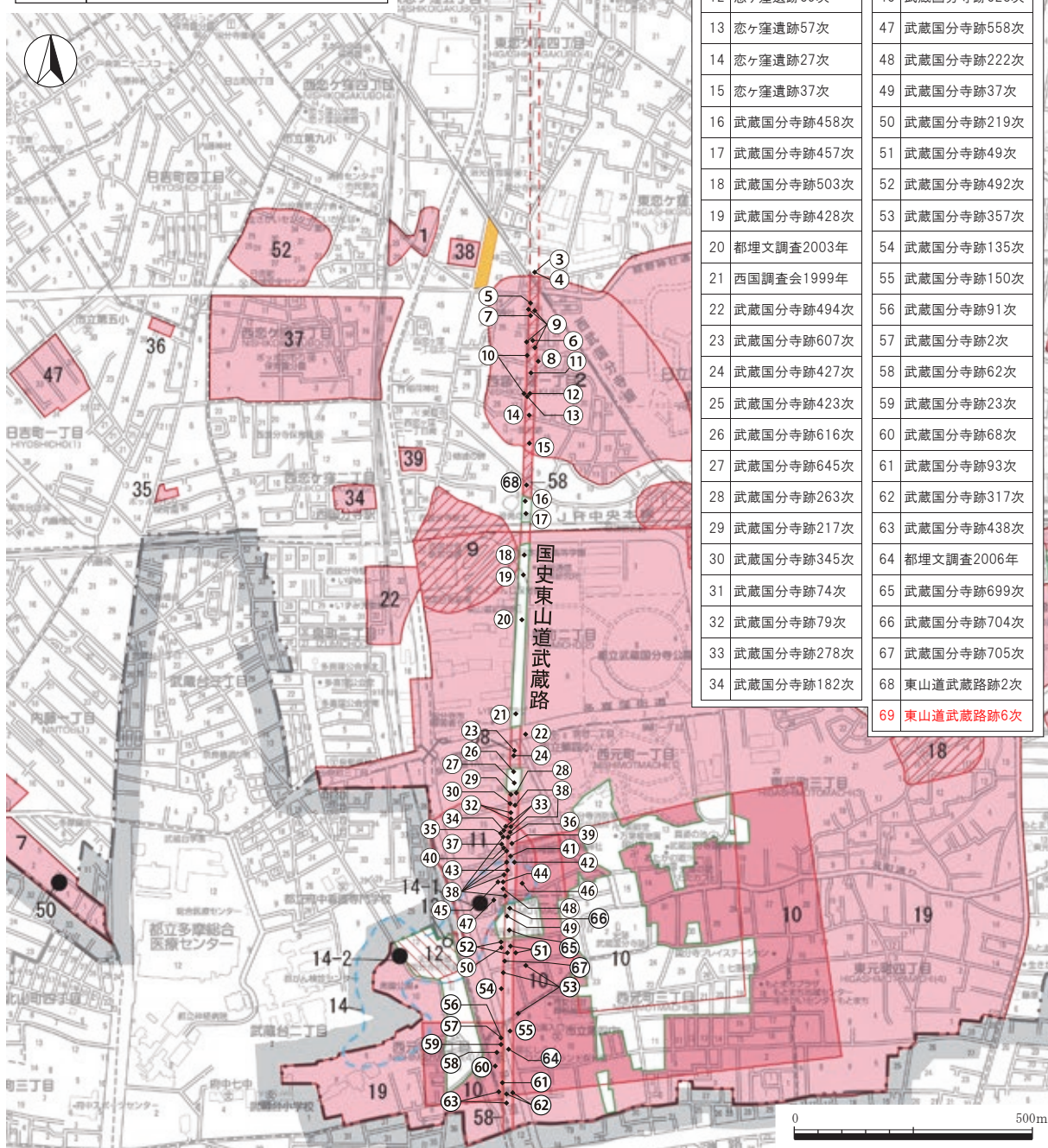
写真 13 恋ヶ窪東遺跡案内板（本町四丁目公園内）

これらの調査によって、恋ヶ窪東遺跡一帯は、旧石器時代～縄文時代を通じて重層的に土地利用されている状況が判明してきている。なお、第 11 次調査で検出した柄鏡形敷石住居（SI21J）は遺構を形取りし、本町四丁目公園内で復元展示を行い、遺跡の解説板も併設されている（写真 13）。令和元年度は、包蔵地の範囲外東方で、遺跡の広がりを確認するための調査を実施した（第 26 次調査）。



第15図 恋ヶ窪東遺跡における既往の発掘調査状況

凡 例	
	遺 跡 (埋 蔵 文 化 財 包 蔵 地)
	重 複 する 遺 跡 (埋 蔵 文 化 財 包 蔵 地)
	横 穴 墓 群
	横 穴 墓
	塚
	推 定 東 山 道 武 蔵 路
	国 指 定 史 跡 / 武 蔵 国 分 寺 跡 附 東 山 道 武 蔵 路 跡 国 指 定 名 勝 / 殿 ヶ 谷 戸 庭 園 (随 宜 園)
	市 重 要 天 然 記 念 物 / 西 町 五 丁 目 の 旧 屋 敷 林 市 重 要 史 跡 / 恋 ヶ 窪 村 分 水



No.	調査回数	No.	調査回数
1	東山道武蔵路跡4次	35	武蔵国分寺跡374次
2	東山道武蔵路跡5次	36	武蔵国分寺跡213次
3	恋ヶ窪遺跡82次	37	武蔵国分寺跡405次
4	恋ヶ窪遺跡83次 東山道武蔵路跡1次	38	武蔵国分寺跡359次
5	恋ヶ窪遺跡52次	39	武蔵国分寺跡48次
6	恋ヶ窪遺跡13次	40	武蔵国分寺跡144次
7	恋ヶ窪遺跡8次	41	武蔵国分寺跡210次
8	恋ヶ窪遺跡92次 東山道武蔵路跡3次	42	武蔵国分寺跡321次
9	恋ヶ窪遺跡36次	43	武蔵国分寺跡247次
10	恋ヶ窪遺跡40次	44	武蔵国分寺跡297次
11	恋ヶ窪遺跡30次	45	武蔵国分寺跡240次
12	恋ヶ窪遺跡59次	46	武蔵国分寺跡623次
13	恋ヶ窪遺跡57次	47	武蔵国分寺跡558次
14	恋ヶ窪遺跡27次	48	武蔵国分寺跡222次
15	恋ヶ窪遺跡37次	49	武蔵国分寺跡37次
16	武蔵国分寺跡458次	50	武蔵国分寺跡219次
17	武蔵国分寺跡457次	51	武蔵国分寺跡49次
18	武蔵国分寺跡503次	52	武蔵国分寺跡492次
19	武蔵国分寺跡428次	53	武蔵国分寺跡357次
20	都埋文調査2003年	54	武蔵国分寺跡135次
21	西国調査会1999年	55	武蔵国分寺跡150次
22	武蔵国分寺跡494次	56	武蔵国分寺跡91次
23	武蔵国分寺跡607次	57	武蔵国分寺跡2次
24	武蔵国分寺跡427次	58	武蔵国分寺跡62次
25	武蔵国分寺跡423次	59	武蔵国分寺跡23次
26	武蔵国分寺跡616次	60	武蔵国分寺跡68次
27	武蔵国分寺跡645次	61	武蔵国分寺跡93次
28	武蔵国分寺跡263次	62	武蔵国分寺跡317次
29	武蔵国分寺跡217次	63	武蔵国分寺跡438次
30	武蔵国分寺跡345次	64	都埋文調査2006年
31	武蔵国分寺跡74次	65	武蔵国分寺跡699次
32	武蔵国分寺跡79次	66	武蔵国分寺跡704次
33	武蔵国分寺跡278次	67	武蔵国分寺跡705次
34	武蔵国分寺跡182次	68	東山道武蔵路跡2次
69	東山道武蔵路跡6次		

第 16 図 東山道武蔵路における発掘調査状況

東山道武蔵路 (No. 58 遺跡)

昭和 50 年代から国分寺市や府中市において、南北に一直線上に結ばれる約 12m 幅の並行する溝の存在が注目され始め、国分寺市内では「SF 1 道路跡」と呼称して調査を継続してきた。その後、全国的に古代道路についての関心が高まるに連れて、「SF 1 道路跡」の延長線上にあたる各地でも、構造が類似した溝跡の検出が相次ぐなか、本道路跡が北関東地方と武蔵国府を結んだ武蔵国を南北に縦貫する東山道武蔵路であるという見解が定着していくこととなった。



写真 14 東山道武蔵路 (泉町地区)

国分寺市内では、昭和 60 年度までに実施した僧尼寺の範囲確認調査によって「SF 1 道路跡」を挟んで東側に僧寺、西側に尼寺が配置され、さらに「SF 1 道路跡」の東側溝が僧寺寺院地西辺区画溝を兼ねていることも明らかとされた。

東山道武蔵路は、周知の埋蔵文化財包蔵地のうち武蔵国分寺跡 (No. 19 遺跡) と恋ヶ窪遺跡 (No. 2 遺跡) を通過しており、当該範囲内の発掘調査によって道路側溝の発見が蓄積されてきたが、こうしたなかで、平成 19 年度に、東恋ヶ窪三丁目～西恋ヶ窪一丁目地内で計画されていた都市計画道路 3・4・6 号線建設用地の一部が SF 1 道路跡の延長線上にあっていたため、恋ヶ窪遺跡の範囲外ではあったが、遺跡の存否を確認するための試掘調査を実施したところ (恋ヶ窪遺跡第 82 次調査)、東山道武蔵路の東西両側溝と旧石器時代・縄文時代の遺跡も広がっていることが確認された。そこで、恋ヶ窪遺跡の範囲を都市計画道路用地内まで拡張し、あわせて東山道武蔵路を埋蔵文化財包蔵地として新規に登録することとなった (No. 58 遺跡)。

令和元年度現在、No. 2・19・58 遺跡等で東山道武蔵路の通過が想定される地点での調査は、第 16 図に掲げた 68 地点にもおよんでいる。その延長距離はたかだか約 2 km の範囲でしかないが、平坦地・斜面地・低湿地など、埋没微地形に応じて築道の様相は多様性を持っていることが判明している。

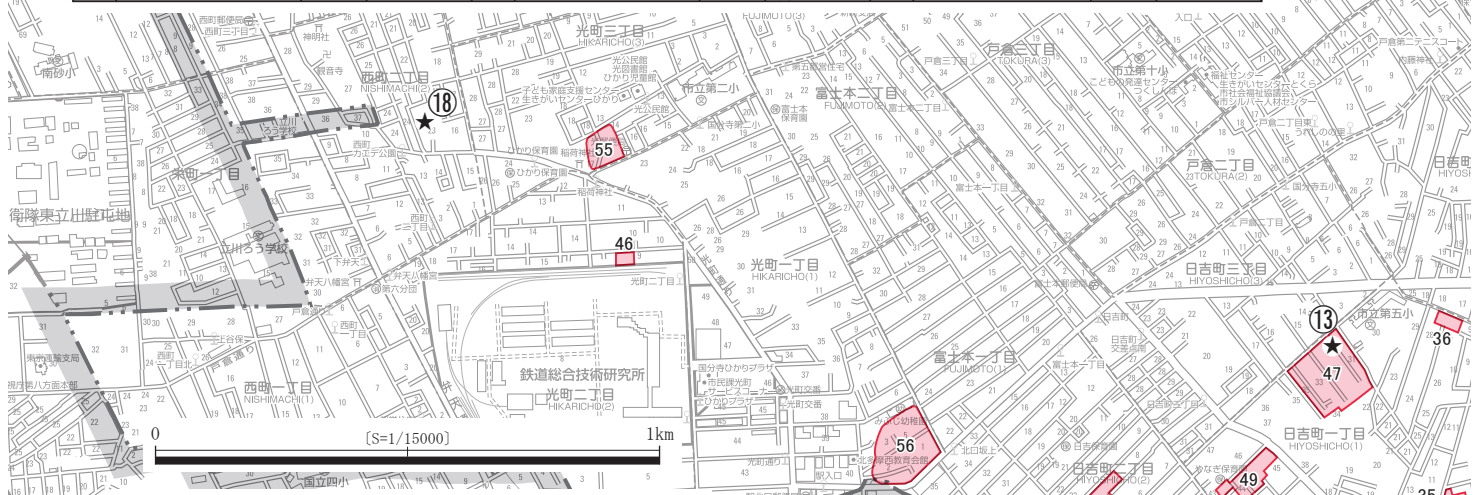
一方、都市計画道路 3・4・6 号線建設用地より北側の小平市域側については、現在のところ、調査事例が少なく、遺跡の様相も明らかとなっていないため、No. 58 の包蔵地として周知こそしていないが、国分寺市まちづくり条例に基づく開発事業の関係各課事前協議で No. 58 遺跡の北側延長線上に開発地があたる場合は、事業主と協議を行い、試掘調査の御理解と御協力が得られた場合に、適宜、試掘調査を重ねているのが現状である。平成 19 年以降、東山道武蔵路に焦点をあてた試掘調査は 5 次にわたって行い、恋ヶ窪遺跡や武蔵国分寺跡でも東山道武蔵路の側溝は複数地点で検出されているが、両遺跡に関わらない部分については、「東山道武蔵路」の調査として次数番号を与えている。

なお、東山道武蔵路の通過範囲のうち、西恋ヶ窪・泉町地区で 1 箇所ずつ (写真 14)、西元町地区で 2 箇所の計 4 箇所について、国の史跡として指定を受けている。

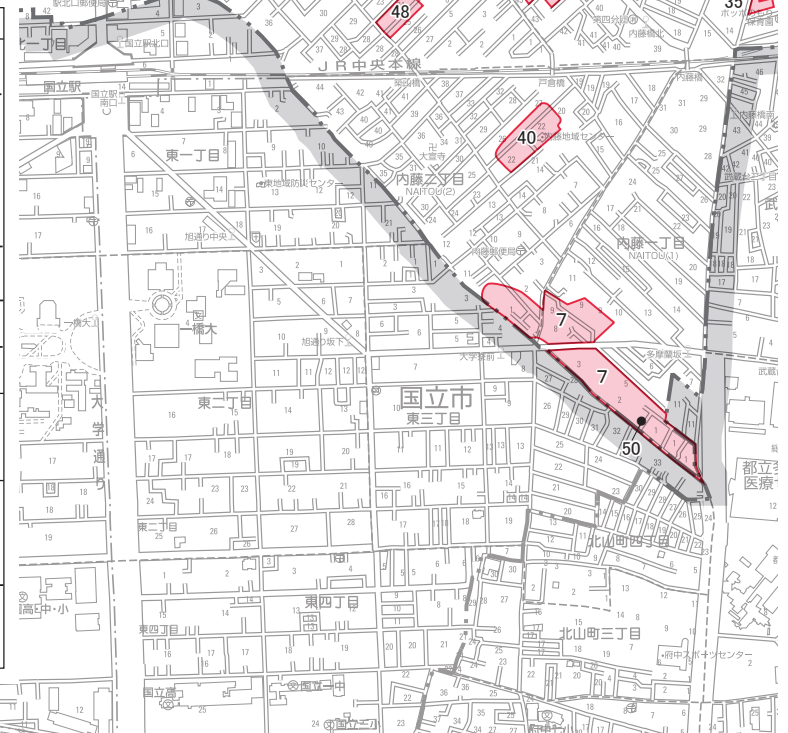


国分寺市遺跡（埋蔵文化財包蔵地）一覧

No.	名称	種別	時代	No.	名称	種別	時代	No.	名称	種別	時代
1	熊ノ郷遺跡	集落跡	旧石器・縄文	21	殿ヶ谷戸遺跡	集落跡	旧石器・縄文	39	----	散布地	縄文・奈良・平安
2	恋ヶ窪遺跡	集落跡	旧石器・縄文・奈良・平安・中世	22	恋ヶ窪廃寺跡	社寺跡	縄文・平安・中世	40	----	散布地	縄文・奈良・平安
3	恋ヶ窪南遺跡	集落跡	旧石器・縄文	23	----	散布地	縄文・奈良・平安	46	----	散布地	奈良・平安
5	羽根沢遺跡	集落跡	縄文・奈良・平安	24	----	散布地	縄文・奈良・平安	47	----	散布地	縄文・奈良・平安
6	----	散布地	縄文	25	----	散布地	縄文・奈良・平安	48	----	散布地	縄文
7	多摩蘭坂遺跡	集落跡	旧石器・縄文・奈良	26	----	散布地	縄文・奈良・平安	49	----	散布地	奈良・平安
8	花沢西遺跡	集落跡	旧石器・縄文・弥生	27	----	散布地	縄文	50	内藤新田横穴墓	横穴墓	奈良
9	日影山遺跡	散布地	旧石器・縄文・奈良・平安・中世	28	本町(国分寺村石器時代)遺跡	集落跡	旧石器・縄文・奈良・平安	52	----	散布地	旧石器・縄文
10	武蔵国分寺跡(僧尼寺)	社寺跡	奈良・平安	29	----	散布地	旧石器・縄文・奈良・平安	53	東京経済大学校内遺跡	散布地	旧石器・縄文
11	多喜窪遺跡	集落跡	旧石器・縄文	30	----	散布地	縄文・奈良・平安	54	花沢東遺跡	集落跡	旧石器・縄文・奈良・平安
12	伝祥應寺跡	社寺跡	中世	32	長谷戸遺跡	散布地	縄文	55	光町遺跡	集落跡	旧石器
13	----	塚	中世	34	----	散布地	縄文・奈良・平安	56	----	散布地	旧石器・縄文
14	多喜窪横穴墓群1号2号	横穴墓	奈良	35	----	散布地	縄文	57	恋ヶ窪東遺跡	集落跡	旧石器・縄文・奈良・平安
18	八幡前遺跡	散布地	縄文	36	----	散布地	縄文	58	東山道武蔵路	道路跡	奈良・平安
19	武蔵国分寺跡	集落跡	旧石器・縄文・奈良・平安・中世・近世	37	----	散布地	旧石器・縄文・奈良・平安				
20	殿ヶ谷戸北遺跡	集落跡	旧石器・縄文	38	----	散布地	縄文・奈良・平安				



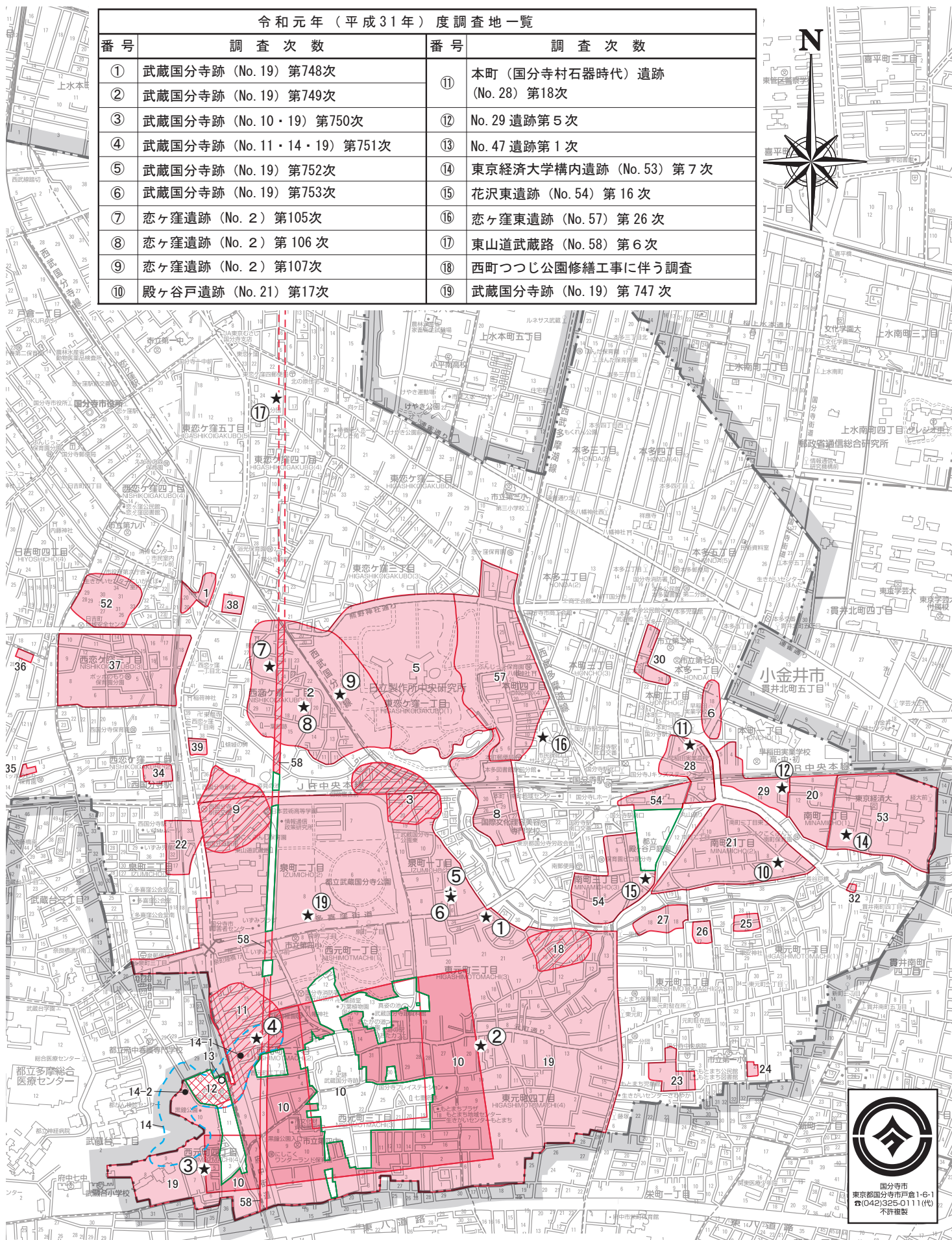
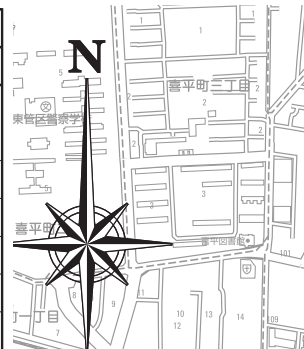
凡 例	
	遺跡(埋蔵文化財包蔵地)
	重複する遺跡(埋蔵文化財包蔵地)
	横 穴 墓 群
	横 穴 墓
	塚
	推 定 東 山 道 武 蔵 路
	国指定史跡 / 武蔵国分寺跡 附東山道武蔵路跡 国指定名勝 / 殿ヶ谷戸庭園(随宜園)
	市重要天然記念物 / 西町五丁目の旧屋敷林 市重要史跡 / 恋ヶ窪村分水



©この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図2500(空間データ基盤)を使用したものである。(承認番号 平24情使、第348—514号)

令和元年（平成31年）度調査地一覧

番号	調査回数	番号	調査回数
①	武蔵国分寺跡 (No. 19) 第748次	⑪	本町 (国分寺村石器時代) 遺跡 (No. 28) 第18次
②	武蔵国分寺跡 (No. 19) 第749次	⑫	No. 29 遺跡 第5次
③	武蔵国分寺跡 (No. 10・19) 第750次	⑬	No. 47 遺跡 第1次
④	武蔵国分寺跡 (No. 11・14・19) 第751次	⑭	東京経済大学構内遺跡 (No. 53) 第7次
⑤	武蔵国分寺跡 (No. 19) 第752次	⑮	花沢東遺跡 (No. 54) 第16次
⑥	武蔵国分寺跡 (No. 19) 第753次	⑯	恋ヶ窪東遺跡 (No. 57) 第26次
⑦	恋ヶ窪遺跡 (No. 2) 第105次	⑰	東山道武蔵路 (No. 58) 第6次
⑧	恋ヶ窪遺跡 (No. 2) 第106次	⑱	西町つつじ公園修繕工事に伴う調査
⑨	恋ヶ窪遺跡 (No. 2) 第107次		
⑩	殿ヶ谷戸遺跡 (No. 21) 第17次		

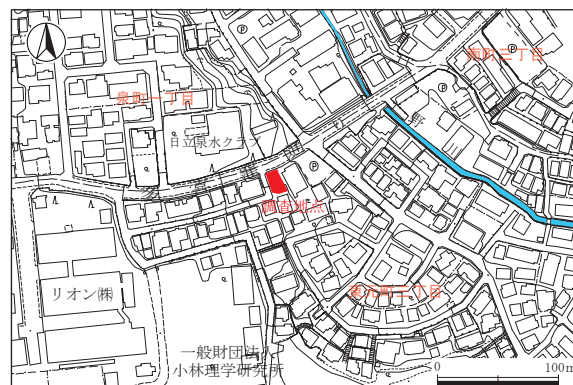


第17図 令和元年度の発掘調査地点位置図

第2節 調査の概要

(1) 武蔵国分寺跡第748次調査

所在地	東元町3丁目29	武蔵国分寺跡 (No. 19)
令和元年6月28日付文化財保護法第93条第1項届出 (国教教ふ収第308号)		
調査原因	集合住宅	調査種別 確認調査
調査費用	国庫補助等	調査担当：平塚・山本
調査期間	令和元年8月20日～8月31日 (現場実働10日)	
調査面積	18.00 m ²	遺物箱数 1箱
検出遺構	竪穴住居 (SI224)	
主な遺物	近代陶磁器 古代の瓦、須恵器、土師器、 土師質土器、鉄製品 縄文土器	



第18図 調査地点位置図 (MK748)

1. 調査の経緯と目的

敷地の西側に接する道路上では、昭和54年度に下水道管敷設工事に伴う武蔵国分寺跡第103次調査を実施し、部分的ながらも北壁にカマドを有する古代の竪穴住居 (SI224) を検出した (概報22：上敷領他1998)。周辺の地形は東に向かって低く傾斜し、敷地の東側は現況で盛土造成されている可能性があったが、今次の工事では建物基礎部分に径10cm×最長7.5mの鋼管杭計51本を打設する計画であったため、SI224の東側への展開を確認する目的で、計画建物の西側を中心とした範囲に南北7m×幅1mのAトレンチと、直行する東西5m×幅1mのBトレンチ、計2箇所の調査区を設定した (第19図)。

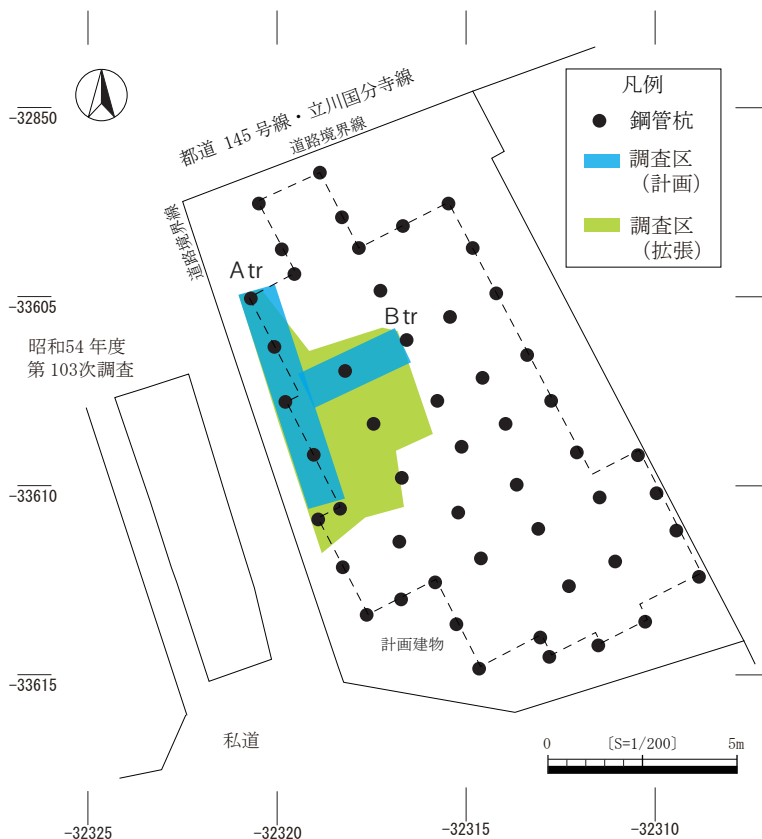
両トレンチともに重機を用いて表土を掘削すると、Aトレンチ北側では約20cm、南側で約60cmの深さから古代の遺構と思しき黒褐色土のプランを、またBトレンチ東端では約80cmの深さで地山のⅢb層を検出した。そこでAトレンチを

東側へ拡張して黒褐色土の範囲を追求した結果、SI224の北東側延長部に相当するプランを確認した。調査区内で本住居跡の他に遺構は検出されず、工事による埋蔵文化財への影響も調査区内に限定されることから、市教委は本遺構の取り扱いについて都教委と協議・相談し、事業者の了解を得たうえで、確認調査の範囲内で本遺構の覆土完掘までを調査の対象とすることにした。

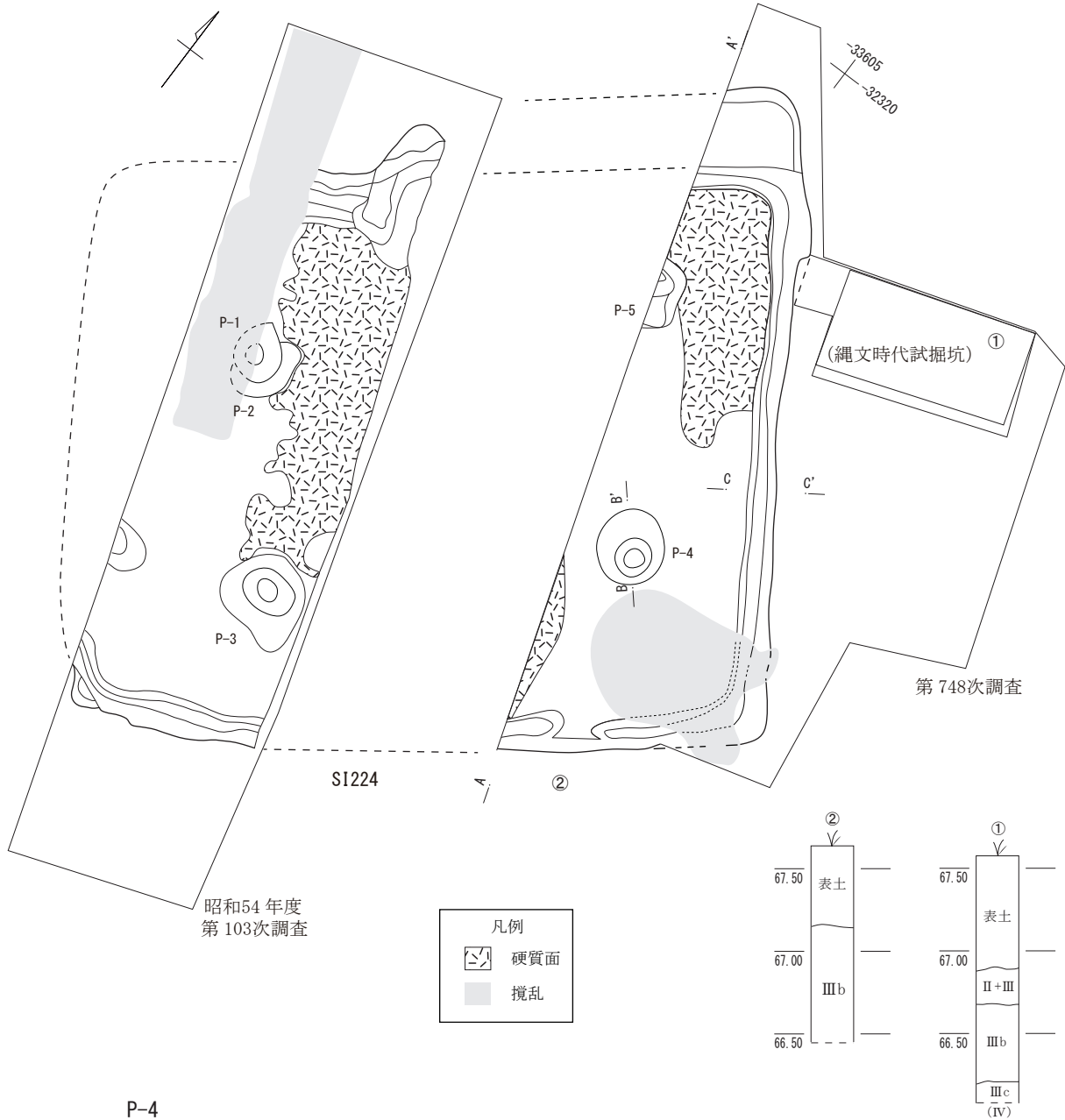
2. 発見された遺構と遺物

SI224 竪穴住居 (第20図)

今次の調査範囲では、竪穴住居の東壁と東壁寄りの南壁2.4m、北壁0.5m部分を検出したに過ぎないが、第103次調査結果と合成すると、竪穴全体の規模は東西6.5m×南

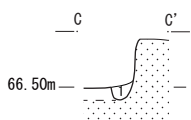
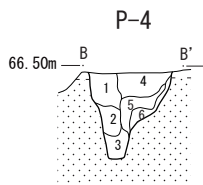
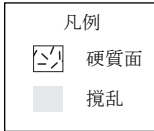


第19図 調査区配置図 (MK748)

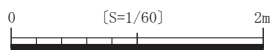


昭和54年度
第103次調査

第748次調査



周溝



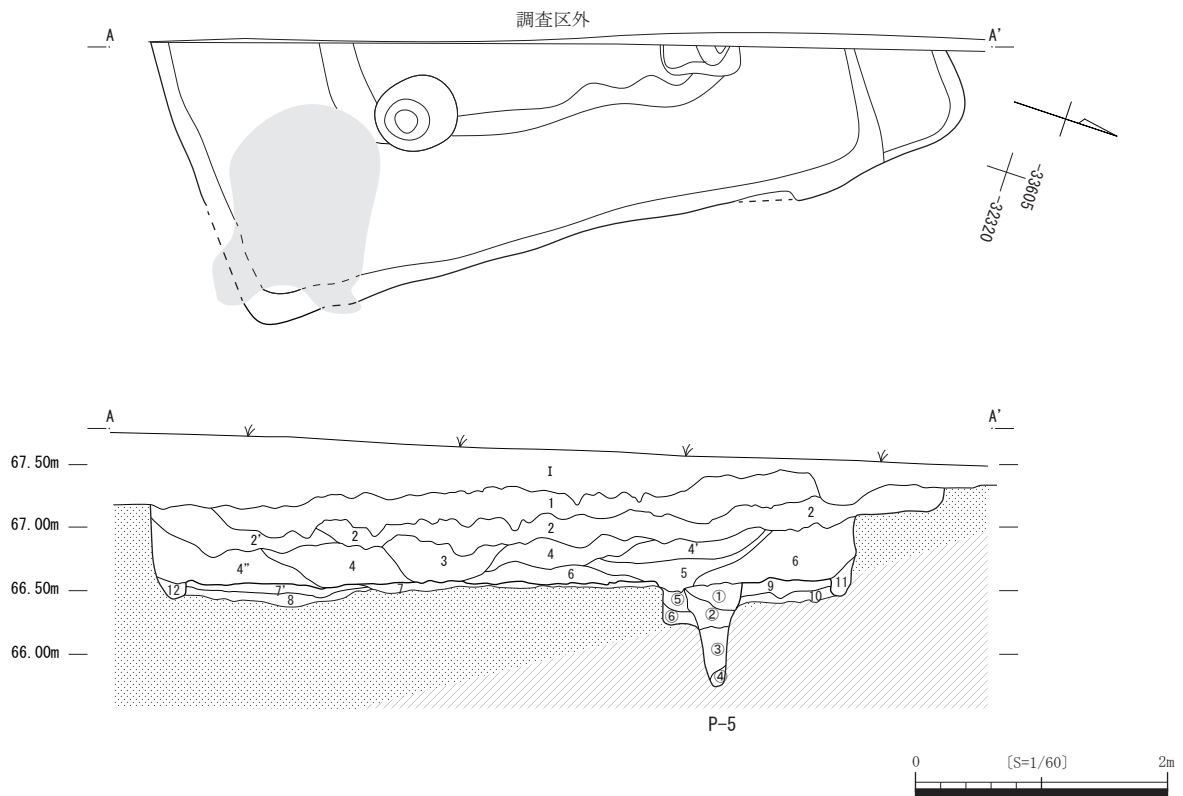
P-4

- 10YR2/1 (黒色土) 微量のφ1mmローム粒を含む。粒子やや粗い。しまりやや弱い。粘性やや弱い。
- 10YR3/1 (黒褐色土) 少量のφ0.5mmローム粒を含む。粒子やや粗い。しまり弱い。粘性やや強い。
- 10YR3/1 (黒褐色土) 少量のφ0.5mmローム粒を含む。粒子やや粗い。しまり極めて弱い。粘性強い。
- 10YR4/2 (灰黄褐色土) 微量のφ1mmローム粒を含む。斑紋状に変色(にぶい黄褐色10YR5/3)した部分が点在。粒子やや粗い。しまりやや弱い。粘性やや弱い。
- 10YR4/1 (褐灰色土) 少量のφ1mmローム粒を含む。粒子やや粗い。しまりやや弱い。粘性やや強い。
- 10YR4/1 (褐灰色土) 微量のφ1mmローム粒を含む。粒子やや細かい。しまりやや強い。粘性やや強い。

周溝

- 10YR2/1 (黒色土) 微量のφ0.5mmローム粒を含む。粒子やや細かい。しまり弱い。粘性やや強い。

第20図 SI224床面検出状況



SI224

1. 10YR1.7/1 (黒色土) 微量のφ0.5mmローム粒を含む。少量の黒褐色土(10YR3/2)ブロックを少量含む。粒子粗く間隙あり。しまり弱い。粘性やや弱い。
2. 10YR2/2 (黒褐色土) 微量のφ1~2mmローム粒を含む。北側に寄るに従い、色調がやや明るくなる。粒子やや細かく均質。しまりやや弱い。粘性やや弱い。
- 2' 10YR2/2 (黒褐色土) 微量のφ0.5mmローム粒を含む。基本的に3層と同等。粒子やや細かく均質。しまりやや弱い。粘性やや弱い。
3. 10YR2/1 (黒色土) 微量のφ0.5mmローム粒を含む。粒子やや細かく均質。しまりやや弱い。粘性やや弱い。
4. 10YR3/1 (黒褐色土) 微量のφ1mmローム粒・白色粘土粒を含む。粒子やや細かい。しまりやや弱い。粘性やや弱い。
- 4' 10YR2/2 (黒褐色土) 微量のφ1~2mmローム粒・白色粘土粒を含む。粒子やや細かい。しまりやや弱い。粘性やや弱い。
- 4'' 10YR2/2 (黒褐色土) 微量のφ1mmローム粒を含む。白色粘土粒は認められない。6~8は同質。粒子やや細かい。しまりやや弱い。粘性やや弱い。
5. 10YR2/1 (黒色土) 微量のφ1~2mmローム粒を含む。少量のφ1~10mm白色・灰色粘土団粒を含む。粒子やや粗く均質。しまりやや弱い。粘性やや強い。
6. 10YR3/2 (黒褐色土) 少量のφ1~5mmローム粒を含む。少量のφ1~10mm白色・灰色粘土・灰黄褐色土(10YR4/2)団粒を含む。粒子やや粗く均質。しまりやや弱い。粘性やや強い。
7. 10YR2/1 (黒色土) 微量のφ1mmローム粒を含む。貼床上層の締まった層で、硬化はしていない。粒子やや細かい。しまり強い。粘性弱い。
- 7' 10YR2/1 (黒色土) 微量のφ1mmローム粒を含む。少量のφ1~10mmの黒色土団粒(10YR1.7/1)を含む。貼床上層の硬化層。粒子やや細かい。しまり極めて強い。粘性弱い。
8. 10YR2/1 (黒色土) 微量のφ1mmローム粒を含む。少量のφ1~10mmの黒色土団粒(10YR1.7/1)を含む。少量のφ1~5mm白色粘土粒を含む。貼床下層でやや硬化度が弱い。粒子やや粗い。しまり強い。粘性やや強い。
9. 10YR4/2 (灰黄褐色土) 極めて多量のφ1~10mmローム・白色粘土・灰色粘土粒を含む。貼床に相当するが北側にしか存在しない。粒子粗い。しまり強い。粘性強い。
10. 10YR2/1 (黒色土) 微量のφ1mmローム粒を含む。多量のφ1~5mm白色粘土粒・灰色粘土粒を含む。13と同質だが、粘土粒の含有量が多い。粒子やや粗い。しまり強い。粘性やや強い。
11. 10YR2/1 (黒色土) 微量のφ0.5mmローム粒が下方に偏在。周溝覆土。粒子やや細かい。しまり弱い。粘性やや強い。
12. 10YR2/1 (黒色土) 微量のφ0.5mmローム粒を含む。周溝覆土。粒子やや細かい。しまりやや弱い。粘性やや強い。

P-5

- ① 10YR2/1 (黒色土) 微量のφ1mmローム粒が下方に偏在。粒子粗い。しまり弱い。粘性やや弱い。
- ② 10YR2/1 (黒色土) 少量のφ1~10mmローム団粒を含む。少量のφ1~5mm白色粘土粒を含む。粒子やや粗い。しまり弱い。粘性やや弱い。
- ③ 10YR3/1 (黒褐色土) 少量のφ1~2mmローム粒を含む。粒子粗く、間隙多い。しまり極めて弱い。粘性強い。
- ④ 10YR2/1 (黒色土) 微量のφ0.5mmローム粒を含む。粒子粗いが均質。しまり極めて弱い。粘性強い。
- ⑤ 10YR4/1 (褐灰色土) 少量のφ1mmローム粒を含む。粒子やや粗い。しまりやや弱い。粘性やや弱い。
- ⑥ 10YR3/1 (黒褐色土) 少量のφ0.5mmローム粒を含む。粒子やや粗い。しまりやや弱い。粘性やや弱い。

第21図 SI224掘り方

北 6.0 m を測り、東西方向に長軸を持つ長方形プランを呈することが判明した（第 20 図）。なお、住居北壁と直行するラインを建物の主軸と捉えた場合、その方位は N - 60° - W を示す。畑の耕作土と思われる基本層序 I 層を取り除くと、通有、市内では縄文時代の遺物を包含する茶褐色土（Ⅲ b 層）が現れ、同層上面で遺構の平面プランが検出できる。遺構確認面から床面までの深さは約 60cm を有するが、耕作が深く及んでいないところでは覆土は約 85cm の堆積厚をはかる。壁はやや直立気味に立ち上がり、床面は平坦であるものの、周囲の地形に比例して相対的に北側が高く、南側でやや低い。床面中央から北東にかけて、黒色土を用いた貼り床の硬質面が広がり、壁に沿って周溝が巡るが、南壁やや東寄りでは 30cm ほど途切れる箇所がある。4 本で構成される支柱穴は、平面は床面付近で径 60 ~ 70cm、深さは約 70cm を有するが、断面は漏斗状に窄まり（写真 19・20）、建てた柱が柱穴底の掘り方に収まるとすれば、柱材は径 20cm 程度の太さと思われる。また、貼り床を剥がした堅穴の掘り方は中央部でやや高く、外周の壁沿いは約 1 m 幅で深く掘り込まれている（第 21 図）。

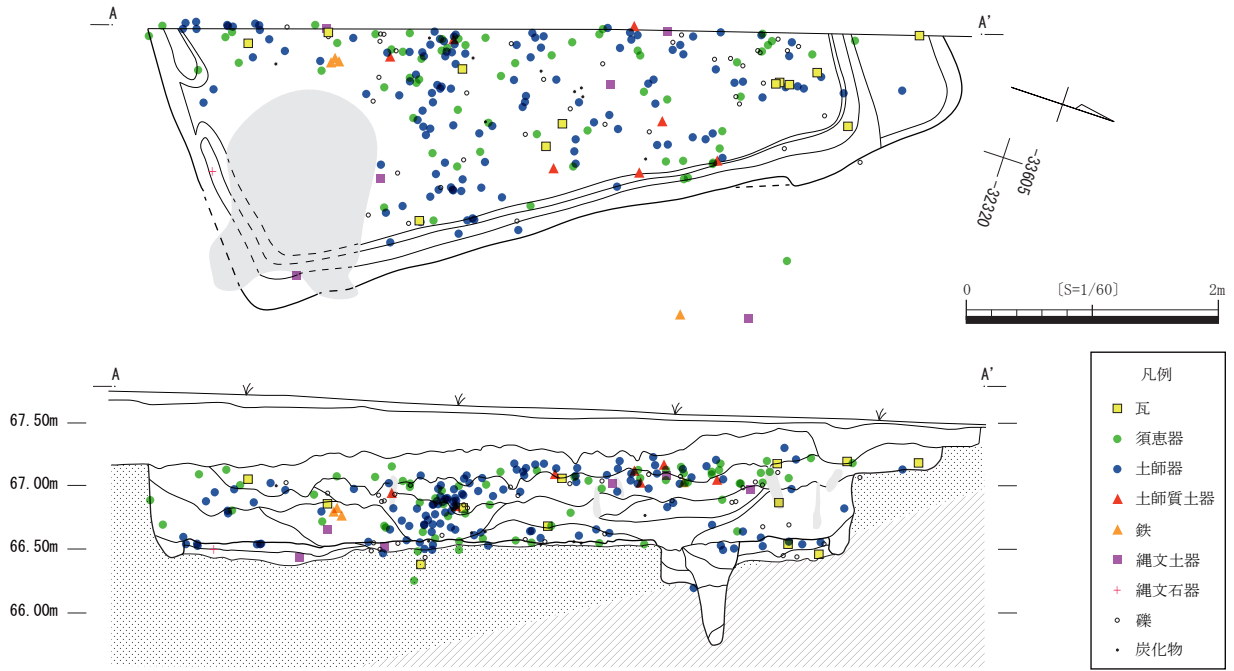
北壁の中央に構築されるカマドは、第 103 次調査範囲で東側半分は攪乱されていることが判明しているが、当時の調査所見によると、カマドの規模は奥行 0.61 m、幅 0.4 m、火床面の深さ 0.6 m をはかる。覆土は天井部の崩壊土とみられる粘土粒子を多量に含み、カマドの袖部分には凝灰岩の切石を使用していた。なお、第 103 次調査では明瞭に捉えられなかったが、北壁東側には 1 段の棚状施設が確認された。奥行 60 ~ 70cm、深さは確認面より 20cm、棚部の床はほぼ平坦を呈し、直上には覆土第 2 層が堆積する。武蔵国分寺の寺地内で棚状施設を付帯する堅穴住居の類例は決して多くはないが、府中市側の武蔵台東遺跡で 10 例ほどが確認されている（西野 1999）。棚の深さ・構築位置は多様で、住居の年代もⅢ期（8 世紀末）からⅦ期（10 世紀初頭）に至るまで際立った時期的傾向も見られないが、浅い棚でカマドの右側のみに構築される SI224 との類似例を求めれば、Ⅴ期（9 世紀第 3 四半期）の 54・47 号住居跡が近い形態のようである。

遺物の出土状況は、棚状施設も含めて堅穴内全体にわたり、須恵器・土師器を中心に土師質土器・瓦・鉄、縄文土器・石器、礫・炭化物等が出土している（第 22・23 図）。断面では覆土第 1 ~ 2 層部を中心とする上層の一群と、床面付近の覆土下層部の一群とに分布傾向が大きく分かれるように観察され、さらに 3 層付近にも密な遺物分布がみられるが、堅穴が埋没する過程で覆土中に何らかの掘り込みを伴う造作行為があり、当該部分に遺物が廃棄されたものと思われる。

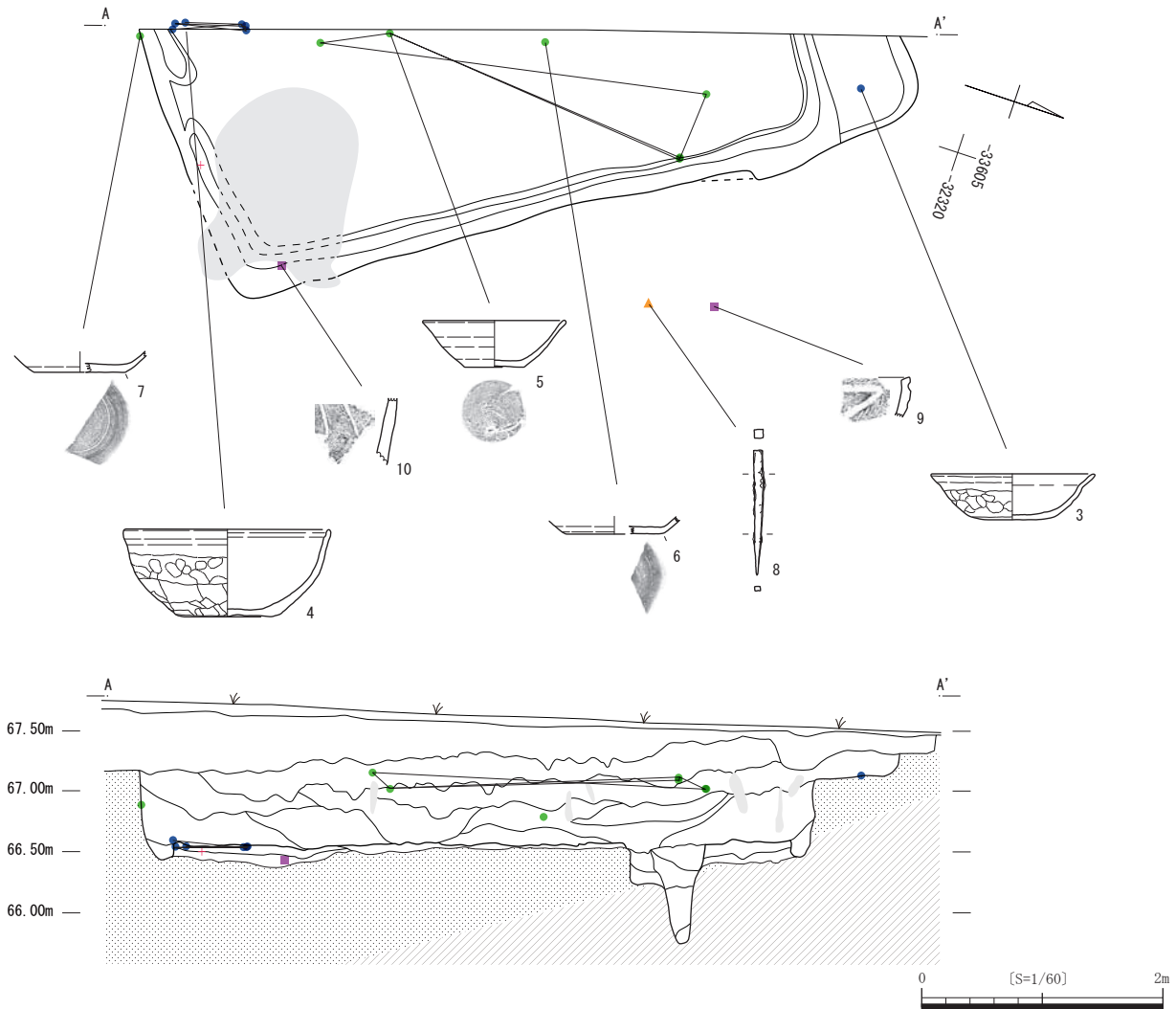
第 24 図には、本調査区から出土した 10 点の遺物を示した。このうち 1・2 は表土、3 ~ 7・10 が SI224、8・9 は遺構外（包含層）から出土したものである。なお、11 ~ 13 は後述するように、第 103 次調査で報告されている遺物を再掲した。

1 は井鉢の蓋である。やや肉厚な器形で、体部には黒味があったコバルト絵具で草花文が描かれ、規格化された工業製品であるからか、見込みに同心円状の細かいキザミ状の筋が巡っている。2 は端反形を呈する盃で、体部に酸化コバルトにより梅花と点描が 2 単位スタンプされたゴム印判手の製品。いずれも 20 世紀第 2 四半期以降のものであろう。

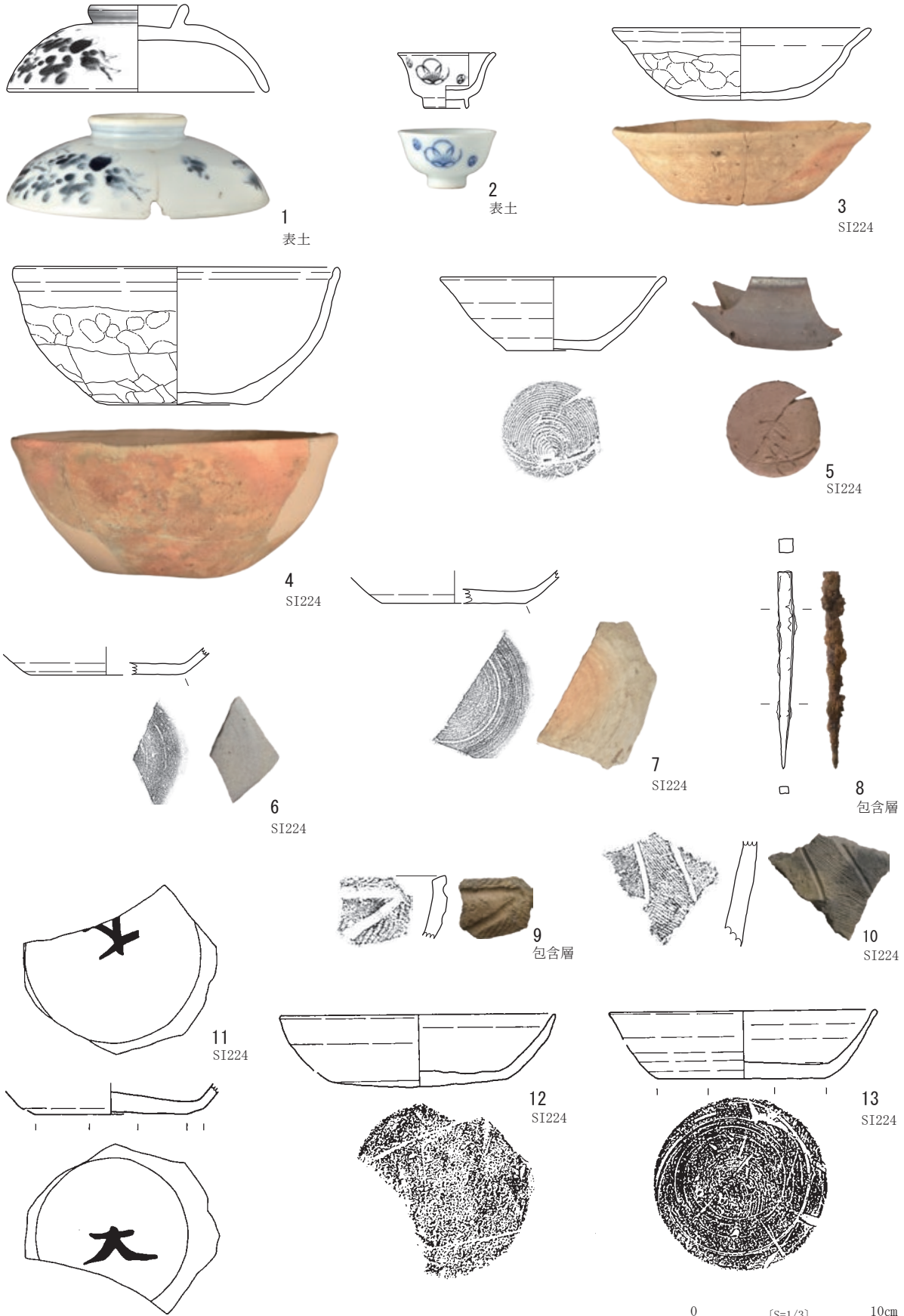
3 は南武蔵型土師器坏で、口径 13.4cm、底径 6.4cm、器高 3.8cm をはかる。砂粒の多い淡橙色の胎土で、外面体部に指頭圧痕、口縁部は横ナデを施す。棚状遺構の床面上より出土した（写真 22）。南武蔵型土師器坏は、落川・一の宮遺跡の土器編年によると、第 19 段階（8 世紀第 2 四半期）に「定型化されていない原初的な坏」が出現した後、第 24 段階（9 世紀第 2 四半期）に「非常に少なく」なる傾向が指摘されている（福田 2002・17）。法量的には、武蔵国府編年でいう H 3 ~ 4 期（9 世紀中 ~ 後葉）の特徴に近いものの、口縁部がやや外開き気味の器形で口径値がやや大きいため、H 2 期以前の古相を呈する可能性もあろう（山口 1984a・b）。4 は口径 16.8cm、底径 8.0cm、器高 7.0cm を有する大振りな坏（椀）で、平底を呈する底部から体部外面にかけてヘラ削り調整を施し、体部上半部は指頭圧痕を巡らせてい



第 22 図 SI224 遺物出土状況 (1) 全点



第 23 図 SI224 遺物出土状況 (2) 実測個体



※11～13は概報22より転載

0 [S=1/3] 10cm

第24図 武蔵国分寺跡第748次調査出土遺物



写真 15 調査区近景



写真 16 作業スナップ



写真 17 SI244 床面検出状況 (南から)



写真 18 調査区全景 (東から)



写真 19 SI244 P-4 断面 (南から)



写真 20 SI244 P-5 断面 (南から)



写真 21 SI244 遺物出土状況 (南から)



写真 22 SI244 遺物出土状況 (南から ※第 24 図 3)

る。器形や胎土・器面調整等から相模型土師器を意識していることは明らかで、口縁部内側には蓋の受け口状の緩い沈線が一条巡っている。住居床面より出土した。武蔵国分寺における相模型土師器の類例や編年上の位置づけについては、第3章で後述する。

5～7は須恵器坏である。いずれも覆土上層より出土した。5は口径11.8cm、底径5.0cm（内底径4.6cm）、器高3.6cmを測り、重量感のある硬質で赤味があった暗灰色の胎土を有する。東金子窯の製品で、9世紀第4四半期を中心とした時期のものであろう。6は暗灰色の硬質な胎土に白色針状物質を含む南比企窯の製品で、底部は遺存する範囲では全面回転ヘラケズリ調整を施し、外面は研磨されている印象がある。腰部はやや張りをもって立ち上がる器形を呈する。底径は7.8cmを有し（内底径とも）、鳩山Ⅲ期に比定される（渡辺1990）。7も南比企窯産の製品だが、薄灰色の軟質な胎土で酸化焰焼成な焼き上がりである。遺存範囲で底部外面は全面回転ヘラケズリ調整を施し、底径は7.2cm（内底径とも）に復元される。同じく鳩山Ⅲ期の製品であろう。

8は鉄釘で、断面0.8cm四方を呈し、現存長10.0cm、重量は11.5gをはかる。遺構外より出土した。

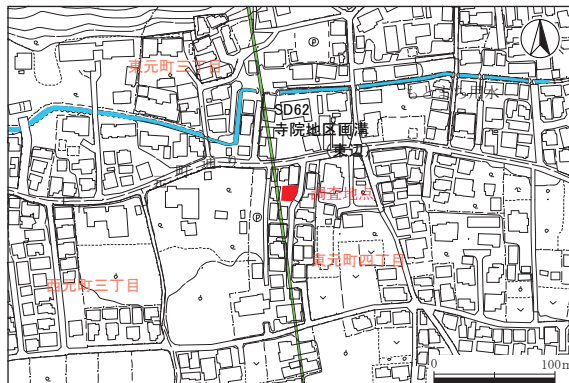
9・10は縄文土器で、いずれも小片のため詳細は不明だが、加曽利E4式～称名寺式と思われる。9は深鉢の口縁部で、原体RLの単節縄文を地文に持ち、沈線で区画した内側を磨り消している。10も深鉢の胴部片で、原体L縄文を地文とし、縦方位の沈線で区画した後、磨り消しを施している。9は遺構外（Ⅲb層）、10はSI224覆土上層より出土している。

11～13は第103次調査で出土し、報告書に図化された須恵器坏で、11・12はSI224覆土中、13は遺構外から出土したものである。以下、概報22よりそれぞれの観察所見を引用しながら、編年上の位置づけについて触れる。11は底径8.0cm（内底径8.4cm）で、底部外面は回転糸切り後、周縁のみを回転ヘラ削りしている。灰色の胎土に白色針状物質を含んでいることから南比企窯産の製品と思われ、底部内外面に「大」の墨書をそれぞれ施す。12は口径14.6cm、底径9.5cm（内底径8.2cm）、器高3.8cmをはかり、丸底気味の底部から体部はやや内湾して口縁にいたる器形で、底部外面はヘラ削りを施す。焼成はやや不良で、灰白色の胎土をもつ。13は口径14.0cm、底径9.0cm（内底径8.2cm）、器高3.6cmをはかり、厚みのある底部から、体部は直線的に立ち上がり、器壁が薄くなって口縁にいたる器形を呈する。底部は回転糸切後、周縁を回転ヘラ削り調整を行う。暗茶～暗灰色で白色針状物質を含む胎土で、南比企窯産の可能性がある。11・13は鳩山Ⅲ期、12は東金子Ⅲ期前葉（根本・加藤2014）に対比されよう。

第103次調査では、SI224の遺物出土状況にかかる詳細な情報は明示されていなかったため、住居の廃絶時期は覆土中から出土した11・12の2個体の須恵器を根拠として8世紀中葉を中心とした鳩山Ⅲ期に想定せざるを得なかったが、今次の調査における遺物出土分布を再度観察する限りでは、3の南武蔵型坏や4の相模型碗が時期決定のうえで鍵になる遺物といえそうである。ともに法量や技法上の特徴からは9世紀後半まで下る可能性もあるが、既往の編年研究を拠り所とすれば、住居の廃絶時期をひとまず9世紀前半頃としておきたい。

(2) 武蔵国分寺跡第 749 次調査

所在地	東元町3丁目2-14	武蔵国分寺跡 (No. 19)
令和元年9月12日付文化財保護法第93条第1項届出 (国教教ふ収第556号)		
調査原因	個人住宅	調査種別 確認調査
調査費用	国庫補助等	調査担当：桂・平塚
調査期間	令和元年12月6日～12月18日 (現場実働8日)	
調査面積	7.19 m ²	遺物箱数 1箱
検出遺構	竪穴住居 (SI267) 溝 (SD437)	
主な遺物	古代の土師質土器・瓦等	



第 25 図 調査地点位置図 (MK749)

1. 調査の経緯と目的

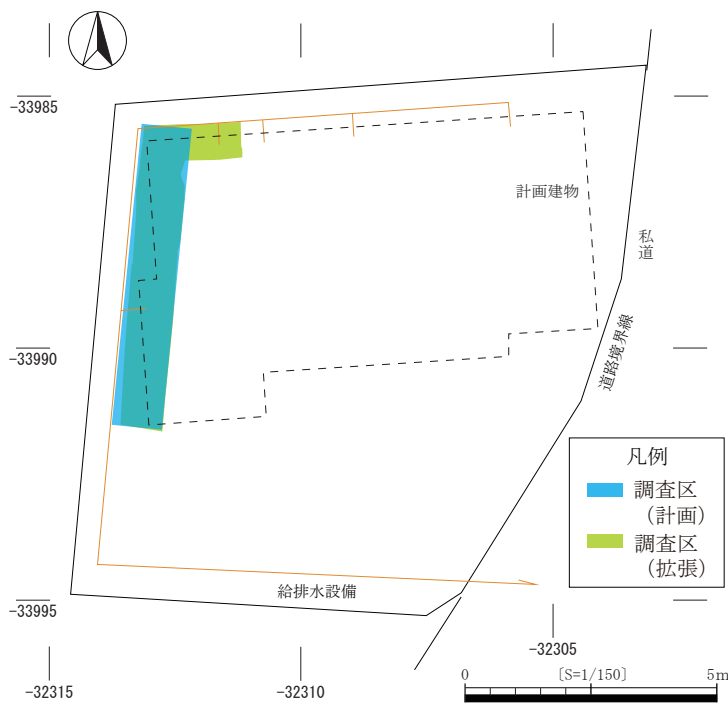
調査地点は元町通りの南側で、僧寺寺院地東辺区画溝の外縁部にあたり、立川段丘面上に位置する。北西隣の敷地では昭和 56 年度に実施した第 129 次調査で、古代の竪穴住居 SI267 (カマド部のみ) と土坑数基を検出していた (令和 2 年度末現在、未報告)。届出内容は木造 2 階建ての住宅建設工事が計画され、建物の根切底自体は遺跡に抵触しないものの、建物北～西側をめぐる給排水管の敷設予定箇所には SI267 の検出が予測されたため、建物西側を中心とした範囲に幅 1 m×長さ 6 m のトレンチを設定して調査に臨んだ (第 26 図)。

2. 発見された遺構と遺物

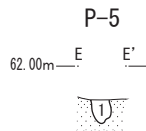
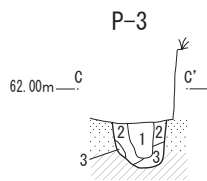
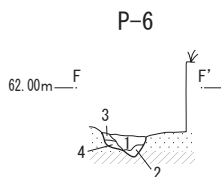
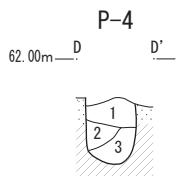
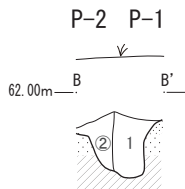
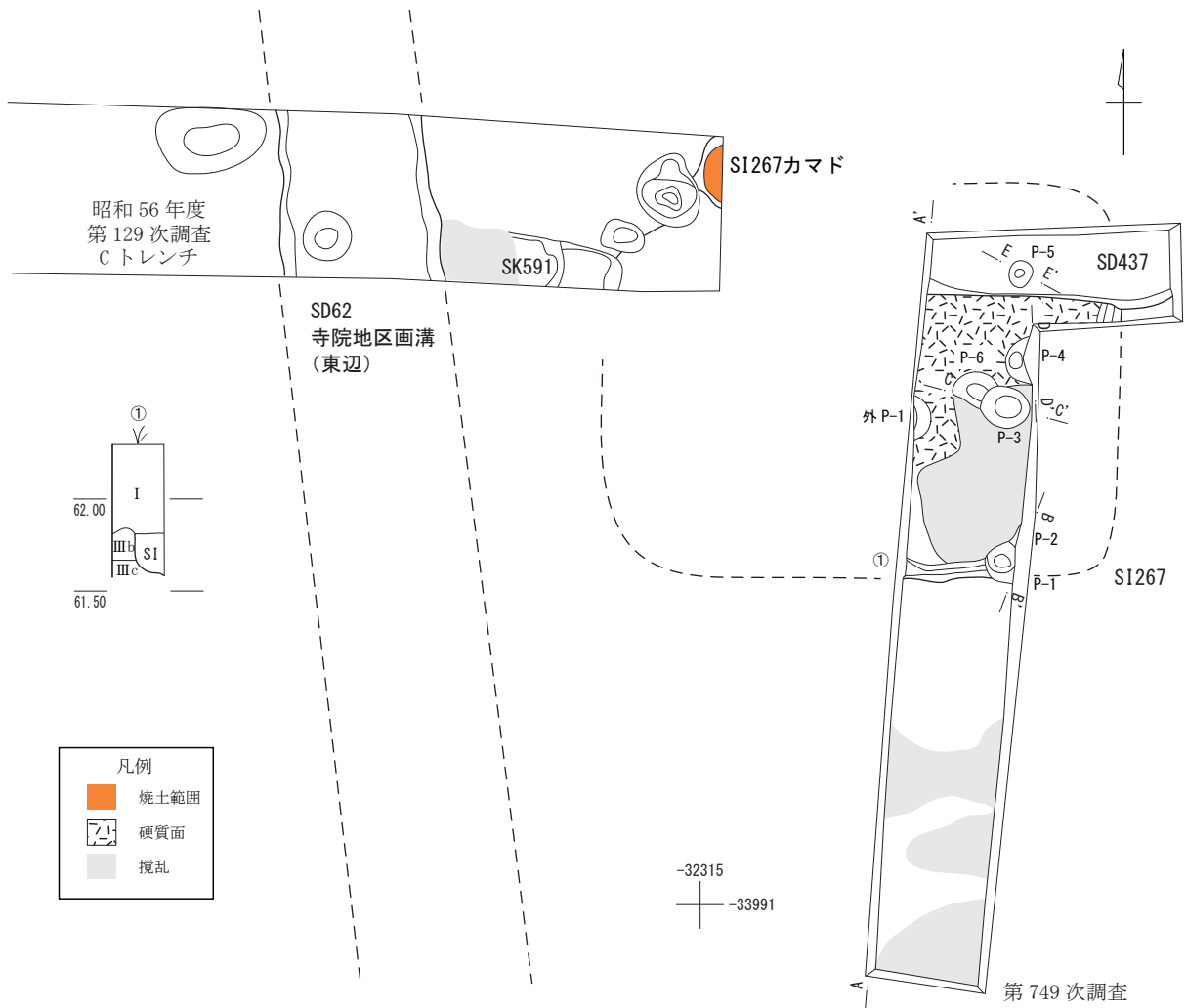
その結果、地表から約 50cm 掘削した III b 層上面において、トレンチ北半部を中心に竪穴住居と思しき暗褐色土のプランが検出されたが、所期の調査範囲内で収束する状況ではなかったため、トレンチ北端部から東方向へ、幅 80cm のサブトレンチを拡張し、プランの広がりを含むことにした。ところが、ちょうど当該部分には、住居よりも時期の新しい別の遺構が重複しており、平面プランは東西に細長く、北・西・東側は調査区外に展開していたが、緩やかに立ち上がる掘り方の形状から土坑もしくは溝の可能性を想定し、便宜的に溝として扱うことにした (SD437)。

SI267 竪穴住居 (第 27 図、写真 24)

トレンチ内において住居南壁と東壁の一部を検出したが、第 129 次調査で当該住居のカマドに比定した焼土集中との関係性は明確ではない。仮に同一の遺構として捉えた場合、竪穴は約 3 m 四方を有し、カマドは北壁の西壁寄りに位置することになる。確認面から床面までは 20cm と浅いが、固い貼り床が敷かれ、南・東壁際には幅 10cm 程の周溝が巡る。壁際および貼り床上には円形ピットが 7 基検出されたが、規則



第 26 図 調査区配置図 (MK749)



P-1・P-2

1. 10YR2/3(黒褐色土) 3~7mm大粒ローム粒多量、ロームブロック多い。しまりなく粘性あり。
2. 10YR2/2(黒褐色土) ローム粒やや多く赤色スコリア少量含む。しまりややあり粘性あり。

P-3

1. 10YR2/2(黒褐色土) ローム粒多く、炭化物微量含む。しまり、粘性なし。
2. 10YR2/2(黒褐色土) ローム粒多量、ロームブロック少量。極めて粒子粗い。しまりなく粘性ややなし。
3. 10YR4/6(褐色土) ローム粒、ロームブロック多量含む。しまりなく粘性ややあり。

P-4

1. 10YR2/3(黒褐色土) ローム粒多量、ロームブロック少量。しまりなく粘性なし。
2. 10YR2/2(黒褐色土) ローム粒少量含む。しまりなく粘性なし。
3. 10YR2/2(黒褐色土) ローム粒やや多い。しまりややあり、粘性なし。

P-5

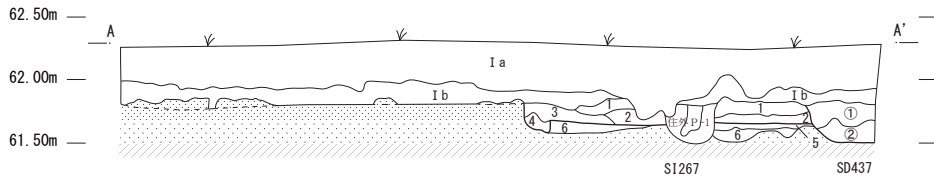
1. 10YR2/2(黒褐色土) ローム粒、ロームブロック多く含む。しまりややあり、粘性なし。

P-6

1. 10YR2/1(黒褐色土) 細ローム粒多量、黒色スコリア少量、赤色スコリア微量。しまり、粘性あり。
2. 10YR2/3(黒褐色土) ローム粒、ローム土、やや多く含む。しまり、粘性あり。
3. 10YR3/4(褐色土) 黒色スコリアやや多く含む。しまりややあり、粘性あり。
4. 10YR5/8(黄褐色土) ソフトローム主体、黒色スコリア微量含む。しまりややあり、粘性あり。

第27図 武蔵国分寺跡第749次調査全体図

性に乏しく、住居に伴うかは不明である。このうち1基（外P-1）は堅穴の覆土上から掘り込んでいる。調査区内の遺物分布は極めて乏しく、当該堅穴部分からは須恵器と土師質土器片の2点の遺物が出土したのみであった。

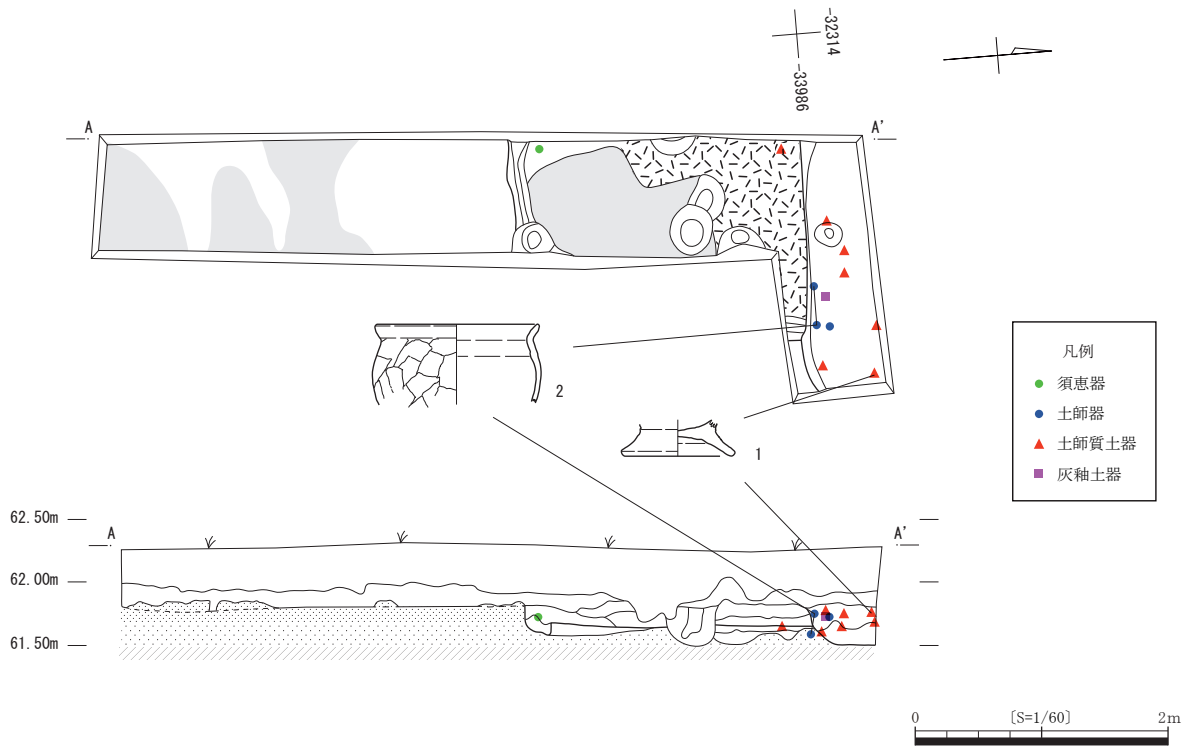


S1267

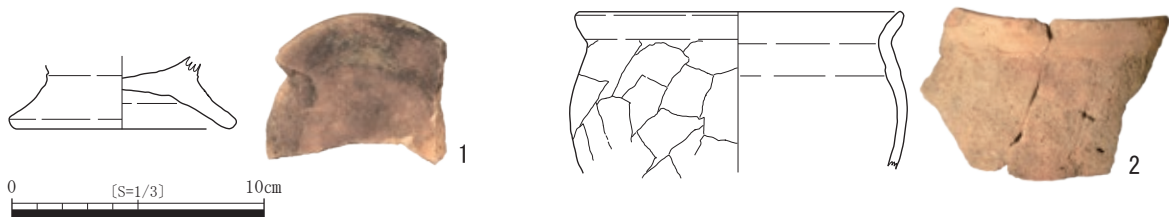
- 1. 10YR3/2(黒褐色土) ローム粒多く、赤色スコリア少量、5～20mm ロームブロック微量含む。粘性あり、しまりややあり。
- 2. 10YR2/2(黒褐色土) ローム粒やや多く、炭化物少量、赤色スコリア微量含む。粘性あり、しまりややあり。
- 3. 10YR3/1(黒褐色土) 炭化物多く、ローム粒やや多く、5～10mmⅢ層ブロック少量含む。粘性あり、しまりややあり。
- 4. 10YR4/2(灰黄褐色土) 10～30mmⅢ層ブロック多量、ローム粒、炭化物微量含む。粘性あり、しまりややあり。(周溝)
- 5. 10YR3/3(暗褐色土) 5～30mm ロームブロック多く、Ⅲ層ブロック(10～30mm) やや多く、炭化物少量、赤色スコリア微量含む。粘性あり、固く締まる。
- 6. 10YR4/4(暗褐色土) 5～30mm ロームブロック、同Ⅲ層ブロック多量、赤色スコリア、炭化物少量含む。粘性あり、しまりあり。

SD437

- 1. 10YR3/2(黒褐色土) ローム粒多く、赤色スコリア少量、炭化物5～10mm ロームブロック微量含む。粘性あり、しまりややなし。
- 2. 10YR3/4(暗褐色土) ローム粒多量、5～30mm ロームブロック多く、炭化物、赤色スコリア微量含む。粘性あり、しまりややあり。



第 28 図 武蔵国分寺跡第 749 次調査土層断面図・遺物出土状況図



第 29 図 武蔵国分寺跡第 749 次調査出土遺物



写真 23 調査区全景（東から）



写真 24 SI267 床面検出状況（東から）



写真 25 SI267 掘り方（北から）



写真 26 SD437 完掘状況（南から）



写真 27 調査区西壁土層断面（東から）



写真 28 SI267 内 P-1・2 土層断面（西から）

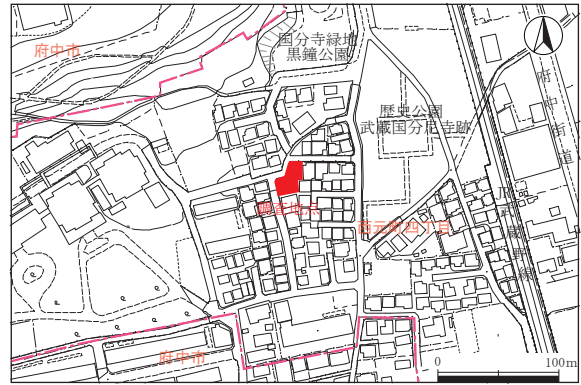
SD437 溝状遺構（第 27・28 図、写真 26）

トレンチ北端沿いに東西に走行する溝状の遺構である。幅は明確ではないが、第 129 次調査の SK591 とあわせて延長は 4.5 m 以上で、深さは確認面から 30cm を有する。溝底はやや平坦だが、壁は緩やかに外上方へ立ち上がる。黒味の強い覆土のため SI267 との識別は明瞭で、SI267 よりも新しい。遺物は土師質土器を主体に土師器甕が出土し、2 点を図示した（第 29 図）。

1 は土師質土器碗の脚部で、脚部径 9.2cm、底部 6.0cm をはかる。砂粒の多い淡橙色の胎土で、器面全体が煤け、燈明具に使用されたものであろう。2 は小型土師器甕で、口縁部はくの字状に屈折し、胴部上半がやや膨れる器形である。ヘラ削りを基調とし、淡茶色の胎土を有する。ともに 10 世紀代の所産と思われる。

(3) 武蔵国分寺跡第 750 次調査

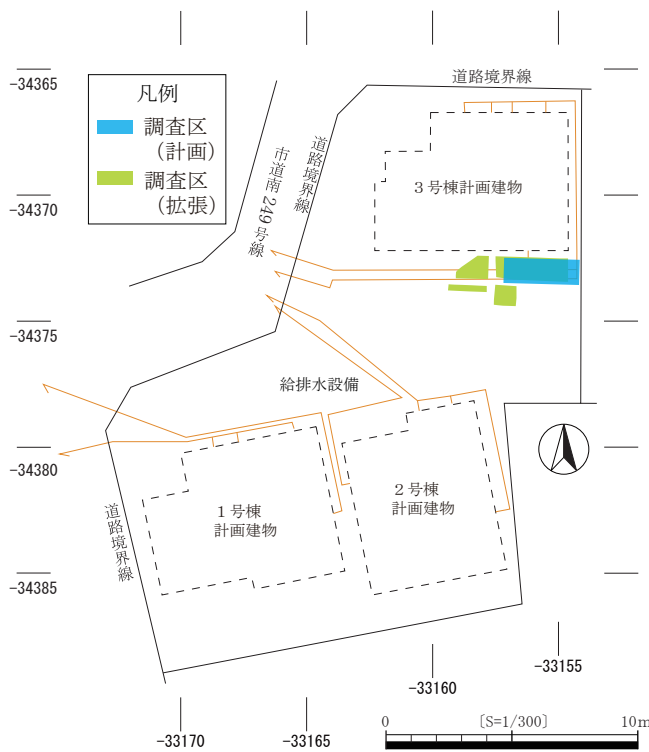
所在地	西元町 5 丁目 8-11	武蔵国分寺跡 (No. 10・19)
令和元年 9 月 24 日付文化財保護法第 93 条第 1 項届出 (国教教ふ収第 597 号)		
調査原因	分譲住宅	調査種別 確認調査
調査費用	国庫補助等	調査担当：平塚
調査期間	令和元年 10 月 4 日～10 月 8 日 (現場実働 3 日)	
調査面積	5.18 m ²	遺物箱数 1 箱
検出遺構	不明遺構 (SX366)	
主な遺物	古代の瓦、土器 中世の銭貨	



第 30 図 調査地点位置図 (MK750)

1. 調査の経緯と目的

調査地点は、尼寺伽藍地の西辺区画溝が南北に走行する付近で、立川段丘面上に立地する (第 30 図)。届出内容は、敷地内に 2 階建て木造戸建て住宅を 3 棟建設する計画で、建物基礎の根切工事底は地表下約 20cm 程度と浅いが、付帯する給排水管経路のうち尼寺伽藍地西辺区画溝の検出が想定された 3 号棟の南側に、幅 1 m×長さ 3 m の東西に長い調査区を設定して確認調査を実施した (第 31 図)。



第 31 図 調査区配置図 (MK750)

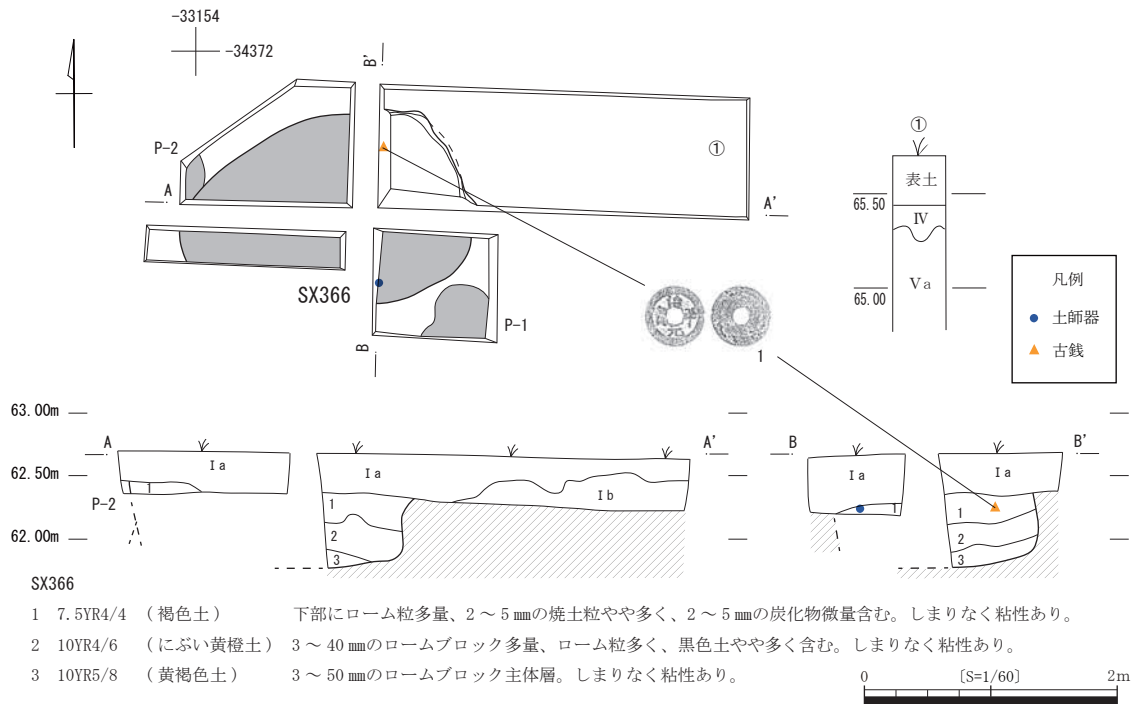


第 32 図 第 750 次調査出土遺物

2. 発見された遺構と遺物

その結果、地表下約 40cm でソフトローム層が検出され、トレンチ南西端に褐色土の覆土をもつ土坑状プランを検出した。覆土を掘削すると中世銭貨が出土し、底面までの深さは約 60cm で、壁面がやや下膨れ状にオーバーハング気味に立ち上がる掘り込みであった。調査範囲から、想定した伽藍地西辺区画溝は検出されなかったが、遺構の広がりを確認するために調査区を西側へ拡張したところ、東西 2.2 m×南北 1.6 m の東西方向にやや長い隅丸長方形プランを呈する土坑であることが判明した (第 33 図)。その他、近接して小ピット状の遺構も発見されたが (P-1・2)、工事の掘削深度が遺構確認面まではおよばないため、これらの遺構はプラン確認のみに留めることとして調査を終了した。

遺物は覆土第 1 層中より古代の土師質土器と中世の銭貨が各 1 点ずつ出土し、このうち銭貨を第 32 図に掲げた。1 は 1064 年初鑄の北宋銭で、銭銘は治平元寶と判読できる。銅製で、重量は 2.5 g をはかる。SX366 覆土上層より出土した。



第33図 武蔵国分寺跡第750次調査土層断面図・遺物出土状況図

SX366 と規模が近く、底面は平坦で壁面がオーバーハング気味に立ち上がる同種の土坑は、尼寺の中心伽藍域における平成6年度の第400次調査で「A形態（袋状土坑）」として分類されているもので、その特徴として、

- ①壁が内傾しており底面が開口部より広い
- ②壁は平らなものと、湾曲するものがある
- ③底面は平坦を呈する
- ④底面には周溝が全周する
- ⑤平面形は隅丸長方形が多い
- ⑥堆積土はロームブロックが入るものも多く、人為的に埋め戻している
- ⑦規模は短辺1.0～1.2m、長辺1.3～2.0m、深さ0.3～1.35mで深いものが多い

などが挙げられ、出土遺物から14～15世紀の所産として捉えられている（尼寺Ⅲ・福田1996）。また、本調査地点の北東近接地の第83・728次調査地点でもA形態と類似する土坑が報告されており（有吉1989、寺前2019）、尼寺伽藍跡地の周辺一帯に広く分布している模様である。今次の調査で掘削した範囲内から人骨は出土していないが、覆土中には多くのローム粒・焼土粒が含まれており、銭貨が出土したことを考えると、遺構の性格として火葬墓の可能性のあるものと思われる。



写真29 調査区全景（西から）



写真30 SX366全景（東から）



写真31 SX366全景（西から）



写真32 SX366東西土層断面（北から）



写真33 SX366南北土層断面（東から）



写真34 作業スナップ

(4) 武蔵国分寺跡第 751 次調査

所在地	西元町 2 丁目 11-26 武蔵国分寺跡 (No. 10・19) 多喜窪遺跡 (No. 11) 多喜窪横穴墓群 (No. 14)		
令和元年 8 月 26 日付文化財保護法第 93 条第 1 項届出 (国教教ふ収第 503 号)			
調査原因	分譲住宅	調査種別	確認調査
調査費用	国庫補助等	調査担当	平塚
調査期間	令和元年 10 月 15 日～10 月 17 日 (現場実働 3 日)		
調査面積	6.93 m ²	遺物箱数	1 箱
検出遺構	なし		
主な遺物	古代の瓦・土器 縄文土器・石器		



第 34 図 調査地点位置図 (MK751)

1. 調査の経緯と目的

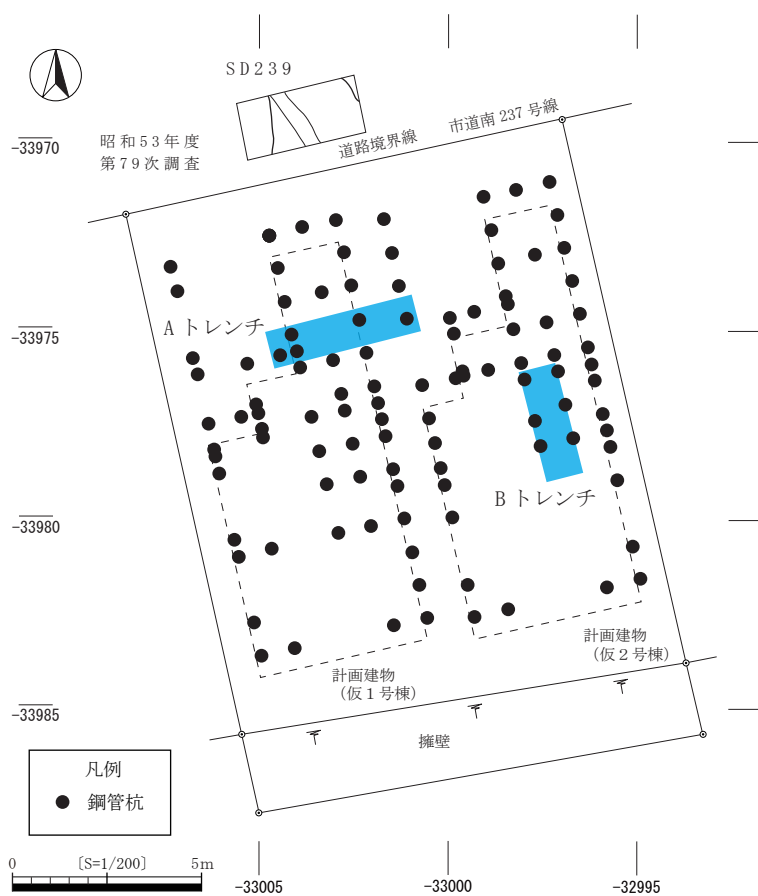
調査地点は僧尼寺中間地域の武蔵野段丘上で、東山道武蔵路のやや西側に位置し、武蔵国分寺跡僧尼寺 (市遺跡No. 10・19)、多喜窪遺跡 (同No. 11)、多喜窪横穴墓群 (同No. 14) に含まれる。敷地北側の現道で行った第 79 次調査では、路面下 40cm の深さから幅 2.0 m、深さ 80cm の南北溝 SD239 が確認され (概報 16・上村他 1990)、溝の南方延長が当該敷地内へ続くことが予測された。届出内容は敷地を東西二分割し、それぞれに木造 2 階建ての住宅を建設するもので、根彻底自体は浅い掘削だが、地盤補強で鋼管杭を打設する計画であったため、溝の延長部 (仮 1 号棟) に東西 4 m×幅 1 m の A トレンチ、その南東側 (仮 2 号棟) に南北 4 m×幅 1 m の B トレンチの 2 箇所を設定して調査に臨んだ (第 35 図)。

2. 発見された遺構と遺物

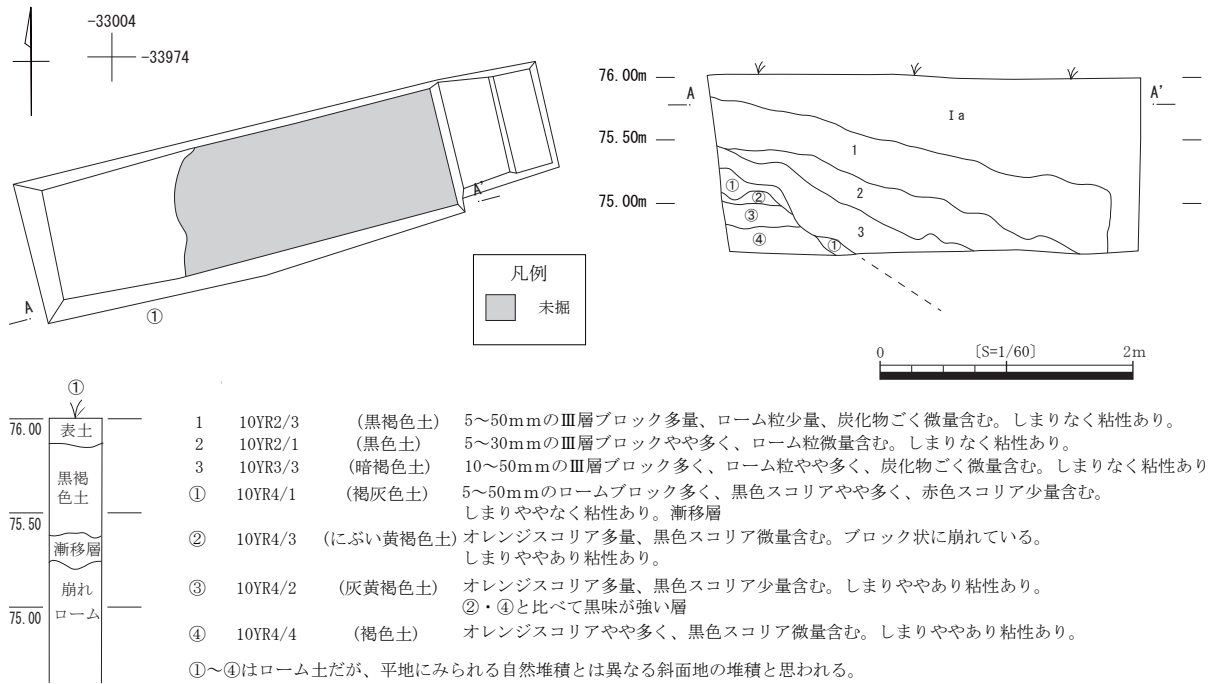
両トレンチともに地表下約 1.5 m の深さまで掘削したが、A トレンチでは東側に低く傾斜する土層堆積は見られたものの、明確な溝と思しき覆土の堆積は認められず、また B トレンチも全面で盛土・攪乱土が検出されたため、調査した範囲内からは遺構は検出されなかった。

遺物は表土中より縄文土器・石器、土師質土器、女瓦片が出土し、このうち縄文時代の石器 1 点を図示した (第 37 図)。

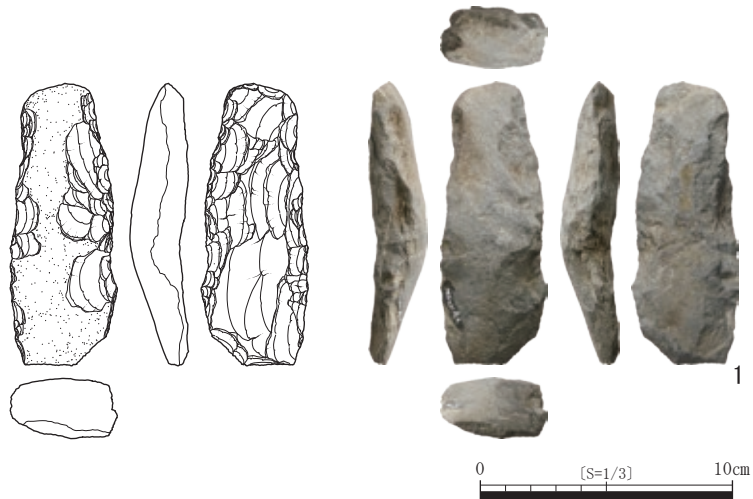
1 はホルンフェルス製の短冊形打製石斧である。側縁の形状は直線的で、長さ 11.2cm、幅 4.3cm、厚み 2.3cm、重量 118.4 g をはかる。



第 35 図 調査区配置図 (MK751)



第36図 武蔵国分寺跡第751次調査全体図



第37図 武蔵国分寺跡第751次調査出土遺物



写真35 Aトレンチ全景(東から)



写真36 Bトレンチ全景(南から)

(5) 武蔵国分寺跡第 752 次調査

所在地	泉町 1 丁目 11-26	武蔵国分寺跡 (No. 19)
令和元年 11 月 25 日付文化財保護法第 93 条第 1 項届出 (国教教ふ収第 775 号)		
調査原因	個人住宅	調査種別 確認調査
調査費用	国庫補助等	調査担当：平塚
調査期間	令和元年 12 月 2 日～12 月 6 日 (現場実働 4 日)	
調査面積	7.81 m ²	遺物箱数 1 箱
検出遺構	なし	
主な遺物	縄文土器	



第 38 図 調査地点位置図 (MK752)

1. 調査の経緯と目的

調査地点は東側に押切間の谷を望む武蔵野段丘上に立地し、多喜窪通り以北で、都立武蔵国分寺公園の東方に所在する。次節で報告する第 753 次調査地点の北側隣接地である。届出内容は、敷地西寄りに住宅、東寄りの現道沿いにガレージを設ける予定で、建物部はベタ基礎で地表下 24cm の掘削計画で埋蔵文化財に抵触はしないが、深基礎・擁壁・ガレージ部分は地表下 120cm まで掘削し、東側の道路路面までの高さに擦り合わせ、現況地形を大きく切土する計画であった。

周辺での調査履歴は少なく、遺構分布も希薄な地域であるが、西側隣接地で平成 24 年度に行った第 689 次調査において地表から 60cm の深さまでが I 層、その下部に堆積する III b～c 層から縄文時代中期の加曽利 E 式土器や黒曜石製石器が出土していることから (中道他 2014)、鋤取り範囲を中心に幅 2 m、長さ 4 m のトレンチを設定して調査に臨んだ (第 39 図)。

2. 発見された遺構と遺物

工事の掘削深度である地表から 120cm まで掘削したところ、遺構は検出されず、III c 層から縄文時代中期の土器が 1 点出土した。



第 39 図 調査区配置図 (MK752)



写真 37 調査区全景 (東から)

(6) 武蔵国分寺跡第 753 次調査

所在地	泉町 1 丁目 11-26	武蔵国分寺跡 (No. 19)
令和元年 12 月 10 日付文化財保護法第 93 条第 1 項届出 (国教教ふ収第 821 号)		
調査原因	個人住宅	調査種別 確認調査
調査費用	国庫補助等	調査担当：平塚
調査期間	令和 2 年 1 月 7 日～1 月 14 日(現場実働 5 日)	
調査面積	4.08 m ²	遺物箱数 1 箱
検出遺構	なし	
主な遺物	ガラス瓶 旧石器時代の剥片・礫	



第 40 図 調査地点位置図 (MK753)

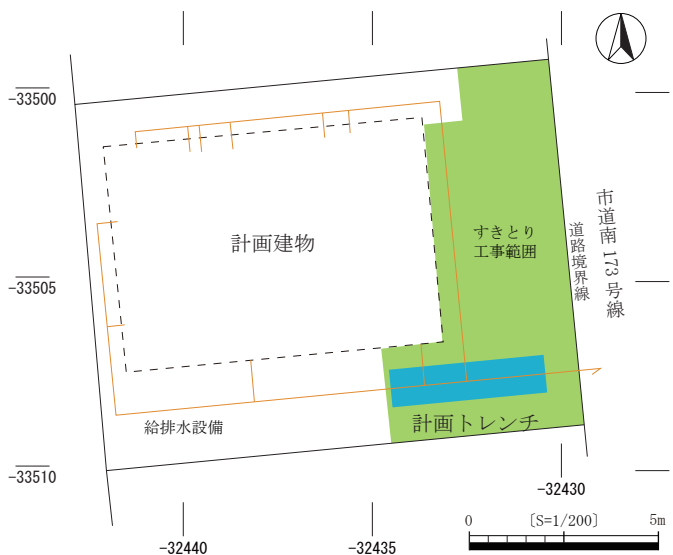
1. 調査の経緯と目的

前節で報告した第 752 次調査地点の南側隣接地である。届出内容は敷地西寄りに住宅、東寄りの現道沿いにガレージを設ける予定で、敷地南東隅の汚水桝付設箇所で道路面よりさらに 100cm 下まで掘削する計画であり、遺跡に抵触する可能性があったため、当該範囲に幅 1 m×長さ 4 m のトレンチを設定した (第 41 図)。

2. 発見された遺構と遺物

地表から 60cm でⅢ c 層が現れ、縄文時代の小穴 2 基と土器片 1 点が出土した。その後、人力でⅤ b 層まで掘削し、Ⅴ a 層より水晶製楔形石器 1 点と 10cm 代の礫 2 点 (被熱なし) が検出された。

第 42 図には表土出土のガラス瓶と水晶製石器を掲げた。1 は無色透明の水晶で、全長 1.8cm、幅 1.2cm、厚み 0.4mm、重量 0.6 g を測り、下端部が欠損する楔形石器である。2 は緑色透明で気泡のあるガラス瓶で、立面三角形、底部八角形状を呈し、スクリュー蓋が付く。底部には菱形と「永」字を組み合わせたエンボスがあり、口縁から底部際まで対角線上の 2 箇所パーティングラインが走る。品名・製造元は不明だが、形状から調味料瓶もしくは食用瓶の類かと思われる (桜井 2019)。

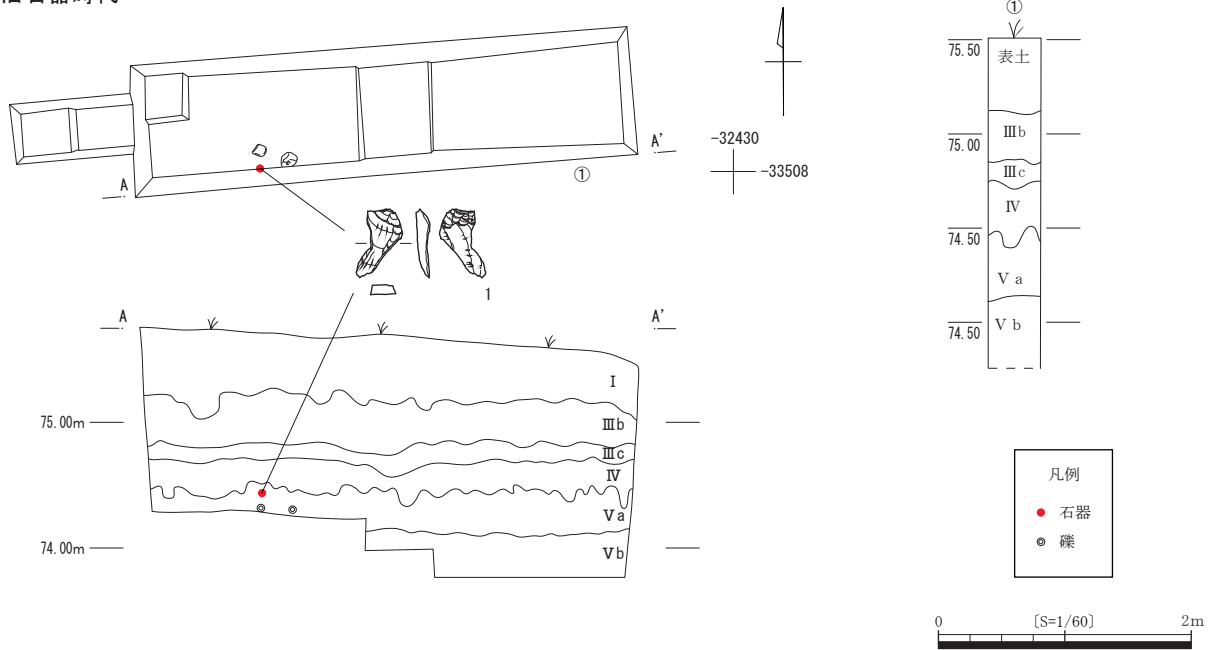


第 41 図 調査区配置図 (MK753)

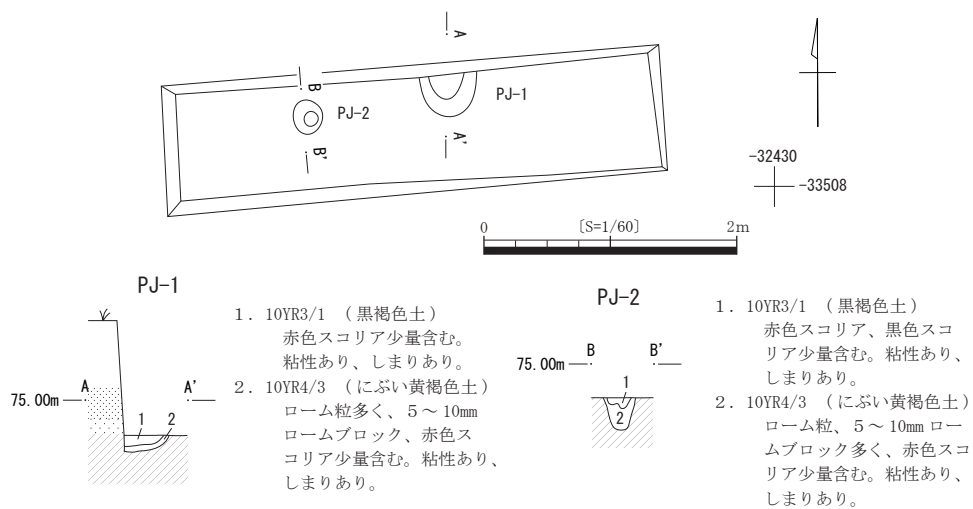


第 42 図 武蔵国分寺跡第 753 次調査出土遺物

旧石器時代



縄文時代



第 43 図 武蔵国分寺跡第 753 次調査全体図 (上段：旧石器時代、下段：縄文時代)



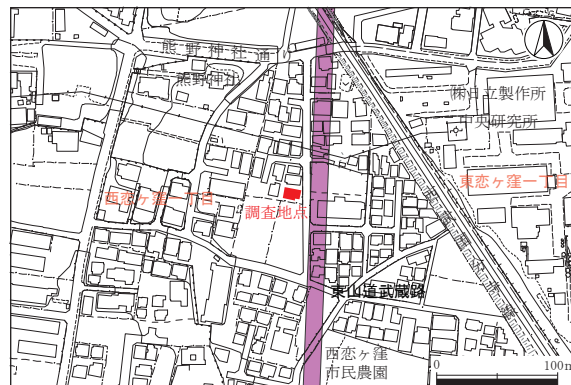
写真 38 Va 層遺物出土状況 (北から)



写真 39 縄文時代面全景 (西から)

(7) 恋ヶ窪遺跡第 105 次調査

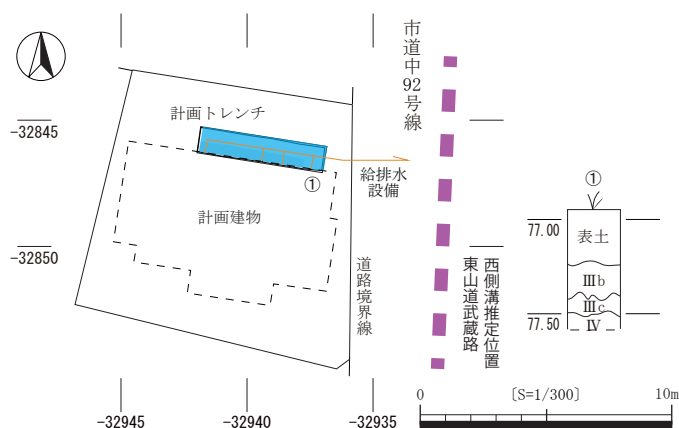
所在地	西恋ヶ窪 1 丁目 25-4	恋ヶ窪遺跡 (No. 2)
平成 31 年 2 月 12 日付文化財保護法第 93 条第 1 項届出 (国教教ふ収第 981 号)		
調査原因	個人住宅	調査種別 確認調査
調査費用	国庫補助等	調査担当：平塚・山本
調査期間	平成 31 年 4 月 8 日～4 月 10 日 (現場実働 3 日)	
調査面積	5.18 m ²	遺物箱数 1 箱
検出遺構	なし	
主な遺物	近世陶器 縄文土器	



第 44 図 調査地点位置図 (K2-105)

1. 調査の経緯と目的

調査地点は熊野神社南東側に位置し、南西方面に恋ヶ窪谷を望む標高 77.0 m の武蔵野段丘面上に立地する。恋ヶ窪遺跡における既往の調査状況に照らすと、縄文時代の竪穴住居群が密集する範囲からは西側へやや外れるものの、敷地東側の現道上では古代の東山道武蔵路の西側溝が走行する位置にあたる (第 12 図)。届出内容は木造 2 階建ての個人住宅建設で、建物根切底は地表下約 42cm と浅いが、建物北側沿いに付設される污水管部分の掘削が深くおよぶため、当該部分の一部に対して幅 1.0 m × 長さ 5.0 m のトレンチを設定して調査に臨んだ (第 45 図)。



第 45 図 調査区配置図 (K2-105)

2. 発見された遺構と遺物

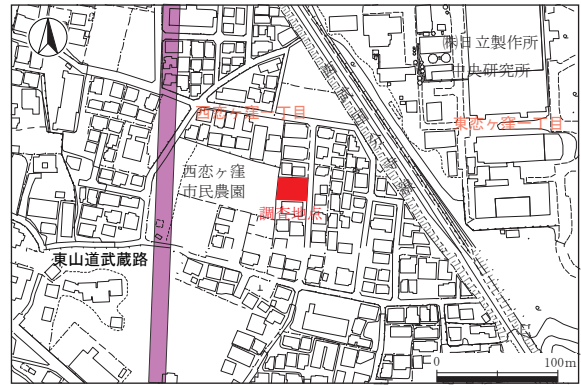
重機を使用して表土を除去すると III b 層が現れ、同層上面で精査したところ、遺構は検出されなかった。その後、III b・III c 層を順次人力で掘り下げて、IV 層上面で再度精査したが、遺構は検出されなかった (写真 40)。遺物は表土から、近世陶器 1 点と縄文土器 2 点が出土した。



写真 40 調査区全景 (東から)

(8) 恋ヶ窪遺跡第106次調査

所在地	西恋ヶ窪1丁目 19-13	恋ヶ窪遺跡 (No. 2)	
令和元年8月2日付文化財保護法第93条第1項届出 (国教教ふ収第419号)			
調査原因	分譲住宅	調査種別	確認調査
調査費用	国庫補助等	調査担当	桂・平塚
調査期間	令和元年12月6日～12月18日 (現場実働9日)		
調査面積	26.45 m ²	遺物箱数	1箱
検出遺構	土坑 (SK214J)		
主な遺物	縄文土器・石器		



第46図 調査地点位置図 (K2-106)

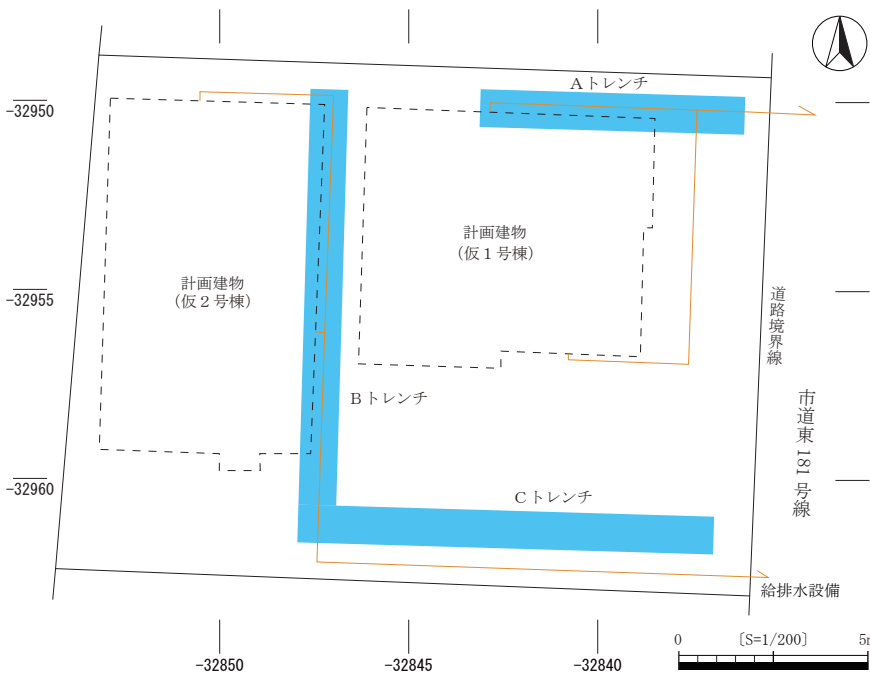
1. 調査の経緯と目的

調査地点は西武国分寺線の約75m西側に位置し、南方に恋ヶ窪谷を望む標高76.6mの武蔵野段丘面上に立地する。既往の調査状況に照らすと、敷地東側の現道上では縄文時代の竪穴住居が発見されており(第12図)、本敷地内にも住居群が広がることを予測した。届出内容は木造2階建て住宅を2棟建設する分譲住宅を計画し、建物根切底は地表下約27～50cmと浅いが、排水管敷設部分の掘削が根切底より深くおよぶため、当該部分の一部に対して幅1.0mのトレンチを3箇所を設定した。仮1号棟の北側をAトレンチ、仮2号棟の東側をBトレンチ、Bトレンチ南端から90度東へ屈曲するCトレンチと呼称する(第47図)。

2. 発見された遺構と遺物

地表から約60～90cmまでI層(表土)が占め、周辺一帯で通有縄文時代の遺物を含むⅢb・Ⅲc層は20cm程度と薄い堆積であった。遺物も案外と少なく、IV層(ソフトローム)上面まで掘削して精査した結果、土坑1基とピット16基がまばらに検出された(第48図)。

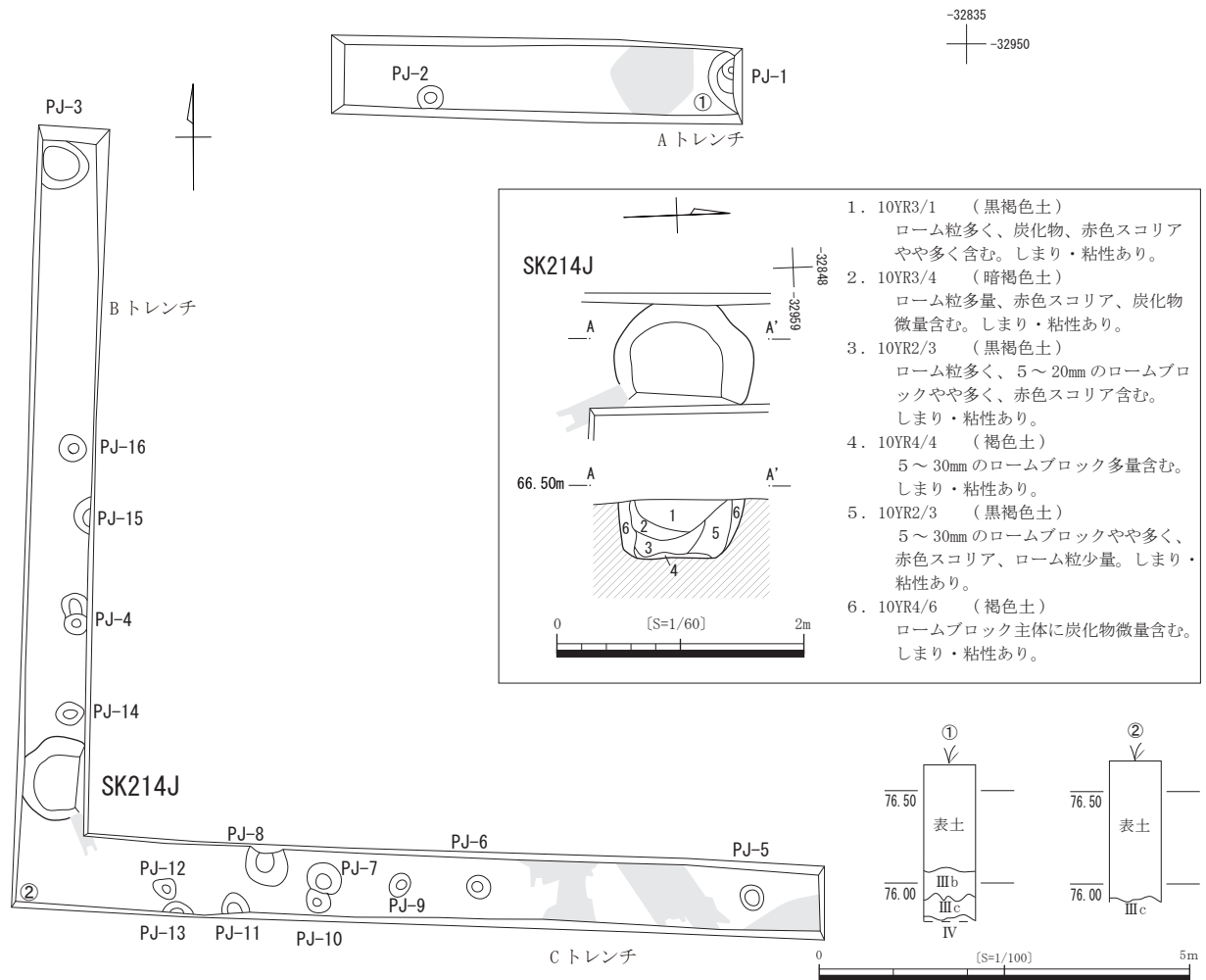
土坑(SK214J)は、B・Cトレンチ屈曲部付近で発見し、トレンチ幅での内側で全掘はしなかったが、



第47図 調査区配置図 (K2-106)

直径1.0mほどの円形プランを呈し、深さは50cmをはかる。坑底は平坦で、壁はやや直立気味に立ち上がる。覆土中には炭化物を含み、縄文土器6点と石器4点出土した。

ピットは配列に規則性は見られないが、B・Cトレンチの屈曲部付近に多く、敷地北・東側には少ない。いずれも直径30～40cmの円形基調の平面プランで、深さは約20～30cmと浅い。遺物はPJ-1・5・8・9・14から22点、Ⅲ層中より12

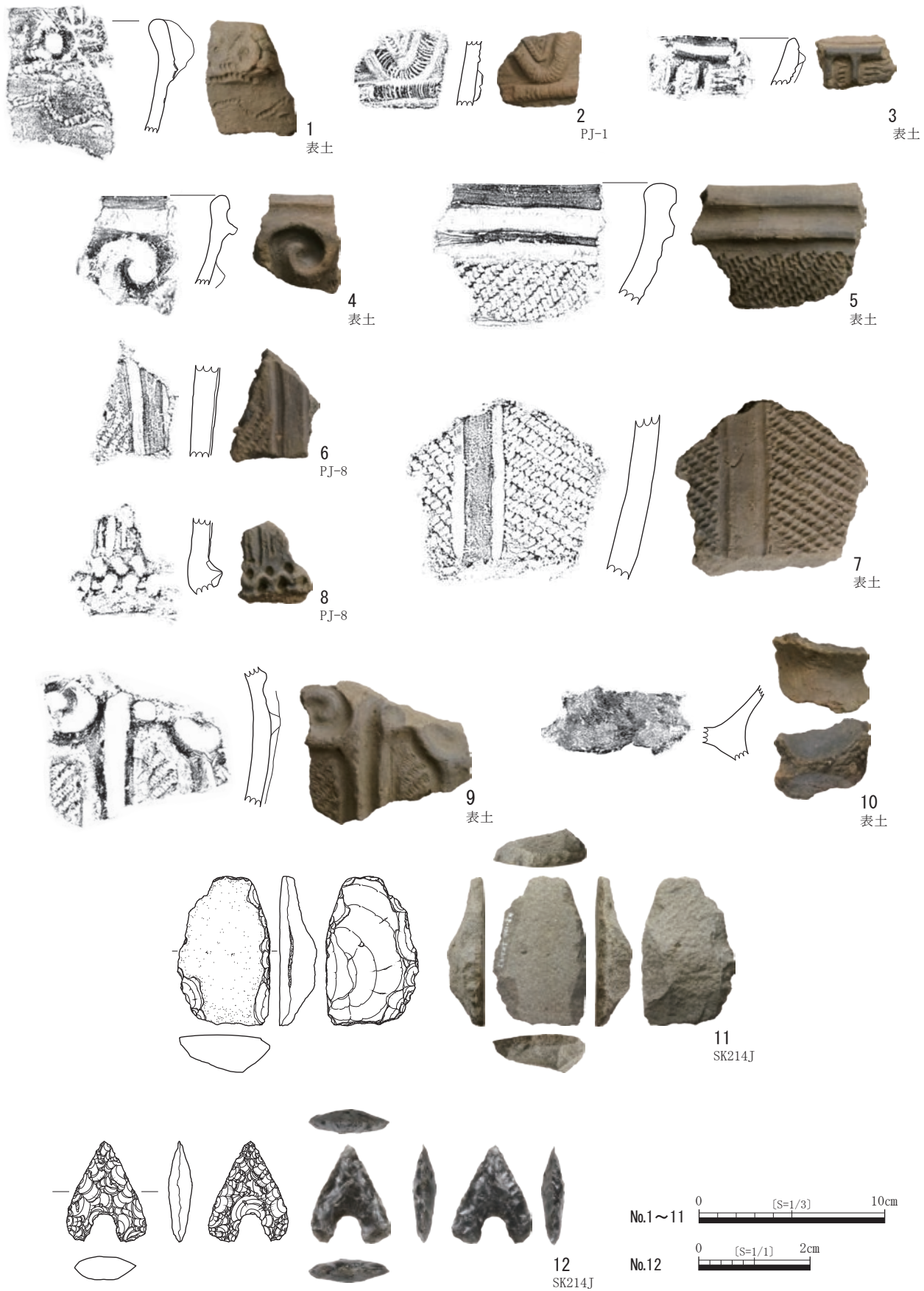


第 48 図 恋ヶ窪遺跡第 106 次調査全体図

点の縄文土器が出土した。

これらのうち 12 点の遺物を図示した (第 49 図)。1 は口縁部外面に突起と横位隆帯を貼付し、爪形状で、勝坂 1 式に比定される。表土出土。2 は隆帯区画に連続する爪形文と区画内に半弧状の刺突文を施し、横位隆帯の下部には僅かに縄文がみられる勝坂 2 式の深鉢で、PJ-1 より出土した。3 は加曾利 E 1 式の深鉢口縁部で、隆帯による区画内に L の捺糸文を横位に施文する。表土出土。4 は加曾利 E 2 式の深鉢口縁部で、幅広い沈線で渦巻文を巡らせる。表土出土。5 は隆帯による口縁部区画内に LR 縄文を横位に施す加曾利 E 3 式の深鉢口縁部で、口唇部から内面の磨きが入念である。表土出土。6・7 は同じく加曾利 E 3 式の深鉢胴部辺で、縦位に磨消帯を配し、沈線区画内には各々 RL・LR の縄文を縦位に施している。6 は PJ-8、7 は表土より出土した。8 は横位隆帯に円形押圧を交互に施して波状に成形し、上部は縦位に沈線を配する深鉢胴部片で、曾利式の文様要素とみられる。PJ-8 出土。9 は断面蒲鉾状の隆帯に、沈線で渦巻文を横位に巡らせ、下部は 0 段の多段 RL 縄文を縦位に施す深鉢胴部で、大木 8 b 式期のものであろう。表土より出土。10 は台付土器の台部で外面は縦位のナデ、内面はミガキを施す。表土出土。

11・12 は SK214J より出土した石器である。11 は正面に原礫面を大きく残す砂岩製の打製石斧で、長さ 80.47mm、幅 49.95mm、厚み 20.05mm、重量 88.08 g をはかる。左側縁は弧状に張るのに対して右



第 49 図 恋ヶ窪遺跡第 106 次調査出土遺物

側縁は直線状で、やや歪な短冊形を呈する。12は黒曜石製の石鏃である。基部の挟りはU字状の凹基無茎で、側縁は直線、先端角は53.2°と鋭利な形状を呈する。長さ18.11mm、幅14.36mm、厚み4.26mm、重量0.75gをはかる。

表5 恋ヶ窪遺跡第106次調査出土縄文土器観察表

1	器種・部位 深鉢口縁部 器形・調整 平口縁、口唇部円頭状、口縁部内湾、口唇部ナデ 文様の特徴 口縁部外面に突起を貼付。横位隆帯貼付。隆帯を突起には角押文が沿う(爪形状の連続押圧)。角押文を波状に施文。 縄文- 胎土 長石、石英、角閃石、小礫 時期 勝坂1 注記 K2-106表土 備考-
2	器種・部位 深鉢胴部 器形・調整 内面ナデ 文様の特徴 隆帯による区画。隆帯上連続爪形文施文。区画内は隆帯にキザミを加えた半隆起帯施文。半弧状の刺突文。横位隆帯下部に僅かに縄文が見られる。隆帯断面形状カマボコ状。 縄文 非常に僅かの為不明 胎土 長石、石英、赤色粒子 時期 勝坂2 注記 K2-106 PJ-1 備考-
3	器種・部位 深鉢口縁部 器形・調整 平口縁、口唇部円頭状、口縁部内湾、内面横位ナデ 文様の特徴 隆帯による区画・区画内の文様。区画内撚糸文施文。隆帯断面形状カマボコ状～角状。 縄文 撚糸文L横位 胎土 長石、石英、小礫、赤色粒子 時期 加曽利E1 注記 K2-106表土 備考-
4	器種・部位 深鉢口縁部 器形・調整 平口縁、口唇部円頭状、口縁部内湾、口唇部ミガキ、内面横位ミガキ 文様の特徴 幅広の沈線による渦巻文。隆帯断面形状カマボコ状。 縄文- 胎土 長石、石英、角閃石、小礫、赤色粒子 時期 加曽利E2 注記 K2-106表土 備考-
5	器種・部位 深鉢胴部 器形・調整 内面縦位ミガキ 文様の特徴 縄文施文。縦位磨消帯(1単位残存)。 縄文 RL縦位 胎土 長石、角閃石、小礫 時期 加曽利E3 注記 K2-106 PJ8 備考 胎土に5mm以上の礫が数個見られる。
6	器種・部位 深鉢口縁部 器形・調整 平口縁、口唇部円頭状、口縁部内湾、口唇部ミガキ、内面ナデ後横位ミガキ 文様の特徴 隆帯による口縁部区画。区画内縄文施文。隆帯断面形状カマボコ状。 縄文 LR横位 胎土 長石、角閃石、小礫 時期 加曽利E3 注記 K2-106表土 備考 K2-106-土5とK2-106-土6は同一個体
7	器種・部位 深鉢胴部 器形・調整 内面ナデ後上部横位ミガキ・下部縦位ミガキ 文様の特徴 縄文施文。縦位磨消帯(1単位残存)。 縄文 LR縦位 胎土 長石、角閃石、小礫 時期 加曽利E3 注記 K2-106表土 備考 K2-106-土5とK2-106-土6は同一個体
8	器種・部位 深鉢頸部 器形・調整 内面横位ナデ後横位ミガキ 文様の特徴 横位隆帯に円形押圧を交互に施し、波状に成形。上部に縦位沈線が見られる。隆帯断面形状カマボコ状。 縄文- 胎土 長石、石英、小礫 時期 曾利系か 注記 K2-106 PJ8 備考-
9	器種・部位 深鉢胴部 器形・調整 内面ナデ後横位ミガキ 文様の特徴 縄文施文。隆帯による文様。沈線による渦巻文。隆帯断面形状カマボコ状。 縄文 0段多条RL縦位 胎土 長石、石英、角閃石、小礫 時期 大木8b 注記 K2-106表土 備考-
10	器種・部位 台付土器台部 器形・調整 台付、外面縦位ナデ、内面ミガキ、台部内面ナデ 文様の特徴 残存部無文。 縄文- 胎土 長石、石英、小礫 時期 中期後半 注記 K2-106表土 備考-



写真 41 Bトレンチ全景 (南から)



写真 42 Cトレンチ全景 (西から)



写真 43 B・Cトレンチ全景 (南西から)



写真 44 SK214J 土層断面 (東から)



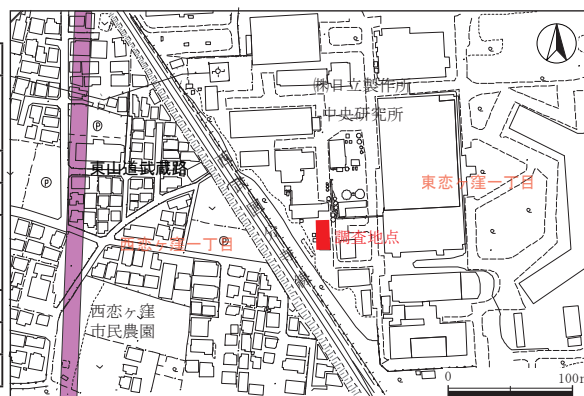
写真 45 Aトレンチ全景 (西から)



写真 46 作業スナップ

(9) 恋ヶ窪遺跡第 107 次調査

所在地	東恋ヶ窪 1 丁目 280 恋ヶ窪遺跡 (No. 2)		
調査原因	発電設備	調査種別	発掘調査
調査費用	開発事業主	調査担当	中野・針木
調査期間	令和元年 11 月 18 日～12 月 3 日 (現場実働 5 日)		
調査面積	120 m ²	遺物箱数	2 箱
検出遺構	屋外炉 (SK215J)		
主な遺物	縄文土器・石器 大正～昭和時代の煉瓦		



第 50 図 調査地点位置図 (K2-107)

1. 調査に至る経緯

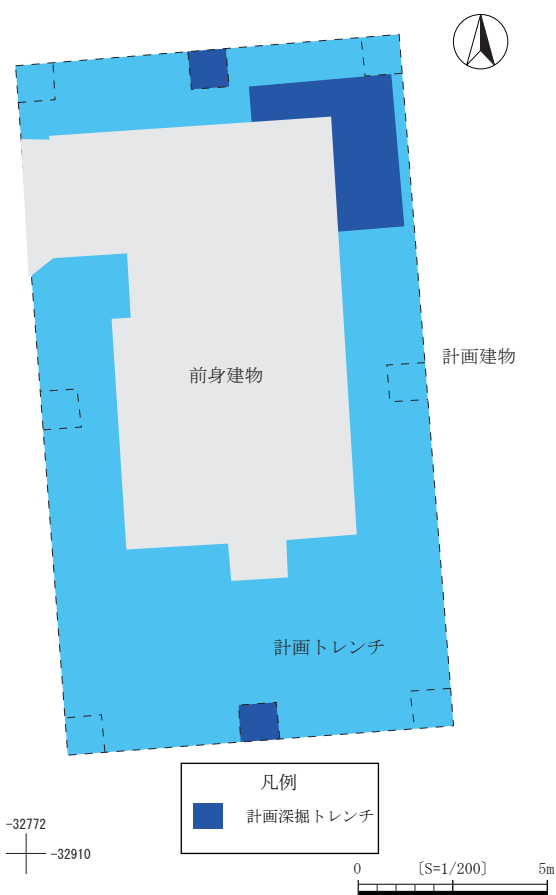
株式会社日立製作所中央研究所（以下「日立中研」と略）は、三方を開析谷に囲まれた野川源流域の舌状台地上に位置する。敷地は 20 万 m² を優に超え、武蔵野の面影を残す貴重な自然が残されている。野川の源泉を崖下に臨み、水利に恵まれ集落を営むに優れた当地周辺では、過去の調査で縄文時代中期を中心とする竪穴住居・土坑等の遺構・遺物が数多く出土している（第 12 図）。こうした環境にある日立中研内で、発電設備新設工事が実施されることとなった。これに伴い、日立中研から市教委へ埋蔵文化財の取り扱いについて照会が寄せられた。

建設予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である恋ヶ窪遺跡に該当するため、市教委は日立中研に対し

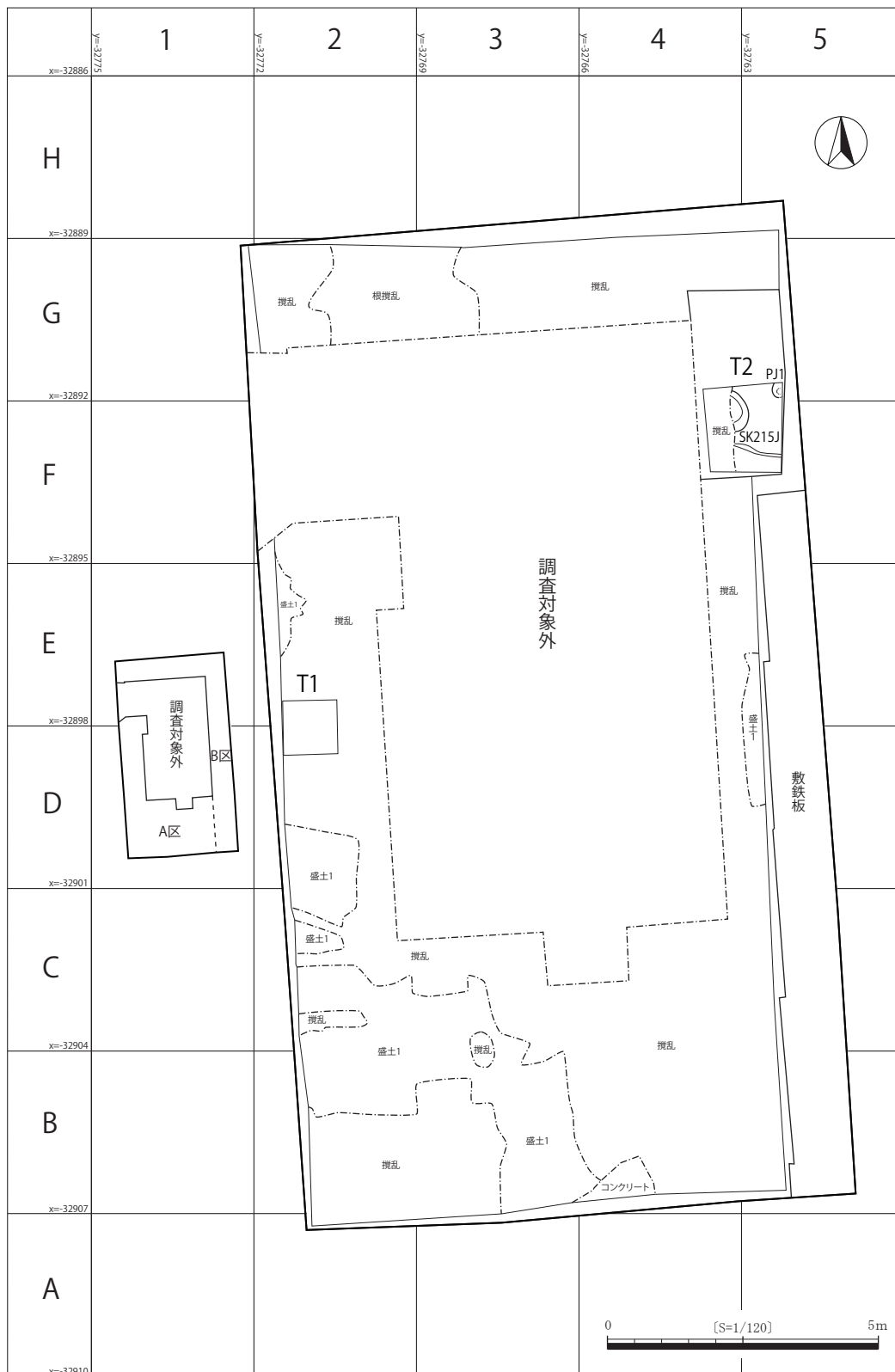
法 93 条に基づく埋蔵文化財発掘の届出の提出が必要であることを伝え、令和元年 10 月 21 日付で日立中研から届出が提出された（国教教ふ収第 689 号）。敷地中央にあった既存建物は地階を有する構造のため、当該部分はすでに遺跡は滅失していると思われたが、新設建物の基礎工事が深度 0.6 m、一部は 1.8 m まで掘削する工事内容で、遺跡への影響が及ぶ可能性があった。そこで市教委は、「工事等により埋蔵文化財が掘削されるため事前調査が必要である」との意見を付けて都教委へ届出を進達するとともに、日立中研へその旨を明記した埋蔵文化財協議書を返送した。

返送後、ただちに市教委は日立中研と工事に先立つ発掘調査実施に向けた調整を開始し、11 月 15 日付で日立中研・市教委、及び調査受託会社である共和開発株式会社（以下「共和開発」と略。※現トキオ文化財研究所）の三者間で「株式会社日立中央研究所 発電設備新設」工事に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する協定書を締結した。

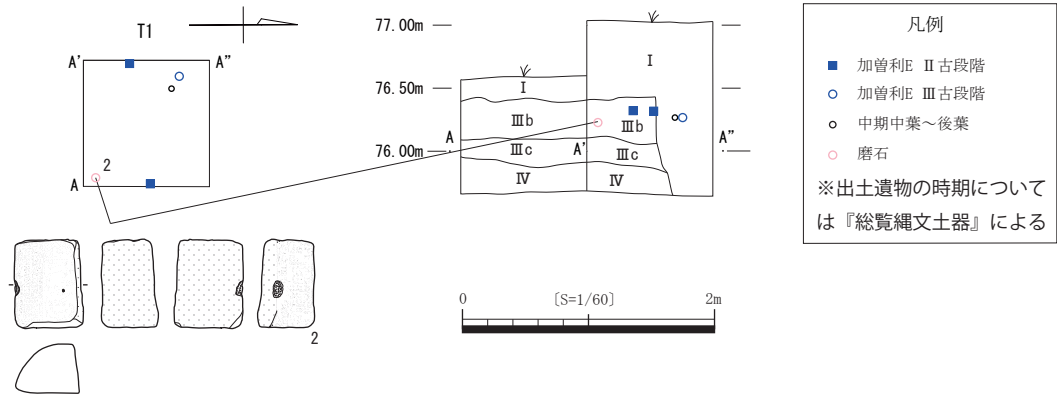
発掘調査は法 99 条に基づき市教委が主体となって実施することとし、作業支援を共和開発が請負う



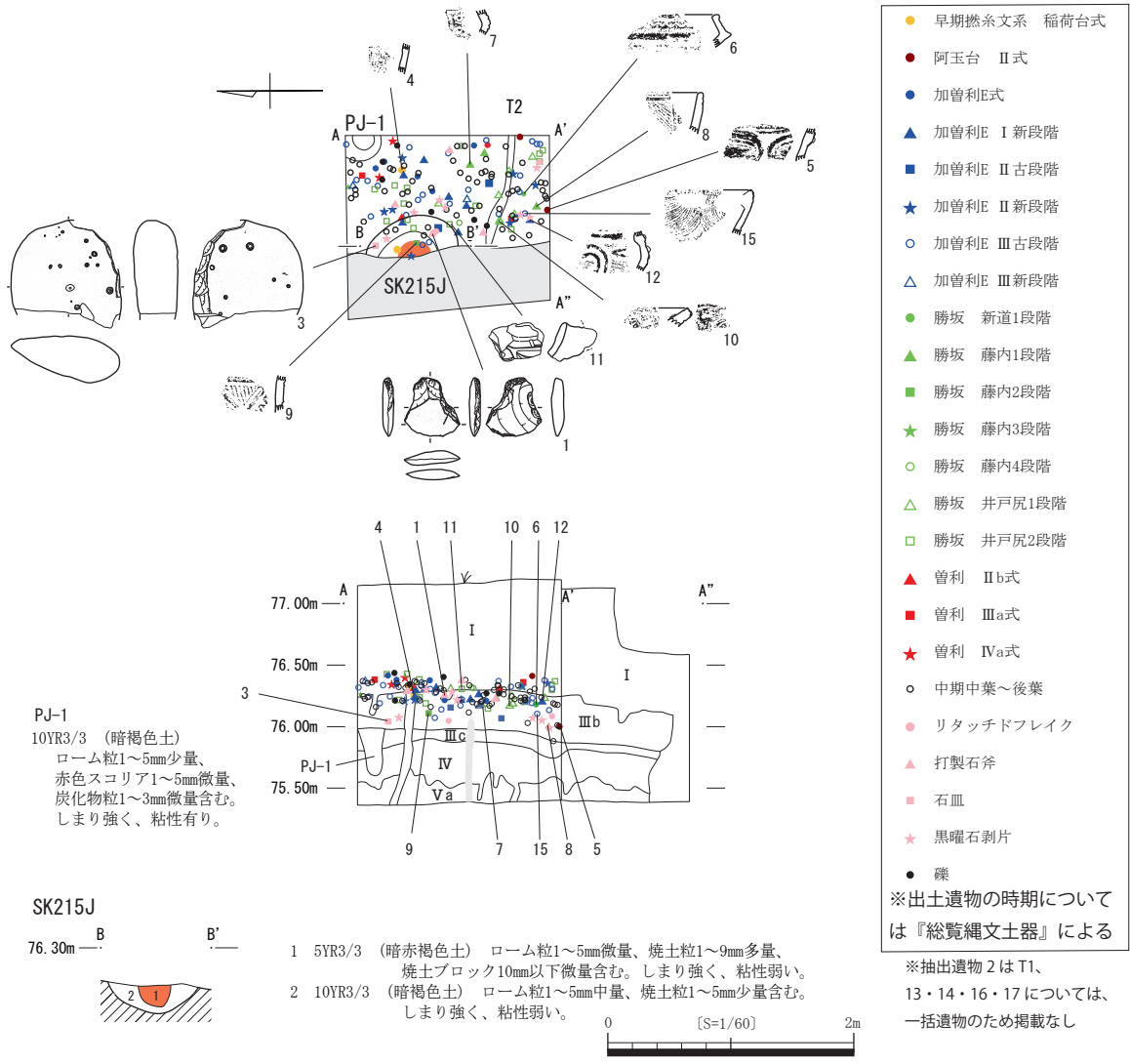
第 51 図 調査区配置図 (K2-107)



第 52 図 恋ヶ窪遺跡第 107 次調査全体図



第53図 T1調査区遺物出土状況



第54図 T2調査区遺物出土状況

かたちで11月18日から調査を開始し、現地での作業は12月3日に終了した。なお、本発掘調査で出土した遺物については、12月10日付で市教委から都教委へ埋蔵文化財保管証を提出している（国科教ふ発第165号）。

2. 発見された遺構と遺物

調査区東側に工事仮設事務所が残っていたため、調査区を南側（A区）、北側（B区）に分割して行った。表土掘削のためアスファルト舗装を切断し、重機により現況地盤から約0.6mの深さまで掘削を行い、人力にて遺構確認精査、写真・測量等の記録を行った。A区では配管設置予定箇所（調査区西端中央部）に1m四方の深掘りトレンチ（T1）を設け、現況地盤から約1.5mの深さまで人力で掘削し、遺物の位置の記録、土層断面図作成及び写真による記録を行った。B区では計画建物基礎が現況地盤から約1.8mまで及ぶ箇所（調査区北東部）に深掘りトレンチ（T2）を設け、人力にて現況地盤から約1.8mの深さまで掘削し、遺構の調査、遺物の位置の記録、土層断面図作成、写真撮影等の記録を行った。調査終了後、重機・機材を撤収し、現地の作業を終了した。

A・B区共に、建物基礎工事影響深度である現況地盤から0.6mまで表土掘削を行ったものの、自然堆積層は検出されず、全面近現代の盛土層（盛土1層）または現代の攪乱であった。また、配管設置予定箇所と計画建物基礎工事予定箇所には深掘りトレンチを設けた（T1・T2）。T1では現況地盤から約1.5m人力にて掘り下げ、深度0.7m程で遺構確認面である自然堆積層（Ⅲb層）を検出し、以下Ⅲc・Ⅳ層を確認した。遺物は少数であったが、Ⅲb層から出土している。T2では現況地盤から約1.8mまで人力にて掘り下げ、深度0.9m程で遺構確認面である自然堆積層（Ⅲb層）を検出し、以下Ⅲb・Ⅳ・Ⅴ層を確認した。遺物は主に盛土2層・Ⅲb層から出土している。

今回の調査で検出された遺構は、土坑1基・ピット1基である。いずれも調査区北東部に設けた深掘りトレンチ（T2）内で確認された（第54図）。

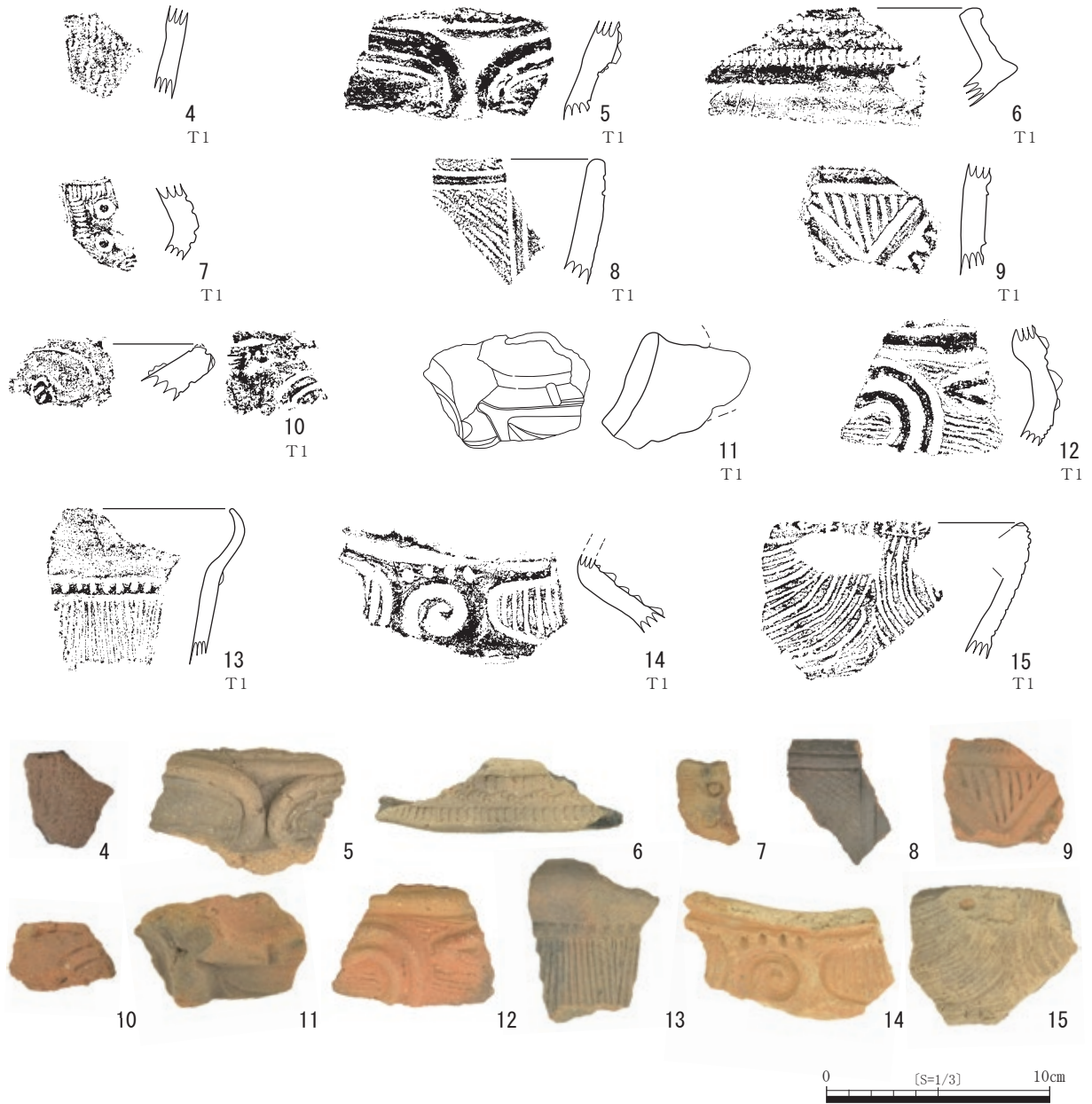
SK215Jは西側が攪乱に切られる。平面形は楕円形を呈するものと思われ、長軸0.75m、短軸0.34m、深さ0.23mを測り、断面形は中心部に向かってやや窄まる形状を呈する。覆土中に多量の焼土の集中（1層）がみられることから屋外炉と推測される。遺物は縄文土器2点（中期中葉～後葉2点）が出土した。出土遺物と覆土の様相から、縄文時代中期中葉～後葉の所産と考えられる。

PJ-1は東側が調査区外となる。平面形は楕円形を呈するものと思われ、長軸0.23m、短軸0.1m、深さ0.38mを測り、断面形は上部に向かってやや開く形状を呈する。遺物は縄文土器1点（中期中葉～後葉1点）、礫1点が出土した。出土遺物と覆土の様相から縄文時代中期中葉～後葉の所産と考えられる。

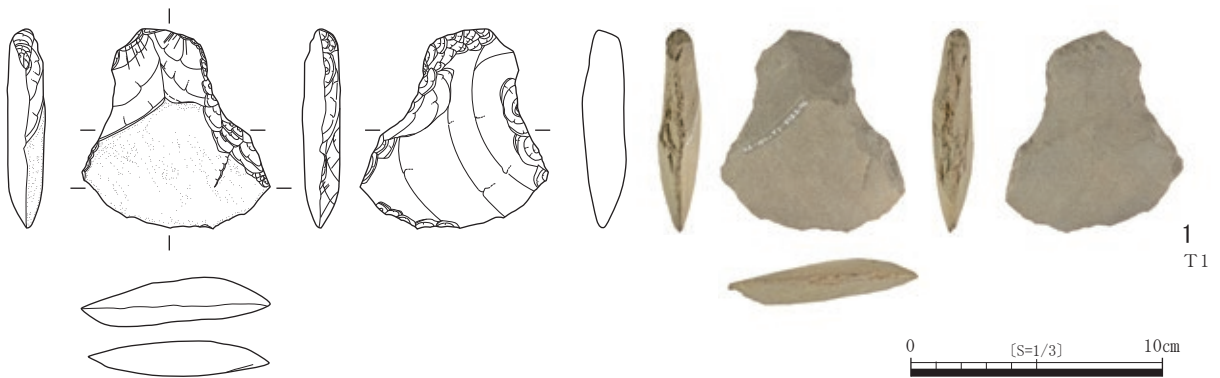
遺物はテンバコ2箱分出土し、総数は313点で縄文土器点数（早期：撚糸文系2点、中期：阿玉台式5点、勝坂式49点、曾利式7点、加曾利E式75点、中期中葉～後葉：型式不明145点）、石器15点（リタッチドフレイク2点、打製石斧4点、磨石1点、石皿1点、黒曜石剥片7点）、礫11点、近現代の煉瓦2点、磁器1点、スレート瓦1点である。そのうちの石器3点、縄文土器12点、煉瓦2点の計17点の遺物を図示した（第55～58図）。

1～4は縄文時代の石器を掲げた。1は砂岩の打製石斧の完品である。2は閃緑岩の磨石だが、敲打痕も認められる。3は閃緑岩の石皿で、表裏面共に摩耗しており、摩耗面に凹みがみられる。

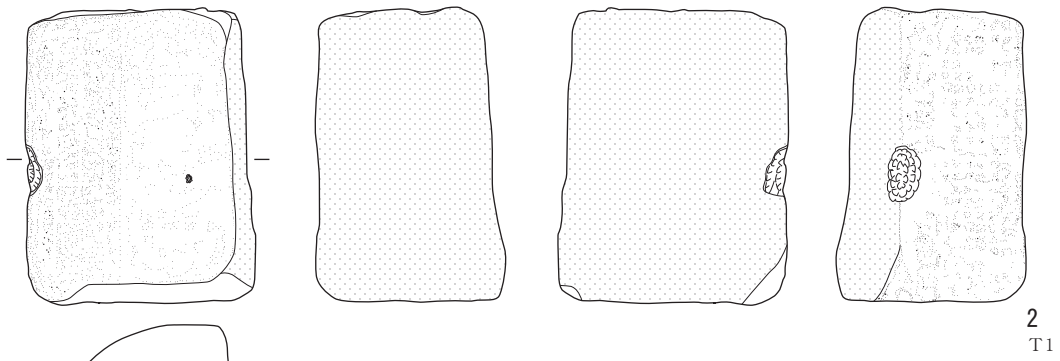
4～15は縄文土器である。4は早期撚糸文系の稻荷台式土器の胴部片で、単節縄文LRが斜位に浅く施文されている。5は阿玉台Ⅱ式の深鉢の口縁部片で、隆帯による楕円形区画内に二重沈線や波状沈線を施文している。6は勝坂式新道1段階の浅鉢の口縁部片で、隆帯に添って区画内にキャタピラー文を



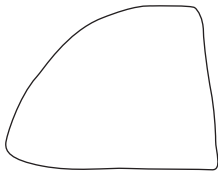
第55図 恋ヶ窪遺跡第107次調査出土縄文土器



第56図 恋ヶ窪遺跡第107次調査出土縄文石器（1）

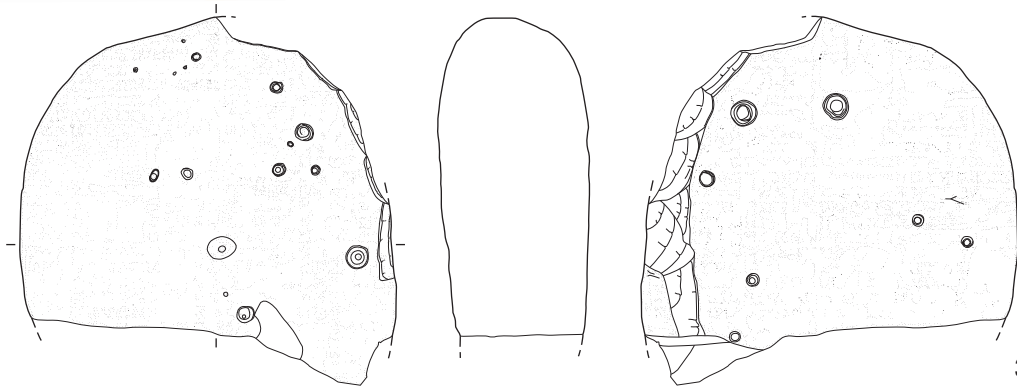


2
T1

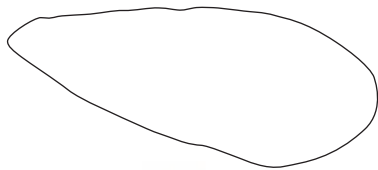


凡例
●●●●●●
摩耗範囲

0 [S=1/3] 10cm



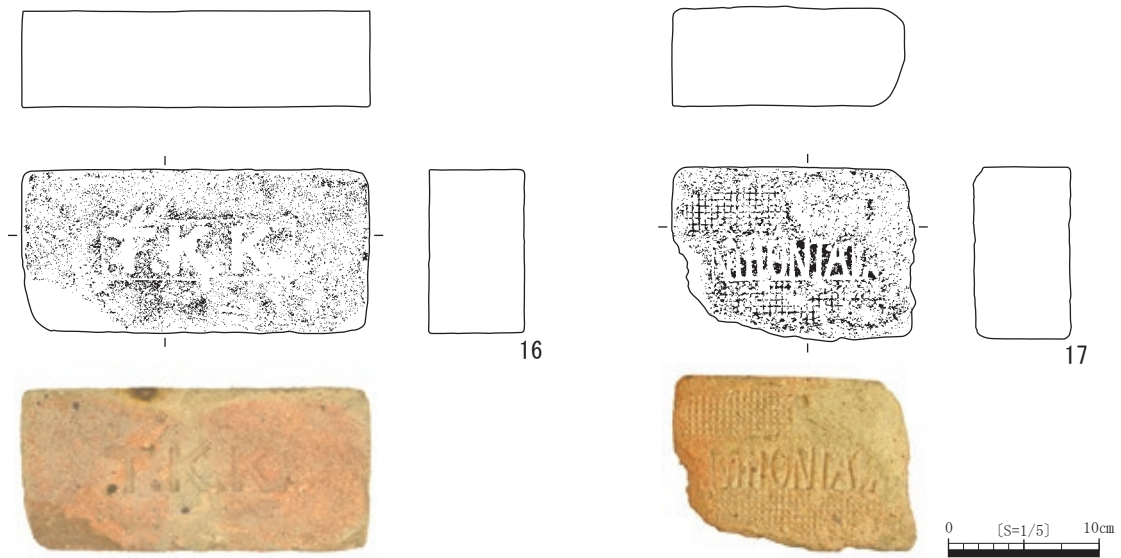
3
T1



0 [S=1/5] 10cm



第 57 図 恋ヶ窪遺跡第 107 次調査出土縄文石器 (2)



第 58 図 恋ヶ窪遺跡第 107 次調査出土近代遺物

施し、その内側に三角押文によって波状に施文している。7 は勝坂式藤内 1 段階の深鉢の胴部片で、竹管による連続爪型文と円形竹管文を施文している。8 は勝坂式藤内 1 段階の深鉢の口縁部片で、竹管による平行沈線文と単節縄文 RL を施文している。9 は勝坂式藤内 2 段階の深鉢の胴部片で、重三角文がみられる。10 は府中市の中山真治氏と国学院大学栃木短期大学の中村耕作氏のご教示によると、浅鉢の口縁部片で、口唇部～口縁部は半裁竹管による沈線文と隆帯を貼り付けており、内面にも隆帯による渦巻状文を貼っている。勝坂式井戸尻 1 段階と思われる。11 は勝坂式井戸尻 2 段階の深鉢で、上部に付く円形の窓をもつ把手が欠損しているものと思われ、へら状工具による刻みの入った隆帯が縦位に付く。また、三叉文の一部がみられる。12 は加曾利 E I 式新段階の深鉢の口縁部片で、横位に撚糸文を施文後、隆帯による S 字状文を貼り付けている。13 は曾利 I A 式のミニチュア土器の口縁～胴部片で、口縁部無文帯と、胴部の境はキザミのある隆帯を巡らし、胴部は縦位に半裁竹管による縦位条線を施文している。14 は加曾利 E II 式新段階の浅鉢の口縁部片で、細い円形竹管文、低い隆帯による渦巻文や楕円形区画内に縦位沈線を施文している。15 は加曾利 E III 式古段階の深鉢の口縁部片で、外面は半裁竹管による重弧文、内面は欠損しているが、二重口縁を形成していたものと思われる。

16・17 は表土攪乱土中より採集した近代遺物である。16 は耐火煉瓦で T.K.K と刻印されており、製造会社は不明である。17 も耐火煉瓦で、清瀬市郷土博物館の中野光将氏のご教示によると、大正 5 年設立の日本耐火煉瓦製で、大正後期以降の所産とのことである。不明瞭ではあるが、遺存部から推測するに NIHONTAIKA と刻印されていたものと思われる。



写真 47 調査区全景 (南から)



写真 48 作業スナップ (北から)



写真 49 T1 調査区全景 (東から)



写真 50 T1 調査区西壁土層断面 (東から)



写真 51 T2 調査区全景 (東から)



写真 52 SK215J 屋外炉検出状況 (西から)



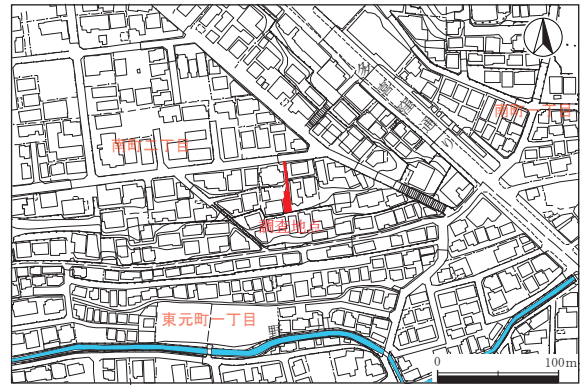
写真 53 SK215J 屋外炉焼土検出状況 (西から)



写真 54 T2 調査区遺物出土状況 (東から)

(10) 殿ヶ谷戸遺跡第17次調査

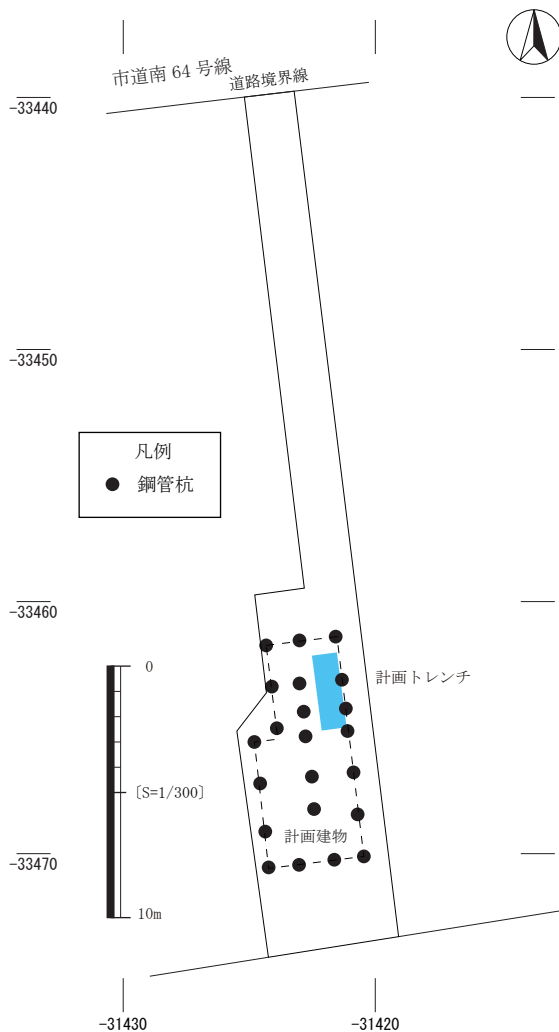
所在地	南町2丁目2-17	殿ヶ谷戸遺跡 (No. 21)
令和元年6月27日付文化財保護法第93条第1項届出 (国教教ふ収第296号)		
調査原因	個人住宅	調査種別 確認調査
調査費用	国庫補助等	調査担当：平塚・本山
調査期間	令和元年7月3日～7月8日(現場実働3日)	
調査面積	8.54㎡	遺物箱数 1箱
検出遺構	なし	
主な遺物	旧石器時代の石器(剥片)	



第59図 調査地点位置図 (K21-17)

1. 調査の経緯と目的

調査地点のある南町2丁目一帯は東側に本多谷、西側に殿ヶ谷戸谷と呼ばれる開析谷に挟まれた、南へ三角形に張り出す舌状台地で、眼下に野川を望む標高71mの武蔵野段丘面に立地する。届出内容は、台地南縁の傾斜地に木造2階建ての個人住宅建設を予定し、住宅部の基礎には地盤補強のため管径139.8mm、拡底翼径300mmの鋼管杭を22本打設する計画で、地中に与える影響が大きいため、建物北東側の一部に対して幅1m、長さ3mの南北トレンチを1本設定して調査に臨んだ(第60図)。



第60図 調査区配置図 (K21-17)

2. 発見された遺構と遺物

表土は重機を使用して掘り下げると、地表下約70cmで崩れた再堆積ロームが現れ、その直下で始良丹沢火山灰(AT層)を含むVII層を検出した。以下、人力でX層まで丁寧に掘り下げを進めたところ、VII・VIII層境では現況地形と連動した傾斜堆積がみられたが、VIII・IX層境より下層はほぼ水平の土層堆積状況を確認した(第61図・写真57)。

遺物は崩れローム層から頁岩製剥片1点が出土し(写真55)、第62図に示した。1は縦長の剥片で、長さ25.14mm、幅19.49mm、厚み7.38mm、重量17.78gをはかる。原礫面に打面があり、末端はフェザーエッジ状を呈する。



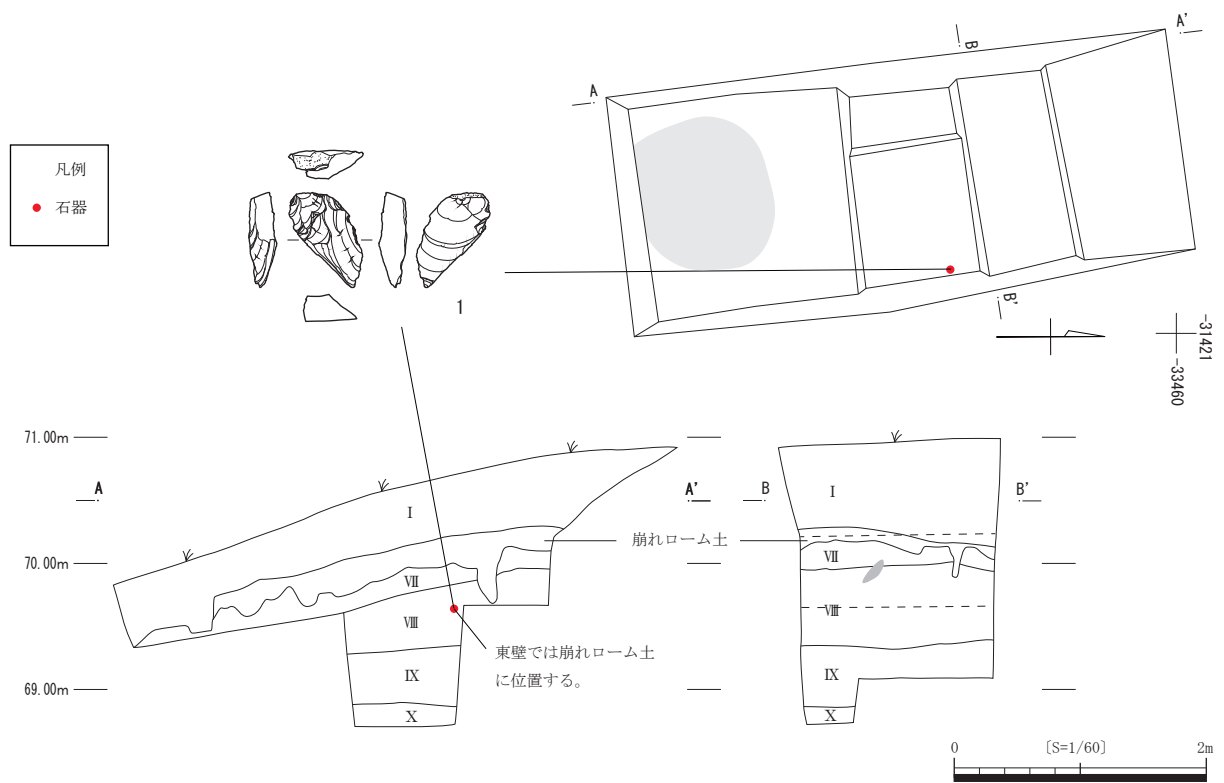
写真55 遺物出土状況(西から)



写真 56 調査区全景（北から）



写真 57 西壁土層断面（東から）



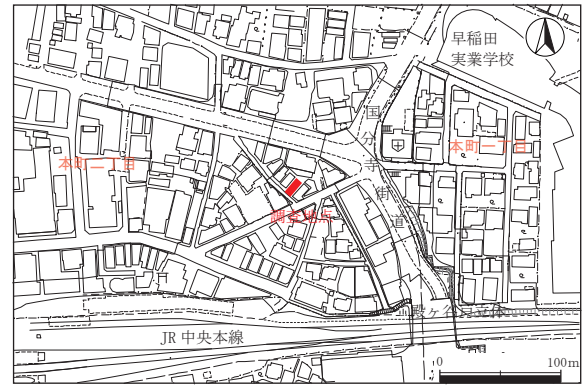
第 61 図 殿ヶ谷戸遺跡第 17 次調査全体図



第 62 図 殿ヶ谷戸遺跡第 17 次調査出土遺物

(11) 本町（国分寺村石器時代）遺跡第 18 次調査

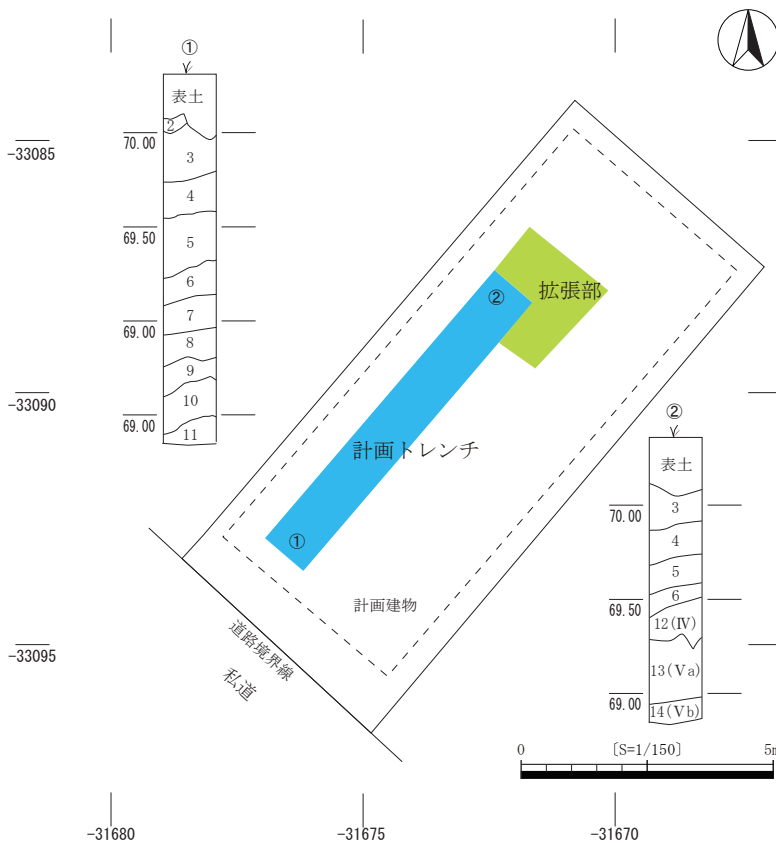
所在地	本町 2 丁目 7-4	本町（国分寺村石器時代） 遺跡（No. 28）	
令和元年 8 月 9 日付文化財保護法第 93 条第 1 項届出 （国科教ふ収第 450 号）			
調査原因	事務所	調査種別	確認調査
調査費用	国庫補助等	調査担当	平塚・富田
調査期間	令和元年 9 月 11 日～9 月 26 日 （現場実働 10 日）		
調査面積	7.56 m ²	遺物箱数	1 箱
検出遺構	不明遺構（SX1）		
主な遺物	縄文土器・石器		



第 63 図 調査地点位置図（K28-18）

1. 調査の経緯と目的

調査地点は本町遺跡として周知される範囲の北側で、東側に本多谷を望む標高 70.4 m の武蔵野段丘面上に立地する。同遺跡は縄文時代中期の集落跡を主体とする遺跡で、これまでの調査では本地点より約 80 m 南方の JR 中央線沿いで多くの竪穴住居跡群が分布することが判明しているが（第 13 図）、敷地の西側で平成 29 年度に実施した第 17 次調査において、密集する住居分布域から離れて中期末の敷石住居跡が 1 軒検出されたことから（依田 2020）、周辺にも遺構が広がることが予測された。届出内容は地上 4 階建ての事務所建築工事で、地表下 250cm のピットを付設する計画であったため、建物建設予定地の東縁沿いに幅 1.0 m、長さ 7.0 m のトレンチを設定して調査に臨んだ（第 64 図）。

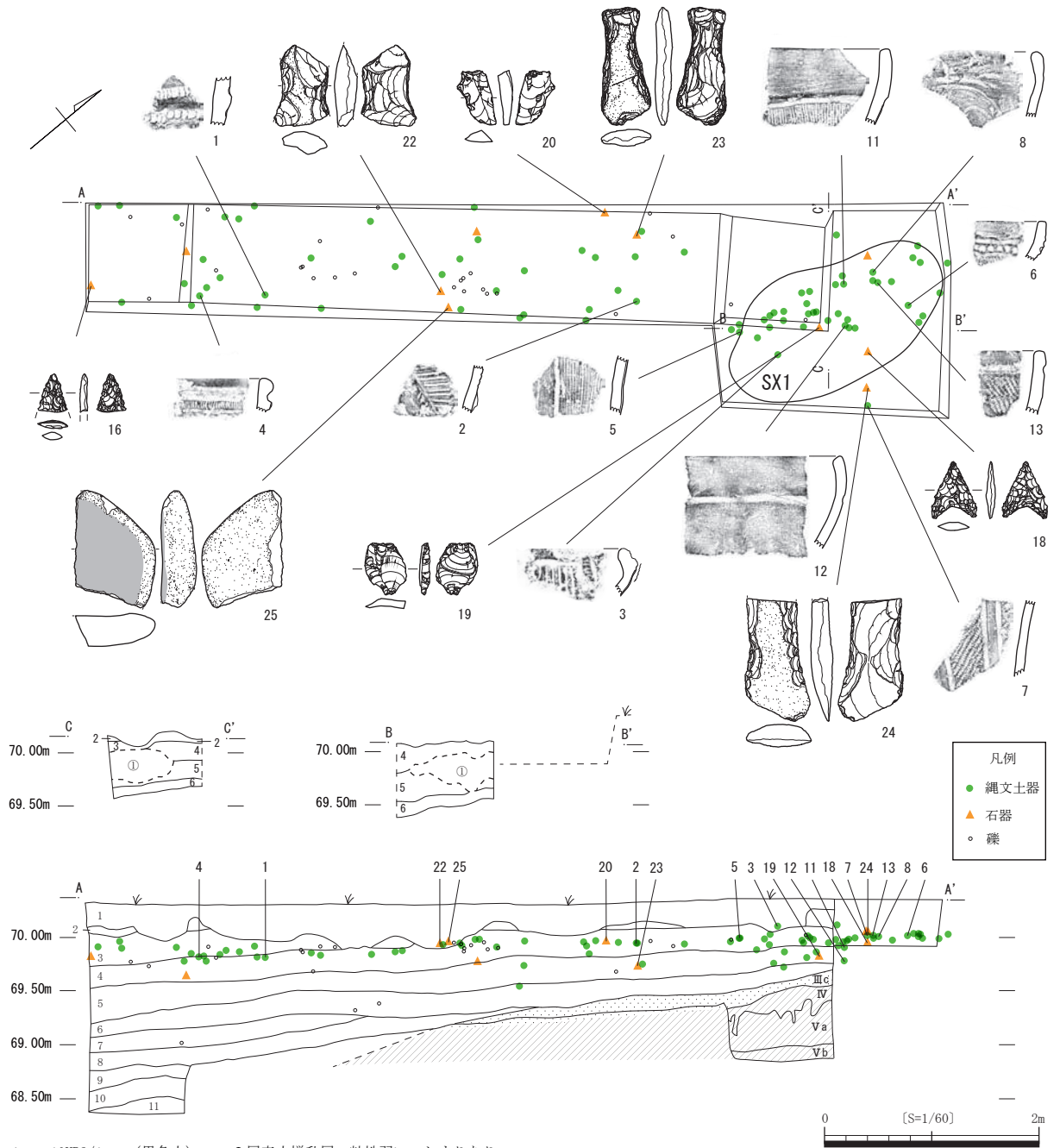


第 64 図 調査区配置図（K28-18）

2. 発見された遺構と遺物

重機を用いて表土を掘削すると、地表下約 40cm の深さで粘質な黒褐色土が一面に現れ、縄文土器が出土し始めたため、以下は人力に切り替えて掘り下げを進めることにした。その過程で、トレンチ北側に遺物が多く分布する範囲を捉え、その広がり追求のために調査区北端から、さらに北と東側に 1 m ずつ拡張してみたが、明確な掘り込みを伴う遺物集中ではないことを確認し、さらなる拡張はしないこととした。

なお、拡張部分でやや遺物がまとまる範囲を、便宜的に「SX1」として遺構登録を行った。その範囲は南北 2.2 m × 東西 1.2 m におよび、縄文土器片 31 点、石器 2 点のほか、礫が 1,000 点以



- | | | | |
|-----|----------|--------|---|
| 1 | 10YR2/1 | (黒色土) | I層表土攪乱層。粘性弱い、しまりあり。 |
| 2 | 10YR2/2 | (黒色土) | ローム粒子を微量、赤色スコリアを極微量含む。粒子粗く団粒状。粘性弱い、しまりあり。 |
| 3 | 10YR3/2 | (黒褐色土) | ローム粒子を微量、赤色スコリア・黒色スコリアを極微量含む。粒子粗くやや団粒状。粘性弱い、しまりあり。 |
| 4 | 10YR3/2 | (黒褐色土) | ローム粒子を微量、赤色スコリア・黒色スコリアを極微量含む。縄文時代の遺物包含III層相互層。粘性あり、しまり強い。 |
| 5 | 10YR3/2 | (黒褐色土) | ローム粒子を微量、赤色スコリア・黒色スコリアを極微量、縄文時代の遺物包含III層相互層。粘性やや強い、しまりやや強い。 |
| 6 | 10YR2/2 | (黒褐色土) | ローム粒子・赤色スコリア・黒色スコリアを微量。粘性あり、しまり強い。 |
| 7 | 10YR2/1 | (黒色土) | ローム粒子・赤色スコリア・オレンジスコリア・黒色スコリアを微量。粘性強い、しまり強い。 |
| 8 | 10YR3/3 | (暗褐色土) | ロームをやや多量、赤色スコリア・オレンジスコリアをやや微量、黒色スコリアを微量。粘性あり、しまり強い。 |
| 9 | 10YR4/6 | (褐色土) | 赤色スコリア・オレンジスコリアをやや微量、黒色スコリアを微量、灰色スコリアをやや多量。粘性強い、しまり強い。 |
| 10 | 7.5YR4/6 | (褐色土) | 赤色スコリア・黒色・灰色スコリアを微量、オレンジスコリアをやや微量、やや粘性が強く粗粒シルト質。粘性強い、しまり強い。 |
| 11 | 7.5YR4/4 | (褐色土) | 赤色スコリア・オレンジスコリアを微量、黒色スコリアを極微量、灰色スコリアを微量粘性が強いシルト質。粘性極強い、しまり強い。 |
| SX1 | | | |
| 1 | 10YR3/2 | (黒褐色土) | 粘性あり、しまり強い。焼土粒・炭化物を極微量含む。 |

第 65 図 本町遺跡第 18 次調査全体図・遺物出土状況図



写真 58 調査区全景（南西から）



写真 59 SX1 土層断面（西から）



写真 60 南西部土層断面（南東から）



写真 61 SX1 遺物出土状況（南西から）

上含んでおり、このうち3 cm未満が1,340点、3～7 cm大のものが192点、7 cm以上が3点を数え、いずれも加工痕や被熱等の痕跡は認められなかった。

上記の礫以外の遺物は出土位置を記録しながら取り上げつつ、黒色土の掘削をローム層まで続けた結果、黒色土の堆積はトレンチ北側で70cmであるのに対して南側で1.5 m以上にもおよび、調査地周辺の旧地形は、南側へやや低く傾斜している状況が判明した。調査範囲内からは、主として標高69.9 m前後の第4層付近で遺物の分布が多く、縄文土器114点と石器10点が出土したが、このうち土器15点と石器10点を第66・67図に掲げた。

1～4は葛坂2～3式の深鉢である。1は隆帯両側にキザミを施文、2も連続押圧のある隆帯に区画された内側を横位の沈線を施している。いずれも胴部片。3は口縁部片で、文様構成は2と同じく隆帯区画の内側を縦位沈線で充填し、4は口縁に沿って太い沈線を横に巡らせ、隆帯上に連続する爪形文を刻んでいる。5～12は加曽利E3～4式で、12の浅鉢以外は深鉢片と思われる。13～15も加曽利E式の可能性があるが、遺存部位が僅少のため中期の所産とした。15はRL縄文を施す細片で、円形に加工した形跡があり、土製円盤であろう。9は口縁内外面に黒色の付着物、12は赤彩が残存している。

16～18は黒曜石・チャート製の石鏃、19は黒曜石製の楔形石器、20は二次剥離のあるチャート製剥片、21～24は短冊形もしくは撥形を呈する打製石斧、25は閃緑岩製の石皿である。



第 66 図 本町遺跡第 18 次調査出土縄文土器



第 67 図 本町遺跡第 18 次調査出土縄文石器

表6 本町遺跡第18次調査出土縄文土器観察表

1	器種・部位 深鉢胴部	器形・調整 内面器面やや荒れ	文様の特徴 隆帯による区画。隆帯上キザミ施文。区画内横位沈線充填。パネル文の一部か。隆帯断面形状カマボコ状。	縄文- 胎土 長石、角閃石、小礫	時期 勝坂2式	注記 K28-18-17	備考-		
2	器種・部位 深鉢胴部	器形・調整 内面ナデ	文様の特徴 横位隆帯。隆帯に沿う幅広角状の連続押圧(一部押し)。波状に欠損していることから波状の沈線が沿うと思われる。隆帯断面形状扁平なカマボコ状。	縄文- 胎土 長石、雲母、角閃石、小礫	時期 勝坂2~3	注記 K28-18-44	備考-		
3	器種・部位 深鉢口縁部	器形・調整 平口縁か、口唇部円頭状、口縁部内湾、口縁部に突起があったと思われる。口唇部ナデ、内面横位ナデ	文様の特徴 口縁部区画を充填すると思われる縦位沈線。縦位隆帯が僅かに残存。隆帯上キザミ施文。隆帯断面形状角状。	縄文- 胎土 長石、角閃石、小礫	時期 勝坂3	注記 K28-18-80	備考-		
4	器種・部位 深鉢口縁部	器形・調整 平口縁、口唇部円頭状、口縁部直立	口唇部ナデ後ミガキ、内面横位ナデ後横位ミガキ	文様の特徴 口縁に平行する隆帯。隆帯上連続爪形文施文。隆帯断面形状カマボコ状。	縄文- 胎土 長石、角閃石、小礫	時期 勝坂2	注記 K28-18-4	備考-	
5	器種・部位 深鉢胴部	器形・調整 内面縦位ナデ	文様の特徴 縦位条線文施文。縦位磨消帯(1単位残存)。	縄文- 胎土 長石、角閃石、小礫、赤色粒子	時期 加曽利E3	注記 K28-18-74	備考 胎土に小礫と赤色粒子を多く含む。内面に黒色の付着物が微量見られる。		
6	器種・部位 深鉢口縁部	器形・調整 平口縁、口唇部円頭状、口縁部内湾	外面口縁部ナデ、口唇部ナデ、内面横位ナデ後横位ミガキ	文様の特徴 口縁部無文帯。口縁に平行する2条の沈線間に円形押圧を1列施文。僅かに5条1組の条線が見られる。	縄文- 胎土 長石、石英、赤色粒子	時期 連弧文3b段階	注記 K28-18-SX1-30	備考 外面に黒色の付着物が少量見られる。	
7	器種・部位 深鉢胴部	器形・調整 内面ナデ後縦位ミガキ	文様の特徴 縄文施文。縦位磨消帯(2単位残存)。	縄文RL縦位	胎土 長石、石英、雲母、角閃石	時期 加曽利E3	注記 K28-18-82	備考-	
8	器種・部位 深鉢口縁部	器形・調整 平口縁、口唇部円頭状、口縁部内湾	外面横位・縦位ナデ、内面横位ナデ後横位ミガキ	文様の特徴 2条1組の沈線による逆U字状の文様。残存部位で地文は見られない。	縄文- 胎土 長石、石英、雲母、小礫	時期 加曽利E3	注記 K28-SX1-21	備考-	
9	器種・部位 深鉢口縁部	器形・調整 平口縁、口唇部円頭状、口縁部内湾、口縁部区画から突出した突起あり	口唇部ミガキ、内面横位ミガキ	文様の特徴 隆帯による口縁部区画作出。区画の一部は口縁から突起状に突出。区画内に縄文施文。隆帯断面形状三角状~カマボコ状。	縄文 LR縦位・横位	胎土 長石、小礫	時期 加曽利E3	注記 K28-18	備考 内外面に黒色の付着物が見られる。
10	器種・部位 深鉢口縁部	器形・調整 波状口縁、口唇部円頭状、口縁部内湾	外面口縁部横位ナデ、口唇部ナデ、内面横位ナデ・上部横位ナデ後横位ミガキ	文様の特徴 口縁部上部無文。2列の円形押圧施文。沈線による胴部区画。区画内に僅かに条線文が見られる。	縄文- 胎土 長石、角閃石、小礫	時期 加曽利E3	注記 K28-18 SX-1一括	備考-	
11	器種・部位 浅鉢口縁部	器形・調整 平口縁、口唇部円頭状、口縁部内湾	外面口縁部横位ミガキ、口唇部ミガキ、内面上部横位ミガキ・下部縦位ミガキ	文様の特徴 口縁部無文。口縁部無文帯を1条の沈線区画する。沈線上部はやや微隆起帯状となる。縦位条線文を地文とする。	縄文- 胎土 長石、石英、角閃石、小礫、赤色粒子	時期 加曽利E3~4	注記 K28-18-SX1-24	備考-	
12	器種・部位 浅鉢口縁部	器形・調整 平口縁、口唇部円頭状、口縁部内湾	外面口縁部横位ナデ・胴部ナデ、口唇部ナデ、内面横位ナデ	文様の特徴 口縁部無文。口縁部に沿う1条の沈線。残存部で胴部に地文は見られない。	縄文- 胎土 長石、角閃石、小礫	時期 加曽利E3~4	注記 K28-18-SX1-33	備考 外面に赤彩が残存する。胎土に角閃石を多く含む。	
13	器種・部位 深鉢口縁部	器形・調整 平口縁、口唇部角頭状、口縁部やや内湾	口唇部ナデ、内面横位ナデ	文様の特徴 口縁部無文。口縁部に沿う1条の沈線。沈線下部縄文施文。	縄文 RL横位	胎土 長石、石英、角閃石、小礫、赤色粒子	時期 中期	注記 K28-18-SX1-20	備考 胎土に石英と角閃石を多く含む。
14	器種・部位 深鉢胴部	器形・調整 内面横位ナデ	文様の特徴 沈線を斜位に施文。	縄文- 胎土 長石、石英、雲母、小礫	時期 不明	注記 K28-18	備考-		
15	器種・部位 土製円盤胴部	器形・調整 内面ナデ	文様の特徴 縄文施文。	縄文 RL	胎土 長石、角閃石、小礫	時期 中期	注記 SK28-18-III層一括	備考 形状は楕円形か。残存部縦2.5cm・残存部横2.5cm・残存部厚さ0.9cm・残存部重さ7.9g。側面一部磨滅。	

表7 本町遺跡第18次調査出土石器計測表

No.	器種	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚み(mm)	重さ(g)	特徴
16	石鏃	黒曜石	12.87	11.79	2.31	0.24	特徴：凹基無茎(側縁形状：直線 挟り：逆「V」状) 先端角：61.9° 遺存状況：完形 注記：K-28-18 SK-28-18 P1
17	石鏃	チャート	17.65	14.03	2.87	0.46	特徴：凹基無茎(側縁形状：直線 挟り：逆「V」状) 先端角：53.8° 遺存状況：完形 注記：K-28-18 SX-1-No.12
18	石鏃	黒曜石	11.92	9.07	2.40	0.22	特徴：断片のため、詳細は不明である 遺存状況：先端部断片 注記：K-28-18 No.75
19	楔形石器	黒曜石	16.11	13.01	3.31	0.56	特徴：上下端は、両面に展開する微細な剥離からなる辺で構成される 遺存状況：完形 注記：K-28-18 SX-1-No.13
20	二次的剥離のある剥片	チャート	50.73	36.12	13.73	17.78	特徴：背面側左側縁に不連続な二次的剥離有り 遺存状況：完形 注記：K-28-18-40
21	打製石斧	ホルンフェルス	114.41	60.42	20.64	161.17	特徴：短冊形(側縁形状：内湾) 遺存状況：基部欠損 注記：K-28-18-81
22	打製石斧	粘板岩	73.88	54.15	16.17	88.82	特徴：短冊形(側縁形状：直線?) 遺存状況：刃部断片 注記：K-28-18
23	打製石斧	砂岩	109.92	46.23	16.16	91.21	特徴：撥形(側縁形状：内湾) 遺存状況：完形 注記：K-28-18-70
24	打製石斧	砂岩	75.67	51.14	21.32	79.97	特徴：平面形状など不明 遺存状況：胴部断片 注記：K-28-18-26
25	石皿	閃緑岩	109.03	75.38	33.09	326.22	特徴：作業面はほぼ平坦な磨面からなる 遺存状況：断片 注記：K-28-18-27

(12) No. 29 遺跡第5次調査

所在地	南町1丁目14-32	No. 29 遺跡 (No. 29)
令和元年8月30日付文化財保護法第93条第1項届出 (国教教ふ収第526号)		
調査原因	個人住宅	調査種別 確認調査
調査費用	国庫補助等	調査担当：平塚・佐野
調査期間	令和元年10月15日(現場実働1日)	
調査面積	3.96 m ²	遺物箱数 0箱
検出遺構	なし	
主な遺物	なし	



第68図 調査地点位置図 (K29-5)

1. 調査の経緯と目的

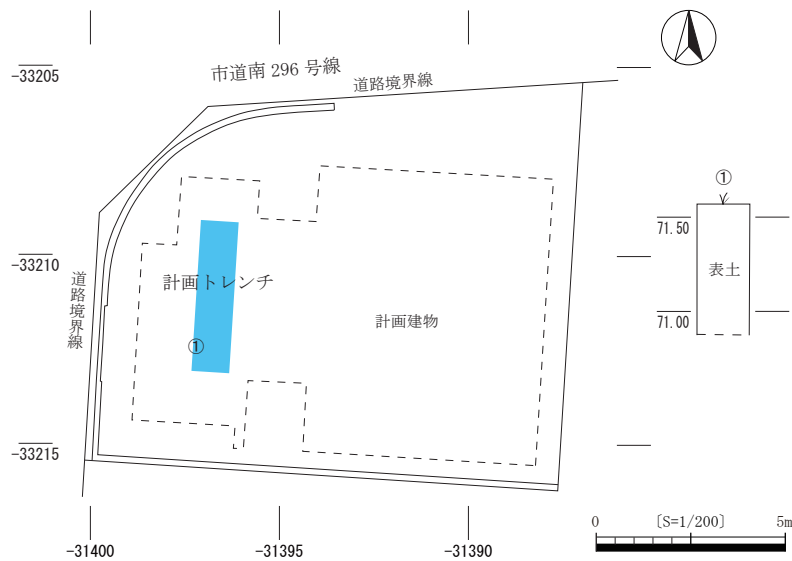
調査地点はJR中央線の南側で、標高71.5mの武蔵野段丘面上に立地する。敷地北側の道路上では、平成7年度の第1次調査で旧石器時代の石器集中・礫群が発見され(未報告)、さらに殿ヶ谷戸陸橋東際で行った平成25年度の第2次調査でもV層中より焼けた砂岩の原石1点が出土し(上敷領2015)、付近に旧石器時代の遺跡が存在することが予測されていた。届出内容は個人住宅建設を目的とした工事であったが、地盤改良工事で現況地形を大きく改変される計画であったため、幅1.0m×長さ4.0mのトレンチを設定して調査に臨んだ(第69図)。

2. 発見された遺構と遺物

重機を使用して根切深度である地表から約80cmまでの深さまで掘削したところ全面盛土で、さらに約1m近くまではボーリングステッキで下層の状況を探ったが、地山には到達しない見込みであったことから、遺構・遺物は検出されなかった(写真52)。



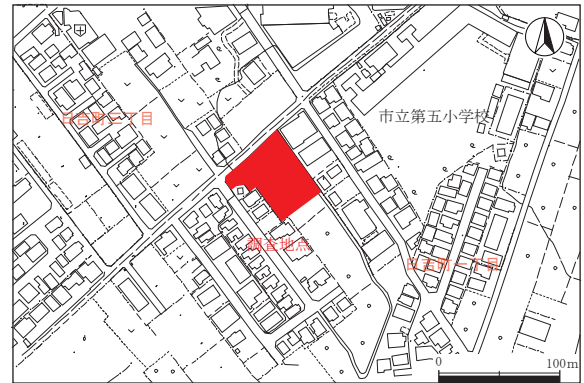
写真52 調査区全景(南から)



第69図 調査区配置図 (K29-5)

(13) No. 47 遺跡第1次調査

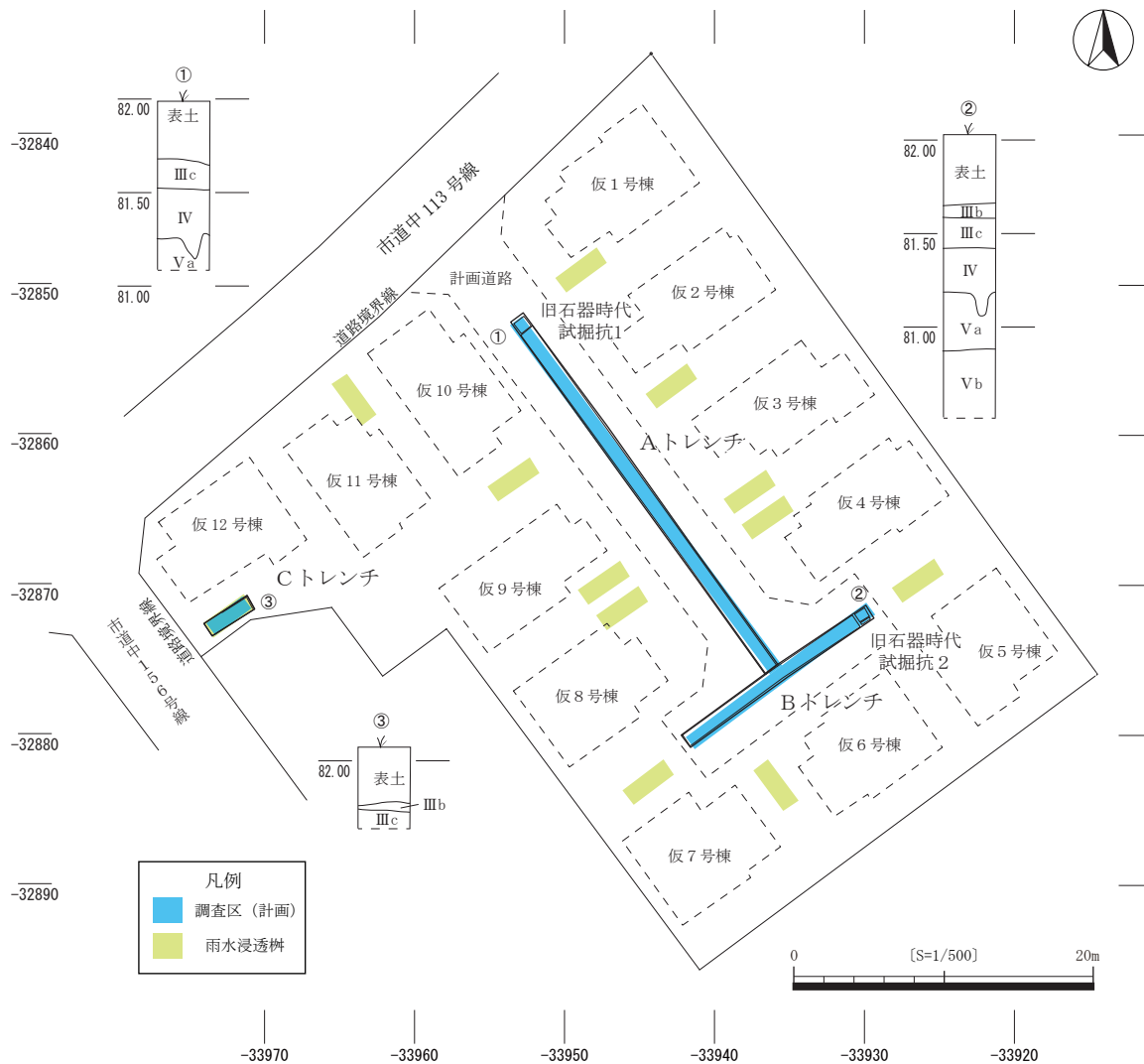
所在地	日吉町1丁目32	No. 47 遺跡 (No. 47)	
令和元年6月13日付文化財保護法第93条第1項届出 (国教教ふ収第238号)			
調査原因	分譲住宅	調査種別	確認調査
調査費用	国庫補助等	調査担当	平塚・富田
調査期間	令和元年7月16日～7月18日 (現場実働3日)		
調査面積	50.41 m ²	遺物箱数	0箱
検出遺構	なし		
主な遺物	なし		



第70図 調査地点位置図 (K47-1)

1. 調査の経緯と目的

調査地点は市立第五小学校の南東で、標高82.0mの武蔵野段丘面上にある。No. 47 遺跡の埋蔵文化財包蔵地として周知されているものの、発掘調査はこれまでに行われておらず、遺跡の性格も明確ではなかったが、今次の届出では、現況畑地であった敷地に木造2階建ての12棟からなる分譲住宅が計画され、開発面積は1788.91 m²にも及んだ。住宅部分は基礎根切が地表下30cmほどであったが、各区画には長さ3.4m、深さ約1.1cmの浸透トレンチがあり、敷地内の中央東寄りには、市道中113号線



第71図 調査区配置図 (K47-1)



写真 63 A トレンチ縄文時代全景（北西から）



写真 64 B トレンチ縄文時代全景（北東から）



写真 65 C トレンチ全景（北東から）



写真 66 旧石器試掘坑 2 南壁（北西から）

から道路をT字状に引き込み、その下に径 250cm、長さ 44.4 m の下水道管を敷設する計画であった。この機会に遺跡の状況を探るため、下水道敷設予定箇所幅 1 m のトレンチを 2 箇所（A・B トレンチ）、敷地西端の仮 12 号棟区画の浸透トレンチ部分に幅 1 m、長さ 2 m の調査区（C トレンチ）を設けて調査に臨むことにした（第 71 図）。

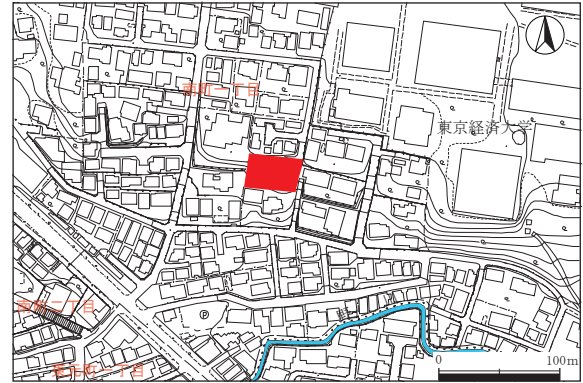
2. 発見された遺構と遺物

調査の結果、地表から 30 ～ 40cm は畑の耕作土で、その下部には市内の遺跡で通有、縄文時代の遺物を包含するⅢ b ・Ⅲ c 層を検出したが、同層中からは遺構・遺物は出土しなかった。また、A トレンチの北西端と B トレンチの北東端に、それぞれ 1 m 四方でⅣ層以下の旧石器時代を探る試掘坑 2 箇所を設定し、Ⅴ a ・ b 層まで人力で掘り下げてみたが、遺物の検出は認められなかった。

日吉町一丁目界限に広がる No. 47 遺跡は、国分寺崖線から約 7 ～ 800 m 奥まった平坦地で、No. 37 遺跡範囲に含まれる恋ヶ窪谷の谷頭からも西に距離を隔てており、縄文・古代の遺物散布地として周知されてきたものの、これまでに発掘調査は行われておらず、遺跡の内容は不明であった。このたび、大規模な宅地開発工事に先駆けて確認調査を行ったが、古代・縄文をはじめ、立川ロームⅤ b 層にいたるまで旧石器時代の生活痕跡も発見されなかった。埋蔵文化財包蔵地に設定された詳細な経緯も不明であり、今次の調査結果を踏まえて、遺跡の登録抹消を今後検討する必要があるだろう。

(14) 東京経済大学構内遺跡第7次調査

所在地	南町1丁目11-24	東京経済大学構内遺跡 (No. 53)
令和2年1月20日付文化財保護法第93条第1項届出 (国科教ふ収第928号)		
調査原因	宅地造成	調査種別 確認調査
調査費用	国庫補助等	調査担当：平塚
調査期間	令和2年2月4日～2月7日(現場実働4日)	
調査面積	29.91㎡	遺物箱数 0箱
検出遺構	なし	
主な遺物	なし	



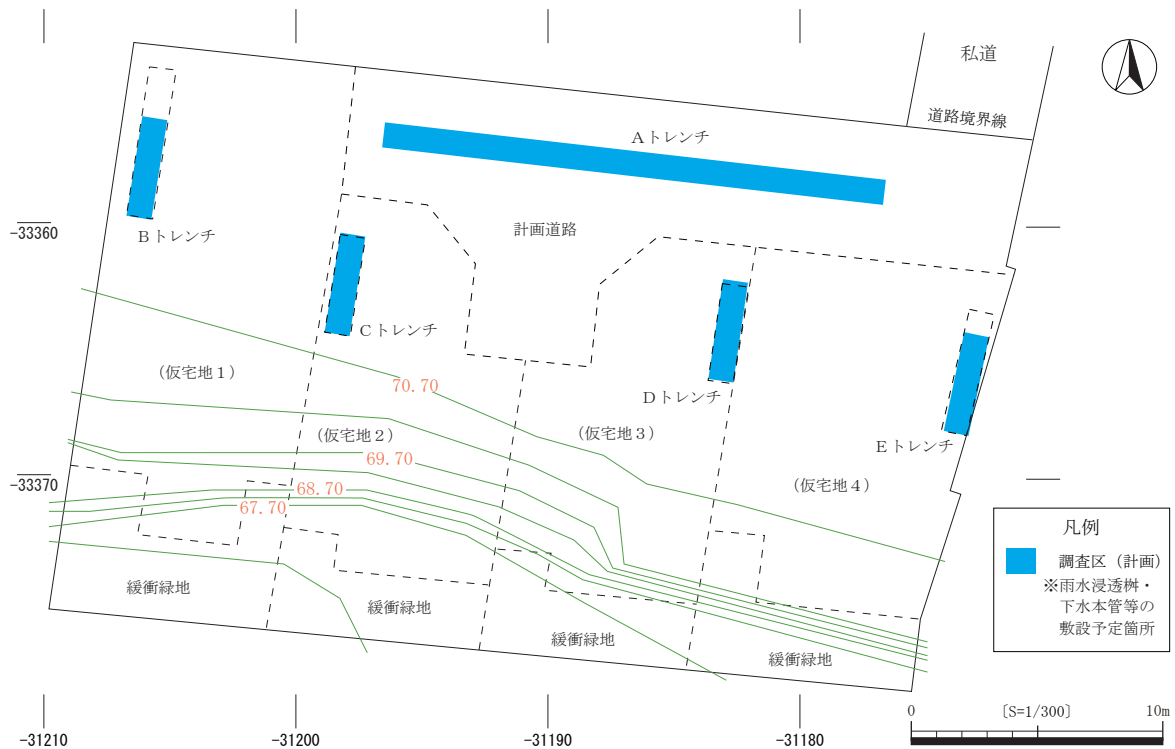
第72図 調査地点位置図 (K53-7)

1. 調査の経緯と目的

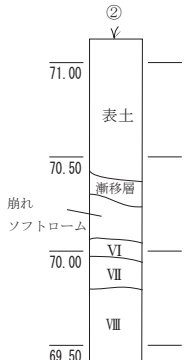
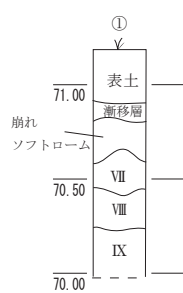
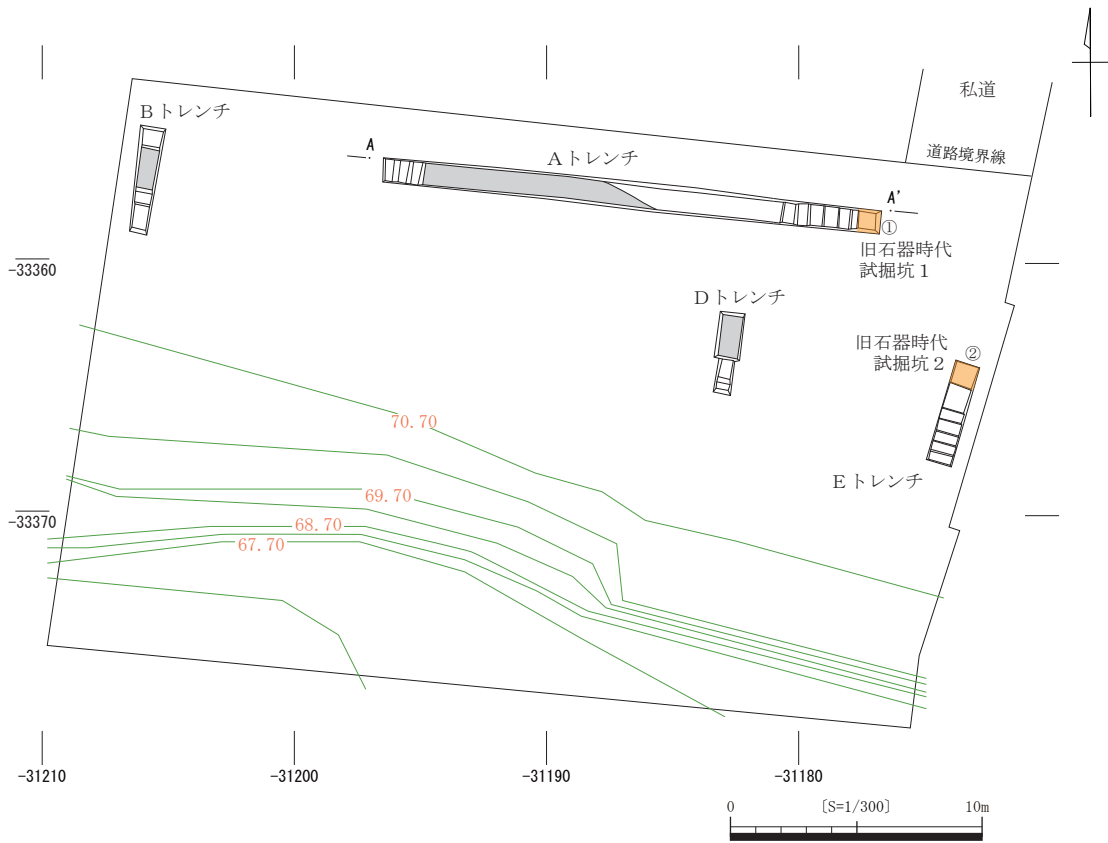
調査地点は南側に野川低地を望む武蔵野段丘面上に位置し、標高は71.2mをはかる。届出内容は、敷地内に4棟の分譲住宅を建設するもので、引き込み道路両端の人孔2箇所を径250・延長7mの下水管で繋ぎ、各区画内に浸透トレンチを配し、南側斜面地は計画緑地として開発する計画であった。当該地西隣で実施した第2次調査では、縄文時代の集石土坑や旧石器時代の礫群が検出されており(小野本2012)、掘削が深くおよぼ箇所遺跡に抵触する懸念があったため、下水道敷設部分と浸透トレンチ部分を対象に調査区を設定した(第73図)。

2. 発見された遺構と遺物

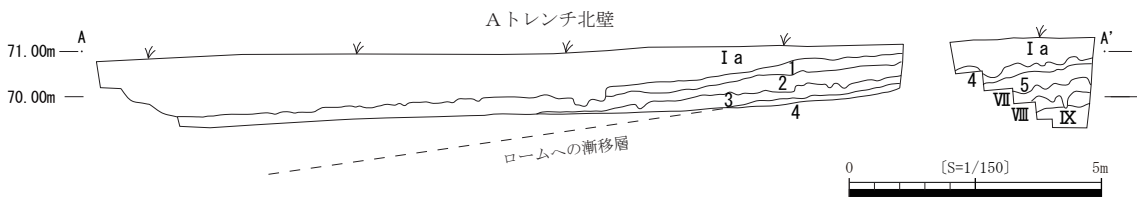
Aトレンチは表土下約1.0～1.7mまで掘削し、東側でローム層の堆積を確認したが、西側全体が盛土であり、D・Eトレンチも同様の堆積であったため、Cトレンチは調査を見送った。Aトレンチ東側およびEトレンチ北端部でローム層を人力で掘り下げ、旧石器時代の遺構・遺物の状況を探ったが、いずれも遺構・遺物は確認されなかった。なお、ローム層の堆積は全体的に西傾斜であった。



第73図 調査区配置図 (K53-7)



凡例
 未掘



- 北壁土層注記
- | | | |
|---|----------------|--|
| 1 | 10YR2/2 (黒褐色土) | ローム粒少量含む。粘性ややあり、しまりなし。(耕作土+断面注記2番) |
| 2 | 10YR2/1 (黒色土) | ローム粒、5~20mmのⅢ層ブロック少量含む。粒子粗く、ぼそぼそ。粘性なし、しまりなし。 |
| 3 | 10YR3/3 (暗褐色土) | 赤色スコリア微量含む。くずれⅢ層。粘性あり、しまりややあり。 |
| 4 | 10YR4/4 (褐色土) | 赤色スコリア少量含む。ローム層への漸移層。粘性あり、しまりややあり。 |
| 5 | 10YR4/6 (褐色土) | 赤色スコリア少量、炭化物微量含む。くずれソフトローム層。粘性あり、しまりややあり。 |

第 74 図 東京経済大学構内遺跡第 7 次調査全体図



写真 67 調査地全景（北東から）



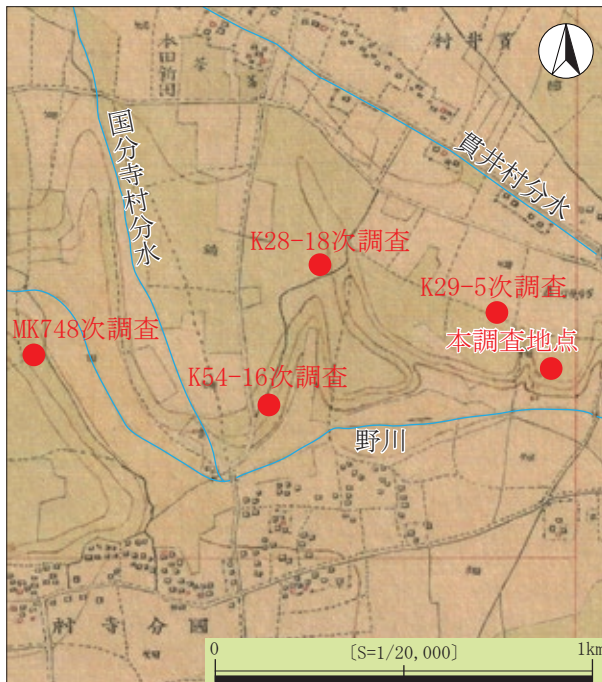
写真 68 作業風景（北から）



写真 69 Aトレンチ全景（東から）



写真 70 旧石器時代試掘坑2北壁土層断面（南から）



第 75 図 調査地点周辺の旧地形

(明治 14 年 12 月 神奈川県武蔵国北多摩郡国分寺村
第一軍管地方 2 万分 1 フランス式彩色 迅速図に加筆)

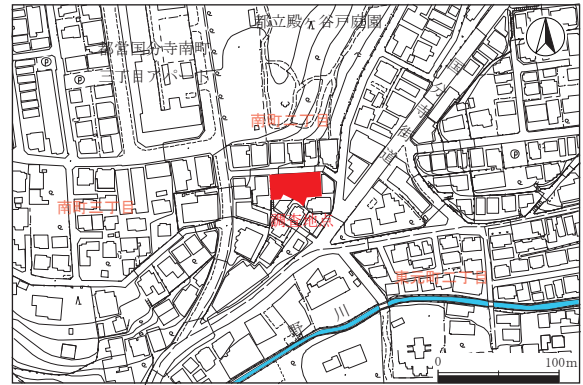


第 76 図 調査地点周辺の旧地形

(昭和 18 年 1 月 国分寺北部 大日本帝国陸地測量部
5 千分 1 測量図に加筆)

(15) 花沢東遺跡第 16 次調査

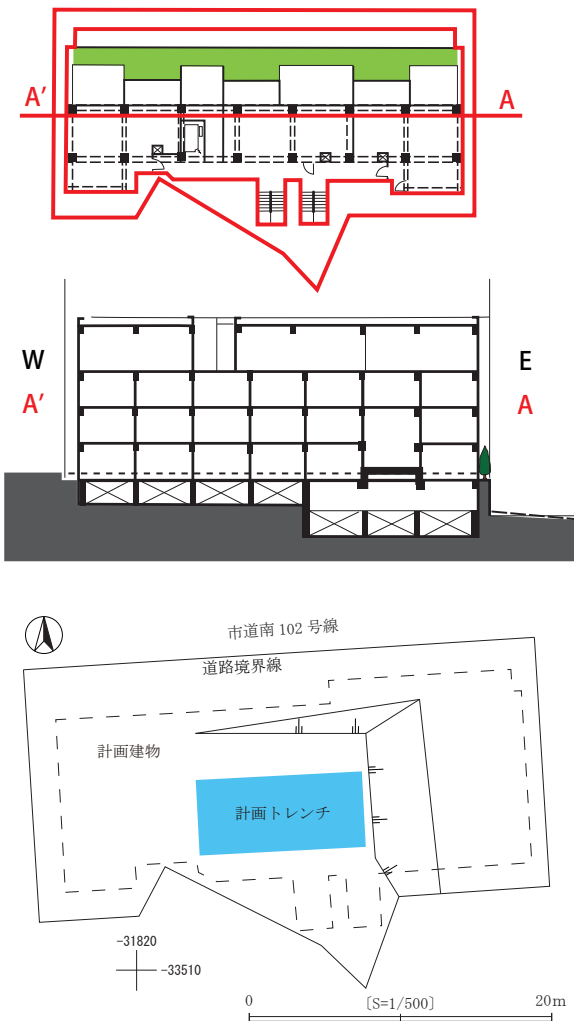
所在地	南町 2 丁目 14-10, 11	花沢東遺跡 (No. 54)
平成 31 年 4 月 16 日付文化財保護法第 93 条第 1 項届出 (国教教ふ収第 72 号)		
調査原因	集合住宅	調査種別 確認調査
調査費用	国庫補助等	調査担当：平塚
調査期間	令和元年 5 月 27 日～6 月 3 日(現場実働 6 日)	
調査面積	51.21 m ²	遺物箱数 0 箱
検出遺構	なし	
主な遺物	なし	



第 77 図 調査地点位置図 (K54-16)

1. 調査の目的と経緯

調査地点は眼下に殿ヶ谷戸谷を望む、標高 67.0 m の武蔵野段丘面上に立地する。届出内容は地上 4 階、地下 1 階建ての集合住宅建設で、敷地の東側で地表下 4.82 m (平均 2.82 m) の切土工事を予定していた。北東に近接する第 1 次調査では、立川ローム層Ⅲ～Ⅹ層までに 7 枚の文化層が確認されており (実川他 1984)、今次の工事の深度が旧石器時代の遺構面に達する可能性があるため、切土範囲を中心に南北 5.0 m × 東西 10.0 m のトレンチを設定して調査に臨んだ (第 78 図)。



第 78 図 集合住宅建築計画と調査区の配置 (K54-16)

2. 発見された遺構と遺物

表土を重機掘削した結果、地表から約 40cm の深さでロームを検出し、以下人力作業に切り替え、地表から 2.5 m まで掘削を行ったが、遺構・遺物は検出されなかった。ローム層の堆積状況から、東へ低く傾斜する旧地形の様相が判明した。



第 79 図 調査地点周辺の旧地形
(昭和 28 年 3 月 国分寺北部 東京都建設局
3 千分 1 測量図に加筆)

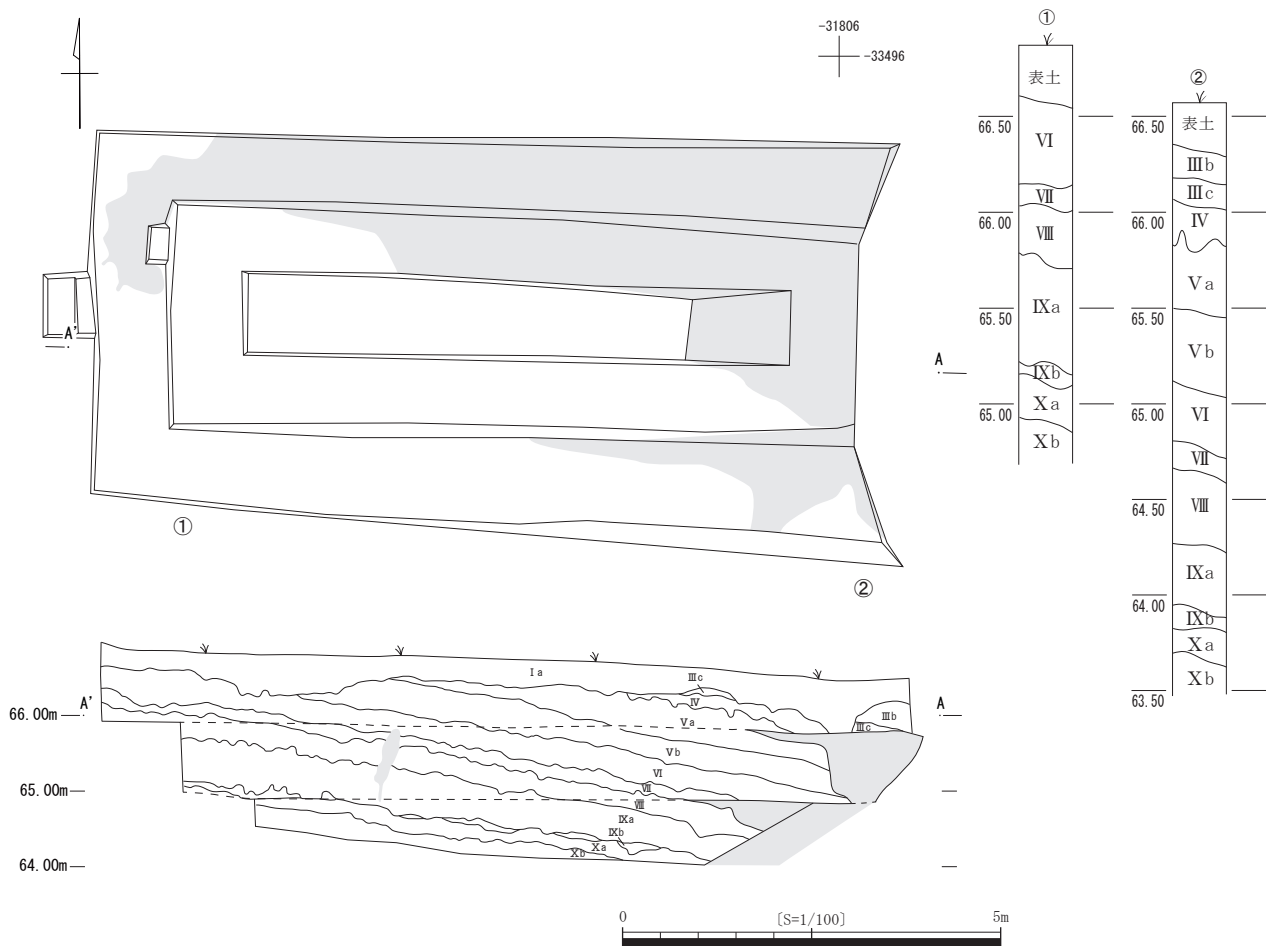


写真71 調査区全景（西から）



写真72 調査区全景（西北から）



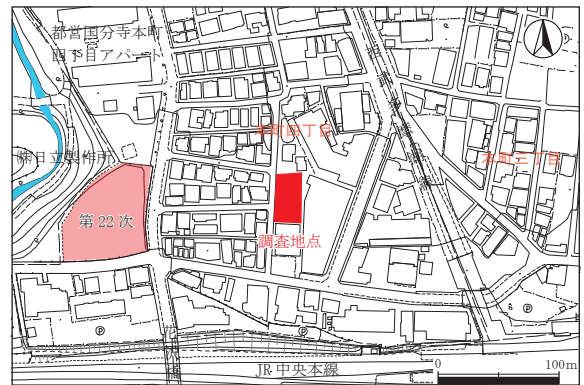
写真73 調査区西壁土層堆積状況（東から）



写真74 調査区南壁土層堆積状況（北から）

(16) 恋ヶ窪東遺跡第26次調査

所在地	本町4丁目12-7	包蔵地外 (恋ヶ窪東遺跡 No. 57)
令和元年7月25日付国分寺市まちづくり条例 (国教教ふ収第431号)		
調査原因	遺跡の広がり の確認	調査種別 試掘調査
調査費用	国庫補助等	調査担当：平塚・富田
調査期間	令和元年9月2日～9月6日(現場実働5日)	
調査面積	7・88 m ²	遺物箱数 0箱
検出遺構	なし	
主な遺物	なし	



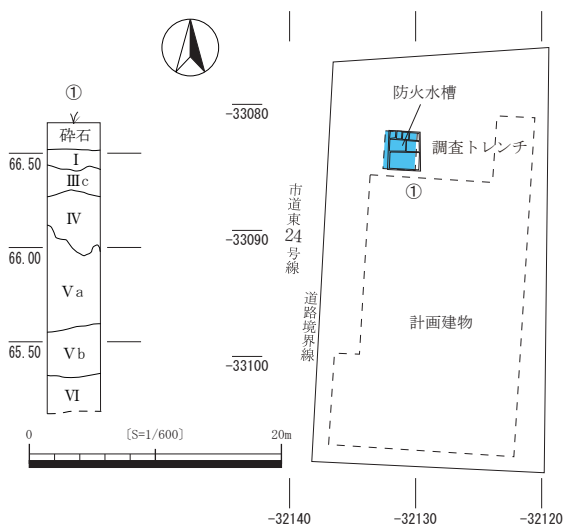
第81図 調査地点位置図 (K57-26)

1. 調査の経緯と目的

調査地点は、「さんや谷」の東側台地上に広がる恋ヶ窪東遺跡の東縁にあたり、標高66.6mの武蔵野段丘面に立地する。いわゆる周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲外に該当しているが、本地点から約100m西側で、平成26年度に実施したマンション建設に伴う第22次調査では、縄文時代の集石土坑・土坑・炉穴・陥し穴のほか、旧石器時代の石器集中(Ⅲ～Ⅳ層上部・Ⅳ層下部)・礫群が多数発見されており(林他2017)、遺跡の広がりを確認する目的から、事業者の御協力を得て実施した試掘調査である。国分寺市まちづくり条例に基づく関係各課事前協議書を通じて開発事業の詳細を把握した市教委は、工事に先駆けて敷地内の一部に試掘調査の申し入れを行ったところ、令和元年7月25日付けで事業者より試掘箇所(雨水浸透パネル設置予定箇所に限定する)、3～4日程度の調査期間(日程は事業者より指示)、公費による対応、および遺跡が発見された場合でも本調査に移行しないことを条件として、調査実施の御了解をいただいた。そこで、最も掘削工事が深くおよび雨水浸透パネル設置予定部分を対象に、東西3.0m、南北3.5mの試掘坑を設定して調査に臨んだ(第82図)。

2. 発見された遺構と遺物

調査の結果、重機を用いながら表土を掘削したところ、約40cmの碎石・表土層の直下でⅢc層が現れ、縄文時代の遺物を包含するⅢb層より上位の土層はすでに削平されていることが判明した。また、Ⅲc層上面で精査したが縄文時代の遺構・遺物が検出されなかったため、引き続き、地表下1.5mの深度まで人力による掘削を進め、Ⅵ層相当層まで到達したが、旧石器時代にかかる遺構・遺物も発見されず、本地点まで旧石器・縄文時代の遺跡が広がらないことを確認して調査を終了した。



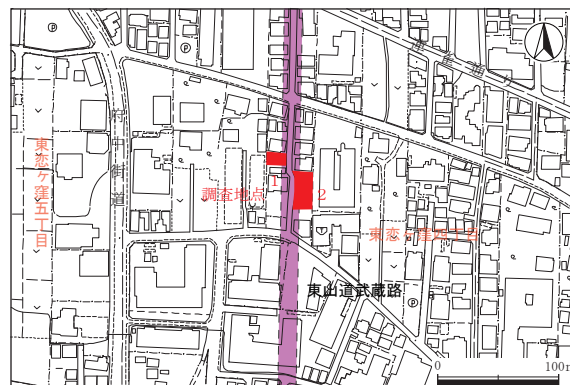
第82図 調査区配置図 (K57-26)



写真75 調査区全景(西から)

(17) 東山道武蔵路第6次調査

所在地	東恋ヶ窪4丁目 16-11、17-21	包蔵地外 (東山道武蔵路推定地)
窓口照会		
調査原因	遺跡の広がり の確認	調査種別 試掘調査
調査費用	国庫補助等	調査担当：桂・平塚
調査期間	令和元年11月5日～11月8日 (現場実働4日)	
調査面積	21.78 m ²	遺物箱数 1箱
検出遺構	溝 (SD 2・5)	
主な遺物	近世磁器	



第83図 調査地点位置図 (K58-6)

1. 調査の目的と経緯

古代の東山道武蔵路は国分寺市内を南北に縦貫し、その延長距離は約2kmにおよぶ。市域の北方に隣接する小平・東村山市では、東京都教育委員会が平成10・11年に実施した道路遺構等確認調査で東山道武蔵路の側溝を複数の地点で検出しているが(松原他2000)、市内の埋蔵文化財包蔵地としての東山道武蔵路は、恋ヶ窪遺跡(市No.2遺跡)および武蔵国分寺跡(市No.10・19遺跡)と重複する、主として市域の南側部分で周知されており、西武国分寺線以北から小平市境までの間に走行が予測される範囲は、開発事業者の理解と協力が得られる機会を随時とらえながら試掘調査を重ねているのが現状である。これまで、平成23・24年度に東恋ヶ窪六丁目地内で試掘調査を実施し、このうち23年度の調査地点では東側溝の痕跡を捉えている(寺前他2013)。

そのような折、令和元年8月15日に東恋ヶ窪四丁目地内での住宅建設工事を予定していた事業者から市教委へ、当該地での埋蔵文化財の取り扱いにかかる電話照会が寄せられた。市教委は上記の経緯を説明して試掘調査の協力依頼を申し出たところ、事業者から御快諾を賜わり、調査を実施する運びとなった。

調査地点は府中街道の東方、孫の湯通りの南方で、付近では東西に向きを変えて開析する「さんや谷」の北側台地上に位置し、現況標高80.5mの武蔵野段丘面上に立地する。市道東174号線の西側敷地内



写真76 Aトレンチ全景(東から)

で、南北幅1.0m×東西長11.0mのトレンチを1本設定して調査に臨んだところ(Aトレンチ)、表土下50cmで検出したⅢb層上面で、西端部分に現代の耕作で使用されるトレンチャーの痕跡と近世染付磁器が出土し、東側には黒色土の溝状プランを検出した。黒色土の溝状プランは、後述するとおり東山道武蔵路の側溝と思われたが、東西いずれの側溝であるかが俄かに判断しかねる状況であったところ、地権者の方から本地点の南東側で、市道174号線以東の御所有地内でも試掘調査の御協力を賜わることが叶い、御厚意に甘んじて追加トレンチを設定した(Bトレンチ)。

その結果、Aトレンチで検出した溝状プランから約12m離れた位置でも同種の溝が発見され、これらが東山道武蔵路の両側溝であることが判明することとなった。なお、道路跡を面的に捉えている訳ではなく、南北双方の延長範囲を明確に確認していない状況から、この試掘調査結果をもって法96



第 84 図 調査区配置図 (K58-6)



写真77 近代トレンチャー跡 (Aトレンチ・北から)



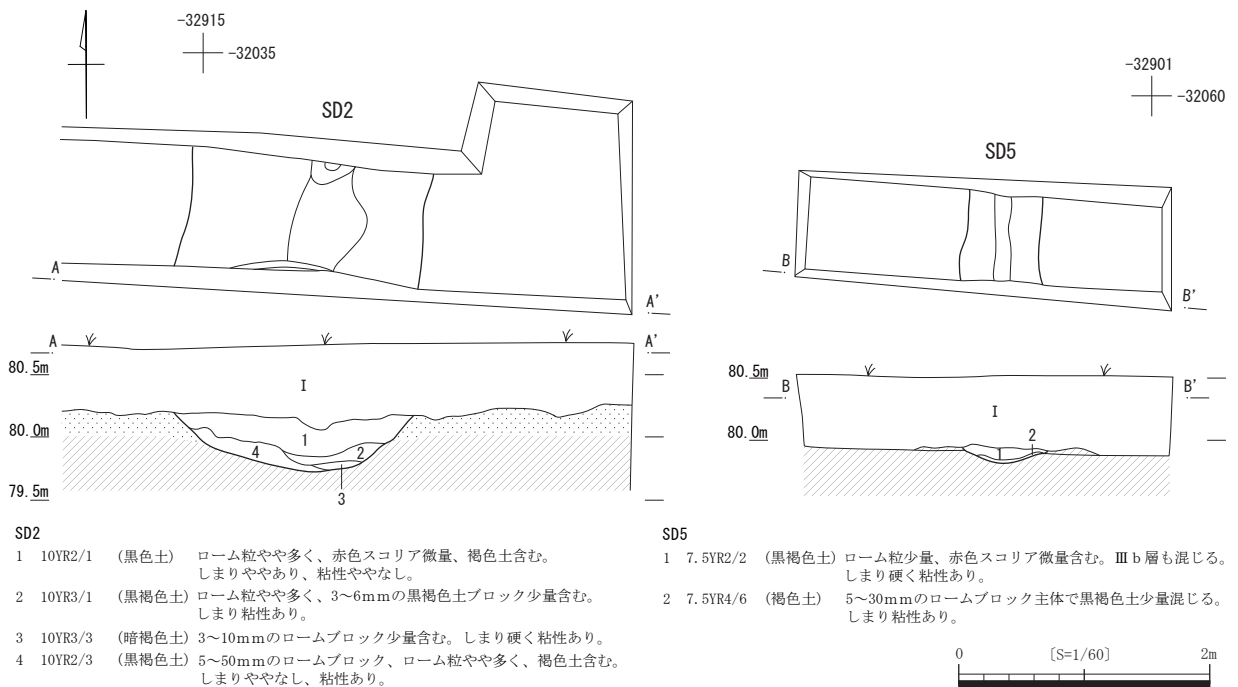
写真78 SD2完掘状況 (東から)



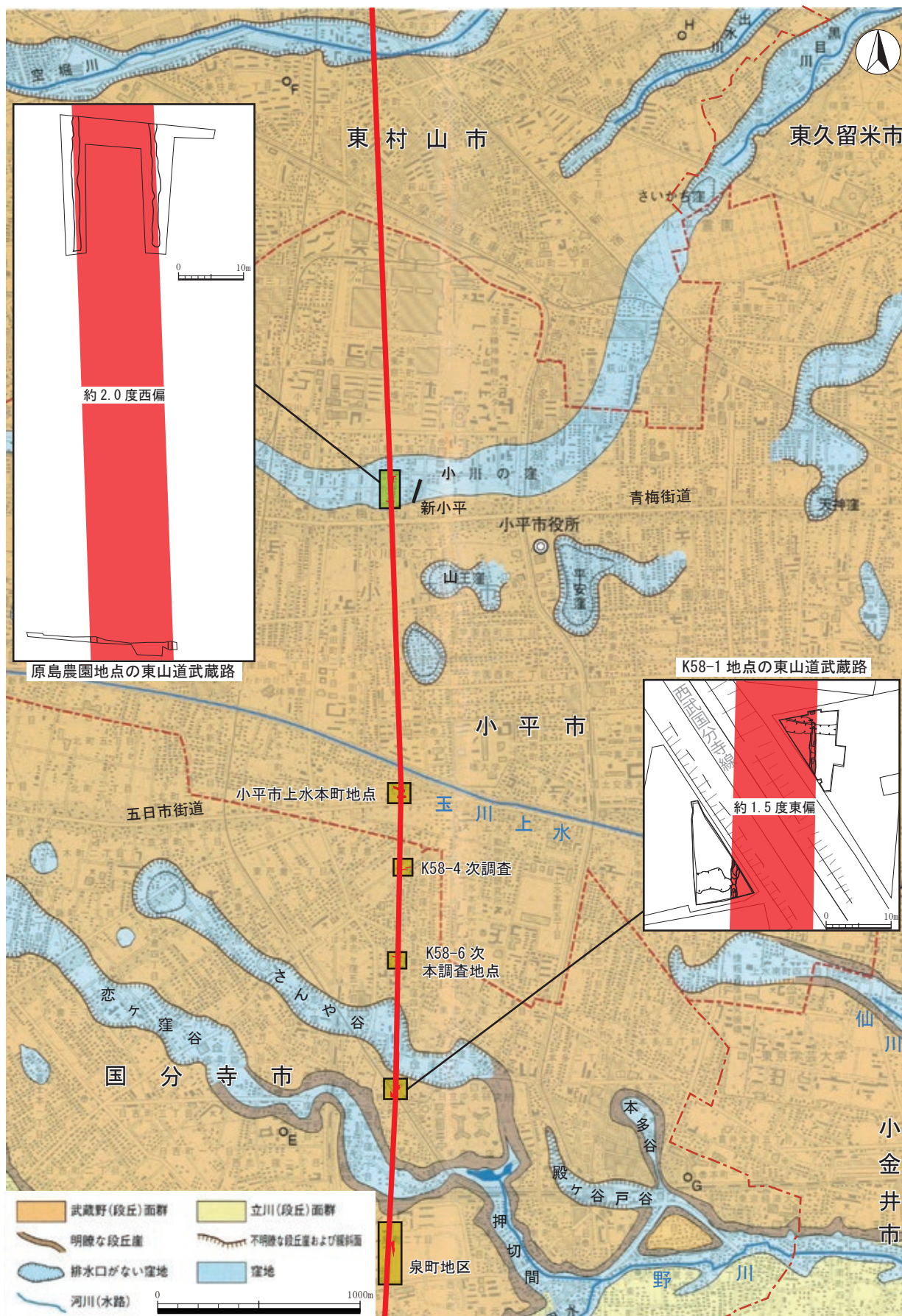
写真79 SD2南壁土層断面 (北から)



写真80 SD5南壁土層断面 (北から)



第 85 図 東山道武蔵路側溝 SD2・SD5



第 86 図 東山道武蔵路の想定経路と埋没微地形（小平市 2015 を一部改変作図）

条に基づく遺跡発見の手続きは行わないこととしている。

2. 発見された遺構と遺物

Aトレンチで発見された溝をSD 2、Bトレンチの溝をSD 5と呼称する。この遺構名称は、東山道武蔵路第1次調査(K58-1)で発見された東西両側溝(SD 2・5)の名称を踏襲して用いることとした(小野本 2008)。

SD 2 (東山道武蔵路西側溝)

Aトレンチの東端、表土直下のⅢb層上面で検出した溝状の遺構である。確認面での溝幅は2.0 m、深さ40cmをはかり、1.2 m幅の溝底から壁面は緩やかに外上方へと立ち上がる。覆土1層の上面は耕作の影響か凹凸が激しいため、本来の掘り込み面はさらに高く、遺構の上部は削平されているものと思われる。溝底面は東側でやや窪み、溝底に薄く堆積する3層は固く締まっていた。遺物は出土していない。

SD 5 (東山道武蔵路東側溝)

Bトレンチ中央、表土直下のⅣ層上面で検出した溝状の遺構である。SD 2と比べて遺存状況は悪く、確認面での溝幅は約70cm、深さは15cmをはかり、遺構の上部は後世に削平されている。覆土はSD 2と同様、黒味の強い褐色土で、覆土1層は全体的に硬化している。遺物は出土しなかった。

SD 2・5ともに1 mのトレンチ幅に限定した調査で、南北の延長や走行軸の詳細は不明であるが、覆土の類似性や溝芯々間の距離が12.0 mを有することから、東山道武蔵路の両側溝を構成する溝ととらえて相違はないであろう。なお、側溝自体が削平されていることもあって、側溝間の路面に関わる痕跡は捉えられていない。

そこで、今少し巨視的な視点から道路の走行軸を検討してみたいが、第86図には国分寺市域から小平市内のJR武蔵野線新小平駅付近にいたる道路側溝の発見地点をプロットしてみた。平成7年度に西国分寺駅周辺再開発事業で延長約300 mにもわたって道路跡が発掘調査された泉町地区では、約2度9分東偏する走行軸を示していたが(福嶋他 2003)、平成19年度に西部国分寺線際で実施した東山道武蔵路第1次調査(K58-1)では道路跡は約1.5度東偏し(小野本 2000)、さらに東京都教育委員会による小平市市上水本町付近の確認調査によると、道路跡は約2度西偏する状況が確認されている(松原 2000)。国分寺市域北部では、平成23年度にも東恋ヶ窪六丁目地内で試掘調査(K58-4)を行っており、そこでは東西に長いトレンチを設定した結果、調査区西端の表土直下で1条の溝跡を検出した(SD 5)。本溝から約12 m東側には溝跡の存在を掴めなかったため、当時の所見としてSD5は東山道武蔵路の東側溝である可能性を想定したが(寺前他 2013)、部分的な検出に留まっており、東西いずれかの側溝であるのかは未だ判然としていない。今次の調査によって包蔵地外で両側溝が走行している状況を初めて捉えることが出来たものの、さんや谷から小川の窪にかけての台地上で、東山道武蔵路の走行方位が東から西へややカーブしていることが予測される。いずれにせよ、市域北部での東山道武蔵路の様相は、依然不明確な要素が多く、今後も時機を捉えては試掘調査を重ねていく必要がある。

(18) 西町つつじ公園修繕工事に伴う調査

所在地	西町2丁目22-40	包蔵地外
令和元年8月6日付国分寺市建設環境部緑と建築課依頼		
調査原因	公園陥没の復旧	調査種別 試掘調査
調査費用	市単独費用	調査担当：平塚
調査期間	令和元年9月18日～9月20日 (現場実働3日)	
調査面積	22.14 m ²	遺物箱数 1箱
検出遺構	ウド室	
主な遺物	陶磁器、缶、オモチャなど	

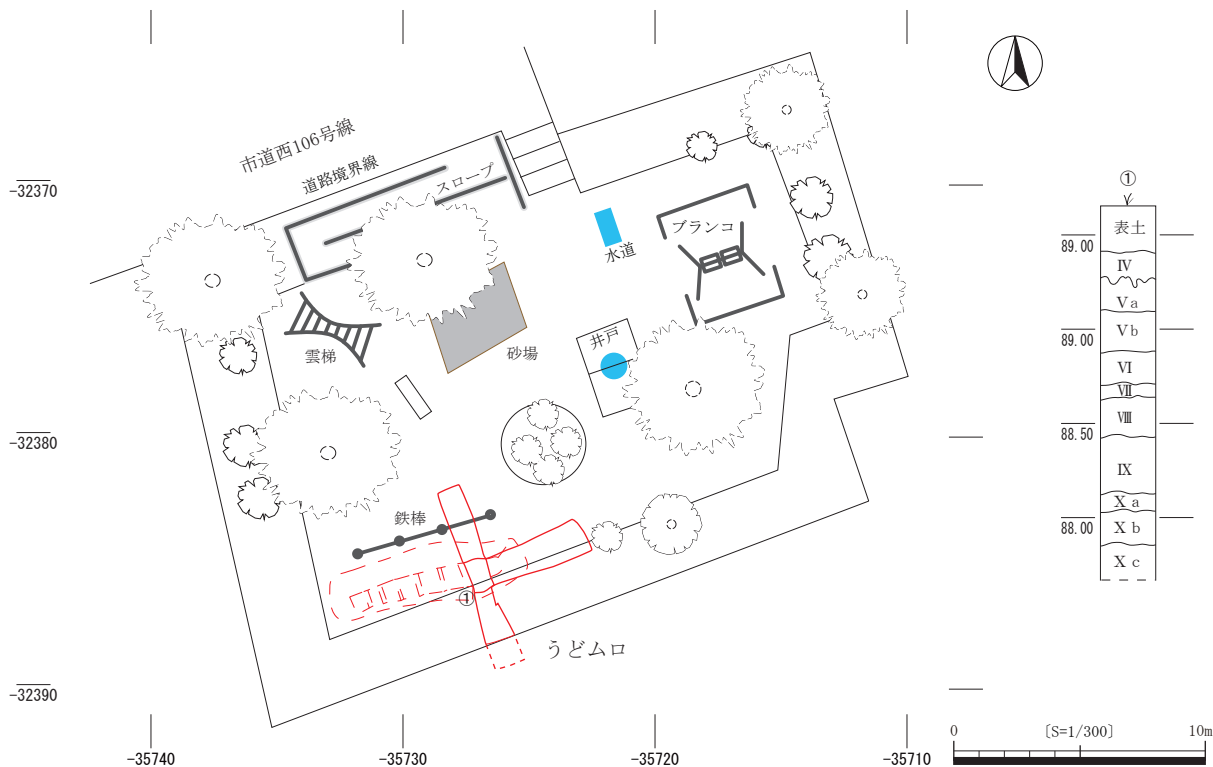


第 87 図 調査地点位置図（西町つつじ公園）

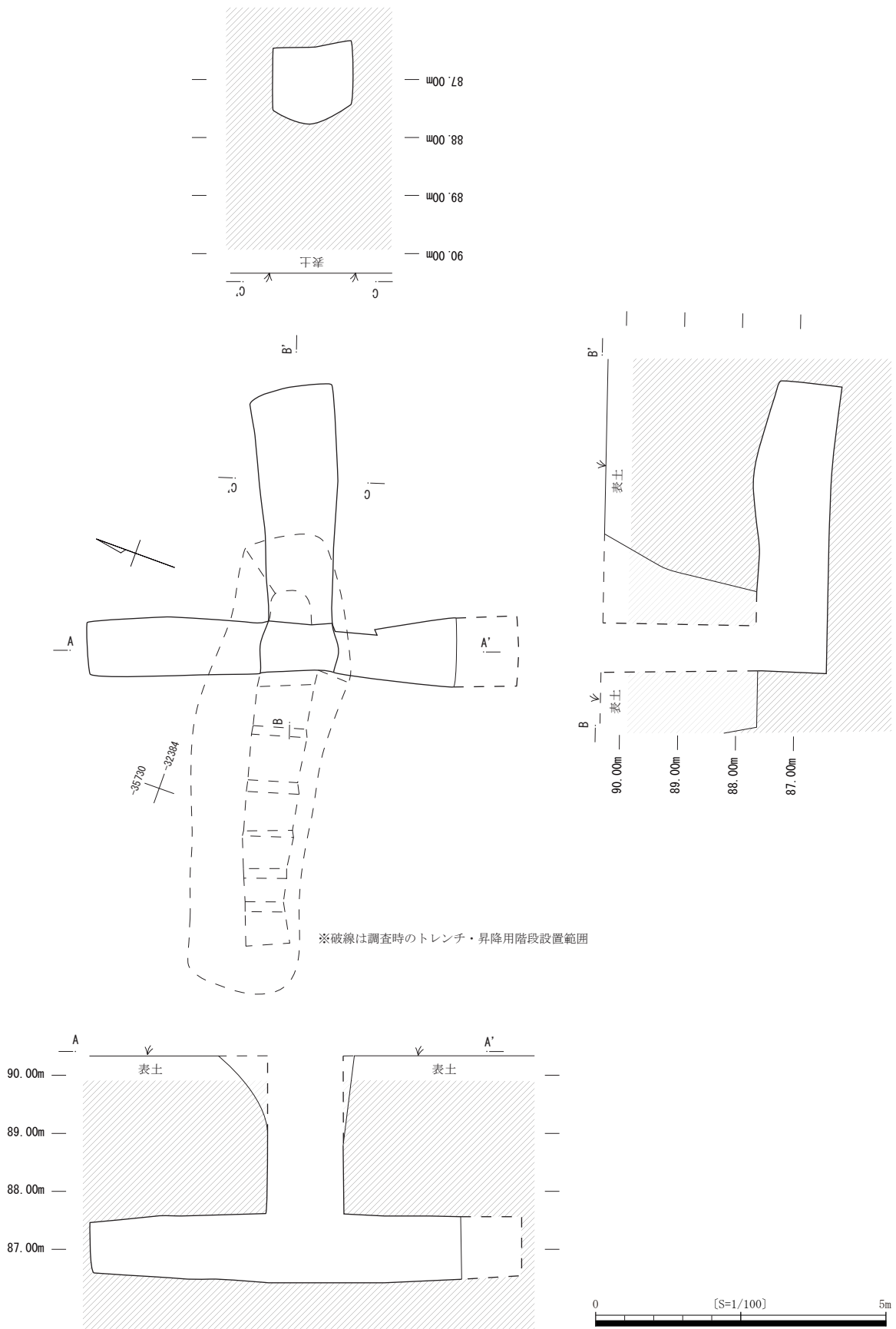
1. 調査の目的と経緯

令和元年7月31日に、建設環境部緑と建築課から教育部ふるさと文化財課へ、数日前に発生した西町つつじ公園内の陥没事故で地下に空洞が発見された旨の報告と、その埋戻し作業を行うにあたり歴史的な観点から遺構の取扱いについて協議が寄せられた。同公園は標高 90.4 m を有する武蔵野段丘面上に立地し、約 50 m 南西には国分寺崖線が走っているが、周辺は埋蔵文化財包蔵地には該当しないエリアである。一報を受けて両課の職員が陥没現場に急行すると、鉄棒脇で約 1.0～1.2 m 四方に広がる竪坑部が開口していた。竪坑の深さは 3 m 以上におよび、下部には落盤した土砂が堆積していたが、坑底付近から南（隣地は宅地造成地）と東・北方面それぞれに横穴が広がっていることが目視された。横穴の内部は完全には埋まりきっておらず、天井付近が空洞となっている状況が窺えたうえに、地山の赤土の天井も落盤している形跡が見られず、遺構の残存状況は良好のようにも思われた。

緑と建築課職員が公園用地の旧地権者から聞き取りしたところによれば、かつて当地内でうどを栽培しており、陥没した地下の空洞は栽培用の穴倉（地下室）である可能性が考えられたものの、市が公園造成工事を行った昭和 52 年時点では、うどの栽培はすでに行っておらず、いつ頃まで使用してい



第 88 図 西町つつじ公園とうどモロ検出位置



第 89 図 西町つつじ公園のうどもロ

た穴倉であるかは不明とのことであった。同行した文化財課職員も、豎坑断面に礫層が見られないことから砂利採取穴とは考えにくく、坑底から3方向に横穴が掘られる形状の地下室は西元町地区でも発掘調査事例があり（島田 2020）、その地権者の聞き取りでうど栽培用の施設と判明したため、西町つつじ公園の穴倉も同種の遺構である可能性が高いものと推察した。

当初は遺構を現地に保護・保存して、室の内部を公開できる形で整備を行うことも検討されたが、現地視察を踏まえ、陥没修繕工事に先駆けて記録保存を図る方針とし、8月6日付事務連絡にて、緑と建築課よりふるさと文化財課へ文化財調査の依頼が寄せられた（国教教ふ収第 429 号）。これを受けて両課ではその後の対応協議を行い、修繕工事では今後の公園利用の安全面に配慮して、空洞となっている横穴天井部を壊した後、地下室全体に土を補充して整地するが、一旦は地下室に流入している土砂を機械・人力併用で外に排出し、遺構を掘り上げたうえで図面や写真等の記録を採る工程を間に挟むことにした。なお、現地の調査期間は9月18～20日の3日間を充て、重機は緑と建築課から修繕工事として発注した業者が提供し、遺構発掘にかかる作業員は文化財課を通じて国分寺市遺跡調査会へ手配して、両課合同での調査を実施した。

2. 発見された遺構と遺物

穴倉（以下、「うどもろ」という）は公園の南西部に位置し、豎坑部は既存鉄棒の2 m南側で発見された（写真 81）。豎坑の開口部は長辺 1.3 m、短辺 0.8 mの南北に長軸を有する長形状を呈し、坑底までの深さは地表面から 4.0 mで、ほぼ垂直方向に掘られている。豎坑壁面で地山の土層を観察すると、表土直下でソフトローム層が現れ、床面付近では立川ローム層第X層まで到達していた（第 88 図）。横室は事前の見立てとおり、北西・北東・南東の3方向に展開しており、北西と南東の室は主軸がN-20° -Eに触れ、北東の室はこれらと90° 直交する。北西の室は豎坑部側・奥壁側ともに幅 0.9 m、奥行 3.0 mの平面長形状を呈し、室内部の面積は 2.7 m²を有する。天井高は豎坑際側が 1.2 m、奥壁際は 1.1 mとやや先細りで、床面は平坦だが豎坑側から奥壁に向かって緩やかに上昇している。側壁は直立し、横室の断面形状としては方形を呈する。かたや北東の室は、幅が豎坑部側で 1.0 m、奥壁側で 1.5 mとやや撥形状に開き、奥行は 4.0 mで、室内部の面積は約 5.0 m²と北西室よりも幾分広い。間口の広さからも、北東の室が主室であったことが推測される。床面は奥壁側がやや低く、両側壁は直立するが、奥壁は床面から天井に向かって緩く外傾して立ち上がっている。天井はややドーム状で、横室の断面形状は歪な五角形状を呈する。また、南東の室は奥行 2.0 mまでは公園敷地内に含まれ、その先は民有地側へ伸びていたため、調査期間中に相前後して土地所有者が落盤防止策の工事を施し、埋戻しを済ませていた。したがって、全体の形状等は不明であるが、幅は豎坑際で 0.7 mと狭く、東側の側壁が一部クランク状を呈しており、奥側で幅 1.2 mとやや撥形に開く形状である。側壁は直立して立ち上がり、天井勾配は平坦で、横室の断面形は北西の室と同様に方形を呈している。3室いずれも天井から地表面までは約 2.5～2.9 mの土層厚をはかり、天井部は落盤しておらず、室内部の各所には鋤・鍬等の掘削工具痕が明瞭に残っていた（写真 88）。

室内部に流入した土に混じって遺物が7点出土し、第 90 図に示した。1は、酸化コバルト絵具を用いたゴム印判手の丸腰湯呑で、体部に4単位の丸・三角・四角からなる幾何学文がスタンプされ、高台内に「岐 517」の戦時統制期（1941年3月以降、敗戦まで）の生産者識別表示記号がある（天内 1986）。2・3は錆の腐食が顕著だが、いずれも缶ジュースの空き缶である。2は発売年は不明だが、K&K（国分グループ）から販売されたオレンジジュース缶で、付属の缶切り（オープナー）を用い



写真81 調査前陥没状況（東から）



写真82 調査時開口状況（東から）



写真83 陥没付近開削状況（西から）



写真84 竪坑部完掘状況（南から）



写真85 竪坑部上方から北東横室を望む（西から）



写真86 北西横室内部の状況（南から）



写真87 北東横室内部の状況（西から）



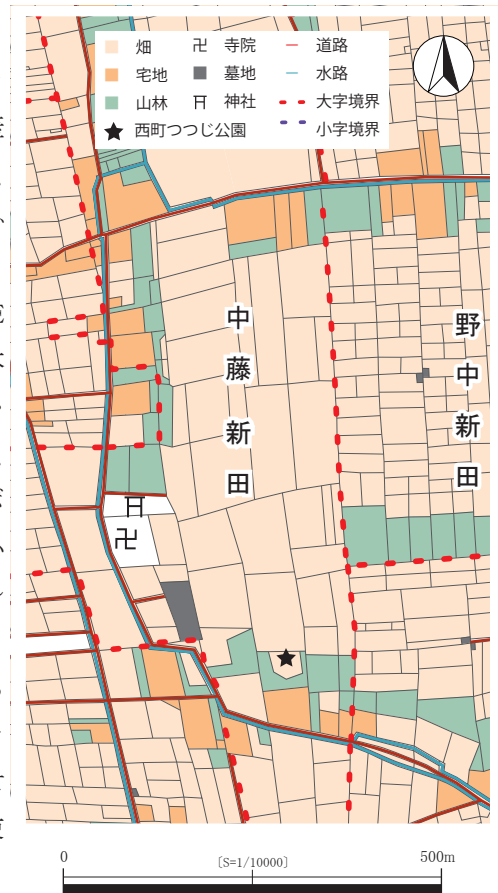
写真88 北西横室・北東横室入口の工具痕（南西から）



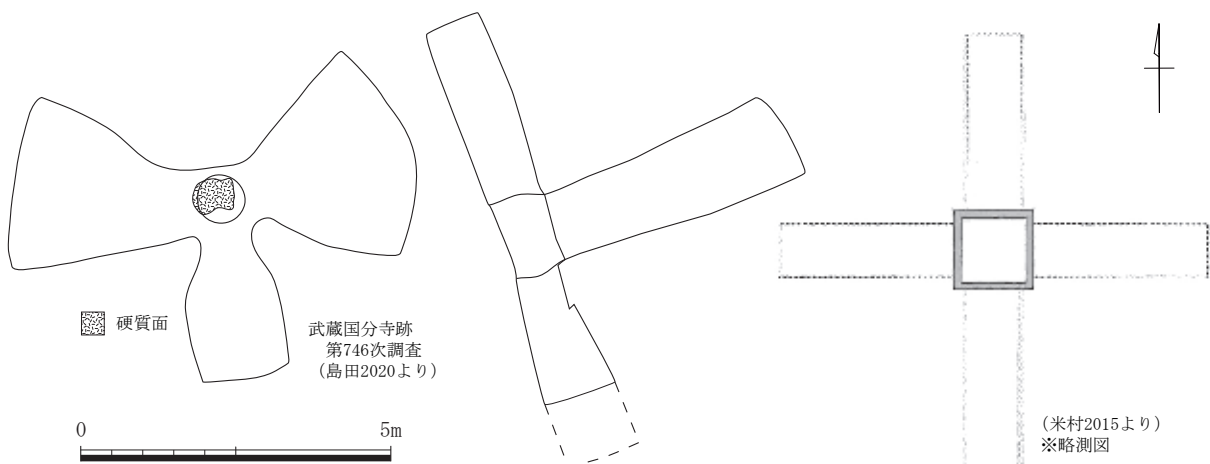
第90図 うどもろ出土遺物

て飲み口と空気穴の2カ所を開けて飲むタイプの缶である。3は、昭和33年より日本コカ・コーラ社から販売されたファンタオレンジ250ml入缶である。高い内圧に耐えるように蓋には硬いブリキが使用され、2と同様プルタブ式ではなく、缶切りで開封するタイプである。4はプラスチック製の壁掛け用蓋付乾電池ソケットである。蓋部分に豆電球のソケットが取り付け、背面に壁掛け用のネジ穴があり、陽刻で「MADE IN HONG KONG」の文字が書かれている。5は単2電池が2本入る仕様のソケットで、4・5ともに用途の詳細は不明。6・7は子ども用人形玩具である。6は中空状のゴム製玩具で、横山光輝作のSFロボット漫画に登場するジャイアントロボである。背面下部に「ベルマークのツクダヤ」の陽刻、「小学館」の印刻文字が認められる。同作品は昭和42年5月～翌年3月に「週刊少年サンデー」誌に連載され、42年10月から翌年1月までテレビ番組で放映された。7はトミーから昭和44年に発売されたロボット大回転シリーズのプラスチック製の玩具で、単2乾電池2本で作動する。両腕を回転させながら歩行し、障害物にぶつかり転倒しても両腕の回転を使い起き上がることが出来、足にはローラーが取り付けられている。背中にON/OFFのスイッチがあり、「MADE IN JAPAN」の刻印が認められる。これらの遺物は昭和10年代末頃から40年代中盤までの製品で、うどもろが使われていた時期の一旦を示すものと理解される^{*1~3}。

現在の西町2丁目は江戸時代の中藤新田村にあたり、うどもろは光町通り沿いの旧家屋敷地の北側に広がる畑地内で発見されたことになる(第91図)。国分寺市周辺の武蔵野台地では穴倉に適した固く崩れにくい関東ローム層が厚く堆積しているため、こうしたうどもろも数多く作られたようで、武蔵国分寺跡第746次調査でも調査する機会に恵まれた。ただ、ムロの形状は大きく異なるようで(第92図)、形状の違いが個性もしくは地域性によるものか、今後も事例を重ねながら検証していく必要がある。



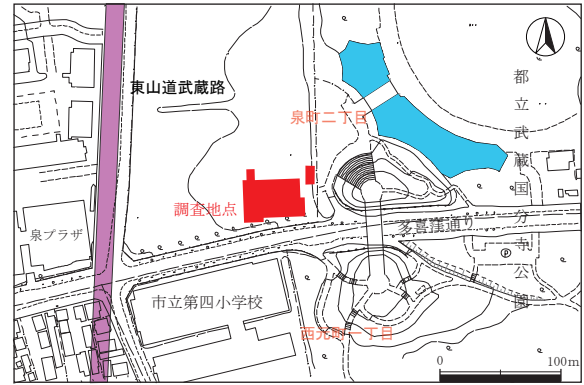
第91図 昭和2年の 中藤新田地区の土地利用状況と「うどもろ」発見地点



第92図 市内発見のうどもろ (左：市内西元町地区、中央：西町つつじ公園、右：市内北町地区)

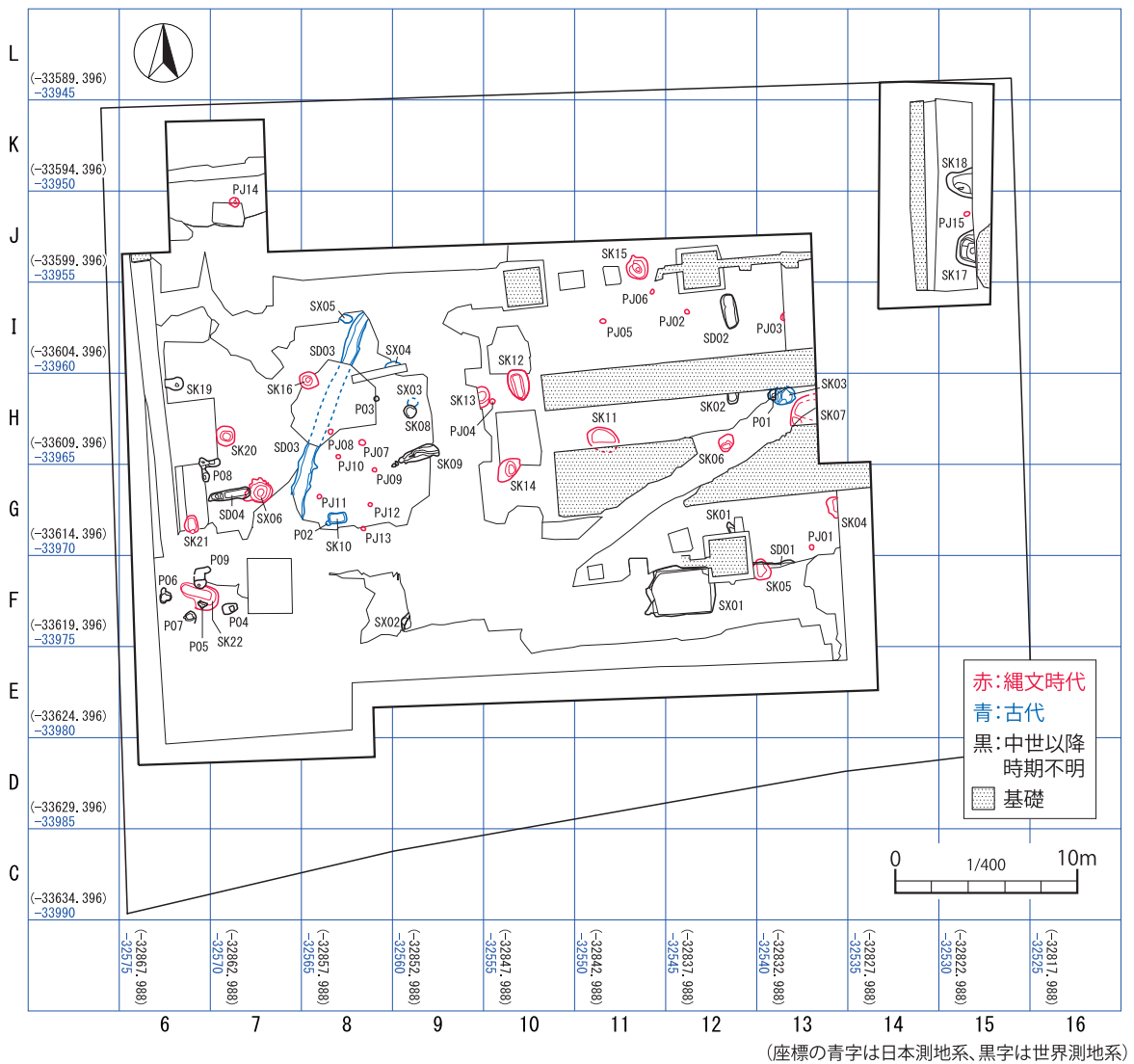
(19) 武蔵国分寺跡第 747 次調査

所在地	泉町 2 丁目 2	武蔵国分寺跡 (No. 19)
平成 30 年 3 月 7 日付文化財保護法第 93 条第 1 項届出 (国教教ふ収第 1125 号)		
調査原因	消防署改築	調査種別 発掘調査
調査費用	開発事業主	調査担当：及川
調査期間	令和元年 5 月 27 日～10 月 17 日	
調査面積	1082 m ²	遺物箱数 4 箱
検出遺構	SD4 条、SK9 基、SKJ13 基、SX6 基	
主な遺物	古代の瓦 縄文時代の土器・石器 旧石器時代の石器等	



第 93 図 調査地点位置図 (MK747)

本調査は、東京消防庁国分寺消防署改築工事に伴って東京都埋蔵文化財センターが実施した発掘調査で、すでに令和元年度中に調査報告書が上梓されている (及川 2020)。内容の詳細は同報告書によらるたいが、調査範囲からは、立川ローム層第Ⅲ・Ⅳ層中よりナイフ形石器が出土したほか、縄文時代の土坑・小穴・不明遺構と土器 (早期撚糸文系、前期諸磯式、中期五領ヶ台・勝坂・加曾利 E 式)・石器 (打製石斧・凹石・石皿・敲石・スタンプ形石器等)、古代の土坑・小穴・溝・不明遺構、さら



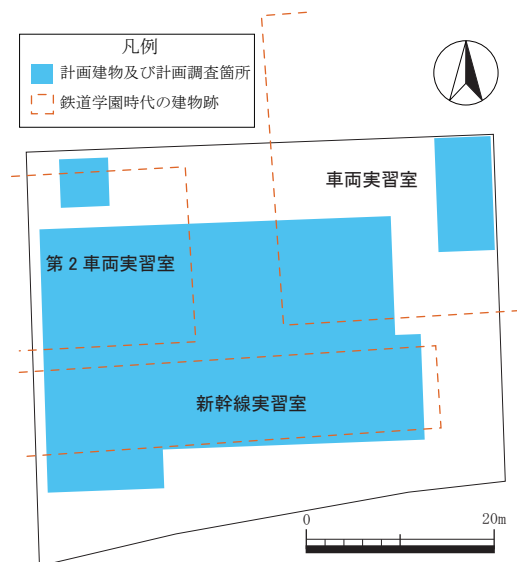
第 94 図 武蔵国分寺跡第 747 次調査全体図 (及川 2020 より)



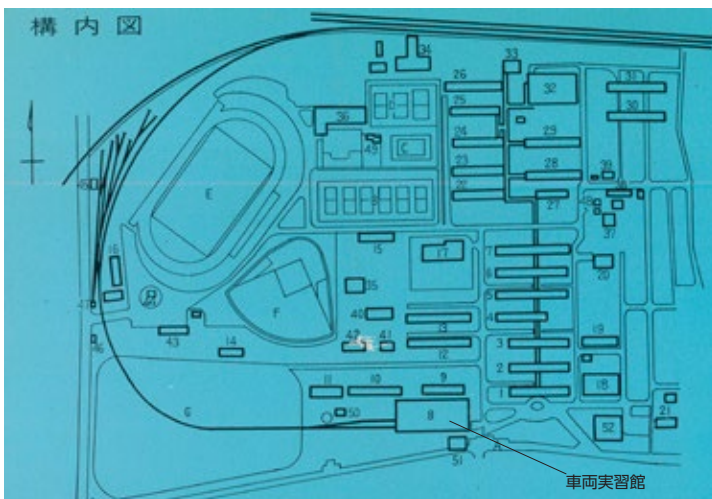
第 95 図 武蔵国分寺跡第 747 次調査地点採集の近代遺物

に中世以降の土坑・小穴・溝・不明遺構や近代防空壕等が発見され、様々な時代の土地利用の様相が判明している（第 94 図）。出土遺物及び発掘調査に関わる図面・写真等の記録類は東京都教育委員会で保管されているが、消防署用地内から表採遺物のうち第 95 図に掲げた 2 点の資料を国分寺市で引き取ることにした。1 は合金製の滑車歯車である。歪みで本来の形状を保っていないが、外径 18.0cm、厚みは 1.2cm を有し、外側縁を凹凸の歯が巡り、側面には径 3 cm 代の円孔が 5 つ穿たれている。大部分は剥落しているが、表面外縁に目盛が付いている。2 は犬釘で、長さ 14.5cm、頭部付近は 1.5cm 四方、重量は 278.5 g をはかる。頭部は長軸 4.8cm × 短軸 3.5cm の楕円形状で、片側へ大きく張り出している。

当該地は、昭和 28 ～ 62 年まで存在した日本国有鉄道の教育機関「中央鉄道学園」（昭和 36 年までは「中央鉄道教習所」）の敷地内にあたり、消防署建築用地は、国鉄が民営化して敷地が売却される昭和 62 年までは、新幹線実習室・第 2 車両実習室・車両実習室等の施設が立ち並び、中央線からの引き込み線路も巡っていた（昭和 30 年代は車両実習館）。滑車の詳細は不明だが、犬釘は保線の枕木用と思われる。これらは、泉町二丁目一帯にかつて中央鉄道学園があったことを示す関連の遺物といえよう。



第 96 図 調査範囲と中央鉄道学園（昭和 60 年頃）



第 97 図 昭和 30 年代後半頃の中央鉄道学園と車両実習館（中央鉄道学園他 1963 より、一部加筆）



▲ 南方上空より ▼ 車両実習館



第3章 総括

前章までに報告したとおり、令和元年度に国分寺市内で実施した発掘調査は19件を数える。そのほとんどは試掘・確認調査に留まり、本調査は武蔵国分寺跡第747次調査と恋ヶ窪遺跡第107次調査の2件に過ぎなかったが、市域の歴史を考えるうえで新たな知見を得た調査も多く、以下、時代ごとに特筆すべき成果を俯瞰しながら、まとめに代えたい。

旧石器時代

国分寺消防署改築工事に伴う武蔵国分寺跡第747次調査では、立川ローム層第Ⅲ・Ⅳ層中より黒曜石・頁岩・チャート製のナイフ形石器が4点出土したほか、Ⅴ層で炭化物292点、Ⅹ層から礫と炭化物の出土が確認されている。石器は単発的な出土状況ながらも複数時期の文化層が存在し、周辺が狩猟の場として断続的に利用されていた様子が判明した（及川2020）。武蔵国分寺北方の武蔵野段丘面上における立川ローム第Ⅴ層（第1暗色帯）の旧石器時代遺跡は、西国分寺駅周辺の再開発事業に伴う調査で石器集中5箇所、礫集中2箇所を中心に、チャート・黒曜石製先刃形石器等の石器174点・礫216点が出土しているほか（福嶋他2003）、多摩図書館に伴う調査でもナイフ形石器・角錐状石器を含む石器集中が発見されるなど（合田他2013）、豊富な文化層の様相が把握されつつある。また、国分寺駅の南東側で、西は殿ヶ谷戸谷、東は本多谷が開析し「丸山」と称する舌状台地上に広がる殿ヶ谷戸遺跡は、宅地開発が進んだ昭和20年代末以降に吉田格が台地西端部で2度にわたる発掘調査を行い、立川ローム層Ⅳ層下部からⅤ層上部にかけて切断剥片を利用した台形様のナイフ形石器、片面加工の槍先形尖頭器、搔器状のスクレーパー類を見出し、旧石器時代の遺跡の存在に着目していたが（吉田1954）、台地の東端部にあたる第17次調査地点でも、崩れた再堆積ローム土中ではあったが、頁岩製の剥片が1点出土し、丸山一帯に旧石器時代の土地利用が広く展開することが予測された。

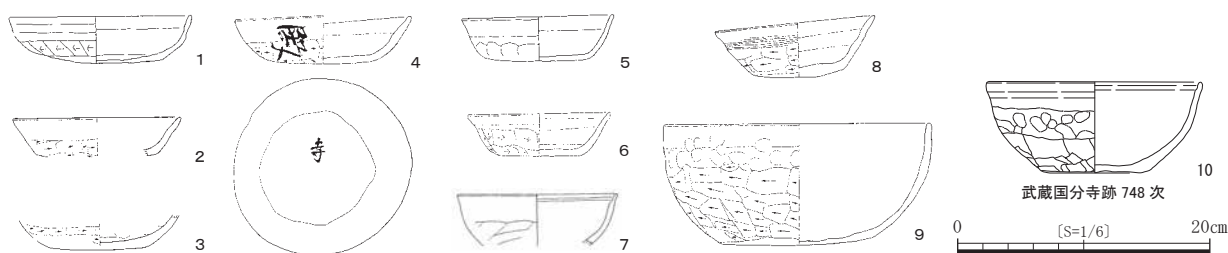
縄文時代

既往の調査で縄文時代中期を中心とする竪穴住居が120軒発見されている恋ヶ窪遺跡では、集落の中核域と目される地点で確認調査を実施した（第106・107次調査）。しかし、両地点ともに周辺の調査地点と同様、阿玉台・勝坂・加曾利E式といった中期の土器が主体的に出土したものの、意外にも居住に関わる遺構はまったく検出されず、土坑・小穴等の遺構群がごく散漫に分布する状況がみられた。今後、恋ヶ窪遺跡の居住域・墓域といった集落景観の復元を検討するうえで、貴重な成果を得たといえよう。また、本町遺跡でも、一昨年調査で中期末葉の柄鏡形敷石住居1軒を検出した第17次調査地点の南東近接地で確認調査を実施したが（第18次調査）、包含層中に遺物が集中する範囲を1箇所認識した以外に遺構は発見されず、南東側に低く傾斜する斜面地を形成している様相を捉えた。本町遺跡の縄文中期集落跡の主体部は、今次の調査地点の南側で北西－南東方向に開析される本多谷の対岸に存在しており、敷石住居の占地のあり方も含めて、谷の北側と南側で土地利用の様相が異なっていることが予測された。

奈良・平安時代

押切間の野川谷に東面する台地縁辺部の第748次調査地点では、昭和54年度の第103次調査で検出した竪穴住居の延長部を確認し、住居の全体形状・規模等が明らかとなった。遺構検出状況に昭和54年と今次の調査で不整合はあるものの、北壁に構築するカマドの東側には棚状施設が付帯していた。床面もしくは棚状施設の直上から出土した土器から、ひとまず住居の廃絶年代を9世紀前半頃と想定したが、このうち第98図10に掲げたSI224出土の土師器は平底指向で体部にヘラ削りを施す相模型の系譜をもつ椀で、南武蔵型坏と共伴する。武蔵国分寺周辺における相模型土師器の出土事例を集成すると、同図・表8に示すとおり本例も含め10例ほどを数える。

武蔵国府域では、相模型坏はN4期からH2期を中心とした時期に搬入される傾向があり（山口1984a）、国分寺でも武蔵台遺跡43号住居出土例（同図8）を除いて、概ね8世紀後葉～9世紀前葉を中心とした時期に多い傾向が指摘できるなかで、SI224出土の椀は体部外面下半～底部をヘラ削りを施し、体部中位は無調整帯を残して指頭圧痕を加えるなど粗雑化している印象があり、その点では9世紀後半以降の相模型坏の整形技法に近似しているといえる（田尾2003）。また、やや大振りな武蔵台遺跡



1：武蔵国分寺跡第344次調査SI405 2：武蔵国分寺関連遺跡南西地区SX29 3：武蔵国分寺関連遺跡南西地区SI11 4：武蔵台遺跡80号住居跡
5：武蔵国分寺跡第135次調査SI280 6：武蔵国分寺跡第79次調査SI204 7：武蔵台遺跡20号住居跡 8：武蔵台遺跡43号住居跡 9：武蔵台遺跡28号住居跡

第98図 武蔵国分寺跡・武蔵国分寺関連遺跡出土の相模型土師器杯・椀集成

表8 武蔵国分寺跡・武蔵国分寺関連遺跡出土の相模型土師器杯・椀

No.	調査地点	遺構	器種	口径	底径	器高	寺地位置	共伴遺物	時期	備考(出典)
1	武蔵国分寺跡 第344次調査	SI405	坏	14.0	10.3	3.7	尼寺南西側寺地	武蔵型甕(くの字)、須恵器坏(HIII期後)・甕	8世紀 中～後葉	概報17 上敷領他1991
2	武蔵国分寺 関連遺跡	SX29	坏	13.4	7.0	3.0	尼寺南西側寺地 (東八道路)	北武蔵型坏、南武蔵型坏、武蔵型甕(くの字)、須恵器坏(HIII～V期)・椀	8世紀後葉 ～9世紀前葉	南西地区 小川他1999
3	武蔵国分寺 関連遺跡	SI11	坏		7.6		尼寺南西側寺地 (東八道路)	武蔵型甕(くの字)、甲斐型坏(甲斐型V期)、須恵器坏(HIII期)・蓋	8世紀 中～後葉	南西地区 小川他1990
4	武蔵台遺跡 (府中病院内)	80号住	坏	13.9	9.0	3.8	尼寺北西側寺地	南武蔵型坏、武蔵型甕(緩いくの字)、須恵器坏(HIII～IV期)・蓋	8世紀 中～後葉	資料編II-5 河内他1993
5	武蔵国分寺跡 第135次調査	SI280	坏	11.6	8.2	3.5	僧尼寺中間寺地(東山道武蔵路西側)	掲載無し	8世紀後葉	概報14 有吉他1989
6	武蔵国分寺跡 第79次調査	SI204	坏	11.1	6.2	3.3	僧寺北西台地上寺地(東山道武蔵路西側)	南武蔵型土師器坏、武蔵型甕(コの字)、須恵器坏(HVII期)・皿・蓋	9世紀 前～中葉	概報16 上村他1990
7	武蔵台遺跡 (府中病院内)	20号住	坏	12.5			尼寺北西側寺地	南武蔵型坏、武蔵型甕(くの字)、須恵器坏(HIV～VI期)・椀・蓋	9世紀前葉	資料編II-1 河内他1989
8	武蔵台遺跡 (府中病院内)	43号住	坏	12.5	7.0	4.2	尼寺北西側寺地	武蔵型甕(コの字)、須恵器坏(HIX期・G25)・甕	9世紀後葉	資料編II-2 河内他1994
9	武蔵台遺跡 (府中病院内)	28号住	椀	20.8	11.8	9.5	尼寺北西側寺地	南武蔵型坏、武蔵型甕(緩いくの字)、須恵器坏(HV～VI期)	9世紀前葉	資料編II-2 河内他1994

28号住居（同図9）の椀とほぼ同様の整形を留めているが、相模型土師器の椀自体が本家の相模国内でも稀少な器種であることに加え、口縁部内面に蓋の受け口を思わせる明瞭な一条の沈線が巡っていることも特異的といえよう。法量から坏とは明瞭に区別される椀形態は、例えば、秦野市草山遺跡ではIV期（730～750年）に成立し、VII期（800～830年）には消滅すると捉えられており（長谷川1990a）、口縁内面に沈線を伴う坏・椀は確認できない。また、綾瀬市宮久保遺跡の土師器供膳形態では「坏E1類」として分類される体部指頭痕・底部ヘラ削り調整を施す坏の一群に、口唇部内面を幅広い浅い沈線が巡っているものがあり、その年代はV期（8世紀第IV四半期）に位置付けられているが、当該期の土器組成の主体となるような普遍的な存在ではない（長谷川1990b）。したがって、本例は相模国内にも類例を求めにくい特殊な椀ともいえそうで、ひとまず相模型の系譜が辿れる土師器として報告しておくに留めておきたい。このほか、東山道武蔵路では埋蔵文化財包蔵地の範囲外で試掘調査を行った。市域北部で道路の主軸が東から西へ大きく振れる可能性が考えられるが、その詳細は未だ不明確であり、今後も時機を捉えて試掘調査を継続していく必要があるだろう。

中世

尼寺伽藍西方の武蔵国分寺跡第750次調査では、北宋銭の治平元寶を含む中世の袋状土坑が1基検出された。同タイプの土坑は、武蔵国分尼寺の中心伽藍域の発掘調査において「A形態」と分類呼称されてきたもので、講堂・鐘楼・経蔵想定地周辺で24基、北辺地区で9基を数えるほか、本地点の北東至近地にあたる第83次調査でも報告例があり、鎌倉街道跡に沿った台地下に多く分布することが確認されている（福田1996）。尼寺中心伽藍域における古代の土器様相は「酸化焙焼成須恵器が多くを占め、土師質土器はほとんど無い」という傾向が認められることから、「尼寺の廃絶時期が僧寺よりも早く、III期前半（10世紀代）にもなり得」（福田1994）、ほぼその範囲と重複するかのようになり、中世の地下式横穴・土坑・溝跡・不明落ち込み・火葬墓など、14～15世紀代の遺構・遺物が数多く検出されている（福田1996）。本地点で検出した土坑も、こうした土地利用の一旦を示すものと思われるが、尼寺北方の台地上では旧鎌倉街道の切通しに東面し、土塁と溝で区画する一堂形式の寺院跡とされる伝祥応寺跡一帯が、近年の調査で、延宝六年（1678）国分寺村検地帳記載の小名や明治二年国分寺村絵図との比較を通じて、中世武士の館跡に関係する「堀之内」に比定できることが判明しており（依田2018）、尼寺中心伽藍域で検出される当該期の遺構群については、改めてその評価を検討する必要があるだろう。

近代以降

「東京都埋蔵文化財事務処理要綱」（平成31年3月15日 30教地管第2751号 教育庁地域教育支援部管理課長決定）に基づく埋蔵文化財として扱う範囲は、「おおむね中世までに属する遺跡は、原則として対象とする」が、「近世に属する遺跡は、（中略）遺跡の種類・重要度により別途定める」、「近代・現代に属する遺跡は、原則として対象としない。ただし、地域における産業・都市形成の歴史のうえで極めて重要で、地域の歴史の理解に欠くことの出来ない遺跡等、特に定める遺跡は対象とすることができる」と定められており、原則的に近代以降は発掘調査の対象から除外されるが、国分寺市域の歴史理解に資する遺跡は状況が許される限りで調査を行っている。

恋ヶ窪遺跡第 107 次調査は、日立製作所中央研究所構内で工場プラントの改築・新築工事により実施した調査で、当地に研究所が創業したのは昭和 17 年のことであった。戦時中の研究所構内に存在していた建屋の配置図と今次の調査地点の位置関係を対比すると（第 99 図）、「ボイラー室」と表記された付近に該当することになる（株式会社日立製作所中央研究所 30 年史編さん委員会 1972）。表土・攪乱中から回収した 2 点の耐火レンガも、ボイラー室に由来すると考えれば合点がいくもので（中野 2014・15）、さらに日本耐火煉瓦社の大正時代後期以降の製品であることは年代的にも矛盾しない。



第 99 図 戦時中の日立製作所中央研究所構内の建屋配置と恋ヶ窪遺跡第 107 調査地点（株式会社日立製作所中央研究所 30 年史編さん委員会 1972 に一部加筆）

昭和初期の工場建設における資材流通の実態を知るうえで、貴重な資料といえるだろう。

また、国分寺消防署改築に伴う武蔵国分寺跡第 747 次調査地点一帯は、昭和 28～62 年まで存在した日本国有鉄道の教育機関「中央鉄道学園」（昭和 36 年までは「中央鉄道教習所」）の敷地内で、国鉄が民営化し敷地が売却された昭和 62 年まで、新幹線実習室・第 2 車両実習室・車両実習室等の施設が立ち並び、中央線からの引き込み線路も巡っていた。表採資料の滑車歯車や保線用犬釘類は、こうした鉄道施設に関連したものと思われる。

西町つつじ公園では陥没事故による不時発見ながら、急遽、地下室状遺構の記録保存を図ることになった。この遺構は旧地権者の聞き取り調査から、うど栽培で用いていた穴倉の施設であることが判明しているが、現在、うどは国分寺市を代表する農産物の一つで、平成 30 年の作付面積は 280ha、収穫量は 38 t、都内収穫量シェアは 22.8%を占め、都内で立川市に次ぐ収穫高を誇っている^{※4}。多摩地域でうどの栽培が開始されたのは江戸時代に吉祥寺村周辺（現武蔵野市）ではじまり、出荷前に行う根株の軟化作業には昭和 5 年頃までは「溝穴式軟化むろ」と呼ばれる深さ 60～70cm、幅 50cm の細長い溝を掘り、中に鋤き込んだ醸熟物の発熱で溝内を暖める手法が採られていたが、後に堅穴の先で横穴を作り、うどを伏せ込んで、むろの内部を薪などで燃やして暖める「堅穴式軟化むろ」が開発され、品質が向上したことから大戦後はほとんどの農家が「堅穴式軟化むろ」を採用することになったという（豊島 1986・東京うど物語編集委員会編 1997）^{※5}。市内に所在する「堅穴式軟化むろ」の実態は定かではないが、戦後に流行したこれらの遺構の詳細を把握するうえで、考古学的な調査は有用な手段といえよう。なお、修繕工事を施した西町つつじ公園内には、翌令和 2 年度末に遺跡解説板が設置されることとなった（第 100 図・写真 87）。

西町つつじ公園発見のうどもロ

冬場に出荷時期を迎える「うど」は国分寺市を代表する農産物で、平成30年の作付面積は280a、収穫量は38t、都内収穫量シェアは22.8%を占める収穫高を誇ります。日本をはじめ東アジア各地に自生するうどは、藤原宮出土木簡や平安時代の薬物書『本草和名』などに「独活」と表記され、『延喜式』典薬寮（宮中の医薬を司った部署）では山城国など27ヶ国から年料雑薬として都に献上されていました。

栽培野菜としてのうどは江戸時代以降に広まり、薪で暖めた穴倉で光を遮断しながら根株を軟化させ、その後、約70～80cm伸びた白い芽を摘んで出荷します。国分寺市周辺の武蔵野台地は、穴倉に適した固く崩れにくい関東ローム層が厚く堆積しているため、昭和25年以降、市内でうど生産が本格化すると各地で穴倉（地下ムロ）が多く作られるようになりました。



一般的なムロの形状は地表から垂直に下る竪坑と、坑底から複数の方向に掘られた横穴で構成されます。この場所では昭和50年頃まで地元の農家がうど栽培をしていましたが、その後公園となり、令和元年に地下ムロが偶然姿を現しました。発見された地下ムロは安全のため今は埋めていますが、竪坑は平面0.8～1.3m四方、深さ4.0mを有し、坑底から北・東・南の3方向に天井高1.2m、奥行3.6～4.2mの横穴が掘られ、壁にはムロを掘った時に使用した鋤の痕が明瞭に残っていました。



①藤原宮出土木簡 ②竪坑発見状況 ③うどもロ内部の状況 ④壁面の工具痕
 令和3年(2021)3月設置
 問い合わせ先:042(325)0111(代) Kokubunji City

第100図 西町つつじ公園に設置された遺跡解説板



写真 89 遺跡解説板設置状況 (令和3年3月設置)

【引用・参考文献】

- 有吉重蔵他 1989 「第 83 次調査」『武蔵国分寺跡発掘調査概報 X IV』武蔵国分寺跡遺跡調査会
- 天内克史 1986 「戦時統制下の磁器生産」『村上徹君追悼論文集』村上徹君追悼論文集編集委員会
- 井上喜久治 1983 「玉川沿岸遺跡探求の記」『東京人類学会雑誌』93 号
- 井畝良太 2019 「煉瓦研究の課題と展望」『東京の遺跡』No. 114 東京考古談話会
- 大島一人他 1997 『国分寺市の民俗 六 戸倉新田・内藤新田・中藤新田の民俗』国分寺市教育委員会
- 大野延太郎・鳥居龍造 1894 「武蔵国北多摩郡国分寺石器時代遺跡」『東京人類学会雑誌』102 号
- 小川将之他 1999 『武蔵国分寺南西地区発掘調査報告一府中都市計画道路 3・2・2 の 2 号線建設に伴う調査一』
武蔵国分寺関連遺跡調査会・東京都北多摩南部建設事務所
- 小野本敦 2008 『東山道武蔵路発掘調査概報 I 一都市計画道路 3・4・6 号線築造工事に伴う調査一』国分寺市遺跡調査会
- 小野本敦 2012 「東京経済大学構内遺跡第 2 次調査」『平成 22 年度 国分寺市埋蔵文化財調査年報』国分寺市教育委員会
- 及川良彦 2020 『国分寺市 武蔵国分寺跡（第 747 次調査）一東京消防庁国分寺消防署改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査一』
東京都埋蔵文化財センター調査報告第 352 集 東京都埋蔵文化財センター
- 株式会社日立製作所中央研究所 30 年史編さん委員会 1972 『日立製作所中央研究所史』株式会社日立製作所中央研究所
- 上敷領久他 1991 『武蔵国分寺跡発掘調査概報 X VII 一東京警察病院多摩分院内下水道管理設に伴う事前調査一』
国分寺市遺跡調査会
- 上敷領久他 1998 『武蔵国分寺跡発掘調査概報 X X II 一国分寺市公共下水道面整備南部地区 15 号工事他に伴う調査一』
国分寺市遺跡調査会
- 上敷領久 2007 「第 2 章 平成 16 年度埋蔵文化財調査の概要 ⑦第 582 次調査」『平成 16・17 年度 国分寺市埋蔵文化財調査年報』
- 上敷領久 2015 「No. 29 遺跡第 2 次調査」『平成 25 年度 国分寺市埋蔵文化財調査年報』
- 上村昌男他 1990 『武蔵国分寺跡発掘調査概報 X VI 一国分寺市公共下水道面整備南部地区 18 号工事に伴う調査一』
国分寺市遺跡調査会
- 河内公夫他 1989 『武蔵台遺跡 II 一資料編 1 一』都立府中病院内遺跡調査会
- 河内公夫他 1993 『武蔵台遺跡 II 一資料編 5 一』都立府中病院内遺跡調査会
- 河内公夫他 1994 『武蔵台遺跡 II 一資料編 2 一』都立府中病院内遺跡調査会
- 黒尾和久 2003 「3. 遺物」『東京都日野市南広間地遺跡 一般国道 20 号（日野バイパス日野地区）改築工事に伴う埋蔵文化財
発掘調査報告書』国土交通省関東地方整備局・相武国道工事事務所
- 合田恵美子・武笠多恵子他 2013 『武蔵国分寺跡一東京都立多摩図書館改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査一』東京都埋蔵文化財
センター調査報告第 285 集
- 小平市史編さん委員会 2013 『小平市史 地理・考古・民俗編』小平市
- 後藤守一 1937 「武蔵国分寺村に於ける敷石住居遺跡の発掘」『考古学雑誌』27 - 11
- 小林達雄編 2008 『総覧縄文土器一小林達雄先生古稀記念企画一』アム・プロモーション
- 酒井清治 1987 「武蔵国における須恵器年代の再検討」『研究紀要』第 9 号 埼玉県歴史資料館
- 桜井準也 2019 『増補 ガラス瓶の考古学』六一書房
- 実川順一他 1984 『花沢東遺跡一都営国分寺南町三丁目団地建設に伴う調査一』恋ヶ窪遺跡調査会
- 島田智博 2020 「武蔵国分寺跡第 746 次調査」『平成 31 年度国分寺市埋蔵文化財調査概報』国分寺市教育委員会
- 田尾誠敏 2003 「土器の変遷とその背景」『平塚市史 11 下 別編考古（2）』平塚市
- 中央鉄道学園・三島分教所・小田原分所 1963 『中央鉄道学園』
- 寺前めぐみ他 2013 『平成 23 年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』国分寺市教育委員会
- 寺前めぐみ 2019 「武蔵国分寺跡第 728 次調査」『平成 29 年度国分寺市埋蔵文化財調査概報』
- 東京うど物語編集委員会編 1997 『東京うど物語一東京うど生産組合連合会創立 45 周年記念誌一』東京うど生産組合連合会

- 東京都産業労働局農林水産部 2021『東京都農作物生産状況調査結果報告書（平成30年産）』
- 豊島小百合 1986「武蔵野のうど」『多摩のあゆみ』第44号 特集 多摩の産物 多摩中央信用金庫
- 中野光将 2014「東京における耐火煉瓦の基礎的考察—遺跡出土の明治時代の耐火煉瓦を中心に—」『考古学ジャーナル』No.664
ニュー・サイエンス社
- 中野光将 2015「明治期の耐火煉瓦とその使用法—東京の工場で生産された耐火煉瓦を中心に—」『多摩のあゆみ』第159号
財団法人たましん地域文化財団
- 中道 誠他 2014「武蔵国分寺跡第689次調査」『平成24年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』国分寺市教育委員会
- 永井久美男編 1994【中世の出土銭—出土銭の調査と分類—】兵庫埋蔵銭調査会
- 根本 靖・加藤恭朗 2014「8世紀の東金子窯跡生産品の編年」『南比企窯と東金子窯（Ⅰ）—8世紀の東金子窯の編年と土器の分布—』古代の入間を考える会
- 西野善勝 1999「3. 小結（1）武蔵台東遺跡の遺構の特徴」『武蔵国分寺跡西方地区 武蔵台東遺跡Ⅰ（1）古墳・歴史時代（本文・写真図版）』都営川越路住宅遺跡調査会
- 長谷川 厚 1990a「第Ⅷ章 成果と問題点 第1節 土器について」『草山遺跡Ⅲ—県立曽屋高等学校建設に伴う調査—』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告18
- 長谷川 厚 1990b「第Ⅳ章 調査結果のまとめ（1）住居址出土土器の様相の整理」『宮久保遺跡Ⅲ—県立綾瀬西高等学校建設に伴う調査—』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告15
- 林 修他 2017『東京都国分寺市 恋ヶ窪東遺跡発掘調査報告書—第22次調査—』共和開発株式会社
- 福島宗人・中西 充・五十嵐彰・小栗一夫・戸井恵子・岩泉辰子 2003『武蔵国分寺跡遺跡北方地区—西国分寺地区土地区画整理事業に伴う調査—（第3分冊）』東京都埋蔵文化財センター調査報告第136集
- 福田健司 2002「形式変遷の指標内容と段階設定」『落川・一の宮遺跡 Ⅲ総括編〔第二分冊〕』落川・一の宮遺跡（日野3・2・7号線）調査会
- 福田健司 2017『土器編年と集落構造—落川・一の宮遺跡の出自と生業を探る—』考古調査ハンドブック16
ニュー・サイエンス社
- 福田信夫・広瀬昭弘 1986「市内の遺跡」『国分寺市史上巻』国分寺市史編さん委員会
- 福田信夫 1994『武蔵国分寺Ⅰ 平成4年度発掘調査概報』国分寺市教育委員会
- 福田信夫 1996『武蔵国分寺Ⅳ 平成6年度発掘調査概報』国分寺市教育委員会
- 松井新一・藤間恭介 1965「国分寺市恋ヶ窪遺跡発掘調査概要」『多摩考古』7
- 松浦有一郎 1984『寄贈 塩野コレクション目録』東京国立博物館
- 松原典明 2000「第3章 平成10年度確認調査報告」『道路遺構等確認調査報告』東京都教育委員会
- 山口辰一 1984a「武蔵国府関連遺跡における土器編年試論」『武蔵国府関連遺跡調査報告Ⅴ』府中市遺跡調査会
- 山口辰一 1984b「武蔵国府関連遺跡における坏類の基礎的分類と変遷」『武蔵国府関連遺跡調査報告Ⅵ』府中市遺跡調査会
- 山下峰司 2015「近代日常食器生産とその製品」『考古学ジャーナル』No.675 ニュー・サイエンス社
- 吉田 格 1952「東京都国分寺町熊ノ郷、殿ヶ谷戸遺跡：南関東地方縄文式文化以前の研究Ⅰ」『考古学雑誌』38-2, 23-30頁
- 吉田 格 1954「武蔵野台地の縄文時代以前の遺跡と遺物—東京都熊ノ郷、殿ヶ谷戸遺跡—」『武蔵野』第33巻第3・4号
(後、同著 1974『考古学選書8 関東の石器時代』雄山閣に収載)
- 吉田 格・土井悦枝 1986「第二章 縄文時代 第二節 市内の遺跡と調査研究の歩み」『国分寺市史 上巻』国分寺市
- 依田亮一 2018「武蔵国分寺跡第718・722次調査」『平成28年度国分寺市埋蔵文化財調査概報』
- 依田亮一 2020「本町（国分寺石器時代）遺跡第17次調査」『平成30年度国分寺市埋蔵文化財調査概報』
- 米村 創他 2015「特産物② うど」『市政施行50周年記念 国分寺市の今昔』国分寺市・国分寺市教育委員会
- 渡辺 一 1990「南比企窯跡群の須恵器の年代—鳩山窯跡の年代を中心に—」『埼玉考古』第27号 埼玉考古学会

【注】

※1 雑学ネタ帳 web サイト

<https://zatsuneta.com/archives/104286.html> (令和3年2月27日最終アクセス)

※2 MUUSEO (ミュージーゼオ) web サイト

<https://muuseo.com/cfcj/items/1001> (令和3年2月27日最終アクセス)

※3 缶詰・製缶業界のあゆみ 日本製缶協会 web サイト

<http://seikan-kyoukai.jp/progress/05.html> (令和3年2月27日最終アクセス)

※4 東京都産業労働局農林水産部 2021『東京都農作物生産状況調査結果報告書(平成30年産)』による。

※5 東京うど物語編集委員会編 1997によると、うどを軟化させる施設には、①盛土軟化法、②溝式軟化、③横穴式軟化、④トックリ穴、⑤半地下式軟化などがあり、豊島1986の「溝穴式軟化むろ」は②、「堅穴式軟化むろ」は③に対応する。また、③横穴式軟化(穴倉)が始められたのは「昭和の年代(1927)に入ってから、先覚者によってぼつぼつと試みられ、その長所が認められて一般に普及し、軟化法の主流となったのは、戦後の昭和27～28年(1952～53)頃からと考えられる」としている。そして掘削手段は「農家が自力で掘るのが普通で、スコップ、ジョレン、柄を短く切った唐ぐわ等が使われた。また、土の搬出には滑車などを利用し」ていたようである。

報告書抄録

ふりがな	れいわがんねんど こくぶんじしまいぞうぶんかざいちょうさがいほう
書名	令和元年度 国分寺市埋蔵文化財調査概報
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	桂 弘美・中野 純・針木康介・平塚恵介・依田亮一
編集機関	国分寺市教育委員会・国分寺市遺跡調査会
所在地	〒185-0023 東京都国分寺西元町1-13-10 武蔵国分寺跡資料館内 TEL 042-300-0073
発行年月日	令和3年(2021)3月31日
規格/部数	A4版横組1段 46文字×34行 114頁/300部
資料の保存 問い合わせ先	国分寺市教育委員会 教育部 ふるさと文化財課 〒185-0023 東京都国分寺西元町1-13-10 武蔵国分寺跡資料館内 TEL 042-300-0073 FAX 042-300-0091 E-mail bunkazai@city.kokubunji.tokyo.jp

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° / ' / "	東経 ° / ' / "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
むさしこくぶんじあと 武蔵国分寺跡 第748次調査	東京都 国分寺市 西元町	13-214	19	35° 41' 17"	139° 27' 54"	20190820 ～ 20190831	18.00	集合住宅
むさしこくぶんじあと 武蔵国分寺跡 第749次調査	東京都 国分寺市 東元町	13-214	19	35° 41' 23"	139° 28' 46"	20191206 ～ 20191218	7.19	個人住宅
むさしこくぶんじあと 武蔵国分寺跡 第750次調査	東京都 国分寺市 西元町	13-214	10・19	35° 41' 11"	139° 28' 12"	20191004 ～ 20191008	5.18	分譲住宅
むさしこくぶんじあと 武蔵国分寺跡 第751次調査	東京都 国分寺市 西元町	13-214	10・11・ 14・19	35° 41' 23"	139° 28' 18"	20191015 ～ 20191017	6.93	分譲住宅
むさしこくぶんじあと 武蔵国分寺跡 第752次調査	東京都 国分寺市 泉町	13-214	19	35° 41' 39"	139° 28' 41"	20191202 ～ 20191206	7.81	個人住宅
むさしこくぶんじあと 武蔵国分寺跡 第753次調査	東京都 国分寺市 泉町	13-214	19	35° 41' 13"	139° 27' 58"	20200107 ～ 20200114	4.08	個人住宅
こいがくぼいせき 恋ヶ窪遺跡 第105次調査	東京都 国分寺市 西恋ヶ窪	13-214	2	35° 42' 00"	139° 28' 21"	20190408 ～ 20190410	5.18	個人住宅
こいがくぼいせき 恋ヶ窪遺跡 第106次調査	東京都 国分寺市 西恋ヶ窪	13-214	2	35° 41' 57"	139° 28' 24"	20191206 ～ 20191218	26.45	分譲住宅

要約	<p>令和元年度は、埋蔵文化財包蔵地内で17件の発掘調査を実施した。その内訳は、武蔵国分寺跡7地区、恋ヶ窪遺跡3地区、殿ヶ谷戸遺跡・本町（国分寺村石器時代）遺跡・No.29遺跡・No.47遺跡・東京経済大学構内遺跡・花沢東遺跡で各々1地区であった。また、埋蔵文化財包蔵地範囲外では、恋ヶ窪東遺跡の広がりを確認するための試掘調査、西町つつじ公園内での陥没事故修繕工事に伴う穴倉（うど栽培用のムロ）の記録保存調査を実施した。</p> <p>旧石器時代では武蔵国分寺北方の武蔵野段丘面上の調査で、特に立川ロームV層を中心とした文化層を検出した。恋ヶ窪遺跡では、従前からの蓄積した調査結果から、縄文時代中期の竪穴住居が密集分布する範囲の一部を対象に調査を行ったが、居住に関わる遺構は発見されず、集落景観を検討するうえでの貴重な成果を得ることとなった。</p> <p>武蔵国分寺跡第748次調査では、昭和54年度に下水道工事に伴う調査（第103次）で検出した古代の竪穴住居の東側延長部を検出し、住居跡の形態・規模が明らかとなったほか、棚状施設を付帯し、市内では10例目となる相模型の系譜が辿れる土師器（椀）が出土した。また、東山道武蔵路は、埋蔵文化財包蔵地の範囲外で初めてとなる、幅員12m幅の東西両側溝の検出に成功した。今後も調査を蓄積して、築道の様相を引き続き検証する必要がある。</p> <p>近代では、中央鉄道学園跡地の武蔵国分寺跡第747次調査で、表採資料ながら保線用の犬釘や滑車歯車等を回収し、鉄道施設がかつて存在した傍証となる遺物を得たほか、昭和17年創業の工場プラント内では、ボイラー室由来と思われる耐火煉瓦が出土し、うどを栽培した穴倉の調査を行うなど、昭和期における市内の産業に関わる土地利用の一旦を記録した。</p>
----	---

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
武蔵国分寺跡	集落跡	旧石器・縄文・奈良・平安・中世・近世	竪穴住居（SI224）	縄文土器、瓦、須恵器、土師器、土師質土器、鉄	棚状施設を伴う竪穴住居を検出。相模型土師器椀が出土。
武蔵国分寺跡	集落跡	旧石器・縄文・奈良・平安・中世・近世	竪穴住居（SI267）、溝（SD437）	土師器、須恵器	寺院地区画溝東辺部の集落跡
武蔵国分寺跡	集落跡 社寺跡	旧石器・縄文・奈良・平安・中世・近世	不明遺構（SX366）	土師質土器、銭貨（治平元寶）	尼寺伽藍周辺で中世土坑を検出
武蔵国分寺跡	集落跡 社寺跡 横穴墓	旧石器・縄文・奈良・平安・中世・近世	なし	縄文土器・石器、瓦、土師質土器	昭和53年度調査の溝の続きは検出されず、傾斜地形を検出。
武蔵国分寺跡	集落跡	旧石器・縄文・奈良・平安・中世・近世	なし	縄文土器（中期）	
武蔵国分寺跡	集落跡	旧石器・縄文・奈良・平安・中世・近世	なし	旧石器剥片、礫、縄文土器	Va層より水晶製の楔形石器出土。
恋ヶ窪遺跡	集落跡	旧石器・縄文・奈良・平安・中世	なし	縄文土器、近世陶器	
恋ヶ窪遺跡	集落跡	旧石器・縄文・奈良・平安・中世	土坑（SK214J）	縄文土器・石器	付近は竪穴住居密集地ながら居住遺構は未検出。

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
	所在地	市町村	遺跡番号	° / ' "	° / ' "			
こいがくほいせき 恋ヶ窪遺跡 第107次調査	とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 にしこいがくほ 西恋ヶ窪	13-214	2	35° 41' 58"	139° 28' 27"	20191118 ～ 20191203	120	発電設備
とのがやといせき 殿ヶ谷戸遺跡 第17次調査	とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 みなみちよう 南町	13-214	21	35° 41' 40"	139° 29' 21"	20190703 ～ 20190708	8.54	個人住宅
ほんちよう こくぶんじ 本町(国分寺 村石器時代) 遺跡 第18次調査	とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 ほんちよう 本町	13-214	28	35° 41' 52"	139° 29' 11"	20190911 ～ 20190926	7.56	事務所
なんばー29 いせき No.29 遺跡 第5次調査	とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 みなみちよう 南町	13-214	29	35° 41' 48"	139° 29' 22"	20191015	3.96	個人住宅
なんばー47 いせき No.47 遺跡 第1次調査	とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 ひよしちよう 日吉町	13-214	47	35° 41' 59"	139° 27' 40"	20190716 ～ 20190718	50.41	分譲住宅
とうきょうけいざいだいがく 東京経済大学 構内遺跡 第7次調査	とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 みなみちよう 南町	13-214	53	35° 41' 43"	139° 29' 30"	20200204 ～ 20200207	29.91	宅地造成
はなざわひがいせき 花沢東遺跡 第16次調査	とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 みなみちよう 南町	13-214	54	35° 41' 39"	139° 29' 06"	20190527 ～ 20190603	51.21	集合住宅
こいがくほひがしいせき 恋ヶ窪東遺跡 第26次調査	とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 ほんちよう 本町	13-214	57	35° 41' 53"	139° 28' 53"	20190902 ～ 20190906	7.88	保育園
とうさんどうむさしみち 東山道武蔵路 第6次調査	とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 ひがしこいがくほ 東恋ヶ窪	13-214	58	35° 42' 26"	139° 28' 22"	20191105 ～ 20191108	21.78	遺跡の広がりを確認する
にしまち 西町つつじ 公園修繕に 伴う調査	とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 にしまち 西町	13-214		35° 41' 15"	139° 26' 30"	20190918 ～ 20190920	22.14	公園陥没の復旧
むさしこくぶんじあと 武蔵国分寺跡 第747次調査	とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 いずみちよう 泉町	13-214	19	35° 41' 46"	139° 28' 11"	20190527 ～ 20191017	1082	消防署

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
恋ヶ窪遺跡	集落跡	旧石器・縄文・奈良・平安・中世	土坑 (SK215J)	縄文土器・石器 近代煉瓦 (耐火煉瓦)	昭和前期のボイラー室由来と思われる耐火煉瓦が出土。
殿ヶ谷戸遺跡	集落跡	旧石器・縄文	なし	旧石器 (剥片)	殿ヶ谷戸遺跡では最古級の可能性がある旧石器が出土。
本町 (国分寺村 石器時代) 遺跡	集落跡	旧石器・縄文・奈良・平安	遺物集中 (SX1)	縄文土器・石器	北東に低く傾斜する緩斜面地で、縄文中期の遺物集中を検出。
No. 29 遺跡	散布地 (包蔵地)	旧石器・縄文・奈良・平安	なし	なし	
No. 47 遺跡	散布地 (包蔵地)	縄文・奈良・平安	なし	なし	No. 47 遺跡では、初めての調査。
東京経済大学 構内遺跡	散布地 (包蔵地)	旧石器・縄文	なし	なし	
花沢東遺跡	集落跡	旧石器・縄文・奈良・平安	なし	なし	東へ低く傾斜する緩斜面地。
恋ヶ窪東遺跡	集落跡	旧石器・縄文・奈良・平安	なし	なし	包蔵地範囲外の調査。 III b 層より上位は削平されている。
東山道武蔵路	包蔵地外 (道路跡)	奈良・平安	溝 (SD2・5)	近世磁器	包蔵地範囲外の調査で、初めて幅員 12 m を有する東西両側溝を検出。
西町つつじ 公園	包蔵地外	近代 (昭和期)	うどムロ	戦時統制下の磁器、 ジュース缶 子ども用玩具類	不時発見ながら、市内で 2 例目となる、うど栽培用の穴倉を調査。
武蔵国分寺跡	集落跡	旧石器・縄文・奈良・平安・中世・近世	縄文-土坑・小穴・不明遺構、古代-土坑・小穴・溝・不明遺構、中世以降-土坑・小穴・溝・不明遺構	旧石器 縄文土器・石器 (早・前・中期) 瓦・須恵器・土師器・ 陶磁器・木製品	旧石器～縄文時代は狩場・採集地で、古代は武蔵国分寺の集落北限域を確認。

※文化財保護、教育普及、学術研究を目的とする場合は、著作権者の承諾なくこの報告書の一部を複製して利用することができます。なお、利用にあたっては、出典を明記してください。

令和元年度 国分寺市埋蔵文化財調査概報

発行日	令和3年(2021)3月31日
編集	国分寺市教育委員会 国分寺市遺跡調査会
発行	国分寺市教育委員会 〒185-0023 東京都国分寺市西元町1-13-10 (武蔵国分寺跡資料館内 ふるさと文化財課)
印刷	株式会社アトミ

©Kokubunji City Board of Education 2021. Printed in Japan

表紙	アートポスト	菊版	125kg
本文	マットコート	A判	57.5kg

令和3年(2021)8月31日 デジタル版作成
裏表紙省略